プロファイル管理 2203 LTSR

累積更新プログラム 7 (CU7) は、Profile Management 2203 LTSR の最新リリースです。CU7 には、Profile Management の 2203 LTSR CU6 リリースと比較して、(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/whats-new/cumulative-update-7/fixed-issues.html) が含まれています。

プロファイル管理 2203 LTSR 累積更新プログラム 6

プロファイル管理 2203 LTSR 累積更新プログラム 5

プロファイル管理 2203 LTSR 累積更新プログラム 4

プロファイル管理 2203 LTSR 累積更新プログラム 3

プロファイル管理 2203 LTSR 累積更新プログラム 2

プロファイル管理 2203 LTSR 累積更新プログラム 1

プロファイル管理（初回リリース）

このリリースでの既知の問題

非推奨と削除

Citrix 製品サブスクリプション特典の対象期間

プロファイル管理は、Citrix Virtual Apps サーバー、Citrix Virtual Desktops™ で作成された仮想デスクトップ、および物理デスクトップ向けのプロファイルソリューションとして意図されています。管理するプロファイルを持つ各コンピューターにプロファイル管理をインストールします。

Active Directory グループポリシーオブジェクトを使用すると、Citrix® ユーザープロファイルの動作を制御できます。多くの設定を調整できますが、一般的には、これらのトピックで説明されているように、一部の設定のみを構成する必要があります。

展開に適したポリシー選択のセットを選択する最善の方法は、構成を決定する の記事の質問に答えることです。

Profile Management の使用権は EULA に記載されています。

これらのトピックで使用されている用語については、用語集を参照してください。

新機能

累積更新プログラム 7 (CU7)

リリース日: Aug 28, 2025

このリリースについて

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 7 (CU7) には、Profile Management の 2203 LTSR CU6 リリースと比較して、5 つの修正 が含まれています。

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 6

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 5

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースでの既知の問題

非推奨と削除

Citrix 製品サブスクリプションアドバンテージの対象期間

2203 LTSR CU7 で修正された問題

比較対象: Profile Management 2203 LTSR CU6

Profile Management 2203 LTSR CU6 には、2203 LTSR の初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4、CU5、CU6 に含まれるすべての修正に加え、以下の新しい修正が含まれています。

- 公開デスクトップにログオンすると、「ピクチャ」、「ミュージック」、「ビデオ」などのフォルダーが User Profile Management (UPM) ポリシーによって除外されている場合、ローカ

ルに再作成されないことがあります。その結果、初回ログオン後にそれらにアクセスしようとすると、「場所が利用できません」というエラーが表示されることがあります。

- Citrix Virtual Apps and Desktops™ (CVAD) をバージョン 1912 LTSR から 2203 LTSR CU5 にアップグレードした後、ログオンタイムアウトが発生する可能性があります。
- CVAD 2402 にアップグレードした後、UserProfileManager.exe がランダムにクラッシュすることがあります。
- VDA 2308 から LTSR 2402 にアップグレードした後、ユーザーのログオフ中に Citrix User Profile Manager Service がクラッシュすることがあります。
- Citrix Profile Management ストアパスが DFS 名前空間パスに設定されている場合、プロファイルコンテナが VDA にアタッチされず、ユーザープロファイルが利用できないことがあります。
- upmjit.sys ドライバーがまれに Virtual Delivery Agent (VDA) をハングさせたり、応答不能にしたりすることがあります。

累積更新プログラム 6 (CU6)

リリース日: Jan 08, 2025

このリリースについて

Profile Management 2203 LTSR Cumulative Update 6 (CU6) には、Profile Management の 2203 LTSR CU5 リリースと比較して、8つの修正 が含まれています。

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 5

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースの既知の問題

非推奨と削除

Citrix 製品サブスクリプション特典の対象日

2203 LTSR CU6 で修正された問題

比較対象: Profile Management 2203 LTSR CU5

Profile Management 2203 LTSR CU6 には、2203 LTSR 初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4、CU5 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Citrix Profile Management のストアパスが DFS 名前空間パスに設定されている場合、プロファイルコンテナが VDA にアタッチされず、ユーザープロファイルが利用できない可能性があります。
- Citrix Profile Management でプロファイルコンテナを有効にすると、コンテナに多数のファイルが含まれている場合、ログオン時間が遅くなることがあります。
- Outlook にメールを追加する際に OST パスを変更すると、次回のログオン時に Citrix Profile Management はカスタマイズされたパスをデフォルトの場所 `(drive:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Outlook)` にリセットします。
- Microsoft Teams アプリと VDA のバージョンをアップグレードした後、新しい Microsoft Teams バージョン 2.1 以降が Citrix セッション内で開かなくなります。
- キャッシュされた Citrix Profile Management プロファイルがログオフ時に削除されないことがあり、C ドライブがいっぱいになり、VDA の動作が遅くなる原因となります。Citrix サポート記事 CTX216097 に記載されている「NTUSER.DAT ファイルを削除できません」というエラーが発生する可能性があります。
- ログオフ後にユーザープロファイルが完全にアンロードされない問題が発生し、その後のログオン時に一時プロファイルが作成される可能性があります。
- Citrix Profile Management で、同じイベントに対して複数の Event Tracing for Windows (ETW) イベント登録が発生する可能性があります。
- Citrix Desktops で Outlook VHDX ファイルがマウントされず、Outlook 起動時に outlook.ost ファイルが見つからないというエラーが発生する問題に遭遇する可能性があります。
- VDA 2308 から LTSR 2203 にアップグレードした後、ユーザーログオフ中に Citrix User Profile Manager Service がクラッシュする可能性があります。
- LTSR 2203 にアップグレードした後、UserProfileManager.exe がランダムにクラッシュする可能性があります。

累積更新プログラム 5 (CU5)

リリース日: June 04, 2024

このリリースについて

Profile Management 2203 LTSR Cumulative Update 5 (CU5) には、Profile Management 2203 LTSR CU4 リリースと比較して、5つの修正があります。

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースの既知の問題

非推奨と削除

Citrix製品のSubscription Advantageの対象期間

2203 LTSR CU5 の修正された問題

比較対象: Profile Management 2203 LTSR CU4

Profile Management 2203 LTSR CU5 には、2203 LTSR の初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Microsoft Teams アプリと VDA バージョンをアップグレードすると、新しい Microsoft Teams バージョン 2.1 以降が Citrix セッション内で開かなくなります。
- 同じ VDA 上で同時セッションが存在する場合、プロファイルコンテナプロセス全体をスキップします。
- ユーザーストアのレプリケートポリシーが有効になっている場合、プロファイルがレプリケートされたフォルダーと同期されないことがあります。
- Citrix Profile Management 2305 コンテナキャッシュでは、新規ユーザーが初回サインアウト時に遅延を経験します。
- VDA または Citrix Profile Management をバージョン 2109 にアップグレードすると、エラーイベントが発生し、一部のユーザーに次のメッセージが表示されます。 `An error occurred while trying to update policy settings for user 'TSTBPR\AN775256'. Policy settings may not have been applied correctly. event Error code: '262'`

累積更新プログラム 4 (CU4)

リリース日: November 16, 2023

このリリースについて

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 4 (CU4) は、Profile Management 2203 LTSR CU3 リリースと比較して、14個の修正プログラムを追加しました。

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースの既知の問題

非推奨と削除

Citrix製品サブスクリプションアドバンテージの対象日

2203 LTSR CU4 の修正された問題

比較対象: Profile Management 2203 LTSR CU3

Profile Management 2203 LTSR CU4 には、2203 LTSR の初期リリース、CU1、CU2、CU3 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Microsoft Windows 10 バージョン 21H2 を 22H2 以降にアップグレードした後、**既存のアプリケーションプロファイルの自動移行**設定が機能しない場合があります。
- ユーザーがマシンからログオフして再度ログオンした後も、削除されたプロファイルファイルがユーザー ストアに残る場合があります。
- Profile Management を有効にして VDA を 1912 LTSR CU4 または 2203 LTSR CU2 にアップグレードした後、PowerShell ウィンドウが短時間表示されることがあります。この問題は、デスクトップセッションのログオン中に発生します。
- **ログオン除外チェック**ポリシーが期待どおりに機能しない場合があります。
- 同じフォレスト内の2つのドメインに同じユーザー名のユーザーが存在するシナリオで、それらのユーザーが同じマシンにログオンすると問題が発生します。
- Profile Management は、プロファイル共有でより長いパス名に名前が変更されたファイルの同期に失敗する場合があります。

- Profile Management 2305 がインストールされている場合、Microsoft Outlook は次のエラーメッセージが表示されて起動に失敗する可能性があります。

  C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager\upmoutlookhook.dll は Windows で実行するように設計されていないか、エラーが含まれています。元のインストールメディアを使用してプログラムを再インストールするか、システム管理者またはソフトウェアベンダーにサポートを依頼してください。エラー状態 0xc000428。

- **ユーザー ストアのレプリケート**ポリシーが有効になっている場合、プロファイルがレプリケートされたフォルダーと同期されない場合があります。
- 以下の両方の条件が満たされている場合、Microsoft Outlook プロファイルの読み込みに失敗する可能性があります。
  - Outlook OST ファイルのカスタムパスがグループポリシーまたはレジストリを介して構成されている。
  - カスタマイズされたパスにはユーザー環境変数が含まれています。
- VDA で upmjit.sys に致命的な例外が発生し、ブルースクリーンが表示されることがあります。
- **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**オプションを有効にし、ユーザープロファイルへの相対パスを**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**設定として構成すると、正常にログインした後、これらの相対パスの下にあるファイルが期待どおりに機能しない可能性があります。
- ユーザーセッションの読み込み中にログオン時間が長くなることがあります。
- **プロファイルストリーミング**ポリシーが有効になっている場合、ユーザーストアからプロファイルに含まれるファイルにアクセスまたは取得しようとすると、次のエラーメッセージが表示されて失敗することがあります。

  システムがファイルにアクセスできません。

- VDA をバージョン 1912 LTSR CU8 にアップグレードした後、ユーザープロファイルがストアから読み込まれないことがあります。その代わりに、ユーザーにはローカルプロファイルが提供されます。

累積更新プログラム 3 (CU3)

リリース日: June 1, 2023

このリリースについて

Profile Management 2203 LTSR Cumulative Update 3 (CU3) は、Profile Management 2203 LTSR CU2リリースと比較して、6つの修正を追加します。

プロファイル管理 2203 LTSR 累積更新プログラム 2

プロファイル管理 2203 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースの既知の問題

非推奨と削除

Citrix製品のSubscription Advantageの対象となる日付

2203 LTSR CU3 で修正された問題

比較対象: Profile Management 2203 LTSR CU2

Profile Management 2203 LTSR CU3 には、2203 LTSR の初期リリース、CU1、CU2 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Citrix Director の **Reset Profile** ボタンが一部のユーザーでグレー表示される場合があります。
- **upmjit.sys** モジュールが Windows ターミナルの起動を妨げる場合があります。
- Profile Management をバージョン 2212 からバージョン 2203 LTSR CU1 にアップグレードした後、プロファイルコンテナの読み込みに失敗する場合があります。
- プロファイルコンテナベースの Profile Management が有効になっている場合、ユーザーが他のユーザーのプロファイルファイルやフォルダにアクセスできる場合があります。
- Profile Management は、ログオン中にカスタマイズされた Outlook OST パスをリセットする場合があります。
- Profile Management を 2009 より前のバージョンからバージョン 2009 以降にアップグレードすると、プロファイルコンテナ (VHDX ファイル) でアクセス拒否エラーメッセージが表示される場合があります。

累積更新プログラム 2 (CU2)

リリース日: December 08, 2022

このリリースについて

Profile Management 2203 LTSR累積更新プログラム 2 (CU2)では、Profile Managementの2203 LTSR CU1リリースと比較して、4つの修正が追加されています。

Profile Management 2203 LTSR累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースの既知の問題

非推奨と削除

Citrix製品のSubscription Advantage対象期間

2203 LTSR CU2 で修正された問題

比較対象: Profile Management 2203 LTSR CU1

Profile Management 2203 LTSR CU2 には、2203 LTSR の初回リリース、CU1 に含まれるすべての修正に加え、以下の新しい修正が含まれています。

- フォルダーリダイレクトポリシーが無効になっている場合でも、Profile Management が Microsoft フォルダーリダイレクトで使用されるフォルダーを再作成しない場合があります。
- Citrix Profile Management サービス (UserProfileManager.exe) が予期せず終了する場合があります。
- Outlook 検索インデックスローミング機能を使用しようとすると、VHDX ファイルにアクセスする権限がないため、失敗する場合があります。この問題は、Profile Management をバージョン 1912 LTSR からバージョン 2203 LTSR にアップグレードした後に発生します。
- Microsoft Windows の更新プログラム KB5010342 またはそれが置き換える更新プログラムをインストールした後、Explorer.exe プロセスで CPU 使用率が高くなる場合があります。

累積更新プログラム 1 (CU1)

リリース日: August 03, 2022

このリリースについて

Profile Management 2203 LTSR 累積更新プログラム 1 (CU1) は、2203 LTSR の初回リリースと比較して、7つの修正を追加します。

プロファイル管理 (初回リリース)

このリリースでの既知の問題

非推奨と削除

Citrix 製品サブスクリプションアドバンテージの対象資格日

2203 LTSR CU1 で修正された問題

比較対象: Profile Management 2203 LTSR 初期リリース

Profile Management 2203 LTSR CU1 には、2203 LTSR 初期リリースに含まれるすべての修正に加え、以下の新しい修正が含まれています。

- CTXCDF のエラーにより、Windows Management Instrumentation Provider Service (WMIPRVSE.exe) が停止し、イベントログにイベントID 5612 が生成されることがあります。
- Profile Management が有効な公開デスクトップで Edge Chromium を起動すると、再ログオン時に重複するプロファイルが作成されることがあります。この問題は、ログオフ時に Profile Management がローカルプロファイルの削除に失敗することがあるために発生します。
- Workspace Environment Management™ (WEM) コンソールで、**Profile Management の健全性ステータス**に誤ったエラーメッセージが表示されることがあります。
- セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチするポリシーが有効な状態でアクティブセッションが実行されており、Citrix Profile Management サービスを閉じようとすると、サービスが停止しません。停止中の状態のままになります。
- Outlook の検索インデックスローミングを有効にするポリシーが有効な状態で Citrix Profile Management を使用すると、Citrix Profile Management が Microsoft Windows Server 2022 で Microsoft Windows Search Service (SearchIndexer.exe) をフックできないことがあります。
- Citrix Profile Management サービス (UserProfileManager.exe) が予期せず終了することがあります。
- Citrix Director の**監視**タブにある**セッションの詳細**にログオンデータがキャプチャされないことがあります。その結果、このデータは Citrix Analytics for Performance™ でも利用できないことがあります。

このリリースについて

新機能

2203 LTSR の新機能

このリリースには、以下の新機能と機能強化が含まれています。また、全体的なパフォーマンスと安定性の向上に役立ついくつかの問題も解決されています。

セッションで VHDX ディスクを自動的に再接続するポリシー。 以前は、Profile Management がセッションで VHDX ディスクを自動的に再接続するようにするには、レジストリを手動で構成する必要がありました。ポリシーを使用してこの機能を有効にできるようになり、エラーが発生しにくく、より便利になりました。詳しくは、「セッションで VHDX ディスクを自動的に再接続する」を参照してください。

修正された問題

Profile Management 2203 には、Profile Management 2112 と比較して、以下の修正された問題が含まれています。

- isessionmetrics.exe プロセスが VDA でメモリリークを引き起こす可能性があります。
- Windows 10 20H2 デスクトップで、ユーザー ストア パスを !CTX_OSNAME! 変数で構成すると、Profile Management がユーザー ストアに誤った情報を含むフォルダー名を作成する可能性があります。以下の現象が観察される場合があります。
    - Version CU3 の場合、新しいプロファイルにはオペレーティング システムとして Win10RS6 が含まれる可能性があります。
    - Version CU4 の場合、新しいプロファイルにはオペレーティング システムとして Win10_2009 が含まれる可能性があります。

クイックスタートガイド

この記事では、Profile Management のインストールと構成に関するクイックリファレンスを提供します。

前提条件

すべてのシステム要件が満たされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

Profile Management のインストール

Profile Management は、Virtual Delivery Agent (VDA) のインストールに含まれています。VDA の場合、Profile Management をインストールまたはアップグレードするには、VDA ソフトウェアをインストールまたはアップグレードするだけです。

Profile Management の展開は、.msi ファイルと、.adm または .admx ファイルのいずれかをインストールすることで構成されます。ファイルをインストールするには、「インストールとセットアップ」の手順に従ってください。

> **注：**
>
> 潜在的な競合を避けるため、Citrix Profile Management プロセス (`%ProgramFiles%\Citrix\User Profile Manager\UserProfileManager.exe`) をアンチウイルスソフトウェアの除外リストに追加してください。詳細については、「Citrix Antivirus Best Practices」を参照してください。

Profile Management を集中構成する場所を決定する

Profile Management を集中構成する方法は3つあります。以下のいずれかの方法を選択してください。

- Active Directory の GPO を使用する
- Citrix Studio のポリシーを使用する

- ワークスペース・エンバイロメント・マネージメント™ (WEM) を使用する

  Active Directory の GPO を使用して Profile Management を構成する手順については、Knowledge Center の記事「CTX222893」を参照してください。

  Citrix Studioでポリシーを使用してプロファイル管理を構成する方法については、知識センターの記事CTX222893を参照してください。

  WEMを使用してプロファイル管理を構成する方法については、知識センターの記事CTX229258を参照してください。

プロファイル管理を構成する

基本設定を構成する

1. ユーザー ストアを作成する

   安全なユーザー ストアを作成するための推奨事項（ファイル共有の作成やフォルダー権限の設定を含む）は、Microsoftの記事Deploying Roaming User Profilesで入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。

2. ユーザー ストアへのパスを指定する
3. プロファイル管理を有効にする
4. 基本設定を確認する

   基本設定を確認するには、次の手順を実行します。

   a. Citrix Studioで、**Enable logging**、**Logon**、**Logoff**ポリシーを**Enabled**に設定します。

   b. VDAにログオンし、`gpupdate /force`を管理者として実行します。

   c. ログオフし、VDAに再度ログオンします。

   d. デフォルトのログファイルパス`C:\Windows\System32\Logfiles\UserProfileManager`に移動し、`pm.log`ファイルを開き、ログオンイベントを探して、次のメッセージが存在することを確認します。

   ```
   Starting logon processing…

   Finished logon processing successfully in [s]:
   ```

プロファイル管理の構成を計画する

1. Profile Managementの展開を計画するには、環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。(/ja-jp/citrix-virtual-apps-desktops/manage-deployment/user-profiles.html)の**自動構成**機能は、Citrix仮想アプリおよびデスクトップの展開における意思決定の一部を簡素化します。

   展開の推奨アプローチを決定するには、環境に関する次の基本的な質問に答えてください。

   - パイロット？本番？
   - プロファイルを移行しますか？新しいプロファイルですか？
   - 永続的？プロビジョニング済み？専用？共有？
   - モバイル？静的？
   - どのアプリケーションですか？

2. それに応じてProfile Managementを構成するには、次の手順を実行します。

   - ユーザープロファイルをストリーム配信します。(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/stream-profiles.html)を参照してください。
   - アクティブライトバックを有効にします。(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/active-write-back.html)を参照してください。
   - 必須プロファイルを指定します。(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/template.html)を参照してください。
   - 除外を構成します。(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/include-and-exclude-items.html)を参照してください。
   - フォルダーリダイレクトを構成します。(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/configure-folder-redirection.html)を参照してください。
   - アプリケーションを構成します。(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/enable-native-outlook-search-experience.html)を参照してください。

3. Profile Managementの設定を確認します。

   a. この記事で前述したように、基本設定を確認します。

   b. ポリシー設定については、`pm_configure.log` ファイルを確認します。次のメッセージが存在することを確認します。

```
Configuration value read from Policy: LoggingEnabled=

Configuration value read from INI file: CEIPEnabled=

Configuration value PSAlwaysCache set neither in policy nor in INI
file. Defaulting to:
```

トラブルシューティング

詳細については、トラブルシューティングを参照してください。

Profile Management の仕組み

Profile Management は、同じユーザーによる同時ドメインログオンがプロファイルに複雑さと一貫性の問題を引き起こす環境において、ユーザープロファイルの欠点を解決します。例えば、ユーザーがローミングプロファイルに基づいて2つの異なる仮想リソースへのセッションを開始した場合、最後に終了するセッションのプロファイルが最初のセッションのプロファイルを上書きします。この「最終書き込み優先 (last write wins)」として知られる問題は、ユーザーが最初のセッションで行ったパーソナライズ設定をすべて破棄します。

各リソースサイロに個別のプロファイルを使用することで、この問題に対処できます。しかし、このアプローチは管理オーバーヘッドとストレージ容量要件の増加につながります。もう1つの欠点は、ユーザーがアクセスするリソースサイロによって異なる設定を経験することです。

Profile Management は、簡単かつ信頼性の高い方法でプロファイルを最適化します。中間段階およびログオフ時に、レジストリの変更とプロファイル内のファイルおよびフォルダーは、各ユーザーのユーザー ストアに保存されます。一般的ですが、ファイルが存在する場合、以前のタイムスタンプを持つ場合は上書きされます。

ログオン時に、ユーザーのレジストリエントリとファイルはユーザー ストアからコピーされます。ローカルにキャッシュされたプロファイルが存在する場合、2つのセットは同期されます。その結果、すべてのアプリケーションとサイロのすべての設定がセッション中に利用可能になります。そして、各サイロに個別のユーザープロファイルを維持する必要はなくなります。Citrix® ストリーミングユーザープロファイルは、ログオン時間をさらに短縮できます。

Profile Management は、ネットワーク障害を経験するモバイルユーザー（オフラインプロファイル機能が構成されている場合）や、異なるオペレーティングシステムからリソースにアクセスするユーザー（クロスプラットフォーム設定機能が構成されている場合）のアプリケーション設定を保護するのに役立ちます。

注: Profile Management は、ローカルアカウントではなくドメインユーザーのログオンを処理します。

ネットワークベースのプロファイルが使用されている場合、組織で Profile Management の導入を検討してください。強制プロファイルやローミングプロファイルなどの他のソリューションを実装し、Microsoft Windowsの標準的な知識でそれらを維持することも可能です。しかし、展開が制

限されている場合（例えば、ユーザーのカスタマイズが制限されているため強制プロファイルが適切なコールセンターなど）を除き、Profile Management が推奨される場合があります。

Citrix は、ユーザー固有のデータがプロファイルとは別に保存されるように、フォルダーリダイレクトの使用を推奨しています。

ホームフォルダーとテンプレートのパスは、ネットワークの場所のみで構成する必要があります。

プロファイルについて

プロファイルの割り当て

Windowsでユーザーにプロファイルを割り当てるには、どのような方法がありますか?

この記事は、Citrix Profile Managementではなく、Microsoft Windowsでのプロファイルの割り当てについて説明しています。

ユーザーにプロファイルを割り当てるには、いくつかの方法があります。

- Active Directory (AD) のユーザーアカウントプロパティを使用する
- グループポリシー (GP) を使用する
- 上記の方法を使用して、Remote Desktop Services (旧称 Terminal Services) セッションに固有のプロファイルを割り当てる

これらの方法の一部は、特定のオペレーティングシステムでのみ利用可能です。

- **Remote Desktop Services**。Windows Server 2008 R2でRemote Desktop Servicesプロファイルを割り当てるには、GPO設定「Remote Desktop Services Roaming User Profileのパスを設定」を使用します。これは、「コンピューターの構成\管理用テンプレート\Windows コンポーネント\Remote Desktop Services\リモート デスクトップ セッション ホスト\プロファイル」にあります。以前のマルチセッションオペレーティングシステムでは、「コンピューターの構成\管理用テンプレート\Windows コンポーネント\ターミナル サービス」にある設定「TS Roaming Profilesのパスを設定」を使用します。

  個々のユーザーのプロファイルを構成するには、ADのユーザーアカウントプロパティページで個々のアカウントに「TS Roaming Profilesのパスを設定」を設定することもできます。ただし、通常はGPでこの割り当てを行う方がはるかに優れています。

  ターミナルサーバーで設定「強制プロファイルを使用する」を使用して、強制プロファイルの使用を強制できます。

- **Windows 7、Windows 8、およびWindows Server**：ユーザーアカウントプロパティページを使用して、個々のアカウントに移動プロファイルを設定します。また、Windows Server 2008 ADおよびWindows 7デバイスの場合、GPO設定「このコンピューターにログオンするすべてのユーザーの移動プロファイルパスを設定」を使用できます。これは、「コンピューター\管理用テンプレート\システム\ユーザープロファイル」にあります。Windows 8またはWindows Server 2012コンピューターにログオンするユーザーの場合、Windows Server 2012のActive Directoryを使用してユーザーのホームフォルダーを設定することもできます。

複数の方法が使用されている場合、ドメインユーザーにプロファイルを配信するための優先順位はどうなりますか?

Profile Managementがユーザーのプロファイルを管理するために使用される場合、他のどのプロファイル割り当て方法よりも優先されます。Profile Managementによってプロファイルデータが管理されていないユーザーには、複数の方法を使用してプロファイルが割り当てられる場合があります。実際に使用されるプロファイルは、次の優先順位に基づいています。

1. Citrixユーザープロファイル (つまり、Profile Managementによって作成されたプロファイル)
2. GPOによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
3. ユーザープロパティによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
4. GPOによって割り当てられたローミングプロファイル (Windows Server 2008 ADおよびWindows 7のみ)
5. ユーザープロパティによって割り当てられたローミングプロファイル

Profile Management のアーキテクチャ

この記事では、ユーザー ストアとクロスプラットフォーム設定ストアのフォルダー構造について説明します。ユーザー ストアは、Citrix® ユーザー プロファイルの中央の場所です。クロスプラットフォーム設定ストアは、別の場所です。

Profile Management ストアに関する重要な情報

ユーザー ストアとクロスプラットフォーム設定ストアの構造は、情報提供とローカライズおよびトラブルシューティングの支援を目的としてここに記載されています。プロファイル データの問題を最小限に抑え、セキュリティを維持するために設計された、次の重要な推奨事項に従ってください。

- どちらのストアの構造も変更しないでください。
- ストアのいかなる部分にも、ファイルやフォルダーを直接書き込まないでください。ユーザーストアは、この点でリダイレクトされたフォルダーとは異なります。

- ユーザー ストアは、リダイレクトされたフォルダーとは別に保管してください。たとえば、`\\server1\profiles\%username%` や `\\server1\folders\%username%` のように、同じファイル サーバーまたは DFS 名前空間の別々の共有に保管できます。この手法により、バージョン 1 とバージョン 2 のプロファイルをまとめてサポートしたり、両方のプロファイル バージョンで共有されるリダイレクトされたフォルダーの単一セットをサポートしたりすることがはるかに容易になります。
- ユーザーがユーザー ストアを見る必要はないため、ドライブ文字を割り当てないでください。
- ユーザー ストアにクォータを課さないでください。プロファイル サイズを制限する場合は、クォータを使用するのではなく、項目を除外することを検討してください。

ユーザー ストアのフォルダー構造

ユーザー ストアは、デフォルトでユーザーのホーム ディレクトリにある **WINDOWS** フォルダーになります。これにより、パイロット インストールは簡素化されますが、本番システムでは、ユーザー ストアをネットワーク共有、または（最高の拡張性のために）DFS 名前空間として構成してください。エンタープライズ対応のユーザー ストアでサポートされている構成については、「Profile Management を使用した高可用性と災害復旧」で説明されています。

安全なユーザー ストアの作成に関する推奨事項は、Microsoft TechNet Web サイトの「移動ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザー ストアへのアクセスを構成する際には、Citrix ユーザー プロファイルを変更または削除するために必要な Administrators グループを含めてください。

注： Windows 7 および Windows 2008 R2 クライアント デバイスでは、Windows 2012 R2 ファイル サーバーで共有を作成する際に、**データ アクセスの暗号化**チェック ボックスを選択しないでください。

ルート レベルのユーザー ストアのフォルダー構造を次の表に示します。

フォルダ	注
	ユーザー ストア内のプロファイルのルート。
`\UPM_Profile`	このフォルダーには、プロファイルからのファイルとフォルダーが含まれています。
`\UPM_Drive_C`	このフォルダーには、プロファイル外から含まれる項目（この場合はドライブ C から）が含まれています。このフォルダーは、Profile Management 4.x 以前からのアップグレード時

フォルダ	注
	に存在します。Profile Management 5.0 では、プロファイル外の項目を管理することはサポートされていません。
`\Pending`	このフォルダーには、ロックファイル、保留中のファイル、およびストリーミング機能が使用されている場合はスタンプファイルが含まれています。

いくつかの例をこの表に示します。

フォルダー名の例	注
`\UPM_Profile\Data`	ユーザープロファイル内の **Data** フォルダーの同期されたコンテンツ。
`\UPM_Profile\AppData_upm_var`	ユーザープロファイル内の非ローカライズされた Application Data フォルダーの同期されたコンテンツ。このフォルダーは、Profile Management 4.x 以前からのアップグレード時に存在します。バージョン 1 プロファイル（Application Data がその一例であるフォルダー）の管理は、Profile Management 5.0 ではサポートされていません。

保留領域

ユーザー ストアには保留領域が含まれています。この領域は、ストリーミングされたユーザープロファイルとアクティブなライトバック機能で使用される保持領域です。ユーザーが最後のセッションからログオフした後、すべてのファイルは保留領域からユーザー ストアに同期されます。新しいセッションでは、ユーザー ストアと保留領域の両方からファイルがダウンロードされるため、ユーザーは常に最新のプロファイルを体験できます。

サーバーが応答しなくなった場合、保留領域内のファイルをユーザー ストアに戻すタイムアウトを設定できます（ストリーミングされたユーザープロファイル機能の一部として構成されている場合）。

複数のプラットフォームを持つユーザー ストアのフォルダー構造

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合、複数のプラットフォームが関係します。各プラットフォームのプロファイルを分離するために、プラットフォーム固有のフォルダーを定義する必要があります。通常、これはユーザー ストアへのパス ポリシーで Profile Management 変数を使用して行います（たとえば、パスに `%USERNAME%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` を使用するなど）。

クロスプラットフォーム設定ストアは、クロスプラットフォーム設定機能が構成された後、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。ストアの名前と場所は、構成時に指定します（クロスプラットフォーム設定ストアへのパス ポリシーを使用）。このストアには、オペレーティングシステム間でローミングするユーザー設定のサブセットが保持されます。

たとえば、Windows XP と Windows 7 の間で設定をローミングしたい場合があります。プラットフォーム固有のフォルダーには、Windows XP と Windows 7 に固有のユーザー設定が含まれています。クロスプラットフォーム設定ストアには、これらのオペレーティングシステム間でローミングする設定のサブセットが含まれています。ログオン時に、このサブセットはプラットフォーム固有のフォルダーにコピーされ、その一部として残ります。ログオフ時に、サブセットへの変更が抽出され、クロスプラットフォーム設定ストアに戻されます。

各プラットフォーム固有のフォルダーには、標準のサブフォルダー（例: UPM_Profile）が含まれています。詳細については、「ユーザー ストアのフォルダー構造」を参照してください。さらに、UPM_CPS_Metadata サブフォルダーも存在します。このシステムによって作成されたフォルダーには、オペレーティングシステム間で共有される一時設定が含まれています。

ユーザー ストアと AD フォレスト

Citrix ユーザープロファイルは、フォレストをまたいで管理することはできません。同じフォレスト内のドメインをまたいで管理することは可能で、これにより、同じログオン名を持つ複数のユーザーがフォレスト内の同じリソースにアクセスできます。これには、ユーザー ストアへのパスにある `%USERDOMAIN%` および `%USERNAME%` 変数を使用してプロファイルを一意に識別することが含まれます。

ただし、この場合、ユーザー ストアへのパスを設定する際に、同じログオン名を区別するために変数を使用する必要があります。これを行うには、ドメイン名変数をパスに追加します。また、ユーザー ストアのアクセス許可を設定し、Active Directory のユニバーサルグループを使用して Profile Management の「処理済みグループ」設定を有効にする必要があります。

オペレーティングシステムのバージョンを設定するには、%ProfVer% のような手動で定義されたシステム変数を使用できます。または、Profile Management 変数を使用して、オペレーティングシステム名、ビット数、またはプロファイルバージョンを設定することもできます。AD フォレス

ト内のユーザー ストアパスの例については、「ユーザー ストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザー ストアのローカライズ

次の表は、プロファイルデータがユーザー ストアとの間で移動される際に、Profile Management がフォルダーをローカライズおよび非ローカライズする方法の概要を示しています。フォルダー名のみがローカライズおよび非ローカライズされます。たとえば、スタートメニューのエントリやレジストリ設定は、Profile Management によって正しい言語に翻訳されません。

この情報は、Profile Management 4.x 以前からアップグレードする場合にのみ関連します。その場合、バージョン 1 のプロファイルが存在する可能性があります。Profile Management 5.0 では、バージョン 1 のプロファイルの管理はサポートされていません。

バージョン 1 英語フォルダー	ユーザー ストアフォルダー	ユーザープロファイルに対する相対パス
アクセシビリティ	Accessibility_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`
アクセサリ	Accessories_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
管理ツール	AdminTools_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
アプリケーションデータ	AppData_upm_var	`\Local Settings`
クッキー	Cookies_upm_var	
デスクトップ	Desktop_upm_var	
エンターテイメント	Entertainment_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`
お気に入り	Favorites_upm_var	
履歴	History_upm_var	`\Local Settings`
リンク	Links_upm_var	`\Favorites`
ローカル設定	LocalSettings_upm_var	

バージョン 1 英語フォルダー	ユーザー ストアフォルダー	ユーザープロファイルに対する相対パス
マイドキュメント	MyDocuments_upm_var	
マイミュージック	MyMusic_upm_var	`\My Documents`
マイピクチャ	MyPictures_upm_var	`\My Documents`
マイビデオ	MyVideos_upm_var	`\My Documents`
NetHood	NetHood_upm_var	
PrintHood	PrintHood_upm_var	
プログラム	Programs_upm_var	`\Start Menu`
最近	Recent_upm_vars	
スタートメニュー	StartMenu_upm_var	
テンプレート	Templates_upm_var	
インターネット一時ファイル	TemporaryInternetFiles_upm_var	`\Local Settings`
送る	SendTo_upm_var	
スタートアップ	Startup_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
システムツール	SystemTools_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`

Profile Management のユースケース

Citrix Profile Management は、アプリケーションがユーザーにどのように配信されるか、またはどこに格納されるかに関わらず、さまざまなシナリオでユーザープロファイルを管理するために実装できます。以下に、これらのシナリオの例を示します。

- 公開アプリケーションを使用する Citrix Virtual Apps™
- 公開デスクトップを使用する Citrix Virtual Apps

- 分離環境にストリーミングされたアプリケーションを使用する Citrix Virtual Apps
- Citrix Virtual Desktops™ にストリーミングされたアプリケーション
- Citrix Virtual Desktops にインストールされたアプリケーション
- 物理デスクトップにストリーミングされたアプリケーション
- 物理デスクトップにローカルにインストールされたアプリケーション

これらのシナリオのうち、Citrix は以下を最も一般的なユースケースと見なしています。

- **複数のセッション** - ユーザーが複数の Citrix Virtual Apps サーバーサイロにアクセスするため、複数のセッションが開かれます。ただし、サーバー上でのアプリケーションの分離とストリーミングは、サーバーサイロの代替手段であることに注意してください。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **「最後の書き込みが優先」とローミングプロファイルの整合性の問題** - ローミングプロファイルへの最後の書き込みによって、すべての設定が保存されます。そのため、複数のセッションが開いていて一時的な変更が行われた場合、ローミングプロファイルが正しいデータを保持しない可能性があります。さらに、ネットワーク、ストレージの問題、またはその他の問題の結果として、設定がプロファイルに正しく書き込まれない可能性があります。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **大規模なプロファイルとログオン速度** - プロファイルの肥大化により、ユーザープロファイルが扱いにくくなり、ストレージと管理の問題が発生する可能性があります。通常、ログオン中に Windows はユーザーのプロファイル全体をネットワーク経由でローカルユーザーデバイスにコピーします。肥大化したプロファイルの場合、この動作によりユーザーのログオン時間が長くなる可能性があります。

複数のセッション

特に大規模な環境では、ユーザーが同じファーム内であろうと複数のファーム内であろうと、異なる Citrix Virtual Apps サーバーに格納されている異なるアプリケーションにアクセスするために、複数のセッションを開く必要がある場合があります。可能な場合は、アプリケーションの分離またはストリーミングを検討して、同じ Citrix Virtual Apps サーバーにアプリケーションを格納し、ユーザーが単一のサーバーからすべてのアプリケーションにアクセスできるようにし、それによって単一のセッションを使用できるようにします。ただし、事業部門が特定のサーバーを制御している場合や、アプリケーションをストリーミングできない場合は、これが不可能な場合があります。

ユーザーがさまざまなCitrix仮想アプリサーバーからアプリケーションにアクセスする必要があることが確認されたら、プロファイルへの影響を特定する必要があります。

次の図は、複数のセッションが存在する場合にアプリケーション設定が失われる可能性がある例を示しています。

図(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/upm-multiple-sessions-1.png)

例えば、MaryはApp A、App B、App Cにアクセスしたいと考えており、それぞれServer 1、Server 8、Server 12にルーティングされます。各アプリケーションにログオンすると、Maryのターミナルサービスローミングプロファイルが各サーバーにロードされ、各セッションのフォルダーがリダイレクトされます。MaryがServer1のApp Aにログオンしているときに、Setting1を変更し、そのセッションからログオフします。その後、Maryは他の2つのアプリケーションでの作業を完了し、ログオフします。

ログオフ時に、MaryがServer 1のセッション内で行った変更は上書きされます。これは、一時的な変更ではなく、最後に閉じられたセッション内の設定が保持されるためです。翌日、MaryがApp Aにログオンすると、彼女が行った変更が表示されないため、不満を感じます。

Profile Managementは、一般的にこの状況の発生を防ぐことができます。Profile Managementは、セッション中に変更された特定のプロファイル設定のみを書き戻し、その他の変更されていない設定はそのまま保持されます。したがって、発生する可能性のある唯一の競合は、Maryが別のセッション内でSetting1を変更した場合です。ただし、このシナリオでProfile Managementが使用されている場合、ユーザーは最新の変更が保持されることを期待するでしょうし、実際にそのようになります。

「最後の書き込みが優先される」問題とローミングプロファイルの整合性に関する問題

このシナリオは、このトピックの最初のシナリオと似ています。「最後の書き込みが優先される」問題はさまざまな形で現れる可能性があり、アクセスするデバイスの数が増えるにつれてユーザーの不満が高まる可能性があります。

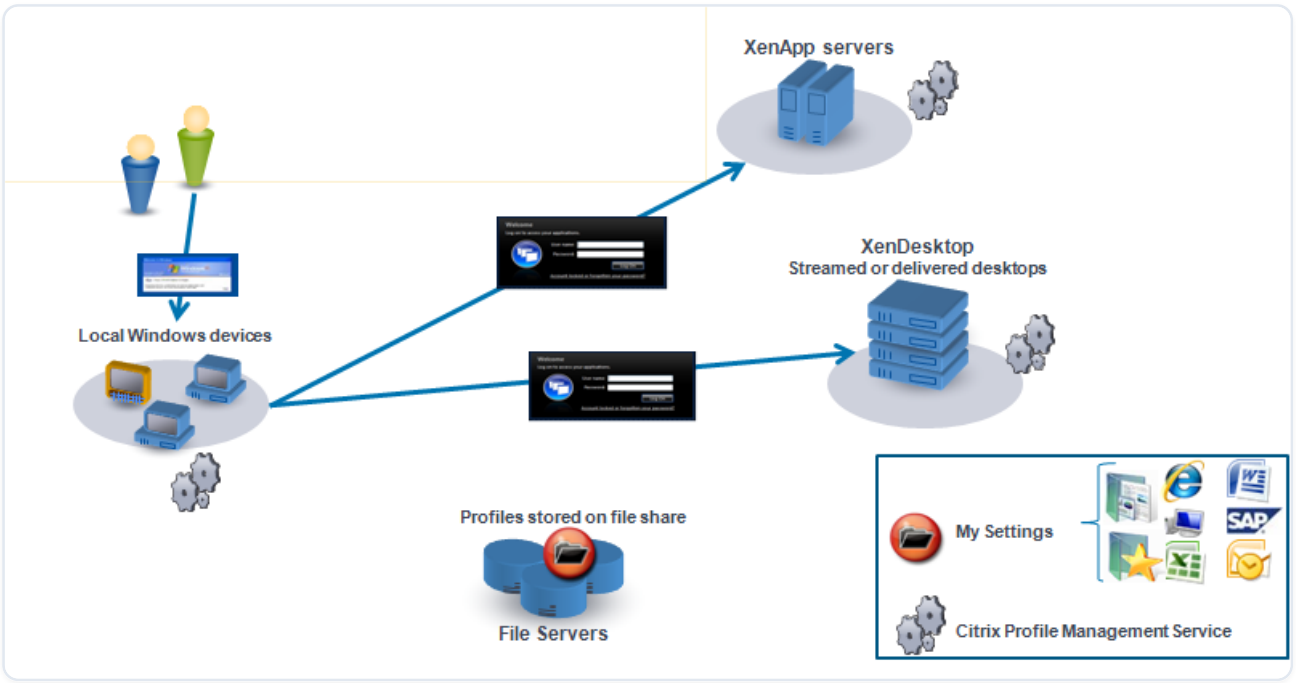
ローミングプロファイルは、リダイレクトされたフォルダーを除き、すべてのプロファイルデータを保持するため、ユーザープロファイルは大きくなる可能性があります。これにより、プロファイルをダウンロードする必要があるためログオン時間が増加するだけでなく、特にネットワークの問題がある場合、ログオフの書き込みフェーズ中に整合性の問題が発生する可能性が高まります。

Profile Managementを使用すると、特定のデータをユーザープロファイルから除外できるため、ユーザープロファイルを最小限のサイズに保つことができます。プロファイルには差分のみが書き込まれるため、ログオフの書き込みフェーズはデータ量が少なく、高速になります。Profile Managementは、一時的なデータにプロファイルを使用するものの、アプリケーション終了時にクリーンアップしないアプリケーションにとって有益です。

複数のリソースへのアクセス

ユーザーが複数のリソースにアクセスするにつれて、プロファイルはより複雑になります。プロファイルがネットワークに保存されている場合、Microsoft Windows はレジストリを使用してユーザー設定を保存します。プロファイルはログオン時にネットワークからローカルデバイスにコピーされ、ログオフ時にネットワークにコピーし直されます。日常的に、ユーザーは複数のコンピューターにアクセスし、デスクトップとラップトップを切り替え、Citrix Virtual Apps and Desktops™ または Citrix DaaS (旧 Citrix Virtual Apps and Desktops service) で作成された仮想リソースにアクセスします。

この図は、単一の Citrix® ユーザープロファイルが、複数のリソースにログオンするユーザーにどのように追従するかを示しています。



例えば、ユーザーはローカルの物理デスクトップを持ち、そこから Citrix Virtual Apps で公開されたアプリケーションにアクセスします。また、Citrix Virtual Desktops で作成された仮想デスクトップにもアクセスします。設定が適切に構成されていない限り、ユーザーの設定はこれらすべてのリソースで統一されません。

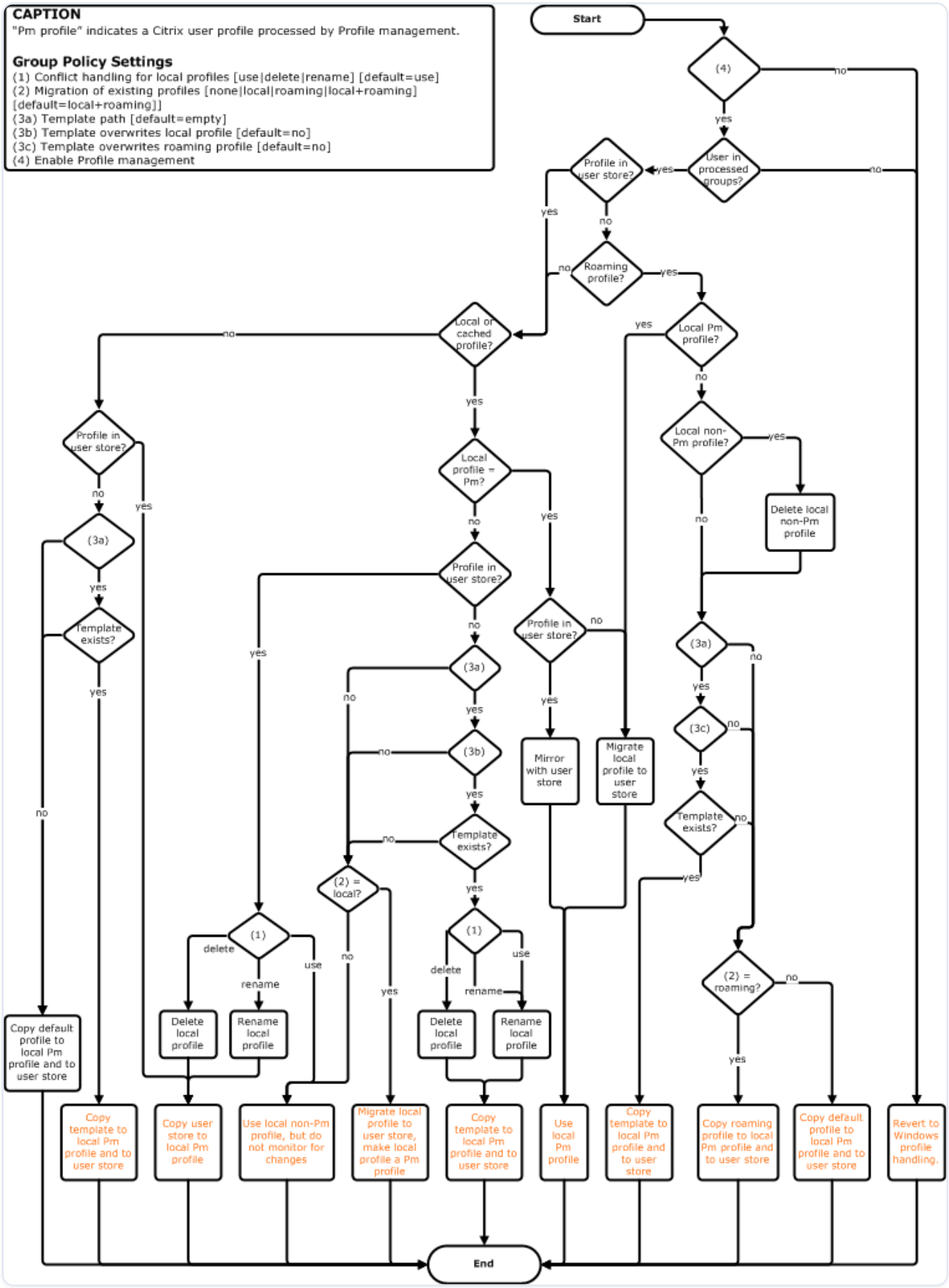
さらに、共有リソースにアクセスする場合、移動プロファイルの動作は「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。例えば、管理者が移動プロファイルを有効にし、ユーザーがローカルデスクトップの背景色を変更したとします。その後、ユーザーは Citrix 仮想デスクトップにログオンし、ローカルデスクトップからログオフし、仮想デスクトップからログオフします。ローカルデスクトップと仮想デスクトップの両方が同時に開いており、最後のログオフは仮想デスクトップからでした。したがって、仮想デスクトップセッションからの設定がプロファイルに最後に書き込まれたものであり、背景色の変更は失われます。

ログオン図

この図は、ユーザープロファイルの移行戦略の詳細を検討するのに役立ちます。また、パフォーマンスの以下の側面についても説明します。

- プロファイルを移行すると、2つのネットワークコピーが発生し、ログオンプロセスが遅くなる可能性があります。たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルとユーザーストアにコピー**する操作には、次の2つのコピーが含まれます。1つはローミングプロファイルストアからローカルコンピューターへの完全なプロファイルコピー、もう1つはローカルコンピューターからユーザーストアへの完全なプロファイルコピーです。
- キャッシュされたプロファイルが使用される場合、ネットワークを介したプロファイルデータのコピーは行われません。

図は下から上に読みます。下部のボックスで目的の操作（たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルとユーザーストアにコピー**）を確認します。その後、必要な移行設定を特定するためにパスをたどります。

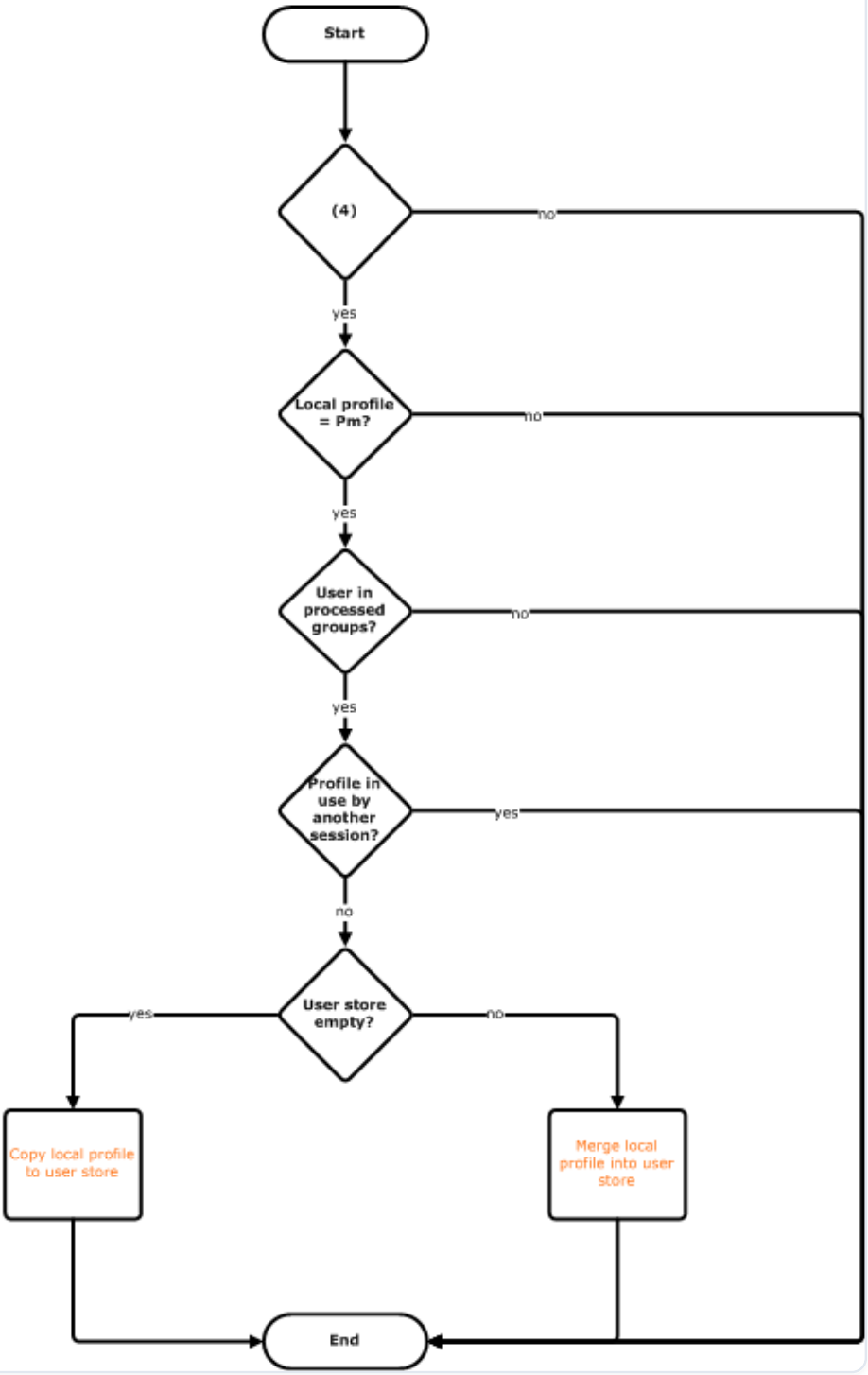

CAPTION
"Pm profile" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.
Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management
Start
(4)
User in processed groups?
Profile in user store?
Roaming profile?
Local or cached profile?
Local Pm profile?
Local non-Pm profile?
Delete local non-Pm profile
Local profile = Pm?
Profile in user store?
(3a)
Template exists?
(3b)
(2) = local?
(1)
delete
rename
use
Delete local profile
Rename local profile
Mirror with user store
Migrate local profile to user store
(3c)
(2) = roaming?
Copy default profile to local Pm profile and to user store
Copy template to local Pm profile and to user store
Copy user store to local Pm profile
Use local non-Pm profile, but do not monitor for changes
Migrate local profile to user store, make local profile a Pm profile
Use local Pm profile
Copy roaming profile to local Pm profile and to user store
Revert to Windows profile handling.
End

ログオフ図

この図は、ログオフ時にプロファイルデータをコピーまたはマージするために使用されるロジックについて説明しています。

CAPTION
"Pm" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.

Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management



展開計画

構成を決定する

Profile Management を構成するには、環境に関する以下の基本的な質問に答えることをお勧めします。

1. パイロット? 本番?
2. プロファイルを移行する? 新しいプロファイル?
3. 永続的? プロビジョニング済み? 専用? 共有?
4. モバイル? 静的?
5. どのアプリケーション?

各質問への回答に応じて、このセクションの残りのトピックで説明されているように、Profile Management を異なる方法で構成します。これらの質問への回答に合うポリシーのみを構成し、他のポリシーはデフォルト設定のままにすることができます。構成しないポリシーのリストについては、管理を参照してください。

各質問に回答し、Profile Management を適切に構成したら、次のことを想定します。

- Profile Management の確認、テスト、およびアクティブ化
- トラブルシューティング

UPMConfigCheck

UPMConfigCheck は、稼働中の Profile Management 展開を検査し、最適に構成されているかどうかを判断する PowerShell スクリプトです。このツールの詳細については、Knowledge Center の記事 CTX132805を参照してください。

コンピューターをOUにグループ化する

異なるコンピューターセットに対して質問への回答が同じである場合は、それらをActive Directoryの組織単位（OU）にグループ化することを検討してください。また、そのOUにアタッチされた単一のグループポリシーオブジェクト（GPO）を使用してProfile Managementを構成す

ることを検討してください。これらの質問への回答が異なる場合は、コンピューターを別々のOUにグループ化することを検討してください。

または、ドメインがWMIフィルタリングをサポートしている場合、すべてのコンピューターを同じOUにグループ化し、適切に構成されたGPO間で選択するためにWMIフィルタリングを使用できます。

パイロットか実稼働か?

パイロット展開の目的は、ソリューションを迅速かつ確実に実証できるようにすることです。重要な目標は、パイロット内のコンポーネントの数を減らすことかもしれません。プロファイル管理の場合、2つのコンポーネントはユーザー ストアと、プロファイルが処理されるユーザーの選択です。

ポリシー：ユーザー ストアへのパス

Citrix® ユーザープロファイル用のユーザー ストアのセットアップは、Windows ローミングプロファイル用のプロファイル ストアのセットアップとまったく同じです。

パイロット展開の場合、これらの考慮事項を無視できることがよくあります。「ユーザー ストアへのパス」ポリシーのデフォルト値は、ユーザーのホームディレクトリにある**Windows**フォルダーです。これは、単一のオペレーティングシステム（したがって1つのプロファイルバージョン）のみが展開されている限り、シングルプラットフォームのパイロットでうまく機能します。プロファイルバージョンの詳細については、「プロファイルについて」を参照してください。このオプションは、ユーザーのホームディレクトリに十分なストレージがあり、ファイルサーバーのクォータが適用されていないことを前提としています。Citrixは、プロファイルでのファイルサーバークォータの使用を推奨していません。その理由は、「複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する」に記載されています。

実稼働展開の場合、セキュリティ、負荷分散、高可用性、および災害復旧を慎重に考慮する必要があります。ユーザー ストアの作成と構成については、以下のトピックの推奨事項に従ってください。

- プロファイル管理アーキテクチャ
- ユーザー ストアを作成する
- ユーザー ストアへのパスを指定する
- プロファイル管理による高可用性と災害復旧

ポリシー：処理されるグループ、除外されるグループ

実稼働展開の複雑さにより、プロファイル管理の展開をすべてのユーザーに同時にリリースするのではなく、段階的に行う必要がある場合があります。展開が進行中の間、ユーザーは異なるリソースに接続する際に異なるプロファイルエクスペリエンスを受け取ることを伝えることができます。

パフォーマンス上の理由から、プロファイル管理は組み込みのライセンスチェックではなくEULAによってライセンスされます。ユーザーをActive Directory (AD) ユーザーグループに割り当てるか、適切な既存のADグループを使用してライセンス割り当てを管理することを選択できます。

パイロット展開では、プロファイル管理の使用は、招待によって少数のユーザーグループ（おそらく複数の部署から）に制限され、単一の代表的なADグループを使用できない場合があります。この場合、「処理されるグループ」および「除外されるグループ」ポリシーを未構成のままにします。プロファイル管理はグループメンバーシップのチェックを行わず、すべてのユーザーが処理されます。

これらのポリシーの詳細については、「どのグループのプロファイルを処理するかを定義する」を参照してください。

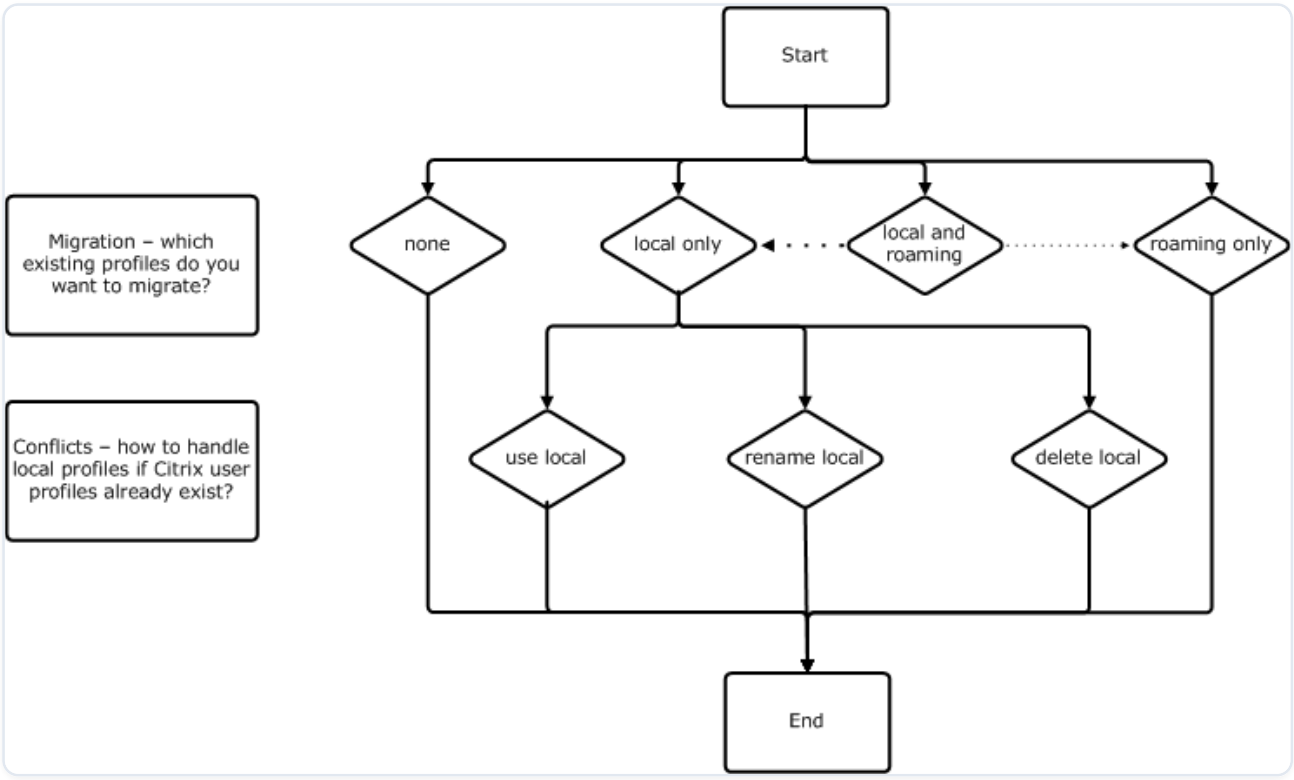
重要: すべての場合において、Profile Managementによって処理されるユーザー数が、関連するEULAで設定された制限を超えないことを必ず確認してください。

プロファイルの移行と新規作成?

Profile Managementの展開を利用して、組織のプロファイルを更新できます。最初は小規模でカスタマイズされたプロファイルを使用し、それへの追加を厳密に制御します。あるいは、既存のプロファイルをProfile Management環境に移行し、長年にわたって蓄積されてきた個人設定を保持する必要があるかもしれません。

既存のプロファイルを移行する場合は、「既存のプロファイルの移行」および「ローカルプロファイルの競合処理」ポリシーを構成します。

次の図は、この質問への回答に基づいてこれらのポリシーを構成する方法を示しています。



ポリシー: テンプレートプロファイル

まったく新しいプロファイルセットを作成する場合は、「テンプレートプロファイル」ポリシーを使用して、この目的のためにテンプレートを作成することを検討してください。詳しくは、「テンプレートまたは必須プロファイルを指定する」を参照してください。テンプレートを作成しない場合、Profile Managementはユーザーにデフォルトの Windows プロファイルを提供します。テンプレートが不要な場合は、このポリシーを無効のままにします。

「**テンプレートプロファイル**」ポリシーは、「**ユーザーストアへのパス**」ポリシーに似ています。このポリシーは、ユーザーがProfile Managementによって管理されているコンピューターに初めてログオンするときに、ユーザープロファイルを作成するための基礎として使用できるプロファイルの場所を指定します。

オプションで、すべてのログオンに対してテンプレートをCitrix®必須プロファイルとして使用できます。計画の一環として、ユーザーがアクセスするアプリケーションを特定するなどのタスクを実行する必要があります。それに応じて、プロファイル内のレジストリの状態、ショートカット、およびデスクトップ設定を構成する必要があります。プロファイルフォルダーのアクセス許可を設定し、ユーザーのログオンスクリプトを変更する必要があります。

> **注：**

> Citrix Virtual Desktops™展開で必須プロファイルを選択する場合、Profile Managementの.admまたは.admxファイルではなく、Citrix Studioを使用することをお勧めします。

永続的、プロビジョニング済み、専用、共有?

プロファイルを作成するマシンの種類は、構成の決定に影響します。主な要因は、マシンが永続的であるかプロビジョニング済みであるか、および複数のユーザーで共有されるか、1人のユーザー専用であるかです。

永続システムには何らかのローカルストレージがあり、その内容はシステムがオフになっても永続することが期待されます。永続システムは、ローカルディスクのエミュレーションを提供するために、SANなどのストレージテクノロジーを採用する場合があります。対照的に、プロビジョニング済みシステムは、ベースディスクと何らかのIDディスクから「オンザフライ」で作成されます。ローカルストレージは通常、RAMディスクまたはネットワークディスクによってエミュレートされ、後者は高速リンクを備えたSANによって提供されることがよくあります。プロビジョニングテクノロジーは通常、Provisioning ServicesまたはMachine Creation Services™（あるいはサードパーティ製の同等品）です。プロビジョニング済みシステムが永続的なローカルストレージを持つ場合もあり、これはPersonal vDiskによって提供されることがあります。これらは永続的として分類されます。

これら2つの要素を組み合わせると、次のマシンタイプが定義されます。

- **永続的かつ専用** - 例としては、Machine Creation Services（Citrix virtual desktops™内）で作成された、静的割り当てとPersonal vDiskを持つシングルセッションOSマシン、VDI-in-a-Boxで作成されたPersonal vDiskを持つデスクトップ、物理ワークステーション、およびラップトップがあります
- **永続的かつ共有** - 例としては、Machine Creation Services（Citrix virtual desktops内）で作成されたマルチセッションOSマシン、およびCitrix virtual apps™サーバーがあります
- **プロビジョニング済みかつ専用** - 例としては、Provisioning Services（Citrix virtual desktops内）で作成された、静的割り当てを持つがPersonal vDiskを持たないシングルセッションOSマシンがあります
- **プロビジョニング済みかつ共有** - 例としては、Provisioning Services（Citrix virtual desktops内）で作成されたランダム割り当てのマルチセッションOSマシン、VDI-in-a-Boxで作成されたPersonal vDiskを持たないデスクトップ、およびCitrix virtual appsサーバーがあります

以下のProfile Managementポリシー設定は、さまざまなマシンタイプに対する推奨ガイドラインです。これらは通常うまく機能しますが、展開の要件に応じて逸脱することもできます。

注：Citrix virtual desktops展開では、「ログオフ時にローカルキャッシュされたプロファイルを削除」、「プロファイルストリーミング」、および「常にキャッシュ」は、自動構成機能によって適用されます。

ポリシー	永続的かつ専用	永続的かつ共有	プロビジョニング済みかつ専用	プロビジョニング済みかつ共有
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除	無効	有効	無効 (注 5)	有効
プロファイルストリーミング	無効	有効	有効	有効
常にキャッシュ	有効 (注 1)	無効 (注 2)	無効 (注 6)	無効
アクティブライトバック	無効	無効 (注 3)	有効	有効
ローカル管理者ログオンの処理	有効	無効 (注 4)	有効	有効 (注 7)

注

1. このマシンタイプではプロファイルストリーミングが無効になっているため、「常にキャッシュ」設定は常に無視されます。
2. 「常にキャッシュ」を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限 (MB単位) を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルにロードされるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。
3. Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルに変更を保存する場合を除き、「アクティブライトバック」を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
4. ホスト型共有デスクトップの場合を除き、「ローカル管理者ログオンの処理」を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
5. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する機能を無効にします。これにより、ローカルにキャッシュされたプロファイルが保持されます。マシンが個々のユーザー

に割り当てられているため、プロファイルがキャッシュされているとログオンが速くなります。

6. 常にキャッシュする機能を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限 (MB単位) を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルにロードされるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。
7. Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルを除き、ローカル管理者のログオンを処理する機能を有効にします。この場合、このポリシーを無効にします。

モバイルか静的か?

お使いのマシンはActive Directoryドメインに永続的に接続されていますか？ラップトップや同様のモバイルデバイスはおそらく接続されていません。同様に、一部の展開では永続的なローカルストレージを持つ固定マシンがあるかもしれませんが、それらのマシンはかなりの期間データセンターから分離されています。例えば、リモート支店が衛星通信によって本社に接続されている場合などです。もう1つの例は災害復旧で、インフラストラクチャが復元されており、電源または通信が断続的である場合です。

通常、プロファイル管理は、ネットワークが利用できない間にユーザーがログオフしない限り、短時間のネットワーク障害（24時間未満）に耐性があります。このような状況では、ログオンプロセスを大幅に高速化するいくつかの方法でプロファイル管理を最適化できます。これが静的ケースです。

長期間の切断が予想される場合、または企業ネットワークから切断されている間にユーザーがコンピューターをログオフまたはシャットダウンできる必要がある場合、プロファイル管理を最適化することはできません。ユーザーが再接続すると、ユーザーストアからプロファイル全体がフェッチされる間、ログオンは遅くなります。これがモバイルケースです。

モバイルケース

長期間の切断（およびActive Directoryドメインへの断続的な接続期間のみ）の場合、オフラインプロファイルサポートポリシーを有効にします。このアプローチは、サポートされていない最適化を制御する以下のポリシーの効果を自動的に無効にします。これらのポリシーはグループポリシーで無効になっているように見えないかもしれませんが、効果はありません。

- プロファイルストリーミング
- 常にキャッシュ

注: オフラインプロファイルサポートが有効になっている場合、 **アクティブライトバック**は尊重されますが、コンピューターがネットワークに接続されている場合にのみ機能します。

重要: Citrix VDI-in-a-Boxでオフラインプロファイルサポートを有効にしないでください。このポリシーは、それで作成されたデスクトップには永続的なローカルストレージがないため、この製品には適していません。

静的ケース

ポリシー: オフラインプロファイルサポート

短期間の切断の場合、オフラインプロファイルサポートポリシーを無効にします。これにより、以下のいずれかのポリシーを構成できます。

ポリシー: ストリームユーザープロファイルグループ

ストリームユーザープロファイルグループポリシーを未構成に設定します。このポリシーを有効にしても、プロファイルストリーミングも有効になっている場合にのみ効果があります。ストリームユーザープロファイルグループは、ストリームプロファイルの利用を特定のActive Directoryユーザーグループに制限するために使用されます。これは、以前のバージョンのプロファイル管理から移行する際の一部のシナリオで役立ちます。このポリシーの設定方法については、「ユーザープロファイルのストリーム」を参照してください。

このポリシーに適用される高可用性と災害復旧については、シナリオ 4 - 移動ユーザーを参照してください。

ポリシー: 保留中のエリアロックファイルのタイムアウト

保留中のエリアロックファイルのタイムアウトポリシーを「未構成」に設定すると、デフォルトの操作が適用されます。これは、保留中のエリアロックの1日間のタイムアウトです。これはサポートされている唯一の値であるため、このポリシーを調整しないでください。

ポリシー: アクティブなライトバック

このポリシーの詳細については、永続的か? プロビジョニング済みか? 専用か? 共有か?を参照してください。

どのアプリケーション?

展開で使用されているアプリケーションは、Profile Managementの構成方法に影響します。ただし、他の構成決定とは異なり、単純な「はい」または「いいえ」の推奨事項はありません。決定

は、アプリケーションが永続的なカスタマイズをどこに保存するか（レジストリまたはファイルシステム）によって異なります。

アプリケーションが設定とユーザーのカスタマイズをどこに保存するかを特定するために、ユーザーのアプリケーションを徹底的に分析し、理解してください。Process Monitorなどのツールを使用して、アプリケーションバイナリを監視します。Googleも別の情報源です。Process Monitorの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>`を参照してください。

アプリケーションの動作を理解したら、インクルージョンを使用して処理されるファイルと設定を定義します。除外を使用して、処理されないものを定義します。デフォルトでは、プロファイル内のすべてが`AppData\Local`内のファイルを除いて処理されます。展開に次のいずれかのアプリケーションが含まれている場合は、`AppData\Local`のサブフォルダーを明示的に含める必要がある場合があります。

- DropBox
- グーグル クローム
- Visual Studioのワンクリック発行で作成されたアプリケーション

シンプルなアプリケーション

シンプルなアプリケーションとは、適切に動作するアプリケーションのことです。これらは、HKCUレジストリハイブにパーソナライズ設定を、プロファイル内にパーソナライズファイルを保存します。シンプルなアプリケーションには基本的な同期が必要であり、これにより、次の方法で項目を含めたり除外したりする必要があります。

- これらのポリシーにおける相対パス（%USERPROFILE%に対する相対パス）：
  - 同期するディレクトリ
  - 同期するファイル
  - 除外リスト - ディレクトリ
  - 除外リスト - ファイル
  - ミラーリングするフォルダー

  注：%USERPROFILE%はProfile Managementによって暗黙的に指定されます。これらのポリシーに明示的に追加しないでください。
- これらのポリシーにおけるレジストリ相対パス（HKCUルートに対する相対パス）：
  - 除外リスト

- 包含リスト

項目のインクルードとエクスルードの手順については、項目のインクルードとエクスルードを参照してください。

レガシーアプリケーション

レガシーアプリケーションは適切に動作せず、パーソナライズファイルをプロファイル外のカスタムフォルダーに保存します。推奨される解決策は、レガシーアプリケーションでProfile Managementを使用するのではなく、Citrix Virtual DesktopsのPersonal vDisk機能を使用することです。

複雑なアプリケーション

複雑なアプリケーションには特別な処理が必要です。アプリケーションのファイルは相互参照することがあり、相互に関連するグループとして扱われる必要があります。Profile Management は、複雑なアプリケーションに関連する2つの動作（Cookie 管理とフォルダーミラーリング）をサポートしています。

Internet Explorer での Cookie 管理は、以下の両方のポリシーが常に指定される基本的な同期の特殊なケースです。

- ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する
- ミラーリングするフォルダー

フォルダーミラーリング、Cookie 管理の詳細、およびこれらのポリシーの設定方法については、「Cookie フォルダーおよびその他のトランザクションフォルダーの管理」を参照してください。

クロスプラットフォームアプリケーション

クロスプラットフォームアプリケーションとは、複数のプラットフォームでホストされる可能性のあるアプリケーションです。Internet Explorer および Microsoft Office の特定のバージョンでは、Profile Management はプラットフォーム間でのパーソナライズ設定の共有をサポートしています。これらの設定は、レジストリまたはプロファイル内のファイルとして保存されます。

クロスプラットフォームアプリケーションの推奨ポリシー設定については、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」に記載されています。

他のアプリケーションの設定をプラットフォーム間で共有したい場合は、Sepago の Profile Migrator を使用することをお勧めします。

Java および Web アプリケーション

Java アプリケーションはプロファイル内に多くの小さなファイルを残すことがあり、プロファイルの読み込み時間を大幅に増加させる可能性があります。したがって、`AppData\Roaming\Sun\Java` を除外することを検討してください。

ポリシーの概要

次の表は、さまざまな種類のアプリケーションに対して Profile Management を構成するために使用するポリシーをまとめたものです。表では次の用語が使用されています。

- **相対パス**。ローカルボリューム上の相対パスで、%USERPROFILE% (指定してはいけません) を基準とします。例: `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`、`AppData\Roaming\Adobe\`。
- **絶対パス**。ローカルボリューム上の絶対パスです。例: `C:\BadApp*.txt`、`C:\BadApp\Database\info.db`。
- **レジストリ相対パス**。HKCU ハイブ内のパスを指します。例: `Software\Policies`、`Software\Adobe`。
- **フラグ**。パス情報が不要な処理を有効または無効にするためにフラグを使用します。例: 有効、無効。

ポリシー	ポリシーの種類 (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションの種類 - シンプル	アプリケーションの種類 - レガシー	アプリケーションの種類 - 複雑
同期するディレクトリ	フォルダ	はい	相対	絶対値	
同期するファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	
除外リスト - ディレクトリ	フォルダ	はい	相対	絶対値	
除外リスト - ファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	

ポリシー	ポリシーの種類 (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションの種類 - シンプル	アプリケーションの種類 - レガシー	アプリケーションの種類 - 複雑
包含リスト	レジストリ		レジストリ相対		
除外リスト	レジストリ		レジストリ相対		
ミラーリングするフォルダー	フォルダ			絶対値	相対
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する					フラグ

ファイル名とフォルダー名でのワイルドカード処理

ファイルやフォルダーを参照するポリシー（レジストリエントリではなく）はワイルドカードをサポートします。詳細については、「ワイルドカードの使用」を参照してください。

包含ルールと除外ルール

Profile Managementは、ユーザープロファイルのファイル、フォルダー、およびレジストリキーをユーザーストアに含めたり除外したりするためのルールを使用します。これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。この開始点から、最上位の例外を除外として構成し、次に最上位の例外に対するより深い例外を包含として構成することができます。ルールに関する詳細情報（項目の包含と除外に関する手順を含む）については、「項目の包含と除外」を参照してください。

プロファイル内の英語以外のフォルダー名

バージョン1プロファイルを使用する英語以外のシステムでは、包含リストと除外リストに相対パスをローカル言語で指定します。たとえば、ドイツ語システムでは、**Documents**ではなく

Dokumentenを使用します。複数のロケールをサポートしている場合は、各言語で包含または除外される項目をそれぞれ追加します。

次のステップ

1. 「構成の決定」に記載されているすべての質問に回答します。
2. 回答に基づいて、展開用にProfile Managementを構成します。その他のすべてのポリシーはデフォルトのままにすることができます。

   構成してはならないポリシーのリストについては、「管理」の**構成不要なポリシー**を参照してください。
3. 「Profile Managementの確認、テスト、およびアクティブ化」で説明されているように、設定をテストおよび確認し、Profile Managementを有効にします。

プロファイル管理の確認、テスト、およびアクティブ化

このトピックは、構成の決定 に記載されている展開に関するすべての質問に回答済みであることを前提としています。また、それに応じてプロファイル管理ポリシーを構成済みであることも前提としています。これで、構成を確認し、運用を開始する準備が整いました。

同僚にポリシー設定を確認してもらいます。その後、構成をテストします。テストには.iniファイルを使用できます。テストが完了したら、設定を手動でグループポリシーオブジェクトに転送します。

ポリシー: プロファイル管理を有効にする

このポリシーを有効にするまで、プロファイル管理は非アクティブです。

複数のプラットフォームに対応する計画

複数のプラットフォーム上のユーザープロファイルがなぜ課題となるのか?

ユーザーが複数のコンピューティングデバイスにアクセスすることは一般的です。あらゆる種類のローミングプロファイルにおける課題は、これらのデバイス上のシステム間の違いから生じます。例えば、デスクトップにローカルファイルへのショートカットを作成し、別のデバイスに移動したときにそのファイルが存在しない場合、デスクトップには壊れたショートカットが残ります。

シングルセッションオペレーティングシステム（OS）とマルチセッションOSの間でローミングする場合にも同様の問題が発生します。一部の設定（電源設定やビデオ設定など）は、サーバーでは適用できない場合があります。さらに、各デバイスでアプリケーションが同様にインストールされていない場合、ローミング時に他の問題が発生する可能性があります。

一部のパーソナライズ設定（マイ ドキュメント、お気に入り、OSやアプリケーションのバージョンに依存せずに機能するその他のファイルなど）は、他の設定よりも管理がはるかに簡単です。しかし、ドキュメントの種類が1つのシステムでのみサポートされている場合、これらの設定でさえローミングが困難になることがあります。例えば、あるシステムにはMicrosoft Projectがインストールされているが、別のデバイスではそのファイルの種類が認識されない、といった場合です。同じアプリケーションが2つのシステムに存在しても、一方のシステムでは異なるアドオンがインストールされており、ドキュメントがそれを期待している場合、この状況はさらに悪化します。

アプリケーションのインストール方法を変更すると、どのように問題が発生しますか?

プラットフォームが同じようにインストールされていても、各プラットフォームでアプリケーションが異なる構成になっている場合、アプリケーションの起動時にエラーが発生する可能性があります。例えば、あるプラットフォームのExcelではマクロやアドオンがアクティブになるが、別のプラットフォームではアクティブにならない、といった場合です。

スタートメニュー

スタートメニューにはリンク（LNKファイルおよびLNK2ファイル）が含まれています。メニューのユーザー固有の部分はプロファイルに保存され、ユーザーはその部分を変更できます。カスタムリンク（実行可能ファイルやドキュメントへのリンク）を追加することは一般的です。さらに、言語固有のリンクは、同じアプリケーションに対して複数のスタートメニューエントリを生成します。また、ドキュメントを指すリンクは、他のコンピューターでは無効になる場合があります。その理由は、ドキュメントへのパスが別のシステムに対する相対パスであるか、アクセスできないネットワークパスであるためです。

デフォルトでは、Profile Managementはスタートメニューフォルダーの内容を保存しません。これは、実行可能ファイルを指すリンクがコンピューターに依存していることが多いためです。ただし、システムが類似している状況では、Profile Managementの構成にスタートメニューを含めることで、ユーザーがデスクトップ間をローミングする際の整合性が向上します。または、フォルダーリダイレクトを使用してスタートメニューを処理することもできます。

注： 最も無害に見える変更からでも、予測できない副作用が生じることがよくあります。例えば、Sepagoブログの `<https://helgeklein.com/blog/2009/09/citrix-user-profile-manager-upm-and-the-broken-rootdrive/>` の記事を参照してください。

常にプラットフォーム間でスタートメニューの動作をテストおよび検証してください。

クイック起動ツールバー

クイック起動ツールバーにはリンクが含まれており、ユーザーが構成できます。デフォルトでは、**クイック起動**ツールバーはProfile Managementによって保存されます。環境によっては、リンクがコンピューターに依存している可能性があるため、**クイック起動**ツールバーの保存が望ましくない場合があります。

プロファイルからツールバーを除外するには、フォルダー除外リストに次のエントリを追加します: `AppData\Roaming\Microsoft\Internet Explorer\Quick Launch`。

作成するプロファイルの種類?

重要: 構造が異なるため、複数のプラットフォームを含む環境では、各ユーザーに対して個別のバージョン1およびバージョン2のプロファイルを作成することをお勧めします。Windows VistaとWindows 7のプロファイル名前空間の違いにより、これらのプラットフォーム間でプロファイルを共有することは困難です。また、Windows XPとWindows Server 2003の間でも障害が発生する可能性があります。バージョン1およびバージョン2のプロファイルの詳細は、以下を参照してください。 プロファイルについて。

ここでの複数プラットフォームの定義には、複数のオペレーティングシステム（ビット数が異なるものを含む）だけでなく、同じオペレーティングシステム上で実行されている複数のアプリケーションバージョンも含まれます。この推奨事項の理由を次の例で示します。

- 32ビットシステムには、オペレーティングシステムに32ビットオペレーティングシステムに固有の場所でアプリケーションを起動するように指示するレジストリキーが含まれている場合があります。これらのキーが64ビットシステム上のCitrix®ユーザープロファイルによって使用される場合、そのシステムにその場所が存在せず、アプリケーションが起動に失敗する可能性があります。
- Microsoft Office 2003、Office 2007、およびOffice 2010は、一部のWord設定を異なるレジストリキーに保存します。これらのアプリケーションが同じオペレーティングシステムで実行されている場合でも、Wordアプリケーションの3つの異なるバージョンに対して個別のプロファイルを作成する必要があります。

プロファイルの相互運用性を確保するために、CitrixユーザープロファイルでMicrosoftフォルダーリダイレクトを使用することをお勧めします。Windows VistaまたはWindows 7がWindows XPと共存する必要がある環境では、これはさらに重要です。

ヒント: 組織のデータ管理ポリシーによっては、Active Directoryから削除されたユーザーアカウントのプロファイルをユーザー ストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアから削除することをお勧めします。

複数のファイルサーバーでCitrix®ユーザープロファイルを共有する

Profile Managementの最もシンプルな実装は、ユーザーストアが1つの地理的場所にいるすべてのユーザーをカバーする1つのファイルサーバー上にあるものです。このトピックでは、複数のファイルサーバーを含む、より分散された環境について説明します。高度に分散された環境の詳細については、「Profile Managementによる高可用性と災害復旧」を参照してください。

注: ユーザーストアのサーバー側ファイルクォータは無効にしてください。クォータがいっぱいになるとデータ損失が発生し、プロファイルのリセットが必要になるためです。プロファイルに保持される個人データ（例：ドキュメント、音楽、画像）の量を制限するには、サーバー側ファイルクォータが有効になっている別のボリュームへのフォルダーリダイレクトを使用する方が良いでしょう。

ユーザーストアは複数のファイルサーバーに配置でき、これは多くのプロファイルをネットワーク全体で共有する必要がある大規模な展開において利点があります。Profile Managementは、ユーザーストアを単一の設定である**ユーザーストアへのパス**で定義するため、この設定に属性を追加することで複数のファイルサーバーを定義します。Active Directoryのユーザースキーマで定義されている任意のLDAP属性を使用できます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/adschema/attributes-all?redirectedfrom=MSDN>`を参照してください。

ユーザーが異なる都市にある学校にいて、それを表すために#l#属性（場所を示す小文字のL）が構成されているとします。ロンドン、パリ、マドリードに拠点があります。ユーザーストアへのパスを次のように構成します。

```
\&num;l#.userstore.myschools.net\profile&num;sAMAccountName#\%ProfileVer%\
```

パリの場合、これは次のように展開されます。

```
\\Paris.userstore.myschools.net\profile\JohnSmith\v1\
```

次に、利用可能なサーバー間で都市を分割します。たとえば、DNSでParis.userstore.myschools.netをServer1を指すように設定します。

この方法で属性を使用する前に、そのすべての値を確認してください。それらはサーバー名の一部として使用できる文字のみを含んでいる必要があります。たとえば、#l#の値にはスペースが含まれていたり、長すぎたりする場合があります。

#l#属性を使用できない場合は、同様のパーティション分割を実現する#company#や#department#などの他の属性について、ADユーザースキーマを調べてください。

カスタム属性を作成することもできます。`Sysinternals`ツールであるActive Directory Explorerを使用して、特定のドメインに対してどの属性が定義されているかを確認できます。Active Directory Explorerは`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/adexplorer>`で入手できます。

注: プロファイルやサーバーを区別するために、%homeshare%などのユーザー環境変数を使用しないでください。Profile Managementはシステム環境変数を認識しますが、ユーザー環境変数は認識しません。ただし、関連するActive Directoryプロパティである`#homeDirectory#`を使用できます。したがって、ユーザーのHOMEディレクトリと同じ共有にプロファイルを保存したい場合は、ユーザーストアへのパスを`#homeDirectory#\profiles`として設定します。

ユーザーストアへのパスでの変数の使用については、以下のトピックで説明しています。

- ユーザーストアへのパスを指定する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

OU内およびOU間でプロファイルを管理する

組織単位内

組織単位 (OU) 内でプロファイル管理がプロファイルを管理する方法を制御できます。Windows Server 2008 環境では、Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、.adm または .admx ファイルを OU 内のコンピューターのサブセットに制限します。WMI フィルタリングは、Service Pack 1 (GPMC with SP1) を含むグループポリシー管理コンソールの機能です。

WMI フィルタリングの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc779036(v=ws.10)>` および `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc758471(v=ws.10)>` を参照してください。

GPMC with SP1 の詳細については、`<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=21895>` を参照してください。

次の方法を使用すると、単一の OU で単一のグループポリシーオブジェクト (GPO) を使用して、異なる OS を持つコンピューターを管理できます。各方法は、ユーザーストアへのパスを定義するための異なるアプローチです。

- ハードコードされた文字列
- プロファイル管理変数
- システム環境変数

ハードコードされた文字列は、1 種類のコンピューターのみを含む場所を指定します。これにより、それらのコンピューターからのプロファイルをプロファイル管理によって一意に識別できます。たとえば、Windows 7 コンピューターのみを含む OU がある場合、**ユーザーストアへのパス**に `\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Windows7` を指定できます。この例では、Windows7 フォルダーがハードコードされています。ハードコードされた文字列は、プロファイル管理サービスを実行するコンピューターでのセットアップを必要としません。

プロファイル管理変数は、コンピューターを一意に識別するために柔軟に組み合わせることができ、セットアップを必要としないため、推奨される方法です。たとえば、異なるビット数のオペレーティングシステムで実行されている Windows 7 および Windows 8 プロファイルを含む OU がある場合、**ユーザーストアへのパス**に `\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` を指定できます。この例では、2 つのプロファイル管理変数は、Win7x86 (Windows 7 32ビットオペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) および Win8x64 (Windows 8 64ビットオペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) のフォルダーに解決される可能性があります。プロファイル管理変数の詳細については、プロファイル管理ポリシー を参照してください。

システム環境変数には、いくつかの構成が必要です。これらは、プロファイル管理サービスを実行する各コンピューターで設定する必要があります。プロファイル管理変数が適切でない場合は、次のようにシステム環境変数をユーザーストアへのパスに組み込むことを検討してください。

各コンピューターで、%ProfVer% というシステム環境変数を設定します。(ユーザー環境変数はサポートされていません。) 次に、ユーザーストアへのパスを次のように設定します。

```
`\\upmserver\upmshare\%username%.%userdomain%\%ProfVer%`
```

たとえば、Windows 7 32ビットコンピューターの場合は %ProfVer% の値を Win7 に、Windows 7 64ビットコンピューターの場合は Win7x64 に設定します。Windows Server 2008 32ビットおよび64ビットコンピューターの場合は、それぞれ 2k8 および 2k8x64 を使用します。これらの値を多

くのコンピューターで手動で設定するのは時間がかかりますが、Provisioning Services を使用する場合は、ベースイメージに変数を追加するだけで済みます。

ヒント: Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2012 では、グループポリシーを使用して環境変数の作成と適用を高速化できます。グループポリシー管理エディターで、 **コンピューターの構成** > **基本設定** > **Windows の設定** > **環境** をクリックし、次に **操作** > **新規** > **環境変数** をクリックします。

組織単位間

You can control how Profile Management administers profiles across OUs. Depending on your OU hierarchy and GPO inheritance, you can separate into one GPO a common set of Profile Management policies that apply to multiple OUs. For example, **Path to user store** and **Enable Profile Management** must be applied to all OUs. So you might store them separately in a dedicated GPO, enabling only these policies there (and leaving them unconfigured in all other GPOs).

専用のGPOを使用して、継承されたポリシーを上書きすることもできます。GPOの継承に関する情報については、MicrosoftのWebサイトを参照してください。

Profile Managementにおけるドメインとフォレストのサポート

Profile Managementは、Windows Server 2008およびWindows Server 2012のドメインおよびフォレストの機能レベルをサポートしています。古いオペレーティングシステムはサポートされていません。

システム環境変数を使用すると、複数のドメインにおけるユーザー名の曖昧さを解消できます。詳細については、OU内およびOUをまたがるプロファイルの管理を参照してください。

Profile Managementによる高可用性とディザスターリカバリ

前提条件として、ユーザーストアの構造と作成方法をよく理解してください。詳細については、「Profile Managementアーキテクチャ」および「ユーザーストアの作成」を参照してください。

これらのトピックでは、Citrix Profile Managementに適用される高可用性とディザスターリカバリのサポート対象シナリオについて説明します。これらのシナリオを関連する基盤となるMicrosoftテクノロジーと関連付け、サポートされている内容を特定します。

- シナリオ1: 地理的に隣接するユーザーストアとフェールオーバークラスターの基本的なセットアップ

- シナリオ2: 複数のフォルダーターゲットとレプリケーション
- シナリオ3: ディザスターリカバリ
- シナリオ4: 移動ユーザー
- シナリオ5: ユーザーストアの負荷分散

Profile Managementは、信頼性の高い環境で動作することを前提としています。この信頼性は主に、Active Directory (AD) とネットワークユーザーストア (NUS) の可用性に適用されます。どちらかが利用できない場合、Profile Managementはプロファイルを提供できず、Windowsに責任を委ねます。Windowsは通常、デフォルトのプロファイルを提供します。

ローミングプロファイルとの比較

ディザスターリカバリおよび高可用性のシナリオでは、Citrix Profile ManagementはMicrosoft移動プロファイルに影響するのと同じ問題の影響を受ける可能性があります。特に明記されていない限り、Profile Managementはこのような問題を解決しません。

特に、次の点に注意してください。

- Profile Managementのサポートは、移動プロファイルもサポートされているシナリオに限定されます。
- オフラインファイルのキャッシュオプションは、移動ユーザープロファイル共有で無効にする必要があります。同じ制限がProfile Management共有にも適用されます。
- 移動プロファイルはDFS共有からロードされません。同じ制限がProfile Management共有にも適用されます。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2533009>`を参照してください。

シナリオ 1 - 地理的に隣接するユーザー ストアとフェールオーバー クラスターの基本設定

「ユーザーには、常に地理的に隣接する優先ネットワーク ユーザー ストア (NUS) をプロファイルに使用させたい。」この場合、オプション 1 と 2 が適用されます。

「NUS をフェールオーバー クラスター上に配置して、高可用性を実現したい。」この場合、オプション 2 が適用されます。

次の図は、このシナリオを示しています。北米 (NA) のユーザーは、ブリスベンではなくニューヨークの NUS を使用したいと考えています。目的は、遅延を減らし、オーストラリアまたは

ニュージーランド (ANZ) への大陸間リンクを介して送信されるトラフィックを最小限に抑えることです。

図(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/upm-ha-dr-scenario1-1.png)

オプション 1 – DFS 名前空間

背景情報

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、「DFS 名前空間の概要」を参照してください。

このオプションの実装

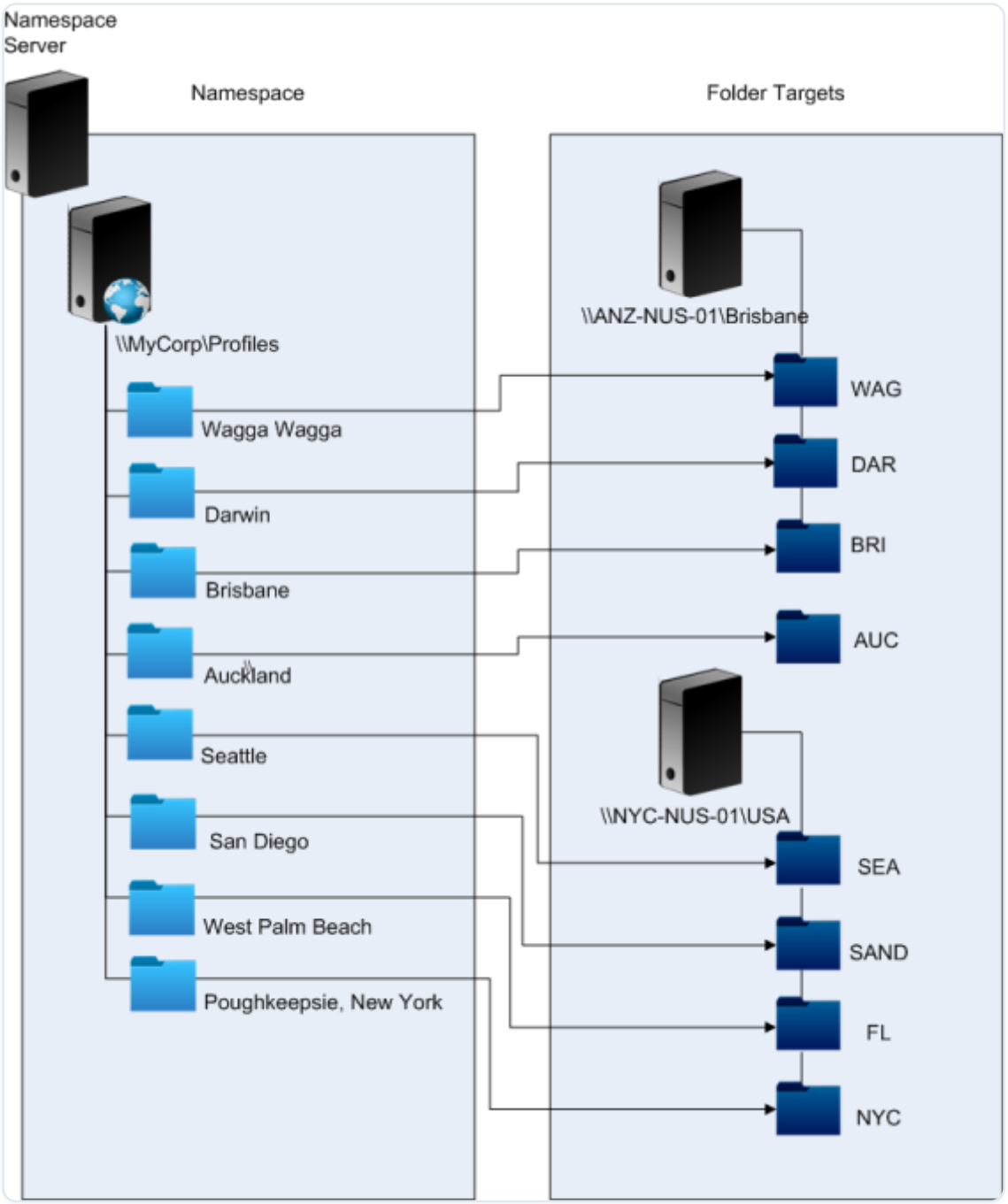
DFS 名前空間は、ブログ記事で提示されている問題の一部を解決できます。

NUS 用に `\\MyCorp\Profiles` という名前の名前空間を設定しましょう。これは名前空間ルートです。ニューヨークとブリスベン (およびその他のサイト) に名前空間サーバーを設定します。各名前空間サーバーには、各 Active Directory の場所に相当するフォルダーがあり、それらのフォルダーはニューヨークまたはブリスベンのサーバー上のターゲットを持っています。

Active Directory (ユーザー レコードの一部) には、次の場所が構成されている場合があります。

AD ロケーション属性 (#L#)	地理的な場所
ワガワガ	ANZ
ダーウィン	ANZ
ブリスベン	ANZ
オークランド	ANZ
シアトル	該当なし
サンディエゴ	該当なし
ウェストパームビーチ	該当なし
ニューヨーク州ポキプシー	該当なし

以下の図は、DFS Namespaces を使用してこれを設定する1つの方法を示しています。



設定が完了したら、「Path to user store」設定を次のように構成します。

```
\\MyCorp\Profiles&num;l#
```

8つのサイトに属するユーザーのプロファイルは、シナリオで要求される地理的制約を満たすように、わずか2台のサーバーに分散されます。

代替案

名前空間ターゲットを順序付けし、次のように順序付けルールを使用できます。DFS 名前空間が使用するターゲットを解決する際、ローカルサイト内のターゲットのみが選択されるように指定

できます。これは、特定のユーザーについて、すべてのデスクトップとサーバーが同じサイトに属することが保証されている限り機能します。

例えば、通常ポキプシーにいるユーザーがワガワガを訪れた場合、この手法は失敗します。そのユーザーのラップトッププロファイルはブリスベンから来るかもしれませんが、公開されたアプリケーションで使用されるプロファイルはニューヨークから来るかもしれません。

推奨される手法であるAD属性を使用すると、ユーザーが開始するすべてのセッションで同じDFS名前空間の選択が行われることが保証されます。その理由は、#I#がマシンの構成ではなく、ユーザーのAD構成から派生するためです。

オプション2 - フェールオーバークラスタリングを使用したDFS名前空間

背景情報

- 2ノードファイルサーバーフェールオーバークラスターの構成に関するステップバイステップガイドについては、「2ノードクラスターファイルサーバーの展開」を参照してください。
- 名前空間タイプの選択に関する情報については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/choose-a-namespace-type>`を参照してください。

このオプションの実装

フェールオーバークラスタリングを追加することで、基本的な高可用性を提供できます。

このオプションの重要な点は、ファイルサーバーをフェールオーバークラスターに変換し、フォルダーターゲットが単一のサーバーではなくフェールオーバークラスターでホストされるようにすることです。

名前空間サーバー自体に高可用性が必要な場合は、スタンドアロンの名前空間を選択する必要があります。ドメインベースの名前空間は、名前空間サーバーとしてフェールオーバークラスターの使用をサポートしていません。フォルダーターゲットは、名前空間サーバーのタイプに関係なく、フェールオーバークラスターでホストされる場合があります。

重要: フェールオーバークラスター内のサーバーが失敗した場合、ファイルロックの状態が保持されない可能性があります。Profile Managementは、プロファイル処理中の特定の時点でNUS上のファイルロックを解除します。重要な時点でのフェールオーバーがプロファイルの破損につながる可能性があります。

シナリオ 2 - 複数のフォルダーターゲットとレプリケーション

「ローカルのNUSが利用できない場合、ユーザーは企業ネットワーク上の別のバックアップ場所からプロファイルデータを取得できるようにしたい。変更を行った場合、その変更は、優先するNUSが再び利用可能になったときに、そこに戻される必要がある。」

このシナリオにおける基本的な要件は、ネットワーク上のプロファイルに対して代替の場所を提供することです。ユースケースには、ネットワークインフラストラクチャの部分的な障害や、フェールオーバークラスターなどのフォルダーターゲットが完全に利用できなくなる状況が含まれます。

検討する必要があるオプションは、複数のフォルダーターゲットの使用とDFSレプリケーションの使用です。

オプション 1 - 複数のフォルダーターゲットへの参照

参考資料

DFS名前空間のチューニングについては、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/tuning-dfs-namespaces>`を参照してください。

このオプションについて

参照とは、ユーザーデバイスによって順番に試行されるターゲットの順序付きリストです。これは、ソフトウェアライブラリのようにターゲットが読み取り専用であるシナリオ向けに設計されています。ターゲット間に連携がないため、この手法をプロファイルで使用すると、同期できない複数のプロファイルが作成される可能性があります。

しかし、参照内のターゲットに対して、順序付け方法とターゲット優先度の両方を定義することは可能です。適切な順序付け方法を選択すると、すべてのユーザーセッションによって一貫したターゲットが選択されるように見えます。しかし実際には、ユーザーのすべてのデバイスが同じサイト内にある場合でも、サイト内ルーティングの問題により、異なるセッションによって異なるターゲットが選択される可能性があります。デバイスが参照をキャッシュすると、この問題はさらに複雑になることがあります。

重要: このオプションはProfile Managementの展開には適しておらず、サポートされていません。ただし、ファイルレプリケーションは、単一セッションのみが保証され、 アクティブな書き戻しが無効になっている一部の特殊な展開で使用されてきました。これらの特殊なケースについては、Citrix Consultingにお問い合わせください。

オプション 2 - 分散ファイルシステムレプリケーション

参考資料

- 分散ファイルシステムレプリケーション (DFSR) の概要については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-replication/dfsr-overview>`を参照してください。
- レプリケートされたユーザープロファイルデータに関するサポートステートメントについては、`<https://techcommunity.microsoft.com/t5/ask-the-directory-services-team/microsoft-8217-s-support-statement-around-replicated-user/ba-p/398230>`を参照してください。
- DFSR が分散ファイルロックをサポートしない理由を理解するには、`<https://blogs.technet.com/b/askds/archive/2009/02/20/understanding-the-lack-of-distributed-file-locking-in-dfsr.aspx>`を参照してください。

このオプションの実装

DFS レプリケーションは、帯域幅が制限されたネットワーク接続を介したフォルダー同期を提供します。このオプションは、単一の名前空間フォルダー定義が参照する複数のフォルダーターゲットを同期するため、オプション1の問題を解決するように見えます。実際、フォルダーがフォルダー定義のターゲットとして追加されると、レプリケーショングループに属するものとして指定できます。

考慮すべきレプリケーションには2つの形式があります。

- 一方向レプリケーション（アクティブ-パッシブ レプリケーションとも呼ばれる）は、重要なデータを安全なリポジトリにバックアップするために設計されています。このレプリケーションは、たとえばディザスタリカバリサイトの維持に適しています。パッシブターゲットが参照に対して無効になっており、ディザスタリカバリ計画がアクティブ化されたときにのみ呼び出される限り、Profile Managementで機能させることができます。
- 双方向レプリケーション（アクティブ-アクティブ レプリケーションとも呼ばれる）は、グローバル共有データへのローカルな読み取り/書き込みアクセスを提供することを目的としています。ここでは、瞬時レプリケーションは必ずしも要件ではありません。共有データはめったに変更されない可能性があります。 重要: アクティブ-アクティブ DFSR はサポートされていません。

スケジュールは、データがレプリケートされる頻度を定義します。頻繁なスケジュールはCPUと帯域幅の両方でより集中的ですが、瞬時の更新を保証するものではありません。

Profile Managementは、その操作のさまざまな時点で、(共有)ユーザー ストアへの更新を調整するために、NUSで特定のファイルをロックする必要があります。通常、これらの更新はセッションの開始時と終了時、およびアクティブなライトバックが有効になっている場合はセッションの途中で行われます。DFS レプリケーションでは分散ファイルロックがサポートされていないため、Profile ManagementはNUSとして1つのターゲットしか選択できません。この設定により、双方向レプリケーション（アクティブ-アクティブ レプリケーション）の価値は事実上排除され、したがってProfile Managementには適しておらず、サポートされていません。一方向レプリケーション（アクティブ-パッシブ レプリケーション）は、ディザスタリカバリシステムの一部としてのみProfile Managementに適しています。その他の用途はサポートされていません。

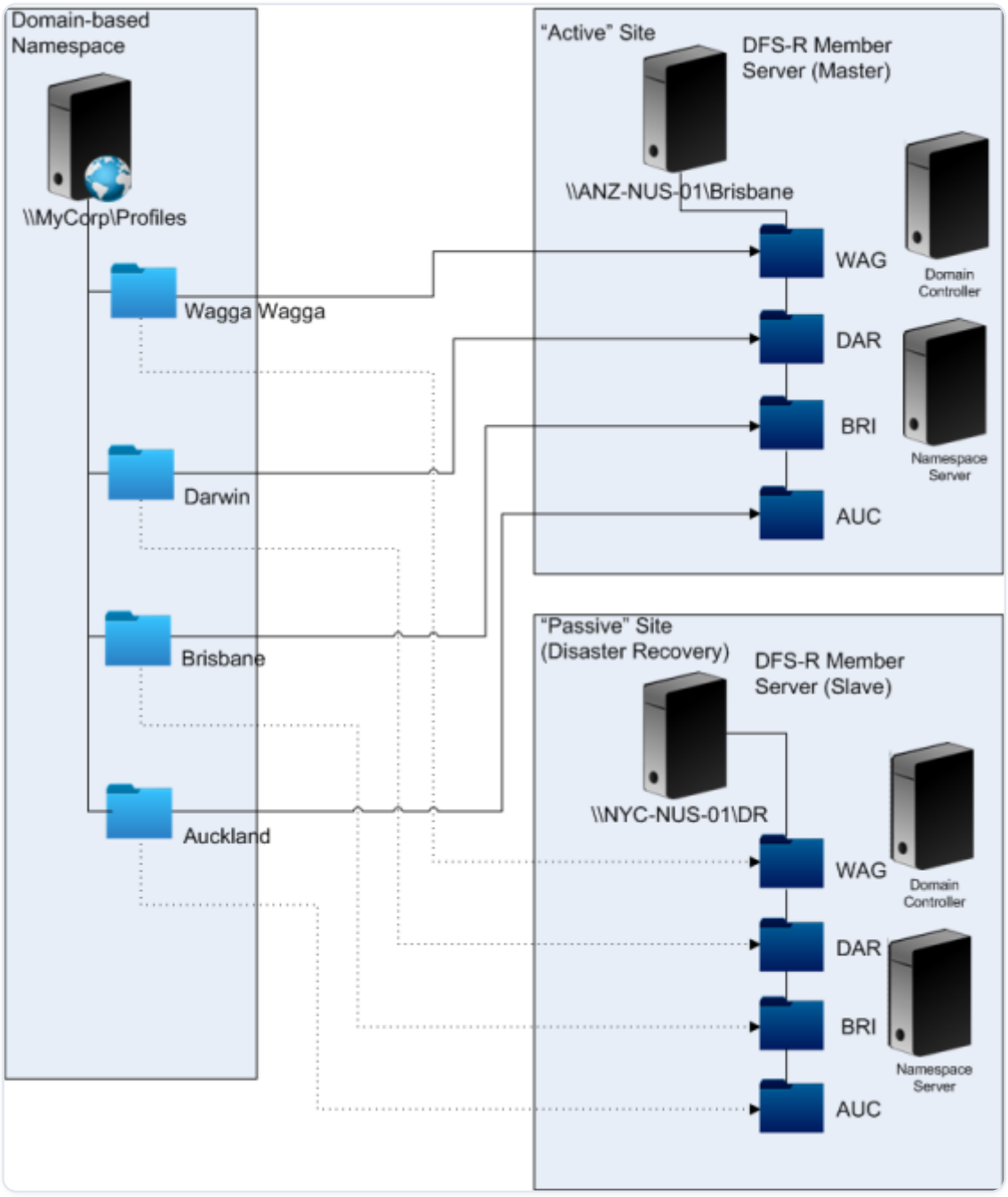
シナリオ 3 - ディザスターリカバリ

「Citrix®ユーザープロファイルを処理するための完全なディザスターリカバリサイトをセットアップするにはどうすればよいですか？」

Profile Managementは、ディザスターリカバリ（DR）に必要な主要機能をサポートしています。

- **DFS名前空間**。このシナリオでは、DRサイトが独自の名前空間サーバーを持つことができるため、ドメインベースの名前空間サーバーが推奨されます。（スタンドアロンの名前空間サーバーはレプリケートできませんが、フェールオーバークラスターでホストできます。）
- **複数のフォルダーターゲットとDFSレプリケーション**。各NUSに対して、少なくとも2つのターゲットを提供しますが、通常運用では1つのみを有効にします。無効になっているターゲット（DRサイト）が最新の状態に保たれるように、一方向のDFSレプリケーションを設定します。
- **個々のフォルダーターゲットをホストするためのフェールオーバークラスター**。オプション。DRサイトではリソースの無駄になる可能性があります。

この図では、ドメインベースの名前空間がNUSを管理しています。（シナリオ1の図には意図的に名前空間が含まれていませんでした。）DRサイトを含む各サイトに名前空間サーバーを含めることができます。すべてのサーバーは、名前空間の同じビューをサポートします。



DR計画がアクティブ化されると、DRサイトのNUSはマスターNUSからレプリケートされた変更で最新の状態になります。ただし、名前空間サーバーはまだ名前空間の誤ったビューを反映しているため、その構成を更新する必要があります。各フォルダーについて、マスターサイトのフォルダーターゲットを無効にし、DRサイトのフォルダーターゲットを有効にする必要があります。

ADの更新が伝播された後、名前空間サーバーはDRフォルダーターゲットを正しく特定し、DRサイトはProfile Managementで使用できるようになります。

注： 設定は、実際のサーバーではなく名前空間フォルダーを参照するため、Profile Managementの構成を更新する必要はありません。

実際には、DRサイトは通常プロファイルには使用されないため、一方向または双方向のレプリケーションが可能です。災害が終了すると、DRサイトからマスターサイトへの接続により、災害中にNUSに加えられた変更がマスターサイトにレプリケートされます。

シナリオ 4 - 移動するユーザー

「スタッフが異なるオフィス間を移動する際、地理的に近いNUSを使い続けられるように、優先NUSを変更したい。」

このシナリオの難点は、ユーザーのログオンセッションが複数の場所から集約される可能性があることです。通常、ユーザーはデスクトップセッションをあるサイトから別のサイトへとローミングします。しかし、多くのアプリケーションは、ユーザーのデスクトップの現在の場所を認識しないバックエンドサーバーでホストされています。

さらに、ユーザーは切断されたセッションに再接続する可能性があります。おそらく、ホームロケーションでホストされているセッションです。何らかの理由でセッションがユーザーの新しい場所にあるNUSに切り替えられた場合、パフォーマンスが低下します。

ホットデスクを利用する出張者にとって、**プロファイルストリーミング**と**常にキャッシュ**の設定を使用することが最善の選択肢です。固定マシンを使用する場合でも、Citrix®ストリーミングユーザープロファイルを使用して、迅速にログオンできます。常にキャッシュを有効にすると、プロファイルの残りの部分がバックグラウンドで読み込まれます。

シナリオ 5 - ユーザー ストアの負荷分散

「地理的に隣接する複数のネットワーク ユーザー ストア (NUS) 間でユーザーの負荷分散を行いたい。」

背景情報

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、「DFS 名前空間の概要」を参照してください。

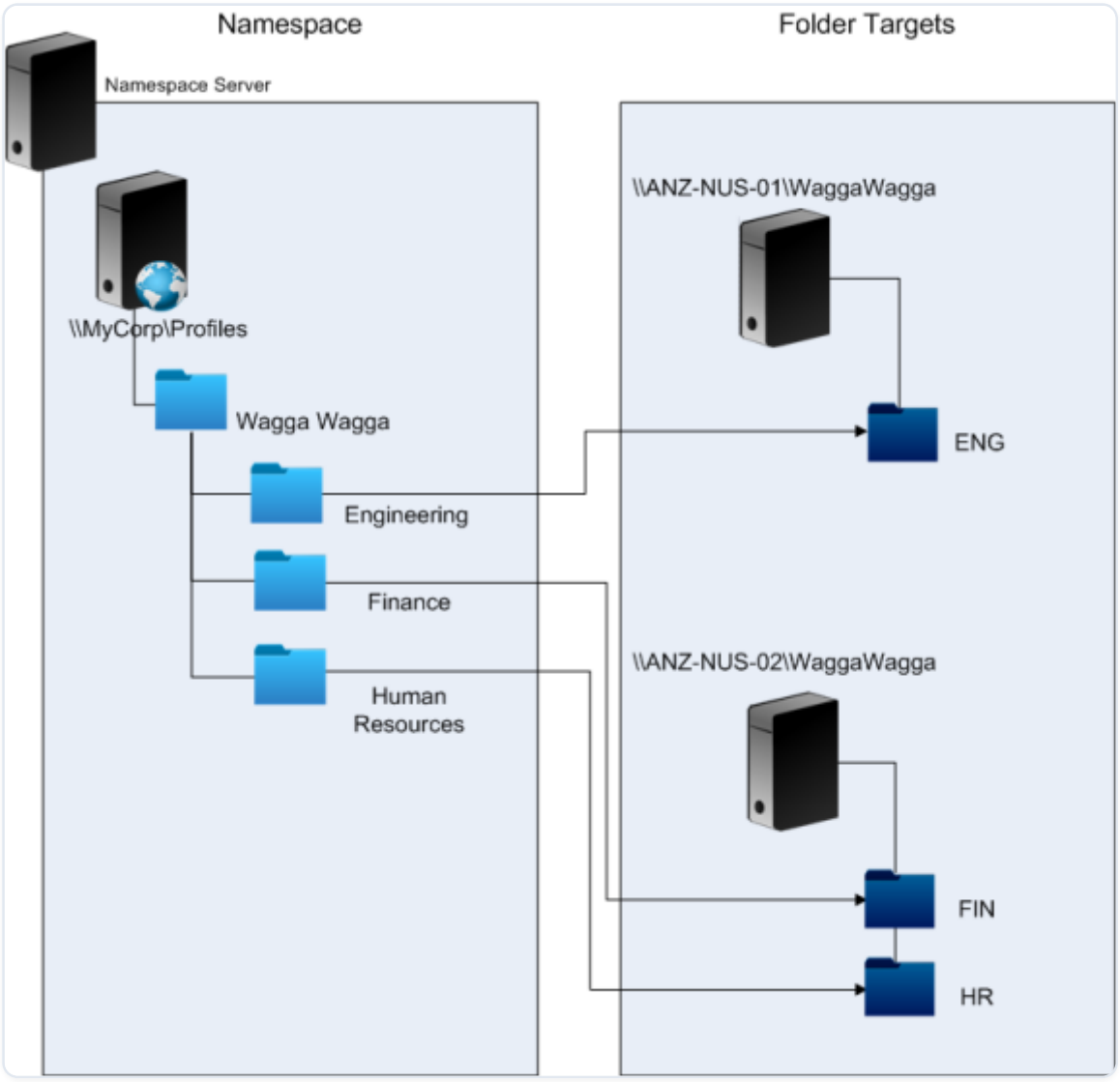
シナリオ 1 とは異なり、このシナリオでは、複数の NUS を必要とするほど大規模な単一サイトがあります。DFS 名前空間を使用することで、シナリオ 1 のソリューションを改善できます。

シナリオ 1 (オプション 1) では、DFS 名前空間を使用して、複数のサイトを同じサーバー上の異なるフォルダーにマッピングしました。同様の手法を使用して、名前空間のサブフォルダーを異なるサーバー上のフォルダーにマッピングできます。

理想的には、#department# のように、ユーザー アカウントをほぼ同じサイズのチャンクに分割する AD 属性が必要です。シナリオ 1 と同様に、#department# は常に定義され、正しいフォルダー名が含まれていることが保証されている必要があります。

シナリオ 1 と同様に、`\\MyCorp\Profiles` と呼ばれる NUS の名前空間を設定します。

この図は、名前空間の設定方法を示しています。



設定が完了したら、ユーザー ストアへのパス設定を次のように構成します。

`\\MyCorp\Profiles#l##department#`

この構成では、Wagga Wagga のユーザーは、両方ともローカルである 2 つの NUS サーバーに分散されます。

プロファイル管理によるフォルダーリダイレクトの計画

Profile Managementはフォルダーリダイレクトをサポートしており、その使用が推奨されます。

Active Directory (AD) を使用すると、Application DataやDocumentsなどのフォルダーをネットワークの場所に保存（リダイレクト）できます。フォルダーの内容はリダイレクトされた場所に保存され、ユーザープロファイルには含まれないため、サイズが削減されます。ADのバージョンによっては、リダイレクトできるフォルダーとできないフォルダーがあります。さらに、フォルダーリダイレクトを構成することで、強制プロファイルを持つユーザーがプロファイルの使用を制限しながらも、一部の設定、ファイル、その他のデータを保存できるようになります。

一般的なガイドラインとして、ネットワーク帯域幅が許す場合、セッション内で定期的にアクセスされないすべてのユーザーデータに対してフォルダーリダイレクトを有効にすることをお勧めします。

リダイレクト可能なすべてのフォルダーがADでアクセスできるわけではありません。特定のオペレーティングシステムでリダイレクトできるフォルダーは、レジストリの `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User Shell Folders` にあります。

フォルダーリダイレクトに関する重要な情報

Profile Managementでフォルダーリダイレクトを使用する際の次の重要な点に注意してください。

- XenDesktop 7では、Citrix Virtual Desktops™ポリシーを使用して、Studioでリダイレクトするフォルダーを指定します。詳細については、Citrix Virtual Desktopsのドキュメントを参照してください。
- フォルダーリダイレクトを正常に構成するには、バージョン1とバージョン2のプロファイル間のフォルダー構造の違いに注意してください。
- フォルダーリダイレクトを使用する際のセキュリティに関する詳細については、Secureおよび Microsoft TechNetウェブサイトのFolder Redirection Overviewの記事を参照してください。
- ユーザーストアは、リダイレクトされたフォルダーに使用される共有とは異なるものとして扱ってください。
- リダイレクトされたフォルダーを除外リストに追加しないでください。

このビデオで詳細はこちら：



サードパーティのディレクトリ、認証、およびファイルサービス

この記事では、Microsoftが提供するもの以外のディレクトリ、認証、およびファイルサービスのサポートについて説明します。

ディレクトリサービス

重要： Active Directory（AD）は、Profile Managementの運用に不可欠です。他のディレクトリサービスはサポートされていません。これらのサービスには以下が含まれます。

- ノベル eDirectory。
- Windows 2000 Serverまたはそれ以前のオペレーティングシステム（OS）。Windows 2000 ServerはADをサポートしていますが、必要なレベルではありません。詳細については、「Profile Managementでのドメインとフォレストのサポート」を参照してください。Microsoft Windows NT 4.0はADより前のものです。
- Samba 4またはそれ以前。

認証サービス

他の認証サービスはドメイン内でADと共存できますが、Profile Managementではサポートされていません。その理由は、Profile Management Serviceと同様に、これらのサービスがwinlogon.exeと相互作用し、ユーザーログオンプロセスに問題を引き起こす可能性があるためです。たとえば、Novellの認証サービスは、ユーザーがプリンターやファイル共有などのNovellリソースにアクセスできるようにしますが、サポートされていません。

ファイルサービス

サードパーティのファイルサービスは、ユーザーストアおよびフォルダーリダイレクト（使用されているWindowsオペレーティングシステムでサポートされている場合）に使用できます。ファイルサーバーは、Server Message Block（SMB）またはCommon Internet File System（CIFS）タイプであり、NTFSファイルシステムをサポートしている必要があります。これらの理由から、以下がサポートされています。

- Windows Server 2003 またはそれ以降
- サンバ 3

重要: Novell ディレクトリに対する認証が必要なため、Novell ファイルサービスはサポートされていません。

複数のプラットフォーム上のプロファイルとProfile Managementの移行に関するFAQ

このセクションでは、複数のWindowsオペレーティングシステム、または単一オペレーティングシステムの複数のバージョンやビット数を持つ環境でプロファイルを使用することに関する質問と回答を掲載しています。

プロファイルとの互換性の問題を確実に回避するにはどうすればよいですか?

異種環境をサポートする必要性と、ユーザーとそのデバイスを追跡するためのパーソナライズ設定の必要性のバランスを取ります。通常、これら2つのニーズのバランスは、管理者とIT部門によってのみ決定できます。ユーザープロファイルを次のように調整することで、異なるシステムを管理します。プロファイルがローミングする場合、問題は適切に処理されるか、必要に応じて設定は完全に無視され、まったく追跡されないようにする必要があります。これは、多くのサードパーティ製ソフトウェアソリューションの基礎となります。

トラブルシューティングを最小限に抑えるには、同じデバイス設定（インストールされているアプリケーション、OSバージョンなど）間でプロファイルをローミングするようにしてください。しかし、現代の多くのシナリオでは、これは容易に達成できず、不完全なユーザーエクスペリエンスにつながります。たとえば、ユーザーが複数のオペレーティングシステムを使用しているからといって、お気に入りやマイドキュメントを複製する必要はありません。この場合、管理者はフォルダーリダイレクトを使用することでユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。このMicrosoft機能の使用は、他のシナリオでも推奨されます。

異なるシステム間でプロファイルを共有できますか?

Citrixでは、プラットフォームごとに1つのベースプロファイルを持つことを推奨しています。これは、オペレーティングシステムごとに1つのプロファイルを持つことと必ずしも同じではありません。この推奨事項の詳細については、「複数のプラットフォームの計画」を参照してください。これにより、互いに機能しない可能性のある設定や、特定のOSに適用されない設定の数を最小限に抑えることができます。たとえば、デスクトップの電源設定は、サーバーシナリオやリモートデスクトップサービス（旧ターミナルサービス）を含むシナリオには適用されません。

プロファイルの数を簡素化して減らし、複数のOSで使用しようとすると、設定の競合のリスクが高まります。システムが同じでない場合、この問題はさらに複雑になります。たとえば、Microsoft Officeのアドインがすべてのデバイスに存在しない場合があります。幸いなことに、特定のデバイスに適用されないこのような設定は、多くの場合無視されます。無視されない場合にサポートの問題が発生します。アドインが存在しない場合、Microsoft Excelは起動に失敗します。

Profile Managementは、複数のバージョンまたはプラットフォーム間で設定をどのように有効にしますか?

Citrix®は、複数のベースプロファイル間で共通設定をローミングする機能を提供します。Citrixは、Microsoft Office、Internet Explorer、壁紙などの設定のローミングを可能にします。これらの種類のシナリオをサポートする能力は、アプリケーションがプラットフォーム間の設定のローミングをサポートする程度によって制限されます。次の質問のリンクは、Microsoftの立場とベストプラクティスをカバーしています。

Microsoftは、プラットフォームとバージョン間でローミングプロファイルをどのようにサポートしていますか?

関連情報については、「ローミングユーザープロファイルの展開」を参照してください。

Office 2007のツールバー設定については、「クイックアクセスツールバーのカスタマイズ」を参照してください。

標準のMicrosoft Windowsプロファイルソリューションが技術的、カスタム、またはビジネス要件を完全に満たさない場合、Profile Managementは実行可能なソリューションとなります。

x86プラットフォームとx64プラットフォーム間でプロファイルを共有することは可能ですか?

Windows x86 と x64 間で 1 つのプロファイルを共有することは、一般的に機能する可能性がありますが、いくつかの問題が発生する可能性があります。

いくつかの理由があります。たとえば、その理由の 1 つは、使用ごとのファイル関連付けが `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes` に保存されることです。非管理者が Firefox を既定のブラウザとして設定すると、32 ビットシステムに以下が保存されます。

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes\FirefoxHTML\shell\open\command` -\> "`C:\Program Files\Mozilla Firefox\firefox.exe`" -requestPending -osint -url "%1"

このパスを含むプロファイルが Windows x64 で使用される場合、OS は 64 ビット版の Firefox を探しますが、これは存在しません。代わりに、32 ビット版が `C:\Program Files (x86)\Mozilla Firefox` にインストールされている可能性があります。これにより、ブラウザが起動しなくなります。

逆もまた同様です。x64 プラットフォームで設定されたパスが x86 プラットフォームで使用される場合です。

複数のプラットフォームで 1 つのプロファイルがどのように動作するかをテストしたいです。どこから始めればよいですか?

複数のプラットフォームで 1 つのプロファイルを使用する実験を行うには、テストと検証が重要です。推奨されるアプローチは、プラットフォームごとに 1 つのプロファイルを持つことです。単一のプロファイルが複数のプラットフォームでどのように動作するかを調べたい場合は、以下の情報が役立つかもしれません。

次の質問に答えることで、何が問題を引き起こす可能性があるかを特定することから始めます。このトピックの残りの質問を、問題への対処と追跡のアイデアとして使用してください。

プラットフォーム間で機能する項目：

- マイドキュメントと「お気に入り」
- 構成情報（既定値を含む）をプロファイル内に完全に保存するアプリケーション

機能しない可能性がある項目：

- ハードコードされたデータ、パスデータなどを保存するアプリケーション
- x64 または x86 プラットフォームに固有の設定
- すべてのシステムに存在するわけではない Excel アドインなど、同一ではないアプリケーションのインストール。これらのインストールは、アプリケーションによって異なるあらゆる種類のエラー状態を引き起こす可能性があります。

ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができます?

はい。Profile Management は、ローカルデスクトップ、Citrix Virtual Apps、Citrix Virtual Desktops™、またはこれらの任意の組み合わせに基づいてプロファイルを適用できます。

適切な Profile Management 設定が有効になっている場合、Remote Desktop Services (旧 Terminal Services) プロファイルは、ユーザーがターミナルサーバーまたは Citrix Virtual Apps セッションを持っている場合にのみ使用されます。この設定は、ユーザーが Remote Desktop Services セッションを介してログオンするときに、既存のプロファイル (Citrix ユーザープロファイルを除く) をすべて上書きします。

Windows 7 では、GPO コンピューター設定を使用して、ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができます。繰り返しになりますが、これは GP に基づいているため、プロファイルの割り当ては GPO が適用される OU に依存します。

コンピューターに基づくプロファイルの割り当てが望ましいのはなぜですか?

個別のユーザーエクスペリエンスが必要な場合、ユーザーがログオンするコンピューターにプロファイルを割り当てることは有用です。たとえば、管理者は、Remote Desktop Services (旧 Terminal Server) セッションで使用されるプロファイルを、デスクトップで使用されるプロファイルとは別に保持することを決定する場合があります。

Profile Management は Windows ユーザープロファイルを Citrix ユーザープロファイルに移行しますか?

Profile Management を構成して、ユーザーがログオンするときに既存のローミングプロファイルとローカルプロファイルを自動的に移行できます。また、テンプレートプロファイルまたはデフォルトの Windows プロファイルを新しい Citrix ユーザープロファイルのベースとして使用することもできます。

Profile Management の移行の計画と設定については、「プロファイルの移行？新しいプロファイル？」を参照してください。ソフトウェアが Windows ユーザープロファイルを Citrix ユーザープロファイルに移行する方法の詳細については、「ログオン図」を参照してください。

どのプロファイルを Citrix ユーザープロファイルに移行できますか?

Profile Management は、Windows ローカルプロファイルと Windows ローミングプロファイルを移行できます。必須プロファイル (.man ファイル) は Profile Management によって無視されますが、Citrix ユーザープロファイルのテンプレートとして使用できます。Profile Management が正しく機能するように、すべてのユーザーへの必須プロファイルの割り当てを無効にしてください。

既存の Windows 必須プロファイルをテンプレートとして使用するには、「テンプレートまたは必須プロファイルを指定する」を参照してください。

テンプレートプロファイルを使用するにはどうすればよいですか?

Profile Management を使用すると、新しい Citrix ユーザープロファイルの作成のベースとして使用されるテンプレートプロファイルを指定できます。通常、初めてプロファイルを割り当てられたユーザーは、ログオンする Windows デバイスのデフォルトのユーザープロファイルを受け取ります。これは許容できるかもしれませんが、異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルにバリエーションがあると、ユーザー用に作成されるベースプロファイルに違いが生じることを意味します。したがって、テンプレートプロファイル機能をグローバルなデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

ユーザーがプロファイルデータに変更を加えるのを防ぎたい場合は、テンプレートプロファイルを Citrix 必須プロファイルとして識別することもできます。

詳細については、テンプレートまたは必須プロファイルを指定するを参照してください。

インストールとセットアップ

ユーザーストアを作成する

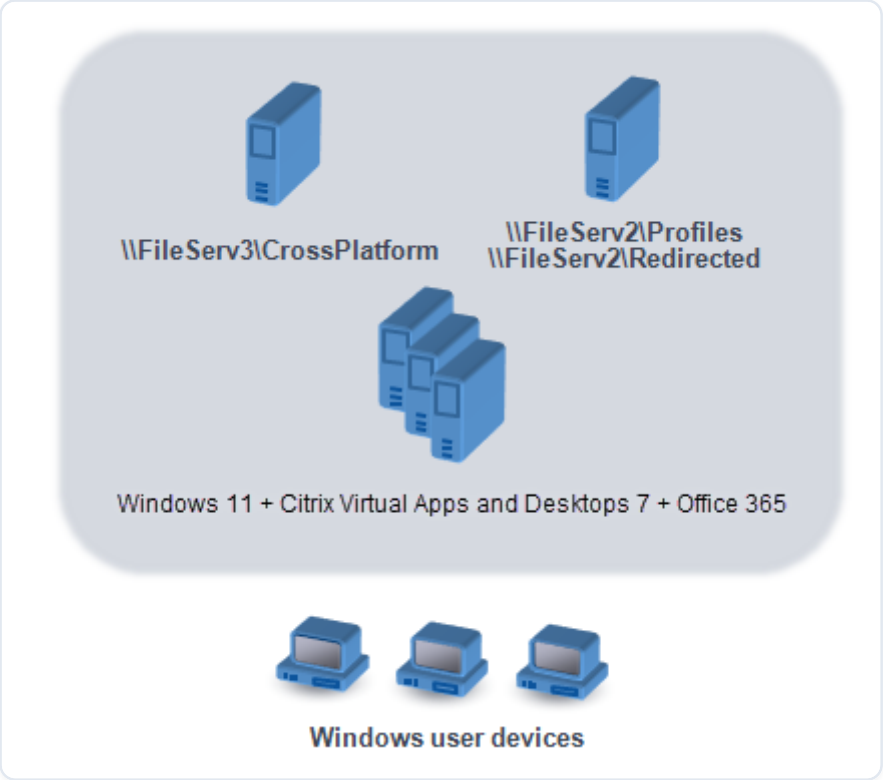
この記事では、組織に最適な方法でユーザーストアを作成するのに役立ちます。ここにある情報を確認するだけでなく、ユーザーストアへのパスを可能な限り効率的に構成するようにしてください。たとえば、変数を適切に使用してパスを構成します。この件に関するアドバイスと例については、「ユーザーストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザーストアは、Citrix®ユーザープロファイルを保存するための中央のネットワークロケーションです。

ユーザーストアには、任意のServer Message Block (SMB) またはCommon Internet File System (CIFS) ファイル共有を使用できます。ベストプラクティスは、以下を確実にすることです。

- 共有が、Citrixユーザープロファイルで使用されるアカウントからアクセス可能であること。
- 共有が、プロファイルデータを保存するのに十分な大きさであること。
- 共有が、ディスクまたはネットワーク障害の場合に堅牢であること。

この図は、リダイレクトされたフォルダーアイテムのストレージ、クロスプラットフォーム設定ストア（別のファイルサーバー上）、およびMicrosoft Officeを実行しているWindows 11仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™で公開）に関連するユーザーストアの例を示しています。仮想デスクトップにアクセスするユーザーデバイスも参照用に示されています。



安全なユーザーストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Webサイトの「ローミングユーザープロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザーストアへのアクセスを構成する際には、Citrixユーザープロファイルを変更または削除するために必要なAdministratorsグループを含めてください。

展開に複数のプラットフォームが含まれる場合は、「複数のプラットフォームの計画」でバージョン1およびバージョン2のプロファイルタイプに関する情報を確認してください。ユーザーストアの構造については、「Profile Managementのアーキテクチャ」を参照してください。

注： アプリケーションがユーザープロファイル内のファイルのアクセス制御リスト（ACL）を変更した場合、Profile Managementはそれらの変更をユーザーストアにレプリケートしません。この動作は、Windowsローミングプロファイルと一貫しています。

このビデオを見て詳細を確認する:

ローカルGPOでProfile Managementをテストする

Profile Managementを本番環境に展開する前に、Citrix®はテスト環境を使用することを推奨します。この設定は、提供されている.iniファイルを使用してローカルマシン上に作成できます。設定をドメインGPOに転送するための完全にサポートされたより簡単な方法は、デバイスへのADMファイルのローカルインストールと構成に基づいています。ログオンおよびログオフの動作をテ

ストし、満足のいく結果が得られるまでローカルGPOを調整します。デバイスが本番OUのメンバーである場合、この方法で安全にテストを実行できます。その理由は、OUおよびドメインポリシーが存在しないか、構成されていない場合にローカルポリシーが呼び出されるためです。ローカルポリシーを使用する場合は、他の場所（たとえば、ドメインやサイトなど）でProfile Management GPOが使用されていないことを確認してください。

さらに、管理者がProfile Management ADMファイルの構成のためにドメインGPOへのアクセスまたは制御を持たない場合、ローカルGPOを長期的なソリューションとして使用できます。ただし、この方法は環境に複雑さをもたらします。たとえば、Profile Management ADMファイルが各デバイスにインストールされ、構成されていることを確認する必要があります。また、ドメインユーザーが複数のデバイスにアクセスする際に設定を維持できない可能性があります。

重要: これらの理由から、CitrixはローカルGPOを長期的なエンタープライズソリューションとして使用することを推奨しません。

Windows 2008ドメインコントローラーでテストしている場合は、Windows Management Instrumentation (WMI) フィルターを使用して、構成を一時的にOU内の1台のマシンのみに制限することを検討してください。

ユーザーエクスペリエンスをテストする

プロファイルソリューションを実装する際の目標は、さまざまなデバイスからリソースにアクセスする際のエンドユーザーエクスペリエンスの違いを最小限に抑えることです。Profile Managementを導入する前は、ユーザーのレジストリとファイルの内容は、物理デバイス、プロファイル構成、およびオペレーティングシステムによって異なる場合があります。このため、ユーザーがローミングするコンピューター上のシステムインストール間の違いに対処するようにProfile Managementを構成する必要があります。

したがって、本番環境を模倣する方法でユーザーのリソースアクセスを確認する必要があります。これらのリソースには以下が含まれる場合があります。

- ローカルにインストールされたアプリケーションを持つクライアントデバイス
- ストリーミングまたはローカルにインストールされたアプリケーションを含むCitrix仮想デスクトップ
- Citrix Virtual Apps™サーバーで公開またはストリーミングされたCitrix仮想アプリ
- ターミナルサービスクライアント

オペレーティングシステムのバリエーションをテストする

ユーザーは異なるオペレーティングシステムからアプリケーションにアクセスする場合があります。それらの間のバリエーションは、単一のユーザープロファイル内で競合する設定を作成する可能性があります。バージョン1とバージョン2のプロファイルの違い、およびそれらが展開にどのように影響するかを理解する必要があります。これらのバリエーションは、あらゆるプロファイルソリューションの鍵となります。バージョン1とバージョン2のプロファイルの詳細は、プロファイルについてを参照してください。

アップグレードと移行

Profile Managementのアップグレード

この記事では、Active Directoryを使用してProfile Managementの展開をアップグレードする方法について説明します。

重要： このアップグレードプロセスでは、手順の順序に従うことが重要です。新しい.admまたは.admxファイルをグループポリシーに追加した後でのみ、すべてのコンピューターでソフトウェアをアップグレードしてください。事前にアップグレードすると、ログファイルが2つの場所に保存される可能性があります。1つは古いバージョンのログファイルを含み、もう1つは新しいバージョンのファイルを含みます。この考慮事項は、特にCitrix Virtual Desktops™の展開に影響します。

また、アップグレードはスケジュールされたメンテナンス期間中に行うことも重要です。または、Active Directoryのレプリケーションによって変更が展開全体に伝播される時間帯にアップグレードしてください。通常、アップグレードには最大24時間かかることがあります。

アップグレードプロセスには以下が含まれます。

1. グループポリシーオブジェクト（GPO）を作成し、新しい.admまたは.admxファイルを新しいGPOに追加する

   \- または -

   この記事の後半で説明するように、既存の.admまたは.admxファイルをアップグレードする.
2. この記事の後半で説明するように、すべてのコンピューターで.msiファイルをアップグレードする.
3. GPOを適用する.

既存の.admファイルをアップグレードするには

以前のバージョンのProfile Management .admファイルがグループポリシーに存在する場合、以下の手順を使用してアップグレードできます。アップグレード時に、以前のバージョンのすべてのポリシー設定が保持されます。

1. ドメインコントローラーで、次のいずれかを実行します。

- 既存の.admファイルをインポートします。このファイルは、ダウンロードパッケージのGPO_Templatesフォルダーにあります。
- ダウンロードパッケージのGPO_Templatesフォルダーから.admxファイルを`C:\Windows\PolicyDefinitions`フォルダーにコピーし、.admlファイルを`C:\Windows\PolicyDefinitions\<localized`フォルダーにコピーします\>。たとえば、英語のオペレーティングシステムでは、\<localized folder\>はen-USです。

2. Profile Management を構成するために使用するコンピューターで、グループポリシーオブジェクトエディターを開きます。
3. グループポリシーオブジェクトエディターで、**管理用テンプレート**を右クリックし、**テンプレートの追加と削除**を選択します。
4. 既存のバージョンの Profile Management .adm ファイル（例: ctxprofile5.4.1）を選択し、**削除**をクリックしてから**閉じる**をクリックします。管理用テンプレート\Citrix フォルダーが削除されます。
5. **管理用テンプレート**を右クリックし、もう一度**テンプレートの追加と削除**を選択します。
6. **追加**をクリックし、新しいバージョンの .adm または .admx ファイル（例: ctxprofile5.5.0）の場所に移動して選択し、**閉じる**をクリックします。新しいファイルがインポートされますが、以前の設定は保持されます。

.msi ファイルをアップグレードするには

すべてのユーザーデバイスに同じバージョンの Profile Management をインストールし、その同じバージョンの .adm または .admx ファイルをすべてのドメインコントローラーの各グループポリシーオブジェクトに追加することをお勧めします。これにより、異なるユーザープロファイルストア構造（異なるバージョンからのもの）が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぐことができます。

新しい設定を有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンの Profile Management にアップグレードすることをお勧めします。使用しているバージョンで設定が新しいかどうかを確認するには、「Profile Management ポリシー」を参照してください。

1. アップグレードするコンピューターからすべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. 各コンピューターで .msi ファイルを実行して、既存のバージョンに新しいバージョンの Profile Management をインストールします。詳しくは、「インストールとセットアップ」を参照してください。

.ini ファイルをアップグレードするには

以前のバージョンの Profile Management で .ini ファイルを編集し、新しいバージョンにアップグレードする場合、ソフトウェアはファイルが編集されたことを検出し、デフォルトでは上書きしません。既存の .ini ファイル設定を保持し、新しいバージョンの新しい設定を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- 新しいバージョンの .ini ファイルから新しい設定を、既存の編集済み .ini ファイルに手動で追加します。
- 既存の編集済みバージョンの .ini ファイルのコピーを保存します。アップグレード中にファイルを強制的に上書きするには、コマンドラインオプション OVERWRITEINIFILES=yes を使用します。保存した設定をアップグレードされた .ini ファイルに追加します。例:

  ```
  msiexec /i <path to the MSI file\> /quiet [INSTALLDIR=<installation directory>] [OVERWRITEINIFILES=yes] [INSTALLPOLICYINIFILES=no]
  ```

注

HDX™ を介して Profile Management ポリシーを構成するには、次の手順を実行する必要があります。

- Delivery Controller をアップグレードします。これは、HDX が XenApp および XenDesktop レイアウト `image-full\x64\Citrix Desktop Delivery Controller` にある UserProfileManager_PowerShellSnapIn.msi ファイルから Profile Management ポリシー設定を読み取るためです。
- Profile Management の最新バージョンを入手するために、VDA をアップグレードします。

その他のリソース

- Profile Management ポリシー
- インストールとセットアップ

構成

管理

重要: 以下のポリシーは通常、構成を必要としません。Citrix®の担当者から指示がない限り、デフォルト設定のままにしてください。

ポリシー: ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数

このポリシーを有効にする必要はほとんどありません。

ログオフ中にロックされたファイルがある場合、Profile Management Service は指定された回数だけファイルへのアクセスを試行し、ユーザー ストアにコピーし直します。しかし通常、サービスはコピー操作を成功させるためにファイルを読み取るだけで（書き込みはせず）、ロックされたファイルが存在する場合、サービスはローカル プロファイルを削除せず、代わりに「古い」状態のままにします（適切なポリシーが有効になっている限り）。

このポリシーを有効にしないことをお勧めします。

プロファイルの競合を解決する

既存の展開にProfile Managementを追加すると、ローカルWindowsユーザープロファイルとCitrix®ユーザープロファイル（ユーザー ストア内）の間で競合が発生する可能性があります。このシナリオでは、ローカルWindowsプロファイルのデータがどのように管理されるかを決定する必要があります。

1. Profile Managementで、フォルダーを開きます。
2. **ローカルプロファイルの競合処理**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。

    - **ローカルプロファイルを使用**。Profile ManagementはローカルWindowsユーザープロファイルを処理しますが、それを一切変更しません。
    - **ローカルプロファイルを削除**。Profile ManagementはローカルWindowsユーザープロファイルを削除し、その後、ユーザー ストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

- **ローカルプロファイルの名前を変更**。Profile ManagementはローカルWindowsユーザープロファイルの名前を変更し（バックアップ目的で）、その後、ユーザー ストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

ここでローカルプロファイルの競合処理が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

テンプレートまたは強制プロファイルを指定する

デフォルトでは、新しいCitrix®ユーザープロファイルは、ユーザーが最初にログオンしたコンピューターのデフォルトユーザープロファイルから作成されます。Profile Managementは、プロファイル作成時に、代わりに一元的に保存されたテンプレートを使用できます。テンプレートは、任意のネットワークファイル共有に存在する標準の移動プロファイル、ローカルプロファイル、または強制プロファイルにすることができます。

異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルにばらつきがあると、ユーザー用に作成されるベースプロファイルに違いが生じます。テンプレートプロファイルの選択は、グローバルデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

前提条件：

- テンプレートプロファイルにユーザー固有のデータが含まれていないことを確認します。
- ユーザーがテンプレートプロファイルへの読み取りアクセス権を持っていることを確認します。
- 強制プロファイルをテンプレートプロファイルに変換するには、ファイルNTUSER.MANの名前をNTUSER.DATに変更します。
- テンプレートプロファイルのNTUSER.DATからSACLを削除します。

既存のMicrosoftプロファイルをカスタマイズしてテンプレートプロファイルを作成する方法については、`<https://support.microsoft.com/kb/959753>`および`<https://support.microsoft.com/kb/973289>`を参照してください。

1. Profile Managementで、フォルダーを開きます。
2. ポリシーをダブルクリックします。

3. を選択します。
4. に、テンプレートまたは強制プロファイルとして使用するプロファイルの場所を入力します。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーへの完全なパスです。

   重要：パスがNTUSER.DATのみで構成されている場合、パスにファイル名を含めないでください。たとえば、ファイル `\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat` の場合、場所を `\\myservername\myprofiles\template` として設定します。

   絶対パスを使用します。絶対パスは、UNCパスまたはローカルマシン上のパスのいずれかです。後者は、たとえば、Citrix Provisioning™ Servicesイメージ上にテンプレートプロファイルを永続的に指定するために使用できます。相対パスはサポートされていません。

   このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または `%USERNAME%` および `%USERDOMAIN%` 変数の展開をサポートしていません。
5. 必要に応じて、既存のWindowsユーザープロファイルを上書きするチェックボックスを選択します。ユーザーにCitrixユーザープロファイルがないが、ローカルまたは移動Windowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。無効になっていない場合、このファイルはユーザーストアに移行されます。**テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする** または **テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする** チェックボックスを有効にすることで、設定を変更できます。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別します。Windows強制プロファイルと同様に、Citrix強制プロファイルには変更を保存できません。

ここで **テンプレートプロファイル** が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートまたは強制プロファイルは使用されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおり、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

移行ポリシーの選択

Profile Management が有効になった後、ユーザーが初めてログオンしたとき、そのユーザーのCitrix®ユーザープロファイルは存在しません。しかし、ログオン時に既存のWindowsユーザープロファイルを「オンザフライ」で移行できます。既存のプロファイル（ローミング、ローカル、またはその両方）のどれをコピーして、以降のすべての処理で使用するかを決定します。

移行戦略の計画の詳細については、プロファイルを移行しますか？新しいプロファイルですか？を参照してください。さらに、システム要件 で既存のプロファイルを移行するためのシステム要件を確認してください。

1. Profile Management で、プロファイル処理フォルダーを開きます。
2. 既存のプロファイルの移行ポリシーをダブルクリックします。
3. 有効を選択します。
4. ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。
    - ローカル。ローカルプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローカルとローミング。ローカルプロファイルとローミングプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します（以前はターミナルサービスプロファイルとして知られていたリモートデスクトップサービスプロファイルを含む）。
    - ローミング。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。

もし 既存のプロファイルの移行がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルが移行されます。この設定が無効になっている場合、プロファイルは移行されません。この設定が無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、Profile Management を使用しないセットアップの場合と同様に、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

プロファイル管理を有効にする

デフォルトでは、展開を容易にするため、プロファイル管理はログオンまたはログオフを処理しません。プロファイル管理は、他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix®ユーザープロファイルが環境でどのように機能するかをテストした後でのみ有効にしてください。

グループポリシーを使用してプロファイル管理を有効にするには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > プロファイル管理**で、**プロファイル管理を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。

3. **有効**を選択します。

UPMPolicyDefaults_all.iniファイルを使用してプロファイル管理を有効にすることもできます。これを行うには、次の手順に従います。

1. プロファイル管理がインストールされているマシンで、`C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager\UPMPolicyDefaults_all.ini`に移動します。
2. メモ帳を使用してUPMPolicyDefaults_all.iniを開きます。
3. 構成を編集して、特定の要件を反映させます。

この設定がグループポリシーで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、プロファイル管理はWindowsユーザープロファイルを一切処理しません。

次の方法でプロファイル管理を有効にすることもできます。

- Citrix Studio。Citrix Studioを使用してプロファイル管理を有効にする手順については、Knowledge Centerの記事CTX222893を参照してください。
- Workspace Environment Management (WEM)。WEMを使用してプロファイル管理を有効にする手順については、Knowledge Centerの記事CTX229258を参照してください。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

このビデオで詳細を学ぶ**:**



構成の優先順位

プロファイル管理は、グループポリシーと.iniファイルを使用して構成できます。構成設定は次のように適用されます。

1. グループポリシーで定義された設定が優先されます。ポリシー設定が**未構成**に設定されている場合にのみ、.iniファイルが照会されます。

   注： 組織単位内のサイトおよびドメインにグループポリシーオブジェクトを選択的に適用する場合、さらに優先順位が適用されます。「グループポリシー：フィルタリングとアクセス許可」を参照してください。ドメインおよびOUグループポリシーは、ローカルポリシーよりも優先されます。

2. 設定がポリシーによって定義されていない場合、プロファイル管理は.iniファイルから設定を読み取ろうとします。
3. 設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、デフォルト設定が使用されます。

XenDesktop 7の展開では、Citrix Virtual Desktopsポリシーによって導入される追加の優先順位に注意してください。詳細については、Citrix Virtual Desktopsドキュメントのトピック「ユーザープロファイル」を参照してください。

グループポリシーと.iniファイルで同じ設定を異なる方法で構成したい場合があります。たとえば、グループポリシー設定でデフォルトのログ記録を有効にし、トラブルシューティングに使用するコンピューターで.iniファイルを使用して詳細なログ記録を有効にする場合などです。

Profile Management .ini ファイルについて

デフォルト構成

Profile Management には、.ini ファイルに保存されているデフォルト構成が付属しています。このファイルは、Profile Management Service が認識できるようにインストールフォルダーに配置する必要があります。デフォルト構成は、ほとんどの環境に適しています。すべてのグループのすべてのユーザーのプロファイルを処理します。

Windows XP または Windows Server 2003 で Profile Management の英語以外の展開を使用している場合は、UPMPolicyDefaults_all.ini を使用して、適切な言語バージョンの .ini ファイルを作成する必要があります。このファイルのコピーを言語に合わせて名前変更し（たとえば、スペイン語の場合は UPMPolicyDefaults_all_es.ini）、フォルダー名をローカライズします。次のファイル名を使用します。

- フランス語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_fr.ini
- ドイツ語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_de.ini
- スペイン語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_es.ini
- 日本語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_ja.ini
- 簡体字中国語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_zh-CN.ini

.ini ファイルの変更

.ini ファイルにエントリを追加する場合は、変数と値が正しい形式であることを確認してください。

フラグ（オン/オフインジケーター）は、次の形式である必要があります。

```
<variable>=<value>
```

値が 1 の場合、設定が有効になり、その他の値または値がない場合は無効になります。たとえば、次のエントリは `ServiceActive` 設定を有効にします。

```
ServiceActive=1
```

次のいずれかのエントリは、設定を無効にします。

```
ServiceActive=ON

ServiceActive=OFF

ServiceActive=TRUE

ServiceActive=FALSE

ServiceActive=
```

リストエントリは、次の形式である必要があります。

```
<value>=
```

次のエントリは、Microsoft Office ファイルを同期するように指定します。

```
[SyncFileList]

AppData\Local\Microsoft\Office\*.OfficeUI
```

グループポリシー設定の変更は、ターゲットコンピューターで手動または自動のポリシー更新が行われたときに有効になります。.ini ファイルへの変更は、**gpupdate /force** コマンドを発行したときに有効になります。この方法は推奨されています。または、ターゲットコンピューターで Profile Management Serviceを再起動したときに変更が有効になります。

項目を含める/除外する

この記事では、Profile Management がユーザープロファイルから項目を含めたり除外したりするために使用するプロセスについて説明します。ユーザーのログオンおよびログオフエクスペリエンスを向上させるために、デフォルトの包含リストまたは除外リストを変更することを決定した場合、このプロセスを理解していることを確認してください。この変更が必要かどうかを判断するには、「どのアプリケーションですか？」を参照してください。

たとえば、Microsoft Word は高度にカスタマイズ可能で頻繁に使用されるアプリケーションであり、どのようにアクセスされてもローミングユーザーに同じエクスペリエンスを提供する必要があるため、含めることができます。逆に、一部のグループではあまり使用されないエンタープライズアプリケーションは、ログオンおよびログオフのたびにプロファイルデータをダウンロードする必要がないため、除外することができます。

デフォルトでは、ローカルプロファイル内のすべてのファイルとフォルダーはユーザー ストアと同期されます。同期したくないファイルやフォルダーは、除外リストに追加することで指定できます。フォルダーを除外した場合でも、同期したいサブフォルダーを包含リストに追加することで指定できます。

含めることができる項目と除外できる項目は次のとおりです。

- プロファイル内に含まれるファイルとフォルダー。
- 個人設定を保存するHKCUハイブのレジストリエントリ。HKLMハイブのエントリは、デフォルトでは処理されず、そのように構成することもできません。

項目を含める/除外する前に

ユーザープロファイルの内容を調整する前に、組み込みのWindowsパフォーマンス監視（Perfmon）カウンターのセットを使用することを検討してください。これらは、プロファイルの動作に関する洞察を提供します。利用可能なカウンターには、プロファイルサイズとローカルコンピューターでCitrix®ユーザープロファイルを作成するのにかかる時間の測定値が含まれます。

プロファイルをローカル（Profile Managementを実行するコンピューター上）にキャッシュするかどうかを決定する必要がある場合があります。この決定に影響する要因には、展開内のCitrix製品、ローカルコンピューター上の利用可能なスペース、および展開内のユーザー数があります。

ファイルとフォルダー

含まれるフォルダー名と除外されるフォルダー名はすべて言語固有です。ただし、ユーザー ストア内のフォルダー名は、オペレーティングシステムの言語に依存しない形式です。

オペレーティングシステムによってローカルとして扱われるディスク上のファイルまたはフォルダーを同期できます。ネットワークマップされたドライブ上のファイルまたはフォルダーは同期できません。

レジストリ

既存のユーザーの場合、HKCUハイブ全体がユーザー ストアにコピーされます。新規ユーザーの場合、Microsoftのローカル、ローミング、デフォルト、またはテンプレートプロファイルのハイブがコピーされます。ユーザー ストアに変更が加えられると、包含が追加され、除外がハイブから削除されます。

テンプレートプロファイルに不要なキーが含まれている場合は、SepagoのProfile Nurseなどのツールを使用して、それらをユーザー ストアから削除します。

除外について

除外はログオン時ではなくログオフ時に処理されます。これらはユーザー ストアからデータを削除するのではなく、新しいデータが書き込まれるのを防ぎます。

デフォルトの除外を除いて、通常、Profile Managementを初めて展開するときに項目を除外する必要はありません。その後、アプリケーションのパフォーマンスを追跡し、ユーザーからフィードバックを収集するにつれて、複数のアプリケーションの設定が競合する場合や、不要な設定を収集した結果、ユーザーのNTUSER.DATファイルが大きくなった場合に、項目を除外する必要があるかもしれません。

リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。

重要: Citrixでは、`AppData\LocalLow`フォルダーを同期から除外することを推奨しています。デフォルトの構成では、除外リストにすでに`AppData\LocalLow`が含まれています。さらに、`AppData\Local`フォルダーから一部のコンテンツを除外することも選択できます。`AppData\LocalLow`または`AppData\Local`を除外しない場合、大量のデータがネットワーク経由で転送され、ユーザーはログオン遅延を経験する可能性があります。これらのフォルダーは、標準のWindowsローミングプロファイルでは同期されません。

含めるルールと除外するルール

Profile Managementがファイル、フォルダー、およびレジストリキーを含めたり除外したりする際に、以下のルールが使用されます。

1. すべての項目はデフォルトで含まれます

2. 同じパスが含める項目と除外する項目の両方として構成されている場合、含める項目が優先されます
3. 同じフォルダー内では、含める項目が除外する項目よりも優先されます
4. フォルダー階層の上位にある除外する項目よりも、含める項目が優先されます
5. フォルダー階層の上位にある含める項目よりも、除外する項目が優先されます

これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。この出発点から、最上位の例外を除外として構成し、次に最上位の例外に対するより深い例外を含める項目として構成するといったことができます。

デフォルトの包含と除外

このトピックでは、Profile Management が処理に含める、または処理から除外するデフォルトの項目について説明します。展開内のアプリケーションによっては、追加の (デフォルト以外の) 項目が必要になる場合があります。含める、または除外する追加の項目を決定するには、「どのアプリケーションですか？」を参照してください。

重要: .iniファイルではなくグループポリシーを使用する場合 (または、.iniファイルでのテストが成功した後でグループポリシー展開を展開する場合)、インストールされている.iniファイルとは異なり、.admまたは.admxファイルではデフォルトで項目が含められたり除外されたりすることはありません。デフォルトの項目は手動でファイルに追加する必要があります。これらの項目は、このトピックの表に示されています。次の点に注意してください。

- .iniファイルと.admまたは.admxファイルの設定名をマッピングし、Profile Management変数 (例: \!ctx_internetcache\!) がどのように展開されるかを理解するには、Profile Managementポリシーを使用します。
- .iniファイルから包含と除外を貼り付ける際は、各項目から末尾の = (等号) を削除してください。
- 包含と除外に先頭のバックスラッシュを追加しないでください。

レジストリ包含リスト

デフォルト値
空

レジストリ除外リスト

デフォルト値
`Software\Microsoft\AppV\Client\Integration=`
`Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing=`
`Software\Microsoft\Speech_OneCore=`

注: Microsoft App-V を使用している場合、この除外は正しくなく、異なる除外が必要です。詳細については、 Profile Management と App-V を参照してください。

フォルダー包含リスト

デフォルト値
空

プロファイル内のすべてのフォルダーは、デフォルトで含まれます。

フォルダー除外リスト

この表のフォルダーは、同期から除外されます。

デフォルト値
!ctx_internetcache!=
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cache=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cached Theme Images=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIcons=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIconsOld=`
`\\!ctx_localappdata!\GroupPolicy=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\AppV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Messenger=`

デフォルト値
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Office\15.0\Lync\Tracing=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\OneNote=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Terminal Server Client=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\UEV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live Contacts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Application Shortcuts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Burn=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\CD Burning=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Notifications=`
`\\!ctx_localappdata!\Packages=`
`\\!ctx_localappdata!\Sun=`
`\\!ctx_localappdata!\Windows Live=`
`\\!ctx_localsettings!\Temp=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Microsoft\AppV\Client\Catalog=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\cache=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\log=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\tmp=`
$Recycle.Bin=
`AppData\LocalLow=`

デフォルト値
トレース=

ファイルインクルージョンリスト

デフォルト値
<空>

プロファイル内のすべてのファイルは、デフォルトで含まれます。

ファイル除外リスト

デフォルト値
<空>

プロファイル内のファイルは、デフォルトでは除外されません。

項目を含める/除外する

前提条件として、含める項目と除外する項目の動作を理解していることを確認してください。詳細については、「項目を含める/除外する」を参照してください。デフォルトで含まれる項目と除外される項目については、「デフォルトの包含と除外」を参照してください。

項目を含めたり除外したりする際に、複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。

項目を除外するには

1. **Profile Management** \> **Registry**で、**Exclusion list**ポリシーをクリックします。
2. **Enabled**を選択します。
3. **Show**をクリックし、ログオフ時にProfile Managementで同期させたくない`HKCU`ハイブ内のレジストリキーを追加します。例: `Software\Policies`。
4. **Profile Management** \> **File system**で、**Exclusion list - directories**ポリシーをダブルクリックします。
5. **Enabled**を選択します。
6. **Show**をクリックし、Profile Managementで同期させたくないフォルダーを追加します。

   次の点に注意してください。

- ユーザープロファイル（%USERPROFILE%）に対する相対パスを使用してフォルダーを指定し、パスの先頭のバックスラッシュは省略します。
- プロファイルの場所を特定するには変数`%USERPROFILE%`を使用しますが、このポリシーに変数を直接入力しないでください。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

  例:

  - `Desktop`. `Desktop`フォルダーを同期しません。
  - `MyApp\tmp`. `%USERPROFILE%\MyApp\tmp`フォルダーを同期しません。

7. **Profile Management** \> **ファイルシステム**で、**除外リスト - ファイル**ポリシーをダブルクリックします。
8. **有効**を選択します。
9. **表示**をクリックし、Profile Managementで同期したくないファイルを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) を基準としたパスでファイル名を指定します。このポリシーに変数 (%USERPROFILE%) を入力しないでください。
   - ファイル名でのワイルドカードはサポートされており、再帰的に適用されます。Profile Management 7.15以降では、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限できます。
   - Profile Management 2112以降では、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例：

     - `Desktop\Desktop.ini`. `Desktop`フォルダー内の`Desktop.ini`を無視します。
     - `AppData*.tmp`. `AppData`フォルダーとそのサブフォルダー内の`.tmp`拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
     - `AppData*.tmp|`. `AppData`フォルダー内のみの`.tmp`拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
     - `Downloads*\a.txt`. `Downloads`フォルダーの直下のサブフォルダー内の`a.txt`を無視します。

除外リストが無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

「**除外リスト - ディレクトリ**」が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

「**除外リスト - ファイル**」が無効になっている場合、ファイルは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

アイテムを含めるには

> **ヒント:**
>
> 特定のトップレベルフォルダーを含めることができます。共同作業環境では、この手順により、重要なフォルダーを他の管理者に通知できるという利点があります。

1. **Profile Management** \> **Registry** の下で、**Inclusion list** ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効** を選択します。
3. **表示** をクリックし、ログオフ時にProfile Managementで処理するプロファイル関連のレジストリキーを`HKEY\_CURRENT\_USER`ハイブに追加します。例：`Software\Adobe`。
4. **Profile Management** \> **File system** \> **Synchronization** の下で、**Directories to synchronize** ポリシーをダブルクリックします。
5. **有効** を選択します。
6. **表示** をクリックし、除外されたフォルダー内にあるがProfile Managementで同期したいフォルダーを追加します。例：`Desktop\exclude\include`は、フォルダー`Desktop\exclude`が同期されない場合でも、`include`サブフォルダーが同期されるようにします。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスを使用してフォルダーを指定します。

- Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

7. **プロファイル管理** \> **ファイルシステム** \> **同期** で、「**同期するファイル**」ポリシーをダブルクリックします。
8. 「**有効**」を選択します。
9. 「**表示**」をクリックし、除外されたフォルダー内にあるが、Profile Managementで同期したいファイルを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスでファイルを指定します。
   - ファイル名でのワイルドカードはサポートされており、再帰的に適用されます。ただし、ワイルドカードをネストすることはできません。Profile Management 7.15以降では、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーには適用されないようにすることができます。
   - Profile Management 2112以降では、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例：

     - `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`。デフォルト構成で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
     - `AppData\Local\MyApp*.cfg`。`AppData\Local\MyApp`フォルダーとそのサブフォルダー内の`.cfg`拡張子を持つすべてのファイルを指定します。
     - `Downloads*\a.txt`。`Downloads`フォルダーの直下のサブフォルダー内の`a.txt`を指定します。
   - Profile Managementは、インストールされているシステムとユーザーストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。このリストにファイルを追加して、ユーザープロファイルにファイルを含める必要はありません。

ここで「**包含リスト**」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、HKEY_CURRENT_USERハイブ全体が処理されます。

ここで「**同期するディレクトリ**」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されて

いないフォルダーのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

ここで「**同期するファイル**」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおり、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ワイルドカードの使用

ファイルやフォルダーを参照するポリシーでは、疑問符 (`?`) やアスタリスク (`*`) などのDOS形式のワイルドカード文字を使用できます。例としては、ファイルの包含リストと除外リスト、フォルダーの包含リストと除外リストがあります。疑問符 (`?`) は1文字に一致します。アスタリスク (`*`) は0文字以上の文字に一致します。

Profile Management 7.15以降では、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限できます。

次の点に注意してください。

- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に機能しますが、フォルダー名内のワイルドカードは機能しません。ワイルドカードを使用する際は、有効なパスを指定してください。
- ワイルドカードをサポートするポリシーは、環境変数やActive Directory属性の使用など、他の種類の変数をサポートしません。レジストリエントリを参照するポリシーではワイルドカードを使用できません。

例

ワイルドカード `<path name>\h*.txt` は house.txt、h.txt、house.txt.txt に一致しますが、ah.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c.txt` は abc.txt に一致しますが、ac.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c*d.txt` は abcd.txt および abccd.txt に一致しますが、acd.txt には一致しません。

プロファイルルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `*.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内の拡張子 .txt を持つすべてのファイルを指定します。
- `*h.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `h*.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `a?c.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `*.txt|` は、ルートフォルダー内にある拡張子 .txt のファイルのみを指定します。

プロファイル以外のルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `AppData*.txt` は、AppDataフォルダーとそのサブフォルダー内にある、このワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `AppData*h.txt` は、AppDataフォルダーとそのサブフォルダー内にある、このワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

ログオン除外チェックを有効にする

「**ログオン除外チェックを有効にする**」機能は、ユーザーがログオンしたときに、ユーザー ストア内のプロファイルに除外されたファイルとフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が何を行うかを制御します。デフォルトでは、この機能は無効になっています。

この機能を使用するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **［コンピューターの構成］>［ポリシー］>［管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル)］>［Citrix Components］>［Profile Management］>［ファイルシステム］** の順に移動し、**［ログオン除外チェック］** ポリシーをダブルクリックします。
3. **［有効］** を選択します。
4. ドロップダウンメニューからオプションを選択します。デフォルトでは、**［除外されたファイルまたはフォルダーを削除する］** が選択されています。
5. **［OK］** をクリックします。

この機能には、次の3つのオプションがあります。

- **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを削除します。

- **除外されたファイルまたはフォルダーを無視する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを無視します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアからローカルプロファイルに除外されたファイルとフォルダーを同期します。

> **警告：**
>
> **［除外されたファイルまたはフォルダーを削除する］** を選択すると、Profile Management はユーザー ストアから除外されたファイルとフォルダーを完全に削除します。除外されたファイルとフォルダーを再度含めても、ログオン時にキャッシュされたローカルプロファイルから削除されます。

> 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。ログオフして再度ログオンします。`gpupdate /force` コマンドの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

グループポリシーオブジェクトで**ログオン除外チェックを有効にする**設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がどこにも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

.iniファイルを使用してログオン除外チェックを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Profile Management .iniファイルを開きます。.iniファイルの詳細は、「Profile Management .iniファイルについて」を参照してください。
2. セクションにEnableLogonExclusionCheck項目を追加します。
3. EnableLogonExclusionCheck項目の値を次のように設定します。
    - ユーザーストアから除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーを無視するには、値を1に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=1。
    - ユーザーストアから除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーを削除するには、値を2に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=2。
    - チェックを無効にするには、値を0に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=0。
4. Profile Management .iniファイルを保存して閉じます。
5. `gpupdate /force`コマンドを実行して、変更を有効にします。

処理するグループのプロファイルを定義する

プロファイルが処理されるユーザーと処理されないプロファイルを定義できます。コンピューターのローカルグループとドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）の両方を使用できます。ドメイングループは`<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>`の形式で指定します。ローカルグループは「GROUP NAME」の形式で指定します。

注： コンピューターのローカルグループは、新しく作成されたローカルグループである必要があり、メンバーはドメインユーザーである必要があります。

1. プロファイル管理で、**処理済みグループ**ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. **表示**をクリックします。
4. プロファイル管理で処理するプロファイルを持つユーザーを含むグループを追加します。複数のエントリを区切るには、Enterキーを使用します。

   ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、除外グループポリシーを使用して除外しない限り、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。
5. プロファイル管理で、除外グループポリシーをダブルクリックします。
6. 「**Enabled**」を選択します。
7. **表示**をクリックします。
8. プロファイル管理で処理しないユーザーを含むグループを追加します。複数のエントリを区切るには、Enterキーを使用します。

   ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。
9. ローカル管理者のプロファイルを管理するには、プロファイル管理で、**ローカル管理者のログオンを処理する**ポリシーをダブルクリックし、**有効**をクリックします。

   重要： デフォルトでは、プロファイル管理は使用中のオペレーティングシステムを認識し、サーバーオペレーティングシステムではなく、デスクトップオペレーティングシステム上のローカル管理者のアカウントを処理します。その理由は、ユーザーは通常デスクトップでのみローカル管理者グループのメンバーであり、サーバー環境での処理からローカル管理者を除外することはトラブルシューティングに役立つためです。したがって、デフォルトの動作を変更したい場合にのみ、このポリシーを有効にしてください。

除外グループポリシーは、**ローカル管理者のログオンを処理する**ポリシーよりも優先されます。アカウントが両方のポリシーに表示される場合、プロファイル管理はそれを処理しません。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、ローカル管理者のプロファイルは処理されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザー ストアへのパスを指定する

ユーザー ストアへのパスを指定する前に、 Profile Management architectureを参照し、展開に関連する場合は、次の影響を理解してください。

- 多言語プロファイルの保存
- 含める項目と除外する項目の組み合わせ

1. Profile Managementで、「Path to user store」ポリシーをダブルクリックします。
2. 「Enabled」を選択し、ユーザー設定（レジストリの変更と同期ファイル）が保存されるディレクトリ（ユーザー ストア）へのパスを入力します。

パスは次のいずれかです。

- **相対パス**。このパスはホームディレクトリに対する相対パスである必要があります。ホームディレクトリは通常、Active Directory (AD) のユーザーの #homeDirectory# 属性として構成されます。
- **UNCパス**。このパスは通常、サーバー共有またはDFS名前空間を指定します。
- **無効または未構成**。この場合、`\#homeDirectory#\Windows` の値が想定されます。

この設定には、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: %ProfVer%）。システム環境変数は通常、追加の設定が必要です。詳しくは、(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/plan/administer.html) を参照してください。
- ハッシュで囲まれたADユーザーオブジェクトの属性（例: #sAMAccountName#）。
- Profile Management変数。詳しくは、(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/policies/settings.html)を参照してください。

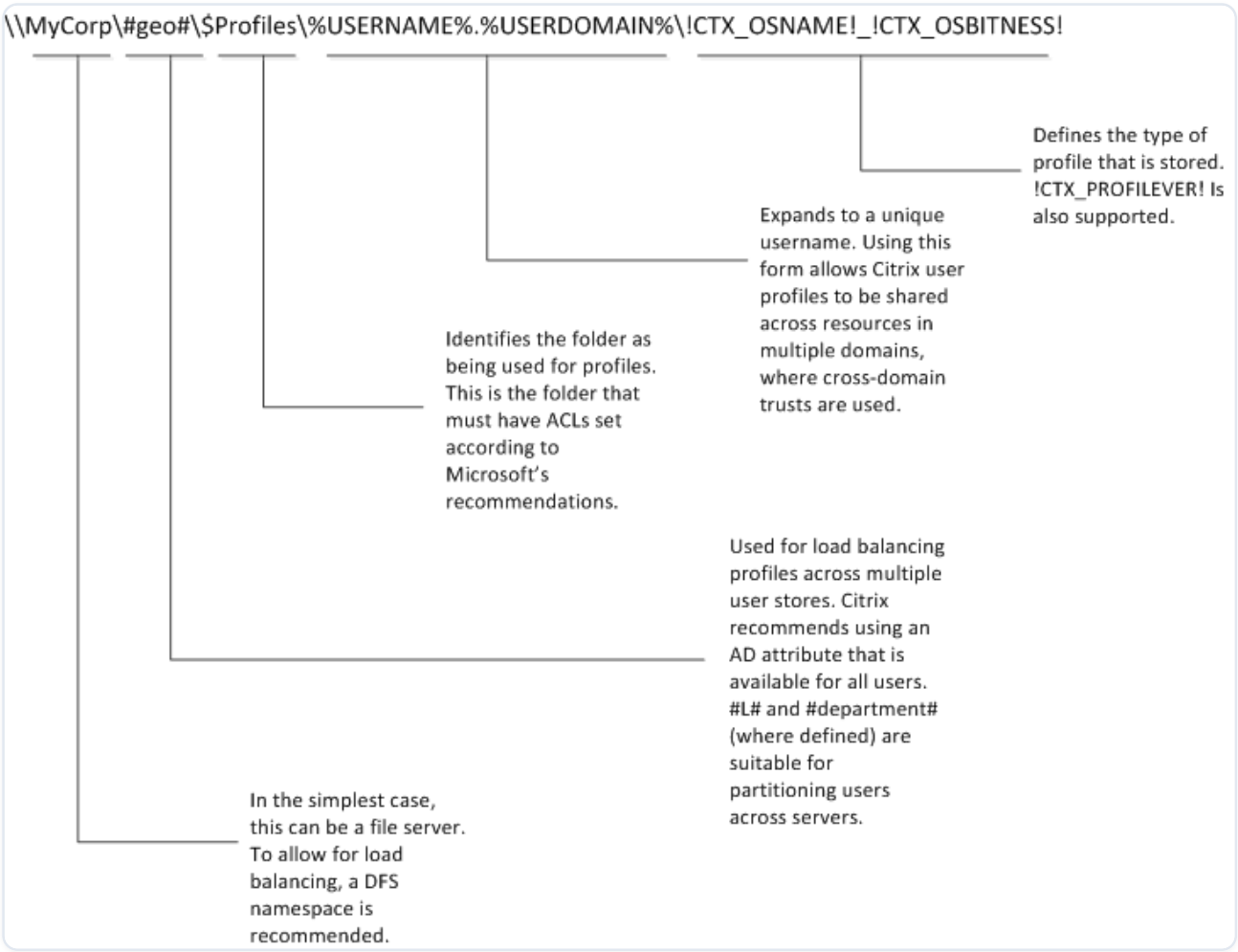
`%username%`と`%userdomain%`を除き、ユーザー環境変数は使用できません。場所やユーザーなどの組織変数を定義するために、カスタムAD属性を作成することもできます。属性は大文字と小文字を区別します。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#`は、ユーザー設定をUNCパス`\\server\share\JohnSmith`に保存します（現在のユーザーの#sAMAccountName#がJohnSmithに解決される場合）。
- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`は`\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64`に展開される場合があります。

重要: どの属性または変数を使用する場合でも、この設定がNTUSER.DATを含むフォルダーの1つ上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが`\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile`に含まれている場合、ユーザー ストアへのパスを`\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64`に設定します（`\UPM_Profile`サブフォルダーではありません）。

この図は、AD属性、環境変数、およびプロファイル管理変数を組み込んだ、ユーザー ストアへの一般的なパスのコンポーネントを示しています。



ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- プロファイル管理による高可用性とディザスターリカバリー

ユーザーストアへのパスが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。ここで、または.iniファイルでこの設定が構成されていない場合、ホームドライブのWindowsディレクトリが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

ユーザー ストアのレプリケート

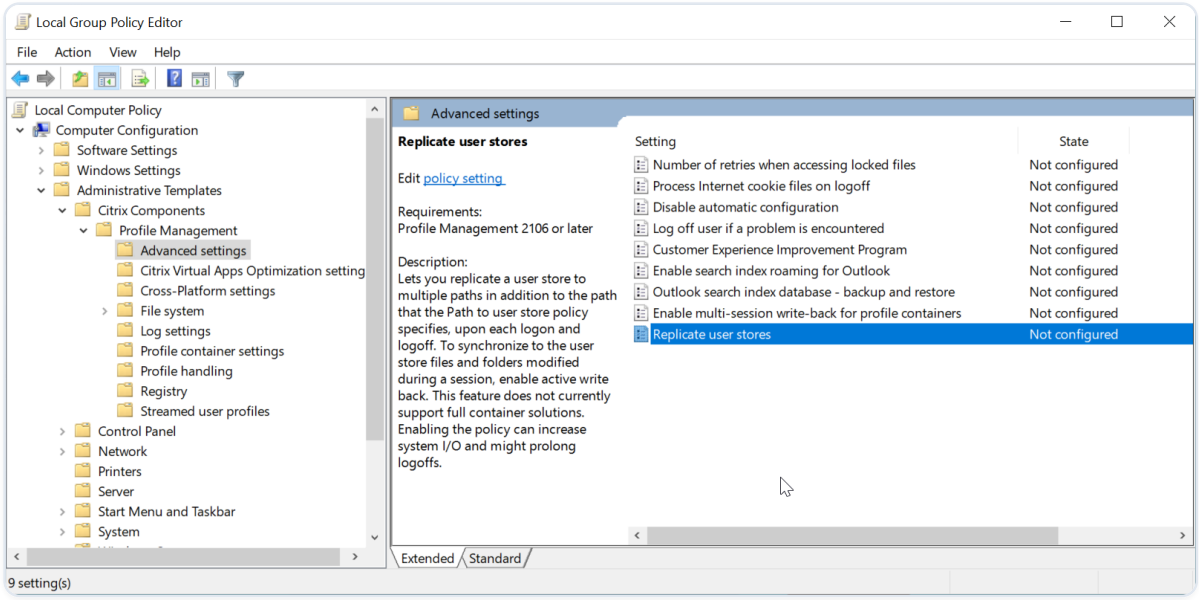
各ログオンおよびログオフ時に、**ユーザー ストアへのパス**ポリシーで指定されたパスに加えて、ユーザー ストアを複数のパスにレプリケートできます。この機能は、**ユーザー ストアのレプリケート**ポリシーを通じて実装されます。セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。この機能は現在、完全なコンテナソリューションをサポートしていません。このポリシーを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフに時間がかかる場合があります。

ポリシーは、Microsoft Active Directory グループポリシー管理、Citrix Studio、および Workspace Environment Management™ (WEM) を介して構成できます。

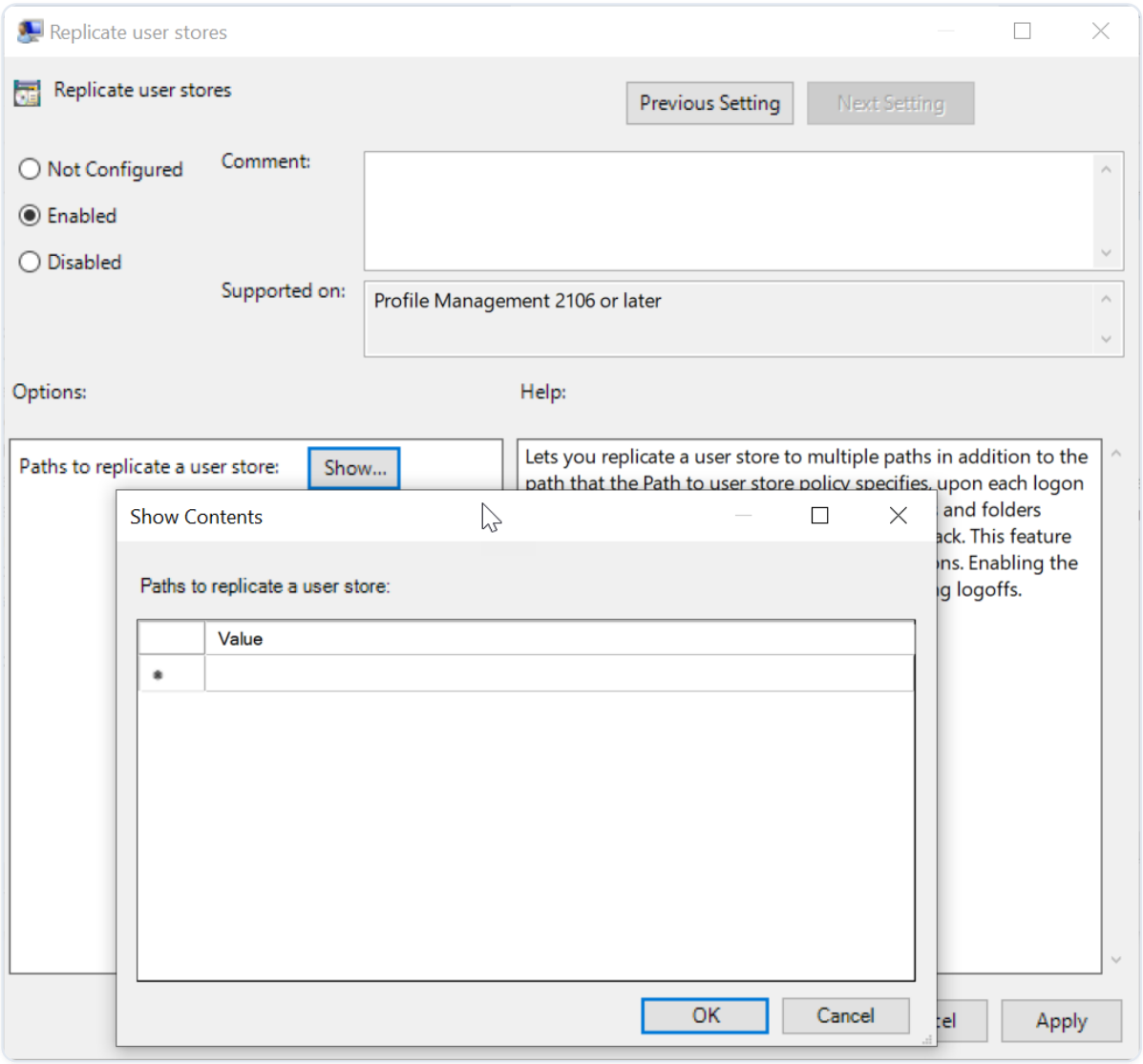
- Microsoft Active Directory グループポリシー管理を通じて**ユーザー ストアのレプリケート**ポリシーを構成するには、次の手順を実行します。

  a. グループポリシー管理エディターを開きます。

  b. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**で、**ユーザー ストアのレプリケート**ポリシーをダブルクリックします。



  c. ポリシーを**有効**に設定し、レプリケートされたユーザー ストアへのパスを設定して、**OK** をクリックします。



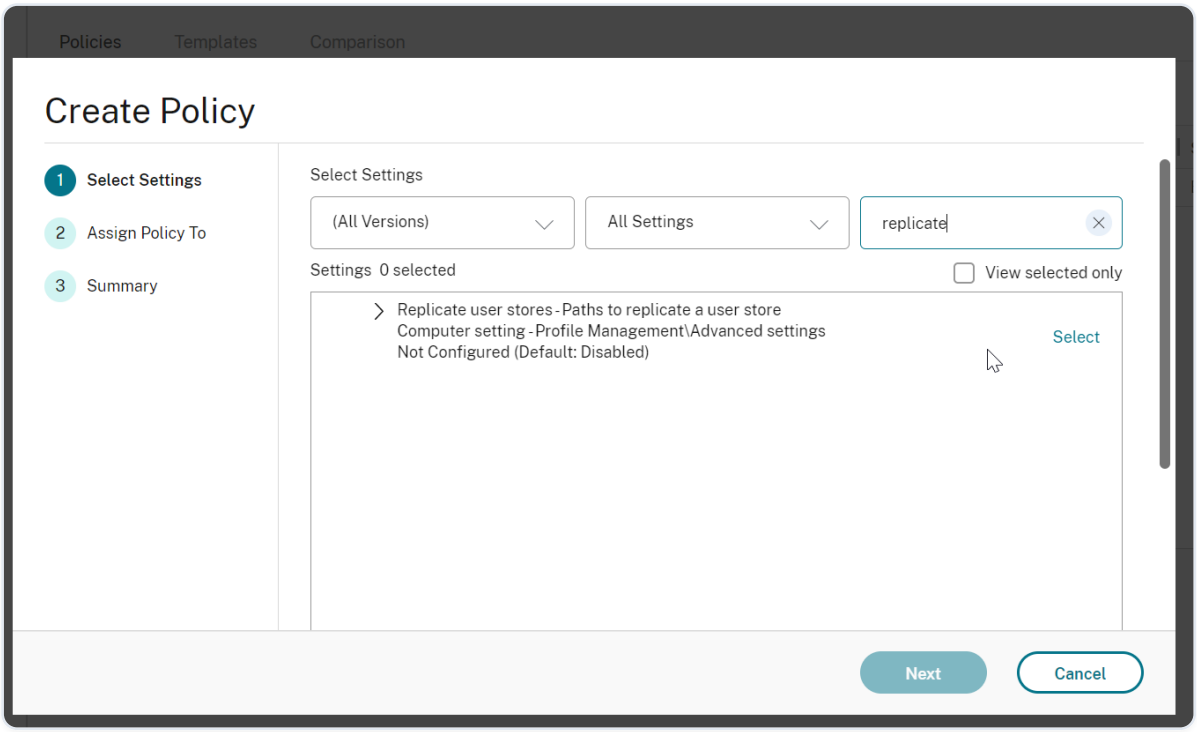
レプリケートされたユーザー ストアへのパスは、**ユーザー ストアへのパス**ポリシーで指定されたパスとともに、リモートユーザープロファイルストレージの完全なリストを形成します。

d. 変更を有効にするには、Profile Management がインストールされているマシンで、コマンドプロンプトから **gpupdate /force** コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。

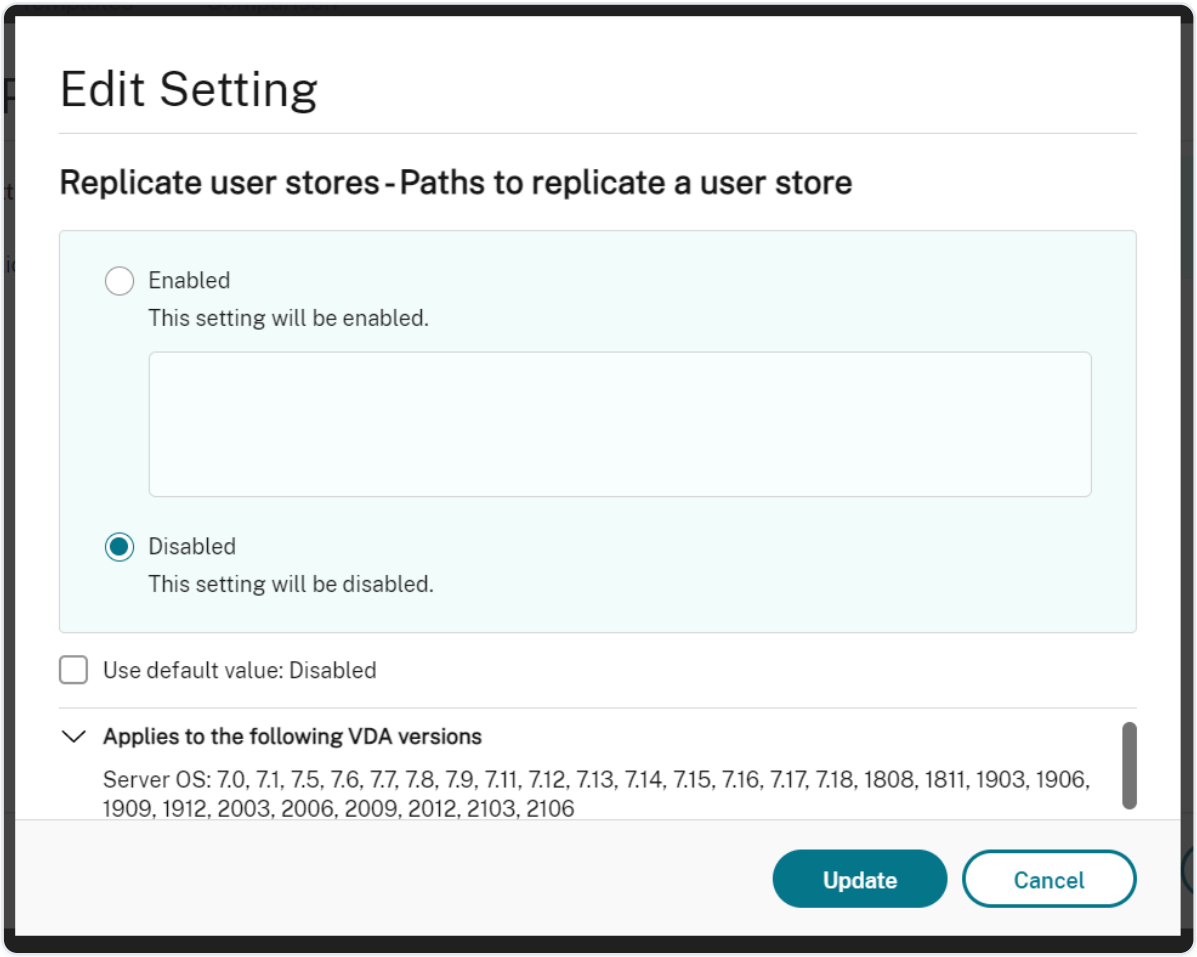
- Citrix Studio で**ユーザー ストアのレプリケート**ポリシーを構成するには、次の手順を実行します。

a. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー**をクリックします。

b. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「ユーザー ストアのレプリケート」と入力します。



c. 「**選択**」をクリックして、「**ユーザー ストアのレプリケート**」ポリシーを開きます。



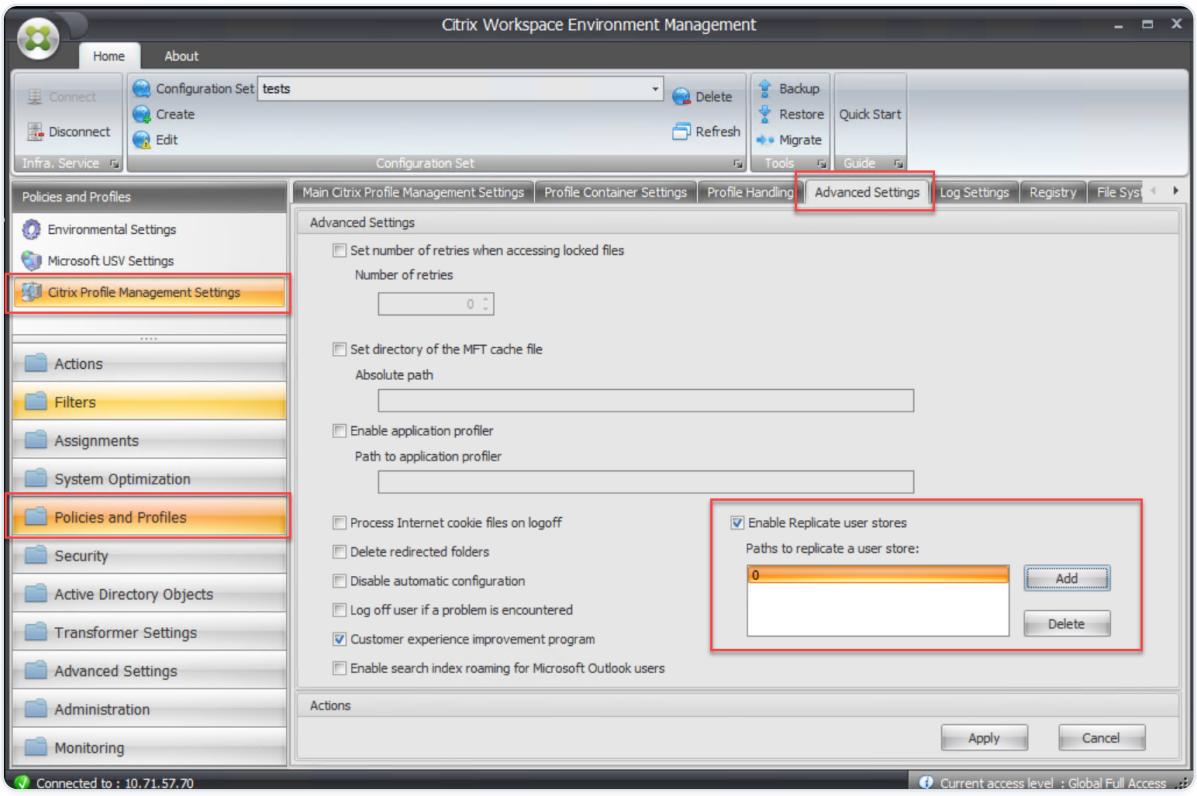
d. 「**有効**」を選択し、レプリケートされたユーザー ストアへのパスを入力して、「**OK**」をクリックします。

> 「注：」：

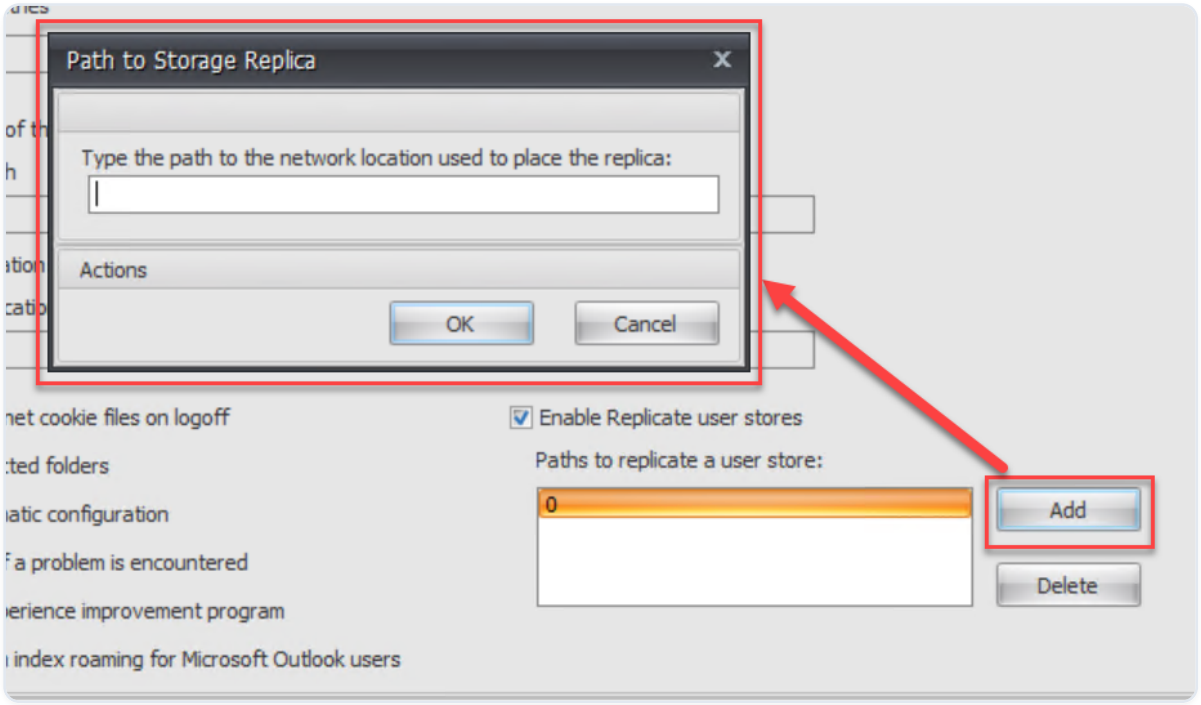
> **Enter**キーを押して、複数のエントリを区切ります。

- WEMで「**ユーザー ストアのレプリケート**」ポリシーを構成するには、次の手順を実行します。

  a. 管理コンソールで、**ポリシーとプロファイル > Citrix Profile Management設定 > 詳細設定**に移動します。



  b. 「**詳細設定**」タブで、「**ユーザー ストアのレプリケートを有効にする**」チェックボックスをオンまたはオフにし、レプリケートされたユーザー ストアへのパスを設定します。



ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

既定では、Citrix Profile Management は、ユーザー ストアにアクセスするために現在のユーザーを偽装します。そのため、現在のユーザーがユーザー ストアに直接アクセスする権限を持っている必要があります。Profile Management がユーザー ストアにアクセスする際に現在のユーザーを偽装しないようにする場合は、この機能を有効にしてください。現在のユーザーがアクセスする権限を持たないストレージ リポジトリ (Azure Files など) にユーザー ストアを配置できます。

ローカル グループ ポリシー エディターの ポリシー(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/the-enable-credential-based-access-to-user-stores-policy-in-local-group-policy-editor.png)

Profile Management がユーザー ストアにアクセスできるようにするには、プロファイル ストレージ サーバーの資格情報を Workspace Environment Management™ (WEM) または Windows 資格情報マネージャーに保存します。Profile Management が実行される各マシンで同じ資格情報を構成する必要をなくすために、Workspace Environment Management を使用することをお勧めします。Windows 資格情報マネージャーを使用する場合は、ローカル システム アカウントを使用して資格情報を安全に保存します。

> **注:**
>
> NTFS アクセス許可が保持されるようにするには、プロファイル全体をプロファイル コンテナーに配置する必要があります。

- WEM にプロファイル ストレージ サーバーの資格情報を保存するには、次の手順を実行します。

  a. 管理コンソールで、 **> >** に移動します。

  b. タブで、 チェック ボックスをオンにします。

     WEM で チェック ボックスを選択する(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/selecting-the-enable-credential-based-access-to-user-store-check-box-in-wem.png)

  c. をクリックします。 ダイアログ ボックスが表示されます。

     WEM の ダイアログ ボックス(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/the-new-credential-dialog-box-in-wem.png)

  d. プロファイル ストレージ サーバーの FQDN または IP アドレスと資格情報を入力します。

  e. をクリックして設定を保存します。

- Windows 資格情報マネージャーにプロファイル ストレージ サーバーの資格情報を保存するには、Profile Management が実行される各マシンで次の手順を実行します。

  a. SysinternalsWebサイトからPsExecをダウンロードし、ファイルを`C:\PSTools`に解凍します。

  b. 「**スタート**」メニューからコマンドプロンプトを見つけます。「**コマンドプロンプト**」オプションを右クリックし、「**管理者として実行**」を選択します。コマンドシェルが起動します。

     コマンドプロンプトを管理者として実行します(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/run-command-prompt-as-an-administrator.png)

  c. `C:\PSTools\PsExec -s -i cmd`コマンドを実行します。別のコマンドシェルが起動します。

     C:\PSTools\PsExec -s -i cmd コマンドを実行した後の新しいコマンドシェル(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/new-command-shell.png)

  d. 新しいコマンドシェルで、`rundll32.exe keymgr.dll, KRShowKeyMgr`コマンドを実行します。**保存されているユーザー名とパスワード**ダイアログボックスが表示されます。

     rundll32.exe keymgr.dll, KRShowKeyMgr コマンドを実行します(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/running-a-command.png)

  e. **保存されているユーザー名とパスワード**ダイアログボックスで、**追加**をクリックします。

保存されているユーザー名とパスワードダイアログボックス(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/the-stored-user-names-and-passwords-dialog-box.png)

f. プロファイルストレージサーバーのFQDNまたはIPアドレスとその資格情報を入力します。デフォルトの資格情報タイプを使用します。**OK**をクリックします。

プロファイルストレージサーバーのFQDNまたはIPアドレスを入力します(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/type-fqda-or-ip-address-of-your-profile-storage-server.png)

ユーザー ストアの移行

Profile Management は、データを失うことなくユーザー ストアを移行するソリューションを提供します。この機能は、ユーザー ストアをよりスケーラブルなファイル サーバーに移行したい場合に役立ちます。

ユーザー ストアを移行するには、 ポリシーを ポリシーと組み合わせて使用します。 ポリシーを使用すると、ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が以前に保存されていたフォルダーへのパス（以前使用していたユーザー ストアのパス）を指定できます。

パスは、絶対 UNC パスまたはホーム ディレクトリに対する相対パスにすることができます。どちらの場合も、次の種類の変数を使用できます。

- システム環境変数（パーセント記号で囲む）
- Active Directory ユーザー オブジェクトの属性（ハッシュ記号で囲む）

例:

- フォルダー `Windows\%ProfileVer%` は、ユーザー設定をユーザー ストアの `Windows\W2K3` というサブフォルダーに保存します（%ProfileVer% が W2K3 に解決されるシステム環境変数である場合）。
- `\\server\share#SAMAccountName#` は、ユーザー設定を UNC パス `\\server\share\<JohnSmith>` に保存します（`#SAMAccountName#` が現在のユーザーに対して JohnSmith に解決される場合）。

パスでは、`%username%` と `%userdomain%` を除くユーザー環境変数を使用できません。

この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの対応する設定が使用されます。

この設定がここで、または .ini ファイルで構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

ポリシー設定の変更が有効になると、以前のユーザー ストアに保存されていたユーザー設定は、ポリシーで指定された現在のユーザー ストアに移行されます。

グループ ポリシーでユーザー ストアの移行を構成するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management** の下にある **ユーザー ストアの移行** ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効** を選択します。
4. **オプション** ペインで、以前使用したユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK** をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

Citrix Studio で Profile Management ポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー** をクリックします。
2. **ポリシーの作成** ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「ユーザー ストアの移行」と入力します。
3. **選択** をクリックして、**ユーザー ストアの移行** ポリシーを開きます。
4. **有効** を選択し、以前使用したユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK** をクリックします。

証明書を保存する

セッション中に証明書ストアにインポートされた個人証明書を保存するには、次の手順に従います。デフォルトでは、証明書は自動的に同期されます。

1. 設定 **同期するディレクトリ** にパス `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` を追加します。オペレーティングシステムの言語によって、この場所のアプリケーションデータフォルダーが決まります。多言語システムを構成するためにポリシーが使用されている場合は、各言語の場所をリストに追加します。

例

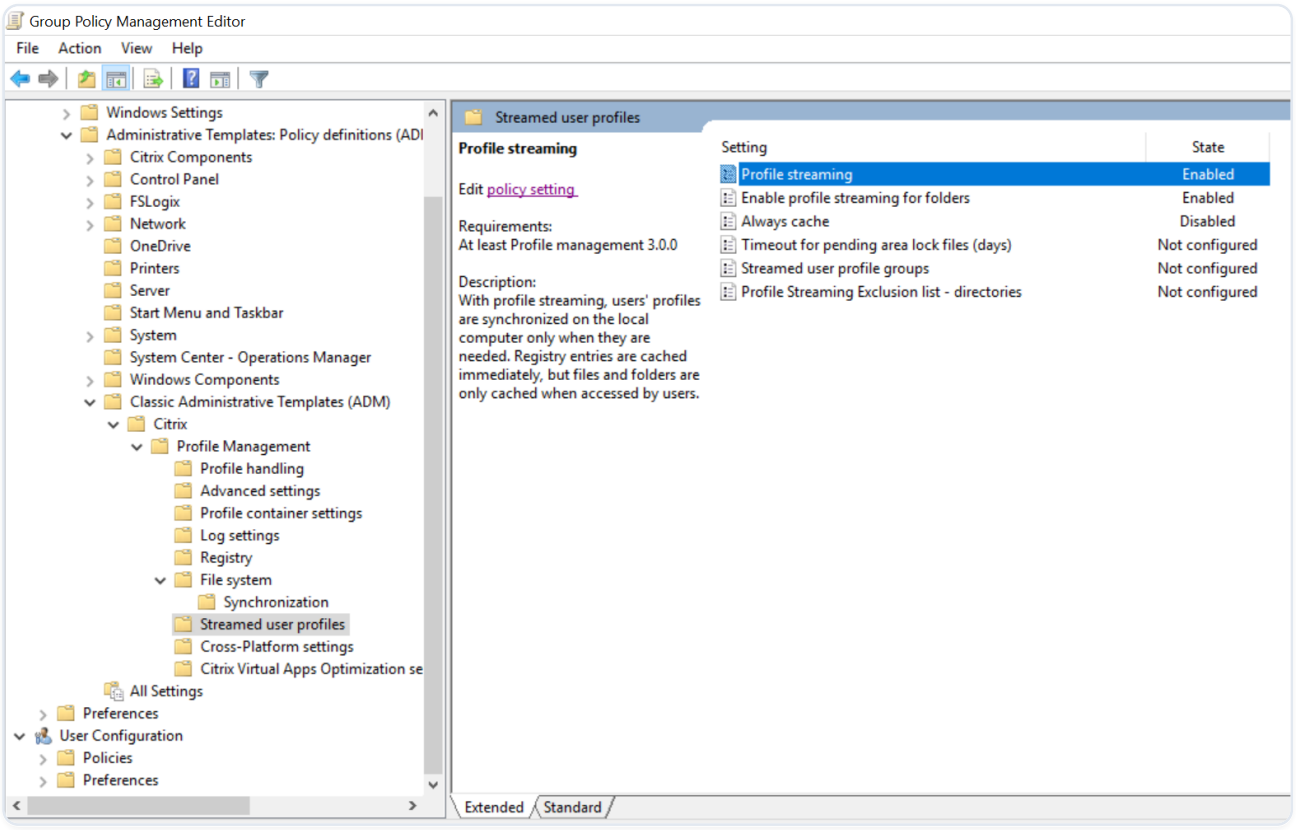
英語システムでは、パスは `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` です。ドイツ語システムでは、`Anwendungsdaten\Microsoft\SystemCertificates\My` です。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザープロファイルのストリーミング

Citrix® ストリーム配信ユーザープロファイル機能を使用すると、プロファイルに含まれるファイルは、ユーザーがログオン後にアクセスしたときにのみ、ユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされます。レジストリエントリと保留領域内のファイルは例外です。これらはすぐにフェッチされます。保留領域の詳細については、「保留領域」を Profile Management architectureで参照してください。

アクセスされていないフォルダーをフェッチする必要をなくすには、**Enable profile streaming for folders**ポリシーと**Profile streaming**ポリシーの両方を**Enabled**に設定します。



ストリーミングは不要であり、Citrix Virtual DesktopsのPersonal vDisk機能はサポートしていません。

1. Profile Managementで、**Streamed user profiles**をダブルクリックします。

2. **Profile streaming**をダブルクリックします。
3. **Enabled**を選択し、**OK**をクリックします。
4. オプションで、ユーザーのストリーミングエクスペリエンスを向上させるには、**Always cache**をダブルクリックし、**Enabled**を選択して、次のいずれかを実行します。
    - ストリーム配信されるファイルまたはフォルダーのサイズに下限を設けてネットワーク帯域幅を節約するには、MB単位で制限を設定します。制限を超えるファイルおよびフォルダーは、ログオン後できるだけ早くフェッチされます。
    - プロファイル全体をキャッシュする機能を有効にするには、制限をゼロに設定します。ログオン後、これによりユーザーストア内のすべてのファイルがバックグラウンドシステムタスクとしてフェッチされ、ユーザーへのフィードバックはありません。 大容量ファイルが存在する場合、**Always cache**ポリシーはログオン時間を短縮することでパフォーマンスを向上させることができます。
5. **OK**をクリックします。
6. オプションで、**Timeout for pending area lock files**をダブルクリックし、**Enabled**を選択して、サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままの場合に、保留領域からユーザーストアにファイルが書き戻されるようにファイルを解放するタイムアウト期間（日数）を入力します。この設定を使用して、保留領域の肥大化を防ぎ、ユーザーストアに常に最新のファイルが含まれるようにします。
7. **OK**をクリックします。
8. オプションで、OU内のユーザープロファイルの一部のみをストリーム配信したい場合は、**Streamed user profile groups**をダブルクリックし、**Enabled**を選択して、グループのリストを入力します。複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。その他のすべてのグループのユーザーのプロファイルはストリーム配信されません。
9. **OK**をクリックします。

GPOまたは.iniファイルで**Profile streaming**が構成されていない場合、**Profile streaming**は無効になります。

GPOで**Always cache**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、無効になります。

GPOで**保留中のエリアロックファイルのタイムアウト**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がGPOまたは.iniファイルで構成されていない場合、デフォルト値の1日が使用されます。

ストリーム配信されるユーザープロファイルグループが無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。この設定がGPOで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がGPOまたは.iniファイルで構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にするがGPOまたは.iniファイルで構成されていない場合、フォルダーのプロファイルストリーミングは無効になります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

プロファイルストリーミング除外を有効にするには

プロファイルストリーミング除外が有効になっている場合、Profile Managementは除外リスト内のフォルダーをストリーム配信せず、ユーザーがログオンすると、すべてのフォルダーとファイルがユーザーストアからローカルコンピューターに即座にフェッチされます。

プロファイルストリーミング除外を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Profile Managementで、**ストリーム配信されるユーザープロファイル**をダブルクリックします。
2. **プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. **表示**をクリックします。
5. Profile Managementでストリーム配信したくないフォルダーを追加します。フォルダー名は、絶対パスまたはユーザープロファイルに対する相対パス (`%USERPROFILE%`) として指定できます。その変数を使用してプロファイルの場所を特定しますが、このポリシーに変数自体を入力しないでください。パスの先頭のバックスラッシュは省略してください。

例:

- デスクトップ。デスクトップフォルダーはユーザープロファイルでは処理されません。
- `MyApp\tmp`。`%USERPROFILE%\MyApp\tmp`フォルダーは処理されません。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの次のフォルダーはデフォルトで除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`

- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

ここで、または.iniファイルでこの設定が構成されていない場合、すべてのフォルダーがストリーム配信されます。

変更を有効にするには、`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳細については、`<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb490983.aspx>`を参照してください。

注:

- このポリシーは、プロファイルストリーミングが有効になっている場合にのみ適用されます。
- このポリシーは、ワイルドカード `*` および `?` をサポートしていません。
- 複数のエントリを区切るには、Enterキーを使用します。
- プロファイルストリーミング除外リストを手動で編集する場合は、ログオンがハングアップするのを避けるために、前述のデフォルトで除外されているフォルダーを追加する必要があります。

フォルダーリダイレクトを構成する

フォルダーリダイレクトはMicrosoft Windowsの機能であり、Profile Managementと組み合わせて使用できます。

> **重要:**

> フォルダーリダイレクトは、Microsoft Active Directory (AD) GPOまたはCitrix®ポリシーのいずれか1つの方法のみを使用して構成してください。複数の方法を使用してフォルダーリダイレクトを構成すると、予期しない結果が生じる可能性があります。

> フォルダーリダイレクトを構成するには、次の手順を実行します。

1. 該当するユーザーを、Profile Managementが管理するOUに移動します。
2. GPOを作成し、編集用に開きます。
3. 「**ユーザーの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > フォルダーリダイレクト**」の順に移動し、リダイレクトするフォルダーを選択します。

4. `<folder name>`フォルダーのリダイレクトポリシーを有効にし、リダイレクトパスを入力します。リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。パスにユーザー名やフォルダー名を追加しないでください。たとえば、**デスクトップ**フォルダーへのパスを`\\server\share\`に設定した場合、ユーザー環境のフォルダーは`\\server\share\<user name>\Desktop`としてリダイレクトされます。
5. 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

次のフォルダーをリダイレクトできます。

- AppData (ローミング)
- デスクトップ
- スタートメニュー
- ドキュメント
- ピクチャ
- 音楽
- ビデオ
- お気に入り
- 連絡先
- ダウンロード
- リンク
- 検索
- 保存されたゲーム

フォルダーのリダイレクト時には、次の点に注意してください。

- 「**ドキュメント**」フォルダー。ユーザーのホームディレクトリにリダイレクトできます。
- 「**音楽**」、「**ピクチャ**」、「**ビデオ**」フォルダー。これらは、「**ドキュメント**」フォルダーを基準としたフォルダーにリダイレクトできます。

フォルダーリダイレクトが機能することを確認する方法

フォルダーリダイレクトが機能することを確認するには、次の手順を実行します。

1. セッションで、リダイレクトしたフォルダーに移動し、フォルダーを右クリックして、**プロパティ**を選択します。

2. プロパティウィンドウで、「**ショートカット**」タブに移動し、「**ターゲット**」フィールドを確認します。フィールドにリダイレクトされたパスが表示されている場合、フォルダーリダイレクトは機能しています。そうでない場合、フォルダーリダイレクトは機能していません。

フォルダーリダイレクトログ

> **注:**
>
> プロファイル管理は、フォルダーリダイレクトが失敗した場合にのみ、Windowsイベントログに情報を書き込みます。

> プロファイル管理はWindowsイベントログに情報を書き込みます。Windowsイベントビューアーの「**アプリケーション**」ペインでイベントを表示できます。この情報は、フォルダーリダイレクト機能の使用時に発生する問題のトラブルシューティングに役立ちます。

トランザクションフォルダーの管理

トランザクションフォルダーとは、相互に依存するファイル（あるファイルが他のファイルを参照する）を含むフォルダーを指します。**ミラーするフォルダー**ポリシーは、プロファイルの同期中にトランザクションフォルダーの整合性を確保します。このポリシーにより、Profile Managementはユーザーストアとローカルユーザープロファイルの間でトランザクションフォルダー全体をミラーリングします。

フォルダーミラーリングの高速化ポリシーは、Profile Management 2106以降で利用可能です。

フォルダーミラーリングの仕組み

通常、Profile Managementがユーザーストアとローカルプロファイルの間でユーザープロファイルを同期する場合、タイムスタンプを比較して更新されたファイルのみを同期します。しかし、トランザクションフォルダーでは、その中のファイルは関連付けられており、整合性の問題を避けるためにProfile Managementはフォルダー全体を同期する必要があります。トランザクションフォルダーの例としては、トランザクションログファイルとそれに対応するデータベースファイルを含むフォルダーがあります。異なるセッションからのトランザクションログファイルとデータベースファイルを混在させると、トランザクションの整合性の問題を引き起こす可能性があります。

トランザクションフォルダーを正しく同期するために、Profile Managementは**ミラーするフォルダー**ポリシーを提供します。トランザクションフォルダーを宛先に同期する際、Profile Managementは以下の手順を使用してフォルダーを宛先にミラーリングします。

1. フォルダー内のすべてのコンテンツを、タイムスタンプを無視して宛先にコピーします。
2. 宛先にある追加のコンテンツをすべて削除します。

> **注意:**

> トランザクションフォルダーをミラーリングするということは、「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。複数のセッションで変更されたファイルは、最新の更新によって上書きされ、プロファイルの変更が失われる可能性があります。

ミラーするフォルダーを指定する

ミラーするフォルダーポリシーを有効にし、ミラーするフォルダーを指定します。

Google Chromeを例にとってみましょう。`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default`内のブックマーク関連ファイルとサブフォルダーは相互に依存しており、プロファイル同期中に全体として処理される必要があります。この目的を達成するには、このフォルダーを**ミラーするフォルダー**ポリシーに追加する必要があります。

ミラーするフォルダーからファイルやサブフォルダーを除外することもできます。前の例では、`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default`フォルダーにはブックマークとは無関係のファイルやサブフォルダーも含まれています。それらを除外するには、**除外リスト – ディレクトリ**および**除外リスト – ファイル**ポリシーを使用できます。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 「**Profile Management \> File system \> Synchronization**」に移動し、「**Folders to mirror**」ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. 「**List of folders to mirror**」フィールドに、ユーザー ストアへの相対パスの形式でミラーリングするフォルダーのリストを入力します。フォルダーを区切るには`Enter`と入力します。

> 「**注：**」:

> このポリシーは再帰的に機能します。サブフォルダーをリストに追加しないでください。

> たとえば、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`を追加した場合、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies\Low`は追加しないでください。

4. 「**OK**」をクリックします。
5. ミラーリングされたフォルダー内の一部のファイルとサブフォルダーをミラーリングプロセスから除外するには、次の手順に従います。
   a. 「**Profile Management \> File system**」に移動し、「**Exclusion list – directories**」ポリシーまたは「**Exclusion list – files**」ポリシーをダブルクリックします。
   b. 除外するファイルとサブフォルダーを指定します。

構成の優先順位：

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

フォルダーミラーリングの高速化

Profile Management 2106以降、**Accelerate folder mirroring**ポリシーを有効にすることで、フォルダーミラーリングを高速化できます。

このポリシーを有効にすると、Profile Management はミラーリングされたフォルダーを VHDX ベースの仮想ディスクに保存します。Profile Management は、ログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチします。これにより、ユーザー ストアとローカル プロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなります。

このポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**で、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **OK**をクリックします。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する

この記事は、Profile Management 3.1以降に適用されます。

Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する際は、トランザクションの整合性を確保しつつ、プロファイルの肥大化を抑える必要があります。この目的を達成するには、**ミラーリングするフォルダー**ポリシーと**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーを使用します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. Cookieフォルダーをミラーリングするように指定する。
2. プロファイルの肥大化の問題が発生した場合は、ユーザーログオフ時に古いCookieの削除を有効にする。

変更を有効にするには、このMicrosoftの記事に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

概要

このセクションでは、2つのポリシーがCookieフォルダーの管理にどのように役立つかを説明します。

Internet Explorer 8のCookieフォルダーを例にとってみましょう。このフォルダーには、index.datとCookieファイルが含まれています。index.datは、ユーザーがインターネットを閲覧する際にCookieファイルを参照します。たとえば、ユーザーがそれぞれ異なるデバイスから2つのInternet Explorerセッションを持ち、各セッションで異なるサイトにアクセスした場合、各サイトからのCookieは対応するデバイスに追加されます。

トランザクションの整合性を確保する方法

前述の例で、ユーザーが両方のセッションからログオフした場合に何が起こるかを見てみましょう。セッションからのCookieはマージされ、index.datファイルは最後にログオフしたセッションのものと同期されます。その結果、Cookieファイルとindex.dat内のそれらのCookieファイルへの参照が一致しなくなります。

ミラーリングするフォルダーポリシーがこの問題を解決します。このポリシーを設定すると、Profile Managementはプロファイルの同期中にフォルダー全体を宛先にコピーします。このポリシーの動作の詳細については、トランザクションフォルダーの管理を参照してください。

プロファイルの肥大化を回避する方法

新しいセッションでのブラウジングは、Cookieフォルダーの肥大化につながります。また、ウェブサイトを再訪問すると、古いCookieが蓄積されます。**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーは、ユーザーログオフ時にプロファイルから古いCookieを削除することで、この問題を解決します。

> **注:**
>
> Internet Explorer 9以前のCookieおよび閲覧履歴情報は、Internet Explorer 10以降のCookieおよび閲覧履歴情報と互換性がありません。異なるバージョンのInternet Explorerがインストールされている複数のシステム間でユーザーが移動しないことをお勧めします。\[#474200\]

ミラーリングするCookieフォルダーを指定する

ミラーリングするフォルダーポリシーを有効にします。ポリシーで、展開でサポートされているOSバージョンに基づいて、ミラーリングするCookieフォルダーを指定します。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**に移動します。
2. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **ミラーリングするフォルダーの一覧**フィールドで、次のCookieフォルダーを追加します。フォルダーを区切るには`Enter`を使用します。
   - バージョン2プロファイルの場合の`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`。
   - `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`（Windows 8.1以降のCookieフォルダー）
   - `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`（Windows 7およびWindows 8のCookieフォルダー）
   - `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`（Cookieデータベースファイル`Webcache01.dat`が保存されているInternet Explorer 10以降で利用可能なフォルダー）
5. **OK**をクリックします。
6. Profile Management 2106以降を使用している場合は、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックし、**有効**を選択します。

（オプション）ログオフ時に古いCookieを削除する

ユーザーログオフ時に古いCookieを削除するようにプロファイル管理を設定するには、「**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**」ポリシーを有効にします。

このポリシーはログオフ時間を増加させるため、プロファイルの肥大化の問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

1. **プロファイル管理** \> **詳細設定**に移動します。
2. 「**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**有効**」を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。

オフラインプロファイルを構成する

Citrix® オフラインプロファイルは、ネットワークへのアクセスが断続的であるラップトップユーザーまたはモバイルデバイスユーザーを対象としています。この機能により、プロファイルは可能な限り早くユーザー ストアと同期できます。ネットワーク接続が切断されても、再起動または休止状態になった後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上でそのまま維持されます。モバイルユーザーが作業すると、プロファイルはローカルで更新され、ネットワーク接続が再確立されると最終的にユーザー ストアと同期されます。

この機能は、ドメイン参加済みコンピューター (Citrix XenClient® を実行しているコンピューターを含む) でのみ機能します。ネットワーク接続が永続的である傾向があるサーバーやデスクトップコンピューターでの使用は意図されていません。

通常、オフラインプロファイルとストリーム配信ユーザープロファイルの両方を有効にすることはありません。このため、オフラインプロファイルが優先され、ストリーム配信ユーザープロファイルと「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」設定が無効になります。ユーザーが最初にログオンするときは、常にラップトップまたはモバイルデバイスに完全なプロファイルがあることを確認してください。

オフラインプロファイルは、次の方法で構成できます。

- **グループポリシーの使用**。このポリシーにより、機能の一元的な管理制御が可能になりますが、オフラインプロファイルを使用するラップトップまたはデバイスを含む個別のOUを作成する必要があります。
- **.iniファイルの使用**。ラップトップやモバイルデバイス専用の特別なOUを作成したくない場合は、より簡単なオプションです。ただし、この機能の制御は個々のデバイス所有者に効果的に

委ねられます。このオプションでは、各ラップトップまたはモバイルデバイスの1回限りの構成が必要です。

オフラインプロファイルのサポートがグループポリシーを使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

グループポリシーの使用

1. Profile Managementによって管理されるすべてのコンピューターを含むOUを作成します。オフラインプロファイルを使用するラップトップとモバイルデバイス、Citrix Virtual Apps™サーバー、および仮想デスクトップを含めます。
2. ラップトップとモバイルデバイスのみを含む子OUを作成します。
3. グループポリシー管理で、サイト全体のポリシーを適用するベースライングループポリシーオブジェクト (GPO) を作成し、両方のOUにリンクします。
4. すべてのコンピューターに共通のProfile Management設定でベースラインGPOを構成します。
5. 2番目のオフラインGPOを作成し、子OUにリンクします。
6. オフラインGPOを次のように構成します。
    a. プロファイル管理の下で、オフラインプロファイルサポートをダブルクリックします。
    b. 有効を選択し、OKをクリックします。
    c. ラップトップおよびモバイルデバイスにのみ適用したい他のすべての設定を構成します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

.iniファイルの使用

前提条件として、ベースラインGPOとオフラインGPOの両方で、オフラインプロファイルサポートが未構成（デフォルト）であることを確認してください。これらの設定が構成されている場合、.iniファイルの設定は上書きされます。

1. 各ラップトップまたはモバイルデバイスで、プロファイル管理インストーラーによって作成された.iniファイルを見つけます。.iniファイルを見つけるには、ダウンロードに含まれるファイルを参照してください。
2. この行のコメントを解除します（セミコロンを削除して）：

```
;OfflineSupport=
```

3. .iniファイルを保存します。

   変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を構成する

CEIPを構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**で、**カスタマーエクスペリエンス向上プログラム**をダブルクリックします。
3. **有効**または**無効**を選択し、**OK**をクリックします。
4. 変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

注： CEIPがグループポリシーオブジェクトおよびHDX™で構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がどこにも構成されていない場合、デフォルトで有効になります。

CEIPの詳細については、Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) についてを参照してください。

クロスプラットフォーム設定の構成

クロスプラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション

この記事では、このリリースのProfile Managementにおけるクロスプラットフォーム設定機能でサポートされるアプリケーションとオペレーティングシステム（OS）について説明します。

定義ファイルについて

定義ファイルには、選択されたWindowsアプリケーションの共通のパーソナライズ設定が含まれています。各ファイルとその中の定義により、ユーザーは複数のOSで同じアプリケーションに接続でき、各プラットフォームで実質的に同一のプロファイルが提示されます。たとえば、ユーザーはMicrosoft Officeの2つのインスタンスにアクセスする場合があります。1つはWindows 7仮想デスクトップにインストールされ、もう1つはWindows Server 2003上のCitrix Virtual Apps™で公開されています。どちらのインスタンスにアクセスしても、ユーザーのOfficeエクスペリエンスは一貫しています。

事前構成された定義ファイルは、クロスプラットフォーム設定機能の重要な側面です。サポートされているアプリケーションごとに定義ファイルがあります。定義ファイルはXML形式です。

重要：すべてのOSにおけるアプリケーションの動作を徹底的に分析し、この機能の操作を完全に理解せずに定義ファイルを編集すると、ユーザープロファイルに予期しない変更が生じ、トラブルシューティングが困難になる可能性があります。このため、Citrix®は、提供されている定義ファイルの編集や新しい定義ファイルの作成をサポートしていません。さらに、Windowsユーザープロファイルの性質上、一部のアプリケーション設定はOS間で複製できません。

さらに、この機能はレジストリおよびアプリケーション設定には適していますが、ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト（たとえば、ブラウザーのお気に入り、デスクトップ、スタートメニューの設定など）には適していないことに注意してください。

サポートされるオペレーティングシステム

サポートされているシングルセッションOS間、およびサポートされているマルチセッションOS間でプロファイルをローミングできます。

以下がサポートされています（該当する場合はx86およびx64バージョン）：

- **シングルセッションOS**。Windows XP、Windows 7、Windows Vista。
- **マルチセッションOS**。Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2。

サポートされるCitrix製品

クロスプラットフォーム設定機能は、以下のCitrix製品をサポートしています。

- Windows Server 2003 およびそれ以降のバージョンに対応した XenApp® 5 Feature Pack
- XenDesktop® 4 以降

サポートされるアプリケーション

このリリースでは、次の定義ファイルが利用可能です。XML ファイル名には、サポートされるアプリケーションとバージョンが示されています。

- **Internet Explorer 7 Plus.xml**。このファイルは、Internet Explorer のバージョン 7、8、9 の設定（お気に入りを除く）のクロスプラットフォームでのローミングをサポートします。お気に入りおよびフィードのローミングはサポートされていません。
- 「**Office 2007.xml**」ファイル。
- **オフィス 2010.xml.**
- **Wallpaper.xml**。このファイルは、デスクトップの壁紙のクロスプラットフォームでのローミングをサポートします。テーマのクロスプラットフォームでのローミングはサポートされていません。

重要：各アプリケーションの定義ファイルは、上記のサポートされるシナリオでのみ使用してください。たとえば、Internet Explorer 7 Plus.xml は、そのブラウザーの複数のバージョン間で設定をローミングします。ただし、Office 2007.xml または Office 2010.xml を使用して、Office のバージョン間で設定をローミングすることはできません。

アプリケーション定義ファイルの構造

この記事では、Profile Management アプリケーション定義ファイルの XML 構造について説明します。この構造は、アプリケーションプロファイラーとクロスプラットフォーム設定の両方に適用されます。

アーキテクチャ図

アーキテクチャ図(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/definitionfilestructure.jpg)

- XML 宣言とエンコーディング属性

  XML宣言では、属性 \<?xml version="1.0"\> を指定する必要があります。

  Encoding="UTF-8" は推奨される属性です。

- GroupDefinitions

  グループのコレクションのコンテナです。XMLドキュメントのルート要素として機能します。その属性には、バージョンとGUIDが含まれます。これらは必須属性です。

- グループ

  サブアプリケーションの設定を定義します。その属性はnameとGUIDです。これらは必須属性です。

- オブジェクト

  サブアプリケーションの1つの設定を定義します。その属性はnameとGUIDです。これらは必須属性です。

- プラットフォーム

  Platformは、異なるオペレーティングシステムで異なる定義を提供します。オプションの属性OSVersionNumberを使用して、オペレーティングシステムを指定できます。属性がない場合、すべてのプラットフォームが設定の内部定義を受け入れます。Platformには、RegKey、RegValue、File、Folder、Wallpaperのいずれかの要素が含まれている必要があります。

- RegKey

  設定をレジストリ内のキーとして定義します。Key要素を含める必要があります。オプションのサブ要素として、RecurseとMergeの2つが含まれます。RecurseとMergeは、Profile Managementがキーをローミングする際のパフォーマンスを定義します。もう1つのオプションのサブ要素はExcludeValuesです。ExcludeValuesは、除外できるレジストリ値を定義します。

- RegValue

  設定をレジストリ内の値として定義します。親キーのパスを指定するためにKeyを含める必要があります。

- フォルダー

  設定をフォルダーとして定義します。フォルダーのパスを指定するためにPathを含める必要があります。オプションのサブ要素として、`Recurse`と`Merge`があります。RecurseとMergeは、Profile Managementがフォルダーをローミングする際のパフォーマンスを定義します。もう1つのオプションのサブ要素は`ExcludeFiles`で、除外できるファイルを定義します。

- ファイル

  設定をファイルとして定義します。親フォルダーのパスを指定するPathと、ファイル名を指定する`FileName`を含める必要があります。

- 壁紙

  すべての壁紙設定を定義します。属性やサブ要素は必要ありません。Profile Managementはこれらの設定を自動的にローミングします。

- キー

  レジストリキーのパス、または親レジストリキーのパスを指定します。KeyはRegKeyとRegValueのサブ要素です。

- ValueName

  レジストリ値の名前を指定します。RegValueのサブ要素です。

- パス

  フォルダのパスまたは親フォルダのパスを指定します。Folder と File のサブ要素です。Profile Management の変数を採用できます。

- FileName

  ファイル名を指定します。File のサブ要素です。

- 再帰

  RegKey と Folder のオプションのサブ要素です。この要素が存在する場合、Profile Management はキーとフォルダを再帰的にローミングします。

- マージ

  RegKey と Folder のオプションのサブ要素です。この要素が存在する場合、Profile Management はキーとフォルダをマージします (置換はしません)。

- ExcludeValues

  RegKey のオプションのサブ要素です。キーをローミングするときに除外できる値を指定します。

- ExcludeFiles

  Folder のオプションのサブ要素です。フォルダをローミングするときに除外できるファイルを指定します。

- 除外

  ExcludeValues と ExcludeFiles のサブ要素です。ファイルまたはレジストリ値の除外項目を指定します。

注

ドキュメントに正しい構文形式が含まれていることを確認してください。Profile Management は、これらのファイルがロードされるときに、CPSValidationSchema.xsd 検証ファイルを使用してこれらのファイルをチェックします。検証ファイルは、Profile Management のインストールパスの下にあります。Profile Management は、不正なファイルを無視し、エラーメッセージをログに記録します。

サンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



<!-- Copyright 2011 Citrix Systems, Inc. All Rights Reserved. -->



&lt;GroupDefinitions GUID="748E63D3-426E-4796-9C32-420B25DB2D9F"
Version="4.0.0.0">



<!-- Application Settings -->



&lt;Group GUID="0FCCCF29-0A0E-482d-A77E-3F39A8A854A6" Name="Application
Settings">



<!-- Registry Key Setting Example -->



&lt;Object GUID="637EC13C-2D47-4142-A8EB-3CEA6D53522A"
Name="Software\Application\certain key">



&lt;Platform>



&lt;RegKey>



&lt;Key>Software\Microsoft\Office\certain key&lt;/Key>
```

```
&lt;Merge/>

&lt;Recurse/>

&lt;ExcludeValues>

&lt;Exclude>excluded value 1&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded value 2&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded value 3&lt;/Exclude>

&lt;/ExcludeValues>

&lt;/RegKey>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- Registry Value Setting Example -->
```

```
&lt;Object GUID="3C896310-10C4-4e5f-90C7-A79F4E653F81"
Name="Software\Application\certain value">


<!-- Folder Setting Example -->


&lt;Object GUID="7F8615D0-5E63-4bd0-982D-B7740559C6F9" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\setting folder">


&lt;Platform>


&lt;Folder>


<!-- We can use Citrix variable if necessary -->


&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\setting folder&lt;/Path>


&lt;Merge/>


&lt;Recurse/>


&lt;ExcludeFiles>
```

```
&lt;Exclude>excluded file 1&lt;/Exclude>


&lt;Exclude>excluded file 2&lt;/Exclude>


&lt;Exclude>excluded file 3&lt;/Exclude>


&lt;/ExcludeFiles>


&lt;/Folder>


&lt;/Platform>


&lt;/Object>


<!-- File Setting Example -->


&lt;Object GUID="7F8615D0-5E63-4bd0-982D-B7740559C6F9" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\file.txt">


&lt;Platform>


&lt;File>
```

```
<!-- We can use Citrix variable if necessary -->

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application&lt;/Path>

&lt;FileName>file.txt&lt;/FileName>

&lt;/File>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- Setting based on different OS -->

&lt;Object GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder">

<!-- Assuming that the folder locates differently when in different
platforms -->

&lt;Platform OSVersionNumber="6.1">
```

```
<!-- Win7 -->

&lt;Folder>

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder&lt;/Path>

&lt;Recurse/>

&lt;/Folder>

&lt;/Platform>

&lt;Platform OSVersionNumber="10.0">

<!-- Win10 -->

&lt;Folder>

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder&lt;/Path>

&lt;Recurse/>
```

```
&lt;/Folder>


&lt;/Platform>


&lt;/Object>


&lt;/Group>


&lt;/GroupDefinitions>
```

クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ

クロスプラットフォーム設定機能は、主にWindows 7およびWindows Server 2008からWindows 8およびWindows Server 2012への移行に使用されます。この移行では、Microsoft Office 2003またはOffice 2007からOffice 2010への移行も含まれる場合があります。Windows 2003システムへの一般的な投資を考慮すると、かなりの共存期間が予想されます。この機能は、移行と持続的な共存の両方をサポートすることが期待されています。

このケーススタディは、Office 2007が稼働している既存のWindows 7およびWindows 2008環境から始まり、Windows 8の共有プロビジョニング済み仮想デスクトップを追加します。

このケーススタディは以下で構成されています。

- 初期構成
- 新しいサイトの計画
- 計画の実行
- その他の考慮事項

計画を実行する

フェーズ1：新しいファイルサーバーを構成する

NewDomainにファイルサーバーをセットアップし、クロスプラットフォーム設定の管理 (`\\FileServ3`) および `2k12_Farm` のプロファイルの保存 (`\\FileServ2`) に使用します。

このケースでは、プロファイル用とクロスプラットフォーム設定用に別々のファイルサーバーをセットアップすることを選択します。この方法は厳密には必須ではありませんが、クロスプラットフォーム設定サーバーを利用可能にする簡単な方法です。プロファイルサーバーは、たとえばDFS名前空間を使用するなど、異なる設計になっている可能性があり、実装に時間がかかる場合があります。

どちらの場合も、共有フォルダー上の移動ユーザープロファイルに関するセキュリティ推奨事項に従ってサーバー共有を設定します。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/folder-redirection/deploy-roaming-user-profiles>` を参照してください。

フェーズ2：2k8_FarmのコンピューターをProfile Management 5.0にアップグレードする

手順については、Profile Managementのアップグレードを参照してください。

フェーズ3：展開する定義ファイルを選択する

Microsoft Office、Internet Explorer、およびWindowsの壁紙用に、いくつかの構成ファイル（定義ファイルと呼ばれます）が提供されています。

重要：Citrix®の担当者から指示がない限り、これらのファイルを更新しないでください。

展開に関連する構成ファイルを選択し、これらのファイルのみを `\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions` にコピーします。この例では、Office 2007.xmlのみをコピーします。

フェーズ4：2k8_FarmのコンピューターをProfile Management 5.0用に構成する

アップグレードが完了したら、クロスプラットフォーム設定機能を（部分的に）有効にするために、以下の構成変更を行います。この段階では、`\\FileServ3\CrossPlatform` のみが利用可能である必要があります。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`	変更なし。このパスはOldDomainユーザーのみが使用するため、NewDomainユーザーをサポートするため

ポリシー	値	注
		に変更する必要はありません。
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	クロスプラットフォーム設定ストアは両方のドメインのユーザーによって共有されるため、パスには`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方を指定する必要があります。
クロスプラットフォーム設定の作成元	有効	ユーザーがNewDomainリソースにアクセスする前に、OldDomainのクロスプラットフォーム設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアが初期化されるようにします。

マシンのログオンスクリプトに変更は必要ありません。

フォルダーリダイレクトポリシーに変更は必要ありません。

OU `2k8_Farm`はこれで実行状態のままにできます。ユーザーがログオンすると、Profile Managementは定義ファイルOffice 2007.xmlで識別された設定をクロスプラットフォーム設定ストアにコピーします。

フェーズ5：2k12_Farmのマシンを準備する

ファイルサーバーが`2k8_Farm`にセットアップされたので、Citrix仮想デスクトップサイトを構築する時が来ました。Windows 7仮想デスクトップが実行されているときにProfile Management 5.0をインストールします。適切な構成を以下に示します。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ2\Profiles\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\%ProfVer%`	このファイル共有は両方のドメインのユーザーによって使用されるため、ドメイン情報を含めることも重要です。
アクティブライトバック	無効	
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。この設定は`2k8_Farm`の設定と一致する必要があります。
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	両方のドメインのユーザーがクロスプラットフォーム設定ストアを共有するため、パスには`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方を指定する必要があります。この設定は`2k8_Farm`の設定と一致する必要があります。
クロスプラットフォーム設定の作成元	無効	クロスプラットフォーム設定ストアのプロファイルデータの初期設定にNewDomainからの設定が使用されるのを防ぎます。これにより、OldDomainからの設定が優先されるようになります。

システム環境変数%ProfVer%を設定するマシンのログオンスクリプトが、OU内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%	注
Windows 2012 上の XenApp サーバー	ウィン2012x64	計画されている 64 ビット サーバーが利用可能になったときに必要です。詳細については、「その他の考慮事項」を参照してください。
Windows 7 デスクトップ	Win7	Windows 7 の 32 ビット版と 64 ビット版の両方が展開されている場合、それぞれに個別のプロファイルを持つことをお勧めします。そのため、%ProfVer% は各プラットフォームで異なるように構成する必要があります。

そのため、OldDomain ユーザーの john.smith は、Windows 7 デスクトップ用に `\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win7` に、Citrix Virtual Apps サーバー用に `\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win2012x64` にプロファイルを持っています。

また、NewDomain ユーザーの william.brown は、Windows 7 デスクトップ用に `\\FileServ2\Profiles\william.brown .NewDomain\Win7` に、XenApp サーバー用に `\\FileServ2\Profiles\william.brown.NewDomain\Win2012x64` にプロファイルを持っています。

ここでも、グループポリシーを使用してフォルダーリダイレクトを設定します。ドメインは Windows Server 2012 に基づいているため、**<Group Policy Object Name\>** \> **ユーザーの構成** \> **ポリシー** \> **Windows の設定** \> **フォルダーリダイレクト** からフォルダーリダイレクトを設定します。

ポリシー	値
お気に入り	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Favorites`
マイドキュメント	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Documents`

%USERDOMAIN% がフォルダーリダイレクトパスに追加されました。このポリシーは NewDomain ユーザーにのみ適用されるため、この設定は必須ではありません。しかし、将来的に

OldDomain ユーザーを同じサーバーに移行することを決定した場合に役立つ可能性があります。今のところ、OldDomain ユーザーは、フォルダーを `\\FileServ1` にリダイレクトする OldDomain のフォルダーリダイレクトポリシーを引き続き使用します。

フェーズ 6: ライブテスト

テストは 2 段階で実行します。

1. NewDomain のユーザーのプロファイルデータが正しく動作することを確認します。これらのユーザーは、クロスプラットフォーム設定ストアにデータが設定されていません。クロスプラットフォーム設定を作成するためのポリシーソースが無効に設定されているため、プロファイルの変更は OldDomain に伝播しません。
2. OldDomain の数人のユーザーでテストします。最初にログオンすると、クロスプラットフォーム設定データがプロファイルにコピーされます。その後のログオンでは、いずれかのドメインからの変更がもう一方にコピーされます。OldDomain のユーザーが NewDomain にログオンし、プロファイルデータが存在しない場合 (OldDomain が Profile Management 5.0 にアップグレードされて以来、ユーザーが OldDomain でプロファイルを使用していないため)、クロスプラットフォーム設定ストアは更新されません。このトピックで説明されている構成では、ユーザーは設定がドメイン間でローミングされる前に OldDomain にログオンする必要があります。これにより、ユーザー設定 (おそらく長年にわたって作成されたもの) が NewDomain のデフォルト設定によって上書きされないようにします。

その他の考慮事項

このケーススタディで構成されているように、Profile Management は、NewDomain の設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアを初期化しません。OldDomain の設定のみがストアの初期化に使用できます。これは、NewDomain に複数の種類のプロファイル (Windows 7 32 ビットや Windows 7 64 ビットなど) が含まれるまでは許容されます。あるいは、NewDomain のユーザーが OldDomain のリソースにアクセスする必要がある場合があります。これらの場合、さらに多くの種類のマシンで「Source for creating cross-platform settings」ポリシーを適切に有効にする必要があります。

> **注意:**
>
> もし クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースが誤って設定されている場合、新しいプロファイルが、蓄積された多くの貴重な設定を持つ既存のプロファイルを上書きしてしまう可能性があります。したがって、このポリシーは一度に1つのプラットフォームタイプにのみ設定することをお勧めします。このプラットフォームは通常、ユーザーが最も保持したい設定が蓄積されている、より古い（より成熟した）プラットフォームです。

> このケーススタディでは、いくつかの点を説明するために個別のドメインが使用されています。また、クロスプラットフォーム設定機能は、2つのOU間、あるいは単一のOU内の異なる種類のマシン間で設定のローミングを管理できます。この場合、異なるマシンタイプに対して「Source for creating cross-platform settings」ポリシーを異なる方法で設定する必要があるかもしれません。この設定はいくつかの方法で実現できます。

- .ini ファイルの CPMigrationsFromBaseProfileToCPStore 設定を使用して、各マシンタイプでポリシーを異なる方法で設定します。「Source for creating cross-platform settings」ポリシーは設定しないでください。
- Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、同じOU上の異なるGPOを管理します。OU内のすべてのマシンに適用されるGPOで共通設定を構成できます。しかし、「Source for creating cross-platform settings」ポリシーのみを追加のGPOに追加し、WMIクエリを使用してフィルタリングします。

ユーザーのログオフを強制する

デフォルトでは、問題が発生した場合（たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合）に、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。ただし、代わりにProfile Managementを構成して、エラーメッセージを表示し、ユーザーをログオフさせることができます。エラーメッセージはトラブルシューティングに役立ちます。

1. **Profile Management**の下で、**詳細設定**フォルダーを開きます。
2. **問題が発生した場合にユーザーをログオフする**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。

ファイルセキュリティ属性を同期する

Profile Management が、プロファイルがインストールされているシステムとユーザーストアの間でユーザープロファイル内のファイルとフォルダーをコピーするときに、セキュリティ属性を同期できます。この機能は、セキュリティ属性間の不整合を防ぐことを目的としています。これには Windows 10 以降、および Windows Server 2016 が必要です。

この機能はデフォルトで有効になっています。無効にするには、次の手順を実行します。

1. **UPMPolicyDefaults_all.ini** ファイルの **General Settings** セクションに、**SecurityPreserveEnabled=0** を追加します。
2. コマンドラインから、`gpupdate /force` コマンドを実行します。

Profile Management は、プロファイルの最終変更時刻に基づいてプロファイルの変更を同期します。変更がファイルのセキュリティ属性のみに対して行われた場合、Profile Management はファイルを同期しません。

大容量ファイル処理を有効にする

プロファイル内に存在する大容量ファイルは、ログオンまたはログオフが遅くなる一般的な原因です。Citrix®は、大容量ファイルをユーザー ストアにリダイレクトするオプションを提供します。このオプションにより、ネットワーク経由でこれらのファイルを同期する必要がなくなります。

グループポリシーで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management**の下で、**File system**フォルダーを開きます。
2. **Large File Handling - Files to be created as symbolic links**ポリシーをダブルクリックします。
3. 処理するファイルを指定します。

UPMPolicyDefaults_all.iniファイルで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. .iniファイルに**\[LargeFileHandlingList\]**セクションを追加します。
2. そのセクションの下で処理するファイルを指定します。

ファイルを参照するポリシーではワイルドカードを使用できます。例： `\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.ost`

これらのファイルがCitrix Profile Managementの除外リストに追加されていないことを確認してください。

> **注**
>
> 一部のアプリケーションでは、ファイルの同時アクセスが許可されていません。Citrixでは、大容量ファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮することをお勧めします。

> Citrixは、Microsoftセキュリティ更新プログラムMS15-090を適用することをお勧めします。一般的なセキュリティ対策として、Microsoft Windowsシステムを常に最新の状態に保つようにしてください。

アプリケーションプロファイラーを有効にする

この機能は、アプリケーションベースのプロファイル処理を定義します。この機能を有効にすると、定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management**で、**Citrix Virtual Apps™ Optimization settings**フォルダーを開きます。
2. **Enable Citrix Virtual Apps Optimization**ポリシーを有効にします。
3. **Path to Citrix Virtual Apps optimization definitions**ポリシーを有効にします。
4. Citrix Virtual Apps最適化の定義ファイルが格納されているフォルダーを指定します。
5. ポリシーの展開を適用するには、`gpupdate /force`コマンドを実行します。

> **注：**
>
> 定義ファイルの作成については、「Create a definition file」を参照してください。

> ログオフ時には、定義ファイル内の設定のみが同期され、その他のすべての設定は破棄されます。セッションでユーザー文書を表示または更新したい場合は、フォルダーリダイレクトを使用してください。フォルダーリダイレクトの構成については、「Configure folder redirection」を参照してください。

ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを有効にする

「**Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**」機能は、ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。この機能により、オフラインOutlookデータファイル（`.ost`）とユーザー固有の検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。

「**Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**」機能を使用する前に、Microsoft Windows Search Serviceを有効にしてください。デフォルトでは、Microsoft Windows Search

ServiceはWindowsデスクトップで有効になっています。WindowsサーバーでMicrosoft Windows Search Serviceを有効にするには、次の手順を実行します。

1. **スタート**メニューから**サーバーマネージャー**を開きます。
2. インターフェイスの右上隅にある**管理**をクリックし、**役割と機能の追加**を選択します。
3. **役割と機能の追加ウィザード**で、デフォルトで**開始する前に**ページが表示されます。**次へ**をクリックします。
4. **インストールの種類**ページで、**役割ベースまたは機能ベースのインストール**を選択し、**次へ**をクリックします。
5. **サーバーの選択**ページで、Microsoft Windows Search Serviceをインストールするサーバーを選択し、**次へ**をクリックします。サーバーが1台しかない場合は、自動的に選択されます。
6. **サーバーの役割**ページで、**次へ**をクリックします。
7. **機能**ページで、**Windows Search Service**を選択し、**次へ**をクリックします。
8. **確認**ページで、**インストール**をクリックします。Windows Search Serviceのインストールには数分かかる場合があります。
9. インストールが完了したら、**結果**ページで**閉じる**をクリックします。
10. **スタート**メニューから**検索**をクリックし、検索ボックスに「**services**」と入力して**Enter**キーを押します。
11. **サービス**ウィンドウで、**Windows Search**をダブルクリックし、スタートアップの種類を**自動**に設定し、**適用**をクリックしてから**OK**をクリックします。
12. **サービス**ウィンドウと**サーバーマネージャー**ウィンドウを閉じます。

Microsoft Windows Search Service を有効にした後、グループポリシーオブジェクトで **Outlook の検索インデックスローミングを有効にする** を構成するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定** の下で、**Outlook の検索インデックスローミングを有効にする** ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効** を選択します。**OK** をクリックします。

グループポリシーオブジェクトで検索インデックスローミングが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。検索インデックスローミングがどこにも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行し、すべてのセッションからログオフしてから、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

> **注：**

> Microsoft Windows 10 1809 以降、および Windows Server 2019 以降で検索インデックスローミング機能を機能させるには、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows Search` の下に DWORD 値 `EnablePerUserCatalog = 0` を追加します。レジストリ設定を有効にするには、VDA を再起動します。

VHDX ファイル

VHDX (Virtual Hard Disk) は、仮想マシンに仮想および論理ディスクストレージ領域をプロビジョニングするために使用されるディスクファイル形式です。「Outlook の検索インデックスローミングを有効にする」機能は、VHDX ファイルに依存して動作します。VHDX ファイルは、この機能を使用するユーザーごとに作成されます。VHDX ファイルは、ユーザー固有のプロファイルを、そのユーザーのプロファイル専用の個別の仮想ディスクに保存します。Profile Management は、ログオン時に VHDX ファイルをマウントし、ログオフ時にアンマウントします。VHDX ファイルは次の2種類です。

- OutlookOST.vhdx ファイル（オフライン Outlook データファイル (`.ost`) を含む）
- OutlookSearchIndex.vhdx ファイル（OutlookOST.vhdx ファイルに保存されているオフラインフォルダーファイルの検索インデックスデータベースを含む）

> **注：**

> デフォルトでは、Profile Management はユーザーがログオンしたときにのみ VHDX ファイルをアタッチします。VHDX ファイルがデタッチされていても、ログオン*後*に VHDX ファイルを再アタッチすることはありません。必要に応じて、Profile Management でセッション内のデタッチされた VHDX ファイルを再アタッチするように有効にできます。詳しくは、「セッションでデタッチされた VHDX ディスクを自動的に再アタッチする」を参照してください。

> Profile Management は、デフォルトで 30 GB の VHDX 容量を提供します。ストレージクォータを適切に計画してください。VHDX の実際の使用量が以前に構成したクォータを超えると、VHDX ファイルはアンマウントされます。

Outlook 検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元

Profile Management は、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーを自動的にバックアップし、破損が発生した場合はそのコピーに復元できます。この目的を達成するには、Outlook の検索インデックスローミングを有効にし、Outlook 検索インデックスデータベースのバックアップと復元ポリシーを有効にします。詳細については、「Outlook 検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元」(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/automatic-backup-and-restore-of-outlook-search-index-database.html)を参照してください。

前提条件

ソフトウェア要件:

- Microsoft Windows 10 バージョン 1709 以降
- Windows Server 2016 以降のバージョン
- Microsoft Outlook 2019、2016、または 2103、あるいは Microsoft Office 365

Microsoft Windows Search Service (SearchIndexer.exe) の以下のバージョンがテストされ、サポートされています:

- 7.0.17134.376
- 7.0.17134.285
- 7.0.17134.228
- 7.0.17134.1
- 7.0.16299.402
- 7.0.16299.248
- 7.0.16299.15
- 7.0.15063.413
- 7.0.14393.2457
- 7.0.14393.2430
- 7.0.14393.2368
- 7.0.14393.2312

- 7.0.14393.2273
- 7.0.14393.2248
- 7.0.14393.1884
- 7.0.10240.17443
- 7.0.9600.18722
- 7.0.1493.1593
- 7.0.1393.2125
- 7.0.1393.1884
- 7.0.1393.1770

注:

- 複数のマシンでの同時セッションはサポートされていません。
- この機能は、Microsoft Windows Search Service の将来のバージョンをサポートすることが期待されています。この機能が Microsoft Windows Search Service の特定の将来のバージョンをサポートしないことが判明した場合は、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。

Outlook 検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元

Profile Management は、Outlook の検索インデックスローミングを有効にする機能の安定性を確保するためのソリューションを提供します。これは、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存し、破損した場合にそのコピーに復元することで実現されます。その結果、データベースが破損した場合に手動で再インデックスを作成する必要がなくなります。

この機能はデフォルトで無効になっています。使用するには、まず Outlook の検索インデックスローミングを有効にする必要があります。Outlook の検索インデックスローミングの詳細については、「ネイティブ Outlook 検索エクスペリエンスを有効にする」を参照してください。

Outlook の検索インデックスローミングを有効にした後、この機能を有効にするには、次の手順を完了します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。

2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADM) > クラシック管理用テンプレート (ADM) > Citrix® > Profile Management > 詳細設定**の下で、**Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

Citrix Studio で Profile Management ポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を完了します。

1. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元**ポリシーを開きます。
4. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

仕組み

この機能が有効になっている場合、Profile Management は、ログオン時にデータベースが正常にマウントされるたびに、検索インデックスデータベースのバックアップを保存します。新しいバックアップが正常に保存された後、Profile Management は以前に保存されたバックアップを削除します。Profile Management は、バックアップを検索インデックスデータベースの正常なコピーとして扱います。検索インデックスデータベースのマウント試行が失敗した場合、Profile Management は検索インデックスデータベースを最後に確認された正常なコピーに自動的に復元します。

> **重要:**
>
> - Profile Management は、検索インデックスデータベースが最初に作成され、ポリシーが有効になった後、そのバックアップを保存しません。
> - Profile Management は、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。このバックアップは、VHDX ファイルの利用可能なストレージ領域をより多く消費します。

Citrix Profile Management プロファイルコンテナ

> **重要:**
>
> この機能はWindows 7では動作しません。

> ユーザープロファイル内の大きなフォルダーは、ユーザーログオンを遅くする可能性があります。ログオンエクスペリエンスを向上させるため、Profile ManagementはVHDXベースのプロファイルソリューションであるプロファイルコンテナを提供します。このソリューションにより、選択したプロファイルフォルダーをVHDXプロファイルディスクに保存できます。ユーザーがログオンすると、VHDXプロファイルディスクがマウントされ、プロファイルフォルダーがすぐに利用可能になります。

プロファイルコンテナを展開するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. (オプション) VHDXファイルの保存パスを指定する。
2. ニーズに合わせてプロファイルコンテナを有効にします。
   - ユーザープロファイルの一部に対してプロファイルコンテナを有効にする
   - ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする (コンテナベースのプロファイルソリューション)。

   > **注:**
   >
   > コンテナベースのプロファイルソリューションが有効になっている場合、以下のユーザープロファイル（存在する場合）は、初回使用時にコンテナに自動的に移行されます。
   >
   > - ローカルWindowsユーザープロファイル
   > - Citrixファイルベースのプロファイルソリューションからのユーザープロファイル
3. (オプション) プロファイルコンテナからフォルダーとファイルを除外する。
4. (オプション) プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする。

5. (オプション) プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

> **注:**
>
> - VHDXディスクの最大サイズはデフォルトで50 GBです。デフォルトの最大サイズを変更するには、VHDXファイルが作成される前に、次のレジストリ値を構成します: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\VhdCapacity` (DWORD、サイズはGB単位)。
> - VHDXファイルは、手動でファイルを削除しても自動的に縮小されません。VHDXファイルのサイズを縮小するには、ディスクの管理に移動し、該当するボリュームを右クリックして、 を選択します。

概要

主要な概念と情報について説明します。

ユーザーストアとプロファイルコンテナについて

ユーザーストアは、ユーザープロファイルを保存するための中央ネットワークロケーションです。ユーザーがログオンすると、プロファイルはユーザーストアからユーザー環境にコピーされます。ユーザープロファイル内の大きなプロファイルフォルダーは、ユーザーのログオン時間を長くします。

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナは、ユーザープロファイルを保存するために使用されるVHDXベースのネットワークディスクです。ユーザープロファイル全体または一部を保存するために使用できます。ログオン時に、プロファイルコンテナはユーザー環境にマウントされ、プロファイルフォルダーはすぐに利用可能になります。

他のポリシーへの影響

ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にした場合、他のポリシーへの影響は次のとおりです。

- ユーザーストアベースのプロファイルソリューションは自動的に無効になります。ユーザーストア専用に設計されたポリシーは適用されなくなります。
  - プロファイルストリーミング

    例外: *プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする*ポリシーが有効になっている場合、プロファイルストリーミングはプロファイルコンテナに適用されます。詳細につ

いては、「プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする」を参照してください。

- ファイルシステム
- アクティブなライトバック
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

- Outlook の検索インデックスローミング機能との後方互換性を維持するため、Profile Management は、以下のファイルをそれぞれ保存するために使用される2つのVHDXディスクを保持します。
  - Outlook 検索インデックスデータベース
  - オフラインOutlookデータファイル (`.ost`)

同時アクセスの仕組み

プロファイル管理は、プロファイルコンテナへの同時アクセスをサポートします。すべての同時セッションにおいて、読み取り/書き込みセッションは1つだけ存在し、プロファイルへの変更をプロファイルコンテナにマージできます。

Profile Management が同時アクセスを処理する方法は次のとおりです。

- セッションログオン時:

  読み取り/書き込みセッションが存在するかどうかを確認します。存在する場合、現在のセッションは読み取り専用になります。そうでない場合、読み取り/書き込みセッションです。
- セッションログオフ時:

  a. プロファイルコンテナをマウント解除します。
  b. 現在のセッションが読み取り専用の場合、プロファイルの変更を破棄します。
  c. 他の同時セッションがない場合、読み取り/書き込みセッションのプロファイルの変更をプロファイルコンテナにマージします。

マルチセッションライトバックを有効にするには、プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にするポリシーを使用します。

(オプション) VHDXファイルの保存パスを指定する

デフォルトでは、VHDXプロファイルディスク（VHDXファイル）はユーザー ストアに保存されます。

たとえば、ユーザーストアのパスを次のように構成します。`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!`。

VHDXプロファイルディスクは、次に以下に保存されます。`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!\ProfileContainer\!ctx_osname!`。

Profile Management 2112以降、Profile Management内のすべてのVHDXファイルを保存するための個別のネットワーク場所を指定できます。詳細については、「VHDXファイルの保存パスを指定する」を参照してください。

ユーザープロファイルの一部に対してプロファイルコンテナを有効にする

ユーザーストアでのログオン時間を短縮するために、プロファイルコンテナ機能を有効にし、それらの大きなプロファイルフォルダをプロファイルコンテナに追加できます。

> **注：**
>
> プロファイルコンテナに追加するフォルダは、ユーザーストアにも存在します。プロファイルコンテナ機能を有効にすると、Profile Managementはプロファイルコンテナとユーザーストアの間でフォルダを同期させます。 プロファイルコンテナ機能を有効にしてから無効にしたとします。一貫性のあるユーザープロファイルを確保するために、Profile Managementはユーザーストアプロファイルをプロファイルコンテナと同期させます。この同期はユーザーログオン時に行われます。除外リスト内のフォルダはユーザーストアにコピーされません。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMXファイル) > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**の下で、**プロファイルコンテナ**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式でフォルダを追加します。大きなキャッシュファイルを含むフォルダを追加することをお勧めします。たとえば、Citrix Filesコンテンツキャッシュフォルダをリストに追加します: `AppData\Local\Citrix\Citrix Files\PartCache`。

ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする

Profile Management 2009以降、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに配置し、VHDXベースのプロファイルソリューション全体を有効にすることができます。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナー設定**で、**プロファイルコンテナー**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **表示**をクリックし、プロファイルコンテナーリストにアスタリスク (`*`) を追加します。
5. **OK**をクリックします。

(オプション) フォルダーとファイルを含める/除外する

プロファイルコンテナーが肥大化するのを防ぐため、フォルダーとファイルをプロファイルコンテナーから除外できます。必要に応じて、親フォルダーが除外されている場合にフォルダーとファイルを含めることができます。

プロファイルコンテナーからフォルダーを除外する

> **重要:**
>
> ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナーを有効にすると、フォルダーリダイレクト設定は引き続き有効になります。リダイレクトするフォルダーを**プロファイルコンテナーから除外するフォルダー**リストに入れないでください。そうしないと、フォルダーリダイレクトが機能しません。

1. **プロファイルコンテナーから除外するフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で除外するフォルダーを入力します。

   Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。例:

   - `Desktop` は `Desktop` フォルダーを示します。

- `Downloads*` は `Downloads` フォルダーのすべての直下サブフォルダーを示します。

> **注:**
>
> ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする場合（*コンテナベースのプロファイルソリューション*）、`appdata\local\temp` フォルダーはプロファイルコンテナから自動的に除外されます。

> 設定が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

プロファイルコンテナーにフォルダーを含める

除外されたフォルダーのサブフォルダーをプロファイルコンテナに含めるには、次の手順に従います。

1. **プロファイルコンテナに含めるフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で含めるフォルダーを入力します。

次の点に注意してください。

- このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

ポリシーを有効にして空のリストを構成することは、設定を無効にすることと同じ効果があります。ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、除外リストにないフォルダーはプロファイルコンテナに含まれます。

プロファイルコンテナーにファイルを含める

Profile Management 2112以降、プロファイルコンテナにファイルを含めることができます。

プロファイルコンテナからフォルダを除外した後でも、そのフォルダ内のファイルをプロファイルコンテナに含めることができます。詳細な手順は次のとおりです。

1. **プロファイルコンテナに含めるファイル**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で含めるファイルを入力します。

次の点に注意してください。

- このリストのファイルは、除外されたフォルダ内にある必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。
- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。ポリシーを現在のフォルダのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
- Profile Management 2112以降、フォルダ名でのワイルドカードがサポートされていますが、再帰的には適用されません。

例:

- `Desktop\Desktop.ini` は `Desktop\Desktop.ini` ファイルを示します。
- `AppData*.tmp` は、`AppData` フォルダとそのサブフォルダ内の `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを示します。
- `AppData*.tmp|` は、`AppData` フォルダ内のみの `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを示します。
- `Downloads*\a.txt` は、`Downloads` フォルダの直下のサブフォルダ内の `a.txt` を示します。

ポリシーを有効にして空のリストを構成することは、設定を無効にすることと同じ効果があります。ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで設定が構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、除外リストにないファイルはプロファイルコンテナに含まれます。

プロファイルコンテナからファイルを除外する

Profile Management 2112以降、プロファイルコンテナからファイルを除外できます。詳細な手順は次のとおりです。

1. **プロファイルコンテナから除外するファイル**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。

3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で除外するファイルを入力します。

次の点に注意してください。

- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。ポリシーを現在のフォルダーのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名内のワイルドカードがサポートされますが、再帰的には適用されません。

設定が無効になっている場合、ファイルは除外されません。ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでも設定が構成されていない場合、ファイルは除外されません。

(オプション) プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする機能は、プロファイルコンテナがユーザープロファイル全体に対して有効になっている場合にのみ有効になります。**プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**ポリシーを有効にすると、ユーザーログオン時に、プロファイルコンテナ内のユーザープロファイルがユーザーのローカルユーザープロファイルにキャッシュされます。

デフォルトでは、ユーザーログオン時にユーザープロファイル全体がキャッシュされます。ユーザーログオン時間を短縮するには、**プロファイルストリーミング**ポリシーを有効にできます。その結果、ユーザープロファイル内のプロファイルフォルダーは、ログオン後にオンデマンドでキャッシュされます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

> **ヒント:**
>
> FSLogix Profile Containerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/configure-profile-container-tutorial>`を参照してください。Citrix Profile Managementプロファイルコンテナの詳細については、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナを参照してください。

概要

FSLogix プロファイルコンテナやCitrix プロファイル管理プロファイルコンテナなどのVHDベースのプロファイルソリューションは、マルチセッションシナリオでの変更の保存をサポートしていません。1つのセッション（読み取り/書き込みモード）のみが変更を書き込むことができます。他のセッション（読み取り専用モード）での変更は破棄されます。

しかし、マルチセッションシナリオはCitrix仮想アプリのユースケースで一般的です。これらのユースケースを容易にするために、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを提供しています。このポリシーにより、FSLogix Profile ContainerとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方でマルチセッションライトバックを有効にできます。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、Profile Managementは各セッションで行われた変更をユーザーのプロファイルコンテナに同期して保存します。

ユーザーログオン中、ユーザーのプロファイルコンテナディスクがマウントされ、I/O要求はマウントされたディスクにリダイレクトされます。その後、Profile Managementはユーザーストアからローカルプロファイルに変更を同期します。

ユーザーログオフプロセス中、Profile Managementは、セッションで使用されるFSLogix Profile Containerモードに応じて異なる動作をします。

- 読み取り専用モードが使用されている場合、Profile Managementは変更をユーザーストアに書き戻します。
- 読み取り/書き込みモードが使用されている場合、Profile Managementはユーザーストアからの変更をローカルプロファイルに適用します。その後、変更はユーザーのプロファイルコンテナにマージされます。

> **注:**

> FSLogix Profile Containerが使用されている場合、マルチセッションライトバック機能はプロファイルストリーミングと互換性がありません。

> 以下のイベントが変更と見なされます。

- 作成
- 変更
- 削除
- 名前変更

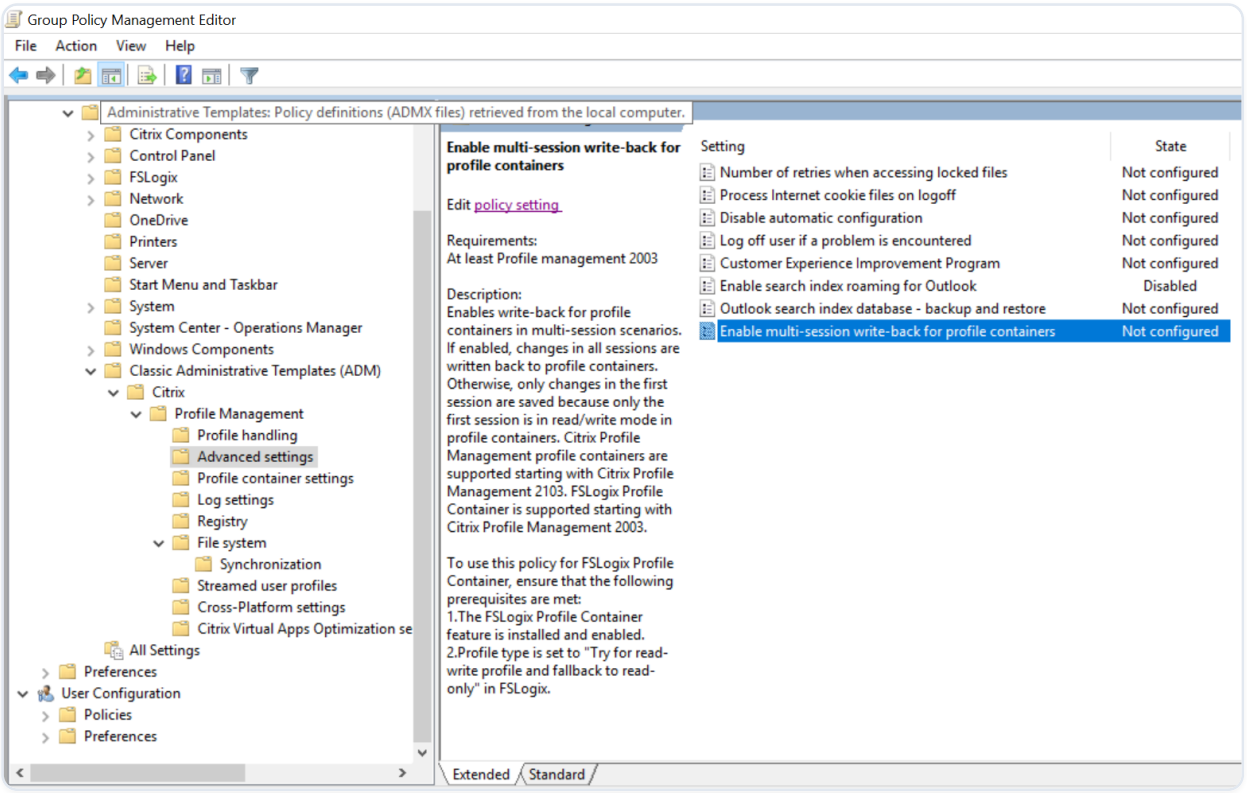
プロファイルコンテナーのマルチセッションライトバックを有効にする

プロファイルコンテナーのマルチセッションライトバックを有効にするポリシーを**有効**に設定することで、マルチセッションライトバック機能を使用できます。このポリシーは、デフォルトで**無効**に設定されています。

- FSLogix Profile Containerでこの機能を使用するには、次の手順を実行します。
  - FSLogix プロファイル コンテナ
    - FSLogix Profile Containerがインストールされ、有効になっていることを確認します。
    - プロファイルの種類が**読み取り/書き込みプロファイルを試行し、読み取り専用にフォールバックする**に設定されていることを確認します。
  - Citrix プロファイル管理
    - **プロファイル管理を有効にする**ポリシーを有効に設定します。
    - **ユーザーストアへのパス**ポリシーを有効なパスに設定します。
    - （オプション）**処理されたグループ**および**除外されたグループ**ポリシーを設定します。処理するユーザーグループが、FSLogix Profile Containerのグループと一致していることを確認します。
    - **プロファイルコンテナーのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。このポリシーは、GPOまたはCitrix Studioで設定できます。詳細については、この記事の後半の手順を参照してください。
- Citrix Profile Managementプロファイルコンテナーでマルチセッションライトバック機能を使用するには、次の手順を実行します。
  - **プロファイルコンテナーのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
  - Citrix Profile Management プロファイルコンテナ機能を有効にする(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/citrix-profile-management-profile-container.html)。

GPOで**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを有効にするには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**コンピューターの構成**」>「**管理用テンプレート**」>「**Citrix Components**」>「**Profile Management**」>「**詳細設定**」で、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。



3. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

変更を有効にするには、Profile Managementがインストールされているマシンのコマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

Citrix Studioで**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studioの左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「Enable multi-session write-back」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを開きます。
4. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

ライトバック戦略

Profile Managementは、「最終書き込み優先」戦略を使用して変更を適用します。

- ファイル/フォルダーの作成と変更の場合、ファイル/フォルダーの最終書き込み時刻を比較して変更をライトバックします。

- ファイル/フォルダーの削除と名前変更の場合、変更に関連付けられたタイムスタンプを比較することで、変更を書き戻します。変更が発生すると、Profile Management はタイムスタンプをログに記録します。

VHDXファイルのストレージパスを指定する

デフォルトでは、Profile Management はVHDX仮想ディスク（VHDXファイル）をユーザーストアに保存します。Profile Management 2112以降では、**VHDXファイルのストレージパスをカスタマイズ**機能を使用して、それらを保存する別のパスを指定できます。

概要

Profile Management は、以下のVHDXベースの機能を提供します。

- Outlook検索インデックスのローミング
- Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ設定
- フォルダーミラーリングの高速化

デフォルトでは、すべてのVHDXファイルはユーザーストアに保存されます。必要に応じて、それらを保存する別のパスを指定できます。以下に、VHDXファイルのデフォルトおよびカスタムストレージパスを示します。

- プロファイルコンテナー設定
  - デフォルト: `{USER_STORE_PATH}\ProfileContainer\{OS_NAME_SHORT}\`
  - カスタム: `{VHDX_STORE_PATH}\ProfileContainer\{OS_NAME_SHORT}\`
- Outlook検索インデックスのローミング
  - デフォルト: `{USER_STORE_PATH}\VHD\{OS_NAME_SHORT}\`
  - カスタム: `{VHDX_STORE_PATH}\VHD\{OS_NAME_SHORT}\`
- フォルダーのミラーリングを高速化する
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\MirrorFolders\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\MirrorFolders\

Profile Management は、現在のユーザーを偽装してVHDXファイルにアクセスするようになり、VHDXファイルのストレージパスに対するDomain Computers `full control` 権限を付与しません。

ストレージの場所を準備する

VHDX ファイル用のネットワークストレージの場所を準備します。ストレージの場所に対して、ユーザーに `Modify` 以上のアクセス許可を付与していることを確認してください。

ストレージパスを指定する

VHDX ファイルのストレージパスを指定するには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**で、**VHDX ファイルのストレージパスをカスタマイズ**ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. **VHDX ファイルを保存するパス**フィールドに、ストレージの場所の完全なパスを入力します。例: `\\myservername\vhdx_store`。
5. **適用**をクリックし、**OK**をクリックします。

設定を有効にするには、次の操作を行います。

1. ユーザープロファイルを使用しているすべてのセッションからログオフします。
2. コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

   ポリシーが有効になるタイミングは、ユースケースによって異なります。

   - VHDX ファイルのストレージパスを初めて指定する場合、ポリシーはユーザーがログオンした後に有効になります。
   - VHDX ファイルのストレージパスを変更する場合、ポリシーはユーザーが初めてログオフした後に有効になります。

`gpgroup` コマンドの詳細については、Microsoft ドキュメント を参照してください。

この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Profile Management は VHDX ファイルをユーザー ストアに保存します。

セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする

「**セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする**」機能により、Profile ManagementはVHDXベースのポリシーの高い安定性を確保します。

概要

Citrix Profile Managementは、以下のVHDXベースのポリシーを提供します。

- ネイティブOutlook検索エクスペリエンスを有効にする
- Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ
- フォルダミラーリングを高速化する

各ポリシーは、適切に機能するために関連するVHDXディスクに依存しています。Profile Managementは、ログオン中にこれらのディスクをアタッチし、ログオフ中にデタッチします。しかし、これらのVHDXディスクはセッション中に誤ってデタッチされ、ポリシーが適切に機能しなくなる可能性があります。VHDXディスクがデタッチされる可能性のある原因には、次のものがあります。

- ファイルサーバーで一時的なエラーが発生する
- ネットワーク接続が遅い

「**セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする**」ポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは、前述のVHDXベースのポリシーで使用されているVHDXディスクを監視します。いずれかのディスクがデタッチされた場合、Profile Managementはディスクを自動的に再アタッチします。

ポリシーを有効にする

デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。VHDXベースのポリシーの高い安定性を確保するために、デフォルト設定を維持することをお勧めします。

VHDXベースのポリシーでパフォーマンスの問題が発生した場合は、以下の手順に従ってポリシー設定を確認してください。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**Citrixコンポーネント > プロファイル管理 > 詳細設定**」で、「**セッションでVHDXディスクを自動的に再接続する**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 設定が「**無効**」になっている場合は、「**有効**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳細については、Microsoftの記事を参照してください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用され、デフォルトで*有効*になります。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ポリシーはデフォルトで有効になります。

Azure AD参加済みおよびドメイン非参加VDAマシンのサポートを有効にする

Citrix Profile Managementは、お客様が管理するAzureサブスクリプション内のAzure AD参加済みおよびドメイン非参加VDAマシンに対して、プロファイル管理を提供できるようになりました。

前提条件

- プロファイル管理 2203 以降
- VDAバージョン2203以降
- Workspace Environment Management (WEM)を使用してプロファイルストレージサーバーの資格情報を保存する場合は、WEMエージェントバージョン2109.2.0.1以降

Profile Managementを有効にする

Azure AD参加済みまたはドメイン非参加VDAマシンでProfile Managementを有効にするには、次の設定を完了します。

1. **Profile Management**で、**Profile Managementを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. **ユーザーストアへのパス**ポリシーを、VDAからアクセス可能な有効なパスに設定します。たとえば、ユーザーストアがファイルサーバーまたはAzure Files共有上にある場合、アクセス可能です。
3. **プロファイルコンテナ**ポリシーを**有効**に設定し、プロファイルコンテナリストにアスタリスク（*）を追加します。詳しくは、「ユーザープロファイル全体のプロファイルコンテナを有効にする」を参照してください。
4. **ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**ポリシーを**有効**に設定します。次に、Profile ManagementがユーザーストアにアクセスできるようにWEMまたはWindows資格情報マネージャーにプロファイルストレージサーバーの資格情報を保存します。詳しくは、「ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする」を参照してください。

ポリシー

プロファイル管理ポリシー

この記事では、.admファイルと.admxファイル内のポリシーの重要な側面について説明します。

プロファイル管理変数

このバージョンのプロファイル管理では、グループポリシーと.iniファイルの両方で使用できる以下の変数が利用可能です。

ファイルとレジストリエントリを定義するポリシーの場合、以下の変数は次のように展開されます。

変数	バージョン1プロファイルの展開	バージョン2プロファイルの展開
`!ctx_localsettings!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`
`!ctx_roamingappdata!`	`Application Data`	`AppData\Roaming`
`!ctx_startmenu!`	`Start Menu`	`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start menu`
`!ctx_internetcache!`	`Local Settings\Temporary Internet Files`	`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`
`!ctx_localappdata!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`

パスを構築するために使用されるポリシーの場合、`!ctx_osbitness!`変数はオペレーティングシステムに応じてx86またはx64に展開されます。以下の変数も展開されます。

- `!ctx_osname!`は、オペレーティングシステムに応じて次のように短い名前に展開されます。

- `!ctx_profilever!`は、オペレーティングシステムに応じて次のようにプロファイルバージョンに展開されます。

プロファイル管理サービスが開始されると、長い名前がログファイルに書き込まれます。

長い名前	短い名前	プロファイルバージョン
`Windows 11`	Win11	v6
`Windows 10 Redstone 6`	ウィンテンアールエスシックス	v6
`Windows 10 Redstone 5`	ウィンテンアールエスファイブ	v6
`Windows 10 Redstone 4`	ウィンテンアールエスフォー	v6
`Windows 10 Redstone 3`	ウィンテンアールエススリー	v6
`Windows 10 Redstone 2`	ウィンテンアールエスツー	v6
`Windows 10 Redstone 1`	ウィンテンアールエスワン	v6
`Windows 10`	Win10	v5
`Windows 8.1`	Win8.1	v4 または v2
`Windows 8`	Win8	v3 または v2
`Windows 7`	Win7	v2
`Windows Server 2022`	Win2022	v6
`Windows Server 2019`	Win2019	v6
`Windows Server 2016`	Win2016	v6
`Windows Server 2012 R2`	ウィン2012R2	v4 または v2
`Windows Server 2012`	Win2012	v3 または v2
`Windows Server 2008 R2`	Win2008	v2
`Windows Server 2008`	Win2008	v2

注:

Windows 10 20H1以降の場合、長い名前はWindows10 \<postfix\>で、対応する短い名前はWin10_\<postfix\>です。\<postfix\>の値は、次の2つの特定のレジストリエントリから取得されます。

- エントリ: `HKLM\Software\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion` > 値の名前: DisplayVersion
- エントリ: `HKLM\Software\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion` > 値の名前: ReleaseId

最初のレジストリエントリに値が含まれている場合、それが\<postfix\>として使用されます。それ以外の場合は、2番目のレジストリエントリの値が使用されます。

Windows 8、Windows 8.1、Windows Server 2012、およびWindows Server 2012R2の場合、`HLKM\System\CurrentControlset\Services\ProfSvc\Parameters`の下にある`UseProfilePathExtensionVersion`レジストリキーの設定によって、実際のプロファイルバージョンが変更されることがあります。

- 1に設定されている場合、プロファイルバージョンはオペレーティングシステムに応じてv3またはv4になります。
- 設定されていないか、0に設定されている場合、プロファイルバージョンはv2になります。

バージョン別のポリシー

移行を支援するため、以下の表は、Profile Managementの異なるバージョンで利用可能なポリシー、.adm（または.admx）ファイルおよび.iniファイル内の各ポリシーの場所、および各ポリシーが設計されている機能（またはすべての展開の基本構成の一部であるかどうか）を示しています。

.admまたは.admxファイル内の場所は、`Citrix > Profile Management`を基準としています。

バージョン2203から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
EnableVolumeReattach	\AdvancedSettings	EnableVolumeReattach	セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする

バージョン2112以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナー設定	ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナからファイルを除外する
ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナー設定	ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナにファイルを含める
VhdStorePath	AdvancedSettings	PathToVhdStore	VHDXファイルのネットワークストレージの場所を指定する

バージョン2109から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

バージョン2106から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
AccelerateFolderMirroring	\FileSystemSettings\FSSynchronization	AccelerateFolderMirroring	フォルダーのミラーリングを高速化する

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする
MultiSiteReplication	AdvancedSettings	MultiSiteReplication	ユーザーストアをレプリケートする

バージョン 2103 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
PSForFoldersEnabled	\PsSettings	PSForFoldersEnabled	フォルダーのプロファイルストリーミング
ProfileContainerLocalCache	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerLocalCache	プロファイルコンテナのローカルキャッシュ

バージョン2009以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerExclusionListDir	プロファイルコンテナ
ProfileContainerInclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerInclusionListDir	プロファイルコンテナ

バージョン2003以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
FSLogixProfileContainerSupport	\AdvancedSettings	FSLogixProfileContainerSupport	**バージョン2103より前:** FSLogix Profile Containerのマルチセッションライト

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
			バックを有効にする **バージョン2103以降:** Profile Containersのマルチセッションライトバックを有効にする

バージョン1909以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
MigrateUserStore		MigrateUserStore	UserStore の移行
OutlookEdbBackupEnabled	\AdvancedSettings	OutlookEdbBackupEnabled	Outlook 検索インデックス データベース - バックアップと復元
ApplicationProfilesAutoMigration	\AdvancedSettings	ApplicationProfilesAutoMigration	既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

バージョン 1903 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ProfileContainer	**バージョン 2009 より前:** \FileSystemSettings\FSSynchronization **バージョン 2009 以降:** \ProfileContainer	ProfileContainer	プロファイルコンテナ

バージョン 7.18 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
OutlookSearchRoamingEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingEnabled	Outlook 検索ローミング

バージョン 7.16 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
XenAppOptimizationSettings	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationSettings	Citrix Virtual Apps and Desktops アプリケーションの最適化
XenAppOptimizationDefinitionPath	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationDefinitionPath	Citrix Virtual Apps and Desktops アプリケーションの最適化
LargeFileHandlingList	\FileSystemSettings	LargeFileHandlingList	ラージファイルの処理

バージョン 7.15 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
LogonExclusionCheck	\FileSystemSettings	LogonExclusionCheck	ログオン除外チェック

バージョン 5.8 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
StreamingExclusionList	\PsSettings	StreamingExclusionList	プロファイルストリーミング除外リスト

バージョン 5.6 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイルの場所	.INI ファイルのポリシー	機能
`CEIPEnabled`	\AdvancedSettings	`CEIPEnabled`	CEIP
PSMidSessionWriteBackReg		PSMidSessionWriteBackReg	アクティブライトバックレジストリ

バージョン 5.5 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイルの場所	.INI ファイルのポリシー	機能
デフォルトの除外リスト	\Registry	DefaultExclusionListRegistry	ベース
NTUSER.DAT	\Registry	LastKnownGoodRegistry	NTUSER.DAT のバックアップ
デフォルトの除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	DefaultSyncExclusionListDir	ベース

バージョン5.0〜5.4で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
除外されるグループ		ExcludedGroups	除外グループ
自動構成を無効にする	\詳細設定	DisableDynamicConfig	自動構成
AppData (Roaming) フォルダーのリダイレクト、`Desktop` フォルダーのリダイレクト、...	\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成内)	注：該当なし	XenDesktopとの統合
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	\プロファイル処理	ProfileDeleteDelay	ベース

バージョン4.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	\クロスプラットフォーム設定	CPUserGroupList	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定を有効にする	\クロスプラットフォーム設定	`CPEnabled`	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定の作成元	\クロスプラットフォーム設定	CPMigrationFromBaseProfileToCPStore	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム定義へのパス	\クロスプラットフォーム設定	CPSchemaPath	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	\クロスプラットフォーム設定	`CPPath`	クロスプラットフォーム設定
オフラインプロファイルのサポート	\クロスプラットフォーム設定	OfflineSupport	オフラインプロファイル
問題が発生した場合にユーザーをログオフする	\詳細設定	LogoffRatherThanTempProfile	トラブルシューティングの改善

バージョン3.xから利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
アクティブライトバック		PSMidSessionWriteBack	アクティブプロファイルのライトバック (バージョン 4.0 では「Active write back」に名称変更)

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ミラーリングするフォルダー (バージョン 3.1 以降で利用可能)	\File system\Synchronization	MirrorFoldersList	フォルダーのミラーリング
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する (バージョン 3.1 以降で利用可能)	\詳細設定	ProcessCookieFiles	フォルダーのミラーリング
リダイレクトされたフォルダーを削除する (バージョン 3.2、3.2.2、および 4.0 で利用可能)	\詳細設定	DeleteRedirectedFolders	フォルダーリダイレクトのサポート
常にキャッシュ	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PSAlwaysCache	ストリーミングユーザープロファイル
プロファイルストリーミング	\ストリーム配信ユーザープロファイル	`PSEnabled`	ストリーミングユーザープロファイル
ペンディングエリアロックファイルのタイムアウト	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PSPendingLockTimeout	ストリーミングユーザープロファイル
ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PSUserGroupsList	ストリーミングユーザープロファイル

バージョン2.xで利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ユーザーストアへのパス		ユーザー ストアへのパス	ベース
処理されるグループ		処理済みグループ	ベース

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ローカルプロファイルの競合処理	\プロファイル処理	ローカルプロファイルの競合処理	ベース
既存プロファイルの移行	\プロファイル処理	Windowsプロファイルをユーザー ストアに移行	ベース
テンプレートプロファイル	\プロファイル処理	テンプレートプロファイルパス, テンプレートプロファイルローミングプロファイル上書き, テンプレートプロファイルローカルプロファイル上書き	ベース
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	\プロファイル処理	DeleteCachedProfilesOnLogoff	ベース
MFTキャッシュファイルのディレクトリ(バージョン5.0で削除)	\詳細設定	`USNDBPath`	ベース
同期するディレクトリ	\ファイルシステム\同期	SyncDirList	ベース
除外リスト	\レジストリ	ExclusionListRegistry	ベース
同期するファイル	\ファイルシステム\同期	SyncFileList	ベース
包含リスト	\レジストリ	InclusionListRegistry	ベース
除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	SyncExclusionListDir	ベース

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
除外リスト - ファイル	\ファイルシステム	SyncExclusionListFiles	ベース
ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	\詳細設定	LoadRetries	ベース
ローカル管理者によるログオンの処理		ProcessAdmin	ベース
Profile Managementを有効にする		ServiceActive	ベース
ログの有効化	\ログ設定	LoggingEnabled	ログ
ログ設定	\ログ設定	LogLevel	ログ
ログファイルの最大サイズ	\ログ設定	MaxLogSize	ログ
ログファイルへのパス (バージョン 2.1 以降で利用可能)	\ログ設定	PathToLogFile	ログ

プロファイル管理ポリシーの説明と既定値

このトピックでは、Profile Management の .adm および .admx ファイルに含まれるポリシーについて説明します。

ポリシーの詳細については、プロファイル管理ポリシーを参照してください。

.adm および .admx ファイルのセクション

Profile Management ポリシーは、次のセクションにあります。

プロファイル管理

プロファイル管理\\フォルダーリダイレクト (ユーザーの構成)

プロファイル管理\\プロファイル処理

プロファイル管理\\詳細設定

プロファイル管理\\ログ設定

プロファイル管理\\レジストリ

プロファイル管理\\ファイルシステム

プロファイル管理\\ファイルシステム\\同期

プロファイル管理\\ストリーム配信されるユーザープロファイル

プロファイル管理\\クロスプラットフォーム設定

グループポリシーオブジェクトエディターでは、ほとんどのポリシーが **コンピューターの構成 \> 管理用テンプレート \> 従来の管理用テンプレート \> Citrix** の下に表示されます。リダイレクトされたフォルダーポリシーは、**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> 従来の管理用テンプレート \> Citrix** の下に表示されます。

グループポリシーエディターでは、ポリシーが**ユーザーの構成**というラベルのセクションの下にある場合を除き、ポリシーは**コンピューターの構成**の下に表示されます。

プロファイル管理

Profile Management を有効にする

Profile Management を有効にできます。デフォルトでは、展開を容易にするため、Profile Management はログオンまたはログオフを処理しません。Profile Management は、他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix®ユーザープロファイルが環境でどのように動作するかをテストした後にのみ有効にしてください。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Profile Management はWindowsユーザープロファイルを一切処理しません。

処理されるグループ

プロファイルが処理されるユーザーを指定できます。次のユーザーグループを使用してユーザーを指定します。

- `<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>` の形式のドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）
- `GROUP NAME` の形式のローカルグループ

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されている場合、Profile Management はこれらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、Profile Management はすべてのユーザーを処理します。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。

除外されるグループ

プロファイルが処理されないユーザーを指定できます。次のユーザーグループを使用してユーザーを指定できます。

- `<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>` の形式のドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）
- `GROUP NAME` の形式のローカルグループ

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されている場合、Profile Management はそれらのユーザーグループのメンバーを除外します。
2. この設定が無効になっている場合、Profile Management はどのユーザーも除外しません。
3. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、いずれのグループのメンバーも除外されません。

ローカル管理者によるログオンの処理

Profile Management が `BUILTIN\Administrators` グループのメンバーのログオンを処理するかどうかを指定できます。このポリシーを有効にすることは、ほとんどのユーザーがローカル管理者であるCitrix仮想デスクトップ展開で推奨されます。

Citrix Virtual Apps環境は、マルチセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。このポリシーがマルチセッションオペレーティングシステムで無効になっているか、構成されていない場合、Profile Managementはドメインユーザーのログオンを処理しますが、ローカル管理者によるログオンは処理しません。Citrix Virtual Desktops™環境は、シングルセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。シングルセッションオペレーティングシステムでは、Profile Managementはローカル管理者のログオンを処理します。

ローカル管理者権限を持つドメインユーザーは通常、割り当てられた仮想デスクトップを持つCitrix Virtual Desktopsユーザーです。デスクトップでProfile Managementに関する問題が発生した場合、このポリシーにより、ユーザーはログオン処理をバイパスしてログオンし、問題をトラブルシューティングできます。

注: ドメインユーザーのログオンは、グループメンバーシップによって課される制限の対象となる場合があります。これは通常、製品ライセンスへの準拠を確実にするためです。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、Profile Managementはローカル管理者によるログオンを処理しません。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、管理者は処理されません。

ユーザーストアへのパス

ユーザーストアのストレージパスを指定できます。ユーザーストアは、ユーザープロファイル（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存される中央のネットワークロケーションです。

パスは次のいずれかです。

- ホームディレクトリに対する相対パス。ホームディレクトリは通常、Active Directory内のユーザーの`#homeDirectory#`属性として構成されます。
- UNCパス。通常、サーバー共有またはDFS名前空間を指定します。
- 無効または未構成。この場合、パスは`#homeDirectory#\Windows`です。

パス設定では、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: `%ProfVer%`）。システム環境変数は通常、追加のセットアップが必要です。
- ハッシュで囲まれたActive Directoryユーザーオブジェクトの属性（例: `#sAMAccountName#`）。
- Profile Management変数。詳しくは、Profile Management変数の製品ドキュメントを参照してください。

`%username%`と`%userdomain%`を除き、ユーザー環境変数は使用できません。場所やユーザーなどを完全に定義するために、カスタム属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#`は、ユーザー設定をUNCパス`\\server\share\JohnSmith`に保存します（現在のユーザーの#sAMAccountName#がJohnSmithに解決される場合）。
- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`は`\\server\profiles$\JohnSmith.DOMAINCONTROLLER1\Win8x64`に展開される場合があります。

重要: どの属性または変数を使用する場合でも、このポリシーがNTUSER.DATを含むフォルダーの1つ上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが`\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile`にある場合、ユーザーストアへのパスを`\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64`として設定します（\UPM_Profileサブフォルダーではありません）。

ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

構成の優先順位:

1. が無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。このポリシーが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ホームドライブ上のWindowsディレクトリが使用されます。

ユーザーストアの移行

Profile Managementが以前使用していたユーザーストアのストレージパス（以前指定した`path to user store`設定）を指定できます。

この設定が構成されている場合、以前のユーザー ストアに保存されていたユーザー設定は、現在のユーザー ストアに移行されます。

パスは、絶対UNCパスまたはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。

どちらの場合も、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数
- ハッシュ記号で囲まれたActive Directoryユーザーオブジェクトの属性

例:

- 「%ProfileVer%」が W2K3 に解決されるシステム環境変数である場合、フォルダー `Windows\%ProfileVer%` は、ユーザー ストアの `Windows\W2K3` というサブフォルダーにユーザー設定を保存します。
- 現在のユーザーに対して `#SAMAccountName#` が JohnSmith に解決される場合、`\\server\share#SAMAccountName#` はユーザー設定を UNC パス `\\server\share\<JohnSmith>` に保存します。

構成の優先順位:

1. パスでは、`%username%` と `%userdomain%` を除くユーザー環境変数を使用できます。この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの対応する設定が使用されます。
3. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

アクティブライトバック

アクティブライトバック機能を有効にできます。この機能を有効にすると、Profile Management は、セッション中にローカルコンピューターで変更されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、無効になります。

アクティブライトバックレジストリ

Profile Management が、セッション中にローカルコンピューターで変更されたレジストリ エントリをユーザー ストアに同期できるようにします。このポリシーは、**アクティブライトバック** ポリシーと組み合わせて使用します。

この設定をここで構成しない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定をここでも .ini ファイルでも構成しない場合、アクティブライトバック レジストリは無効になります。

オフラインプロファイルのサポート

オフラインプロファイル機能を有効にできます。この機能により、プロファイルは可能な限り早くユーザー ストアと同期できます。

この機能は、頻繁にローミングするラップトップまたはモバイルデバイスのユーザーを対象としています。ネットワーク接続が切断されても、再起動または休止状態の後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上でそのまま維持されます。モバイルユーザーがセッションを開始すると、プロファイルはローカルで更新されます。Profile Management は、ネットワーク接続が復元された後にのみ、プロファイルをユーザー ストアと同期します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

Profile Management\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成)

プロファイルに一般的に表示されるフォルダーをリダイレクトするかどうかを指定し、リダイレクトターゲットを指定できます。ターゲットは、UNC パス (サーバー共有または DFS 名前空間の場合) またはユーザーのホームディレクトリに対する相対パスとして指定します。ホームディレクトリは通常、Active Directory の `#homeDirectory#` 属性で構成されます。

ポリシーがここで構成されていない場合、Profile Management は指定されたフォルダーをリダイレクトしません。

注: フォルダーリダイレクトにUNCパスを使用する場合、#homedirectory#変数はサポートされません。**ユーザーのホームディレクトリにリダイレクト**ポリシーを選択した後、パスを指定する必要はありません。

`<folder-name>` フォルダーのリダイレクトポリシーを使用すると、`<folder-name>` フォルダーをリダイレクトする方法を指定できます。これを行うには、**有効**を選択し、リダイレクトされたパスを入力します。

注意: データ損失が発生する可能性があります。

ポリシーが有効になった後でパスを変更したい場合があります。ただし、変更する前にデータ損失の可能性を考慮してください。変更されたパスが以前のパスと同じ場所を指している場合、リダイレクトされたフォルダーに含まれるデータが削除される可能性があります。

たとえば、連絡先パスを `path1` として指定します。その後、`path1` を `path2` に変更します。`path1` と `path2` が同じ場所を指している場合、ポリシーが有効になった後、リダイレクトされたフォルダーに含まれるすべてのデータが削除されます。

データ損失の可能性を回避するには、次の手順を実行します。

1. Active Directoryグループポリシーオブジェクトを介して、Profile Managementが実行されているマシンにMicrosoftポリシーを適用します。詳細な手順は次のとおりです。

a. グループポリシー管理コンソールを開きます。
b. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windowsコンポーネント > エクスプローラー**に移動します。
c. **リダイレクトする前に、古いフォルダーリダイレクトターゲットと新しいフォルダーリダイレクトターゲットが同じ共有を指していることを確認する**を有効にします。

2. 該当する場合、Profile Managementが実行されているマシンにホットフィックスを適用します。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/977229>`および`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2799904>`を参照してください。

プロファイル管理\プロファイル処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

ログオフ後にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するかどうかを指定できます。

このポリシーが有効になっている場合、ユーザーのログオフ後にユーザーのローカルプロファイルキャッシュが削除されます。この設定はターミナルサーバーに推奨されます。このポリシーが無効になっている場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

注: キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延ポリシーを使用して、ログオフ時にプロファイルキャッシュが削除されるタイミングを制御できます。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延をオプションで延長できます。プロセスがログオフ中にファイルまたはユーザーレジストリハイブを開いたままにしていることがわかっている場合、遅延を延長すると便利です。大規模なプロファイルの場合、この設定はログオフを高速化することもできます。

値が0の場合、ログオフプロセスの終了時にプロファイルがすぐに削除されます。

Profile Managementは1分ごとにログオフをチェックします。値が60の場合、最後のチェックが行われた時間に応じて、ユーザーがログオフしてから1〜2分後にプロファイルが削除されます。

重要: このポリシーは、 が有効になっている場合にのみ機能します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイルはすぐに削除されます。

既存プロファイルの移行

ユーザーストアが空の場合に、Profile Managementがどの種類のユーザープロファイルをユーザーストアに移行するかを指定できます。

ユーザーがユーザーストアにプロファイルを持っていない場合、Profile Managementはログオン中に既存のプロファイルを「オンザフライ」で移行できます。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、**ローミング**を選択します。

ログオン中に次のイベントが発生します。ユーザーがユーザーストアにCitrixユーザープロファイルではなくWindowsプロファイルを持っている場合、Profile ManagementはWindowsプロファイルをユーザーストアに移行します。このプロセス後、Profile Managementは、同じユーザーストアへのパスで構成された現在のセッションおよび他のセッションでユーザーストアプロファイルを使用します。

構成の優先順位:

1. この設定が有効になっている場合、プロファイルの移行は、ローミングプロファイルとローカルプロファイル（デフォルト）、ローミングプロファイルのみ、ローカルプロファイルのみに対してアクティブ化できます。または、プロファイルの移行を無効にすることもできます。
2. このポリシーが無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。
3. プロファイルの移行が無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。
4. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
5. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Profile Managementは既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルをユーザーストアに移行します。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

この設定は、異なるオペレーティングシステム間での既存のアプリケーションプロファイルの自動移行を有効または無効にします。アプリケーションプロファイルには、**AppData**フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE`の下のレジストリエントリの両方が含まれます。この設定は、異なるオペレーティングシステム間でアプリケーションプロファイルを移行したい場合に役立ちます。

たとえば、オペレーティングシステム（OS）をWindows 10バージョン1803からWindows 10バージョン1809にアップグレードする必要があるとします。この設定が有効になっている場合、各ユーザーが最初にログオンするときに、Profile Managementは既存のアプリケーション設定をWindows 10バージョン1809に自動的に移行します。**AppData**フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE`の下のレジストリエントリが移行されます。

複数の既存のアプリケーションプロファイルがある場合、Profile Managementは次の優先順位で移行を実行します。

1. 同じOSタイプのプロファイル（シングルセッションOSからシングルセッションOS、マルチセッションOSからマルチセッションOS）。
2. 同じWindows OSファミリーのプロファイル（例：Windows 10からWindows 10、またはWindows Server 2016からWindows Server 2016）。
3. 以前のバージョンのOSのプロファイル（例：Windows 7からWindows 10、またはWindows Server 2012からWindows 2016）。
4. 最も近いOSのプロファイル。

注: ユーザーストアパスに`!CTX_OSNAME!`変数を含めることで、OSの短い名前を指定する必要があります。これにより、Profile Managementは既存のアプリケーションプロファイルを見つけることができます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。

この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

ローカルプロファイルの競合処理

ユーザーストア内のプロファイルとローカルのWindowsユーザープロファイル（Citrixユーザープロファイルではない）が存在する場合に、Profile Managementがどのように動作するかを指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっているか、デフォルト値の**ローカルプロファイルを使用**に設定されている場合、Profile Managementはローカルプロファイルを使用しますが、それを一切変更しません。
2. このポリシーが**ローカルプロファイルを削除**に設定されている場合、Profile Managementはローカルの Windowsユーザープロファイルを削除します。その後、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。このポリシーが**ローカルプロファイルの名前を変更**に設定されている場合、Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルの

名前を変更します（バックアップ目的のため）。その後、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

3. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイル

テンプレートとして使用するプロファイルの保存パスを指定できます。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートプロファイルに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーのフルパスです。

重要: パス設定に`NTUSER.DAT`を含めないでください。たとえば、`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat`ファイルの場合、場所を`\\myservername\myprofiles\template`として設定します。 UNCパスまたはローカルコンピューター上のパスである絶対パスを使用します。後者は、たとえば、Citrix Provisioning™ Servicesイメージにテンプレートプロファイルを永続的に指定するために使用できます。相対パスはサポートされていません。

このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`および`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、テンプレートは使用されません。
2. このポリシーが有効になっている場合、Profile Managementはユーザープロファイルを作成するときに、ローカルのデフォルトプロファイルの代わりにテンプレートを使用します。ユーザーがCitrixユーザープロファイルを持たず、ローカルまたはローミングのWindowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。そして、このポリシーが無効になっていない場合、ローカルプロファイルはユーザーストアに移行されます。この設定は、**テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする**または**テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きする**チェックボックスを有効にすることで変更できます。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別することは、Windows強制プロファイルと同様に、変更が保存されないことを意味します。
3. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートは使用されません。

プロファイル管理\詳細設定

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数

ロックされたファイルにアクセスする際の再試行回数を指定できます。

このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値の5回の再試行が使用されます。このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

一部の展開では、`Index.dat` が参照しない余分なインターネットCookieが残されます。継続的なブラウジングの後、ファイルシステムに残された余分なCookieは、プロファイルの肥大化につながる可能性があります。このポリシーを使用すると、Profile Managementを有効にしてIndex.datの処理を強制し、余分なCookieを削除できます。このポリシーはログオフ時間を増加させるため、この問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルでこのポリシーが構成されていない場合、Index.datの処理は行われません。

自動構成を無効にする

Profile Managementは、Citrix仮想デスクトップ環境（たとえば、パーソナルvDiskの有無など）を検査し、それに応じてグループポリシーを構成します。構成されていない状態のProfile Managementポリシーのみが調整されるため、ユーザーが行ったカスタマイズはすべて保持されます。

このポリシーにより、展開を高速化し、最適化を簡素化できます。このポリシーを構成する必要はありません。ただし、次のいずれかの操作を行う場合は、自動構成を無効にできます。

- 以前のバージョンからの設定を保持するためにアップグレードする
- トラブルシューティング

自動構成は、実行時に環境に応じてデフォルトのポリシー設定を自動的に構成する動的な構成チェッカーと見なすことができます。これにより、設定を手動で構成する必要がなくなります。実行時環境には以下が含まれます。

- ウィンドウズ OS
- Windows OS のバージョン
- Citrix仮想デスクトップの有無

- パーソナル vDisk の有無

環境が変更された場合、自動構成によって以下のポリシーが変更される可能性があります。

- アクティブライトバック
- 常にキャッシュ
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する
- キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延
- プロファイルストリーミング

異なるOSにおける上記のポリシーのデフォルト状態については、次の表を参照してください。

	マルチセッションOS	シングルセッションOS
アクティブライトバック	有効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は、有効。
常にキャッシュ	無効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は、有効。
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	有効	以下のいずれかの状況が発生した場合、*無効*になります: パーソナルvDiskが使用されている、Citrix仮想デスクトップが割り当てられている、またはCitrix仮想デスクトップがインストールされていない。それ以外の場合は、有効になります。
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	0秒	ユーザーの変更が永続的でない場合は60秒。それ以外の場合は0秒。
プロファイルストリーミング	有効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は、有効。

ただし、自動構成が無効になっている場合、上記のすべてのポリシーはデフォルトで**無効**になります。

Windows 10、Windows Server 2016、およびWindows Server 2019でスタートメニューのローミングが正しく機能するようにするには、次の手順に従います。

1. 自動構成を有効にするか、**自動構成を無効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. Profile Managementのベストプラクティスの記事に記載されている構成手順を完了します。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここで、または.iniファイルで構成されていない場合、自動構成がオンになります。この場合、環境が変更されるとProfile Managementの設定が変更される可能性があります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする

問題が発生した場合に Profile Management がユーザーをログオフさせるかどうかを指定できます。

このポリシーが無効になっているか、構成されていない場合、問題が発生すると Profile Management はユーザーに一時プロファイルを提供します。たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合などです。

有効になっている場合、エラーメッセージが表示され、ユーザーはログオフされます。この設定により、問題のトラブルシューティングが簡素化されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここで、または.iniファイルで構成されていない場合、一時プロファイルが提供されます。

カスタマー エクスペリエンス向上プログラム

デフォルトでは、匿名統計と使用状況データを送信することでCitrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立つカスタマーエクスペリエンス向上プログラムが有効になっています。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

Outlook の検索インデックス ローミングを有効にする

このポリシーを有効にすると、Profile ManagementはユーザープロファイルとともにOutlook検索データを自動的にローミングすることで、ユーザーにネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。このポリシーは、Outlookの検索インデックスを保存するために追加のストレージを必要とします。

このポリシーを有効にするには、ログオフしてから再度ログオンしてください。

Outlook 検索インデックス データベース – バックアップと復元

Outlook の検索インデックス ローミングを有効にするポリシーが有効になっている場合に、ログオン中に Profile Management が何を行うかを指定できます。

このポリシーが有効になっている場合、Profile Management は、ログオン時に検索インデックス データベースが正常にマウントされるたびに、そのデータベースをバックアップします。Profile Management は、そのバックアップを検索インデックス データベースの良好なコピーとして扱います。データベースの破損により検索インデックス データベースのマウントが失敗した場合、Profile Management は検索インデックス データベースを最後に確認された良好なコピーに戻します。

注： Profile Managementは、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは、利用可能なVHDXストレージを消費します。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

マルチセッションシナリオでプロファイルコンテナへのライトバックを有効にできます。

注： Citrix Profile Managementプロファイルコンテナは、Citrix Profile Management 2103以降で利用可能です。FSLogixプロファイルコンテナは、Citrix Profile Management 2003以降で利用可能です。

ポリシーが有効になっている場合、すべてのセッションでの変更はプロファイルコンテナにライトバックされます。そうでない場合、最初のセッションのみがプロファイルコンテナで読み取り/書き込みモードであるため、最初のセッションでの変更のみが保存されます。

FSLogix Profile Containerでこのポリシーを使用するには、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- FSLogix Profile Container機能がインストールされ、有効になっていること。
- FSLogixでプロファイルタイプが **読み取り/書き込みプロファイルを試行し、読み取り専用にフォールバックする** に設定されていること。

ユーザーストアをレプリケートする

ログオンおよびログオフごとに、ユーザーストアを複数の追加パスにレプリケートできます。デフォルトでは、ユーザーストアは**ユーザーストアへのパス**ポリシーで指定されたパスに存在します。

セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。このポリシーは現在、完全なコンテナ ソリューションをサポー

トしていません。このポリシーを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフ時間が長くなる可能性があります。

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にできます。

デフォルトでは、Citrix Profile Management は現在のユーザーを偽装してユーザー ストアにアクセスします。そのため、現在のユーザーがユーザー ストアにアクセスする権限を持っている必要があります。状況によっては、現在のユーザーがアクセス権を持たないストレージ リポジトリ (Azure Files など) にユーザー ストアを配置したい場合があります。そのような場合は、このポリシーを有効にして、Profile Management がストレージ リポジトリの資格情報を使用してユーザー ストアにアクセスできるようにします。

Profile Management が資格情報を使用してユーザー ストアにアクセスできるようにするには、資格情報を Workspace Environment Management™ (WEM) または Windows Credential Manager に保存します。Profile Management を実行している各マシンで同じ資格情報を構成する必要をなくすために、Workspace Environment Management を使用することをお勧めします。Windows Credential Manager を使用する場合は、ローカル システム アカウントを使用して資格情報を安全に保存してください。

> **注:**

> NTFSアクセス許可が保持されるようにするには、プロファイル全体をプロファイルコンテナに配置する必要があります。

> この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここで、または.iniファイルで構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

VHDX ファイルのストレージ パスを指定します

Profile Management で使用される VHDX ファイルを保存するストレージ パスを指定できます。

Citrix Profile Management は、次の VHDX ベースのポリシーを提供します: ネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを有効にする、Citrix Profile Management プロファイル コンテナ、およびフォルダー ミラーリングの高速化。デフォルトでは、VHDX ファイルはユーザー ストアに保存されます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここで、または.iniファイルで構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする

このポリシーを有効にすると、Profile Management は VHDX ベースのポリシーの高い安定性を確保します。デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。

このポリシーが有効になっている場合、Profile Management は VHDX ベースのポリシーで使用されている VHDX ディスクを監視します。いずれかのディスクがデタッチされた場合、Profile Management はそのディスクを自動的に再アタッチします。

プロファイル管理\ログ設定

ログの有効化

Profile Management のログ記録を有効にするかどうかを指定できます。このポリシーは、Profile Management のトラブルシューティングを行う場合にのみ有効にしてください。

このポリシーが無効になっている場合、エラーのみがログに記録されます。ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。ここでも .ini ファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、エラーのみがログに記録されます。

ログ設定

Profile Management がログに記録するイベントまたはアクションを選択できます。Citrix の担当者から指示された場合にのみ、すべてを選択してください。

ここでポリシーが構成されていない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。

ここでも .ini ファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、エラーと一般情報がログに記録されます。

このポリシーのチェックボックスは、.ini ファイルの次の設定に対応しています: LogLevelWarnings, LogLevelInformation, LogLevelFileSystemNotification, LogLevelFileSystemActions, LogLevelRegistryActions, LogLevelRegistryDifference, LogLevelActiveDirectoryActions, LogLevelPolicyUserLogon, LogLevelLogon, LogLevelLogoff, および LogLevelUserName。

ログファイルの最大サイズ

Profile Management ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

Profile Managementログファイルの最大サイズのデフォルト値は10 MBです。十分なディスク容量がある場合は、この値を増やしてください。ログファイルが最大サイズを超えて大きくなった場合、次のようになります。

1. 既存のファイルのバックアップ（.bak）が削除されます。
2. ログファイルの名前が.bakに変更されます。
3. 新しいログファイルが作成されます。

ログファイルは`%SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager`または**ログファイルへのパス**ポリシーで指定された場所に作成されます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値の10 MBが使用されます。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログファイルへのパス

ログファイルを保存するための代替パスを構成できます。

パスはローカルドライブまたはネットワークベースのドライブ（UNCパス）を指すことができます。

- 大規模な分散環境では、リモートドライブが推奨されます。ただし、これらは大量のネットワークトラフィックを生成する可能性があり、ログファイルには適さない場合があります。
- ローカルドライブは、永続的なハードドライブを持つプロビジョニングされた仮想マシンでよく使用されます。

この設定により、マシンの再起動時にログファイルが保持されます。永続的なハードドライブを持たない仮想マシンの場合、UNCパスを設定することでログファイルを保持できます。ただし、マシンのシステムアカウントはUNC共有への書き込みアクセス権を持っている必要があります。オフラインプロファイル機能によって管理されるラップトップには、ローカルパスを使用してください。

ログファイルにUNCパスを使用する場合、Citrixはログファイルフォルダーに適切なアクセス制御リストを適用することを推奨します。アクセス制御により、承認されたユーザーまたはコンピューターアカウントのみが保存されたファイルにアクセスできるようになります。

例:

- D:\LogFiles\ProfileManagement。
- `\\server\LogFiles\ProfileManagement`

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトの場所%SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManagerが使用されます。

プロファイル管理\プロファイルコンテナ設定

プロファイルコンテナ

VHDXベースのネットワークディスク（プロファイルコンテナ）を使用して、ユーザープロファイルを保存できます。ユーザープロファイル全体または一部を保存するために使用できます。ユーザーログオン時に、プロファイルコンテナはユーザー環境にマウントされ、プロファイルフォルダはすぐに利用可能になります。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にできます。このポリシーは、プロファイルコンテナがユーザープロファイル全体に対して有効になっている場合にのみ適用されます。

ポリシーが**有効**に設定されている場合、各ローカルプロファイルは、そのCitrix Profile Managementプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーログオン時に作成されます。

プロファイルコンテナから除外するフォルダー

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナから除外するフォルダを指定できます。

プロファイルコンテナに含めるフォルダー

親フォルダが除外されている場合に、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナに保持するフォルダを指定できます。

このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。

この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

プロファイルコンテナに含めるファイル

親フォルダが除外されている場合に、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナに含めるファイルを指定できます。

このリストのファイルは、除外されたフォルダー内にある必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。

プロファイルコンテナから除外するファイル

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナから除外するファイルを指定できます。

プロファイル管理\レジストリ

除外リスト

Profile Managementがログオフ時に無視するHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。

例: Software\Policies

構成の優先順位:

- このポリシーが無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。
- ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

包含リスト

Profile Managementがログオフ時に処理するHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。

例: Software\Adobe。

構成の優先順位:

1. このポリシーが有効になっている場合、このリストのキーのみが処理されます。このポリシーが無効になっている場合、HKCUハイブ全体が処理されます。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、HKCUのすべてが処理されます。

デフォルトの除外リストを有効にする - Profile Management 5.5

Profile Managementがユーザープロファイルに同期しないHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。このポリシーを使用して、GPO除外ファイルを手動で入力することなく指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーを無効にすると、Profile Managementはデフォルトでレジストリキーを除外しません。
2. ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。
3. このポリシーをここでも.iniファイルでも構成しない場合、Profile Managementはデフォルトでレジストリキーを除外しません。

NTUSER.DATのバックアップ

NTUSER.DATの最後に正常に動作したコピーのバックアップを有効にし、破損が発生した場合にロールバックできるようにします。

ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。このポリシーをここでも.iniファイルでも構成しない場合、Profile ManagementはNTUSER.DATをバックアップしません。

プロファイル管理\ファイルシステム

除外リスト - ファイル

Profile Managementが同期中に無視するファイルを指定できます。ファイル名はユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスである必要があります。ワイルドカードが許可され、再帰的に適用されます。

例:

- `Desktop\Desktop.ini` は `Desktop` フォルダー内の `Desktop.ini` ファイルを無視します。
- `%USERPROFILE%*.tmp` はプロファイル全体で `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
- `AppData\Roaming\MyApp*.tmp` はプロファイルの一部で `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、ファイルは除外されません。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

デフォルトの除外リストを有効にする - ディレクトリ

Profile Managementが同期中に無視するディレクトリのデフォルトリストを指定できます。このポリシーを使用して、GPO除外ディレクトリを手動で入力することなく指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーを無効にすると、Profile Management はデフォルトでどのディレクトリも除外しません。
2. ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。
3. ここで、または .ini ファイルでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management はデフォルトでどのディレクトリも除外しません。

除外リスト - ディレクトリ

Profile Management が同期中に無視するフォルダーを指定できます。フォルダー名は、ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスとして指定する必要があります。

例:

- デスクトップは、ユーザープロファイル内のデスクトップフォルダーを無視します

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、フォルダーは除外されません。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここで、または .ini ファイルで構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

ログオン除外チェック

ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が何を行うかを指定できます。

構成の優先順位:

1. この設定が無効になっているか、デフォルト値の **除外されたファイルまたはフォルダーを同期する** に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Management はそれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

2. この設定が **除外されたファイルまたはフォルダーを無視する** に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。この設定が **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する** に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。
3. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. この設定がここで、または .ini ファイルで構成されていない場合、Profile Management は除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

大容量ファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル

シンボリックリンクとして作成されるファイルを指定できます。この設定は、ログオンパフォーマンスを向上させ、大容量ファイルを処理するために使用されます。

ファイルを参照するポリシーでワイルドカードを使用できます。例: `!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.OST`。

オフライン Outlook データファイル (*`.ost`) を処理するには、**Outlook** フォルダーが Profile Management の対象から除外されていないことを確認してください。

これらのファイルは、複数のセッションで同時にアクセスすることはできません。

プロファイル管理\ファイルシステム\同期

同期するディレクトリ

親フォルダーが除外されている場合に、Profile Management で同期するフォルダーを指定できます。

このリストのパスは、ユーザープロファイルに対する相対パスである必要があります。

Profile Management は、各ユーザーのプロファイル全体を、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で同期します。ユーザープロファイルのサブフォルダーをこのリストに追加して含める必要はありません。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。

同期するファイル

親フォルダーが除外されている場合に、Profile Management で同期するファイルを指定できます。

このリストのパスは、ユーザープロファイルに対する相対パスである必要があります。ファイル名とフォルダー名にはワイルドカードを使用できます。ただし、ワイルドカードはファイル名にのみ再帰的に適用されます。

例:

- AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat は、デフォルト構成で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
- AppData\Local\MyApp*.cfg は、プロファイルフォルダー AppData\Local\MyApp およびそのサブフォルダー内の拡張子 .cfg を持つすべてのファイルを指定します。

Profile Management は、各ユーザーのプロファイル全体を、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で同期します。ユーザープロファイル内のファイルをこのリストに追加して含める必要はありません。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。

ミラーリングするフォルダー

このポリシーは、トランザクションフォルダー（参照フォルダーとも呼ばれます）に関する問題の解決に役立ちます。この種のフォルダーには、相互に依存するファイルが含まれており、あるファイルが他のファイルを参照しています。

このポリシーを使用すると、Profile Management は、ユーザープロファイルを同期する際に、トランザクションフォルダーとその内容を単一のエンティティとして処理します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

フォルダーのミラーリングを高速化する

このポリシーと**ミラーリングするフォルダー**ポリシーの両方を有効にすると、Profile ManagementはミラーリングされたフォルダーをVHDXベースの仮想ディスクに保存します。ログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチします。このポリシーを有効にする

と、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなり、フォルダーのミラーリングが高速化されます。

プロファイル管理／ストリーミングユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

プロファイルストリーミング機能を有効にします。この機能を有効にすると、ユーザープロファイル内のファイルは、ユーザーがアクセスしたときにのみユーザー ストアからローカルコンピューターにフェッチされます。`NTUSER.DAT` ファイルと保留領域内のファイルは例外です。これらはすぐにフェッチされます。NTUSER.DAT にはレジストリエントリが保存されます。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする

ユーザープロファイル内のフォルダーに対してプロファイルストリーミング機能を有効にできます。

このポリシーと**プロファイルストリーミング**ポリシーの両方が**有効**に設定されている場合、ユーザープロファイル内のフォルダーは、ユーザーがアクセスしたときにのみ、ユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされます。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

常にキャッシュ

ログオン直後にユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされるファイルのサイズの下限を指定できます。

プロファイルストリーミング機能が有効になっている場合、ユーザープロファイル内のファイルは、ユーザーがアクセスしたときにローカルコンピューターにフェッチされます。このオンデマンドファイルフェッチメカニズムは、ユーザーが要求するファイルが大きい場合に読み込みが遅くなる原因となります。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは、指定されたサイズより大きいファイルをログオン直後にローカルコンピューターにフェッチします。

ログオン直後にプロファイル全体をローカルコンピューターにフェッチするには、この制限をゼロに設定します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

ペンディングエリアロックファイルのタイムアウト

Profile Managementがユーザーのファイルを解放するまでのタイムアウト期間（日数）を指定できます。タイムアウトが発生すると、ストレージサーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままの場合、ユーザーのファイルは保留領域からユーザーストアに書き込まれます。このポリシーを使用して、保留領域の肥大化を防ぎ、ユーザーストアに常に最新のファイルが含まれるようにします。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値の1日が使用されます。

ストリーミングされたユーザープロファイルグループ

ユーザープロファイルがストリーミングされるWindowsユーザーグループを指定できます。

このポリシーは、OU内のWindowsユーザーグループのサブセットのプロファイルをストリーミングします。他のすべてのグループのユーザーのプロファイルはストリーミングされません。

このポリシーが無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ

Profile Streaming が無視するフォルダーを指定できます。フォルダー名は、ユーザープロファイルに対する相対パスとして指定する必要があります。

例: `Desktop` と入力すると、ユーザープロファイル内の `Desktop` ディレクトリが無視されます。

構成の優先順位:

1. この設定が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。
2. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

> **注:**
>
> プロファイルストリーミングの除外は、構成されたフォルダーがプロファイル処理から除外されることを示すものではありません。Citrix Profile Management は引き続きそれらを処理します。

プロファイル管理\クロスプラットフォーム設定

クロスプラットフォーム設定を有効にする

クロスプラットフォーム設定を有効にできます。クロスプラットフォーム設定機能は、主に Windows 7 および Windows Server 2008 から Windows 8 および Windows Server 2012 への移行に使用されます。この移行では、Microsoft Office 2003 または Office 2007 から Office 2010 への移行も含まれる場合があります。

デフォルトでは、展開を容易にするために、クロスプラットフォーム設定は無効になっています。このポリシーは、この機能の十分な計画とテストを行った後にのみ有効にしてください。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ

クロスプラットフォーム設定機能が適用される Windows ユーザーグループを指定できます。たとえば、このポリシーを使用して、テストユーザーグループのプロファイルのみを処理できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが構成されている場合、Profile Management のクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、この機能は「処理されたグループ」ポリシーで指定されたすべてのユーザーを処理します。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

クロスプラットフォーム定義へのパス

定義ファイルが格納されているネットワークの場所を指定できます。

このパスは UNC パスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持ち、管理者は書き込みアクセス権を持っている必要があります。この場所は、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) ファイル共有である必要があります。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパス

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。このストアは、ユーザーのクロスプラットフォーム設定が保存されるフォルダーを指します。

このストアは、複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが格納されているユーザーストア内にあります。ユーザーはストアへの書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリからの相対パスにすることができます。**ユーザーストアへのパス**で使用される変数を使用できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、`Windows\PM_CP`パスが使用されます。
2. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

クロスプラットフォーム設定の作成元

このポリシーがそのプラットフォームのOUで有効になっている場合、プラットフォームをベースプラットフォームとして指定できます。このポリシーは、ベースプラットフォームのプロファイルからクロスプラットフォーム設定ストアにデータを移行します。デフォルトでは、このポリシーは無効になっています。

各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、個別のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアのシードとして使用するベースプラットフォームのプロファイルデータを決定します。

このポリシーが有効になっている場合、次のいずれかの状況が発生すると、Profile Managementはシングルプラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。

- クロスプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている。
- シングルプラットフォームプロファイルのキャッシュデータが、ストア内の定義データよりも新しい。

> **重要:**

> このポリシーが複数のOU、ユーザーオブジェクト、またはマシンオブジェクトで有効になっている場合、最初のユーザーがログオンするプラットフォームがベースプロファイルになります。

Profile Management\Citrix Virtual Appsの最適化設定

Citrix Virtual Apps™の最適化を有効にする

この機能を有効にすると、ユーザーが起動または終了する公開アプリケーションに固有の設定のみが同期されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Citrix Virtual Appsの最適化設定は適用されません。

Citrix Virtual Appsの最適化定義へのパス

Citrix Virtual Apps最適化の定義ファイルを保存するフォルダを指定できます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Citrix Virtual Apps最適化設定は適用されません。

> **注:**
>
> そのフォルダは、ローカルストレージまたはSMBファイル共有上に配置できます。

統合

プロファイル管理とCitrix Virtual Apps™

このバージョンのProfile ManagementをCitrix Virtual Appsサーバーで使用する場合、Profile Management EULAが適用されます。また、Profile Managementをローカルデスクトップにインストールして、ユーザーがローカルプロファイルを公開リソースと共有できるようにすることもできます。

注: Profile ManagementはCitrix Virtual Desktops™環境では自動的に構成されますが、Citrix Virtual Apps環境では構成されません。Citrix Virtual Apps展開のProfile Management設定を調整するには、グループポリシーまたは.iniファイルを使用してください。

Profile Managementは、Remote Desktop Services（以前はTerminal Servicesとして知られていました）を使用するCitrix Virtual Apps環境で動作します。これらの環境では、サポートされている各オペレーティングシステムに対してOUを設定する必要があります。詳細については、Microsoftのドキュメントを参照してください。

異なるバージョンのCitrix Virtual Appsを含むファーム、または異なるオペレーティングシステムを実行するファームでは、Citrixは、各バージョンまたはオペレーティングシステムを実行する各サーバーに対して個別のOUを使用することを推奨します。

重要: 複数のユーザーによって共有されるフォルダー（たとえば、Citrix Virtual Appsで公開された共有アプリケーションデータを含むフォルダー）の包含および除外はサポートされていません。

ストリーミングアプリケーション

Profile Managementは、アプリケーションがユーザーデバイスに直接ストリーミングされる環境、またはCitrix Virtual Appsサーバーにストリーミングされ、そこからユーザーに公開される環境で使用できます。

Citrix Virtual Appsのクライアント側アプリケーション仮想化テクノロジーは、アプリケーションを自動的に分離するアプリケーションストリーミングに基づいています。アプリケーションストリーミング機能により、アプリケーションをCitrix Virtual Appsサーバーおよびクライアントデバイスに配信し、保護された仮想環境で実行できます。アプリケーションの競合を防ぐために、ユーザーデバイス上でアプリケーションがどのように相互作用するかを制御する機能など、ユーザーにストリーミングされるアプリケーションを分離する理由はたくさんあります。たとえば、同じアプリ

ケーションの異なるバージョンが存在する場合、ユーザー設定の分離が必要です。Microsoft Office 2003がローカルにインストールされ、Office 2007がユーザーデバイスにストリーミングされる場合があります。ユーザー設定の分離に失敗すると競合が発生し、両方のアプリケーション（ローカルおよびストリーミング）の機能に深刻な影響を与える可能性があります。

ストリーミングアプリケーションでのProfile Managementの使用に関する要件については、「システム要件」を参照してください。

プロファイル管理とCitrix Virtual Desktops™

重要: Citrix Virtual Desktopsに統合されているプロファイル管理機能を使用することをお勧めします。詳しくは、 Citrix Virtual Desktopsのドキュメントを参照してください。このトピックの情報は、別の展開、つまりプロファイル管理コンポーネントが個別にインストールおよび構成されているCitrix Virtual Desktopsの使用に適用されます。

Citrix Virtual Desktops展開でのProfile Managementのインストールとアップグレード

このバージョンのProfile ManagementをCitrix Virtual Desktopsで使用するには、Profile ManagementのEULAに従う必要があります。EULAの条項に従い、Citrix Virtual Desktops環境でProfile ManagementをCitrix Virtual Apps™と併用することもできます。

Citrix Virtual Desktops展開環境でProfile Managementをアップグレードする場合は、Profile Managementのアップグレードに記載されているログファイルの場所への影響を考慮してください。

Quick DeployセットアップのCitrix Virtual Desktopsについては、構成の決定の推奨事項を参照してください。

Citrix Virtual Desktops展開でのProfile Managementの構成

イメージが展開される前にProfile Managementが正しく構成されていない場合、Profile Management Serviceはグループポリシーが適用される前に起動します。これを回避するには、イメージを実稼働環境に配置する前に、文書化された手順を使用して構成を実行してください。

重要：複数のユーザーで共有されるフォルダー（たとえば、複数の仮想デスクトップで共有できるデータを含むフォルダー）の包含と除外はサポートされていません。

Personal vDisk展開でのProfile Managementの構成

Citrix Virtual DesktopsのPersonal vDisk機能を使用する場合、Citrixユーザープロファイルはデフォルトで仮想デスクトップのPersonal vDisk（通常はP:ドライブ）に保存されます。プロファイルはユーザーのC:ドライブには保存されません。しかし、Profile ManagementはプロファイルをC:ドライブに見つけることを想定しています。そのため、Virtual Delivery Agentのインストールまたはアップグレード中に、マスターイメージのレジストリを変更する必要があります。さらに、Personal vDiskの空き容量を増やしたため、マスターイメージ上のアプリケーションのデフォルトのディスク容量割り当てを増やすことも良い方法です。これらの変更の手順については、Citrix Virtual Desktopsのドキュメントを参照してください。

Personal vDiskにコピーが残っている間に、ユーザーストア内のプロファイルのコピーを削除しないでください。削除すると、Profile Managementエラーが発生し、仮想デスクトップへのログオンに一時プロファイルが使用される原因となります。詳しくは、一般的な問題のトラブルシューティングの「ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る」を参照してください。

ウィンドウズ アプリ - マイクロソフト ストア

Citrix Virtual Desktops環境では、Microsoft Storeのアプリケーション（UWPアプリとも呼ばれる）がサポートされています。プールされたマシン（プールランダム、静的、またはRDS）でMicrosoft Storeアプリケーションを使用するには、グループポリシー管理エディターを開き、**［ポリシー］\>［管理用テンプレート］\>［従来の管理用テンプレート（ADM）］\>［Citrix］\>［Profile Management］\>［ファイルシステム］\>［同期］**で次の設定を構成します。

- ［ミラーするフォルダー］を有効にし、`appdata\local\packages`をミラーするフォルダーのリストに追加します
- 「同期するファイル」を有効にし、`!ctx_localappdata!` `\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*` を同期するファイルのリストに追加します

ユーザーが Personal vDisk (推奨されるソリューション) を使用して専用デスクトップにアクセスし、そのプロファイルがすでに別のデスクトップで作成されている場合、Microsoft Store アプリケーションが機能しない可能性があります。

Citrix Virtual Desktops の設定例

このトピックでは、一般的な Citrix Virtual Desktops 展開で使用される Profile Management のポリシー設定を一覧表示します。Windows 7 仮想デスクトップは Citrix Provisioning™ Services を使用して作成され、複数のユーザーで共有されます。この例では、プールされたランダムカタログから作成され、ログオフ時に削除されるデスクトップは、静的ワークステーション (モバイルノートパソコンではない) での使用を目的としており、Personal vDisk は使用されません。

ポリシーがリストされていない場合、グループポリシーで選択または入力が行われておらず、デフォルト設定が適用されます。

以下に注意してください。

- **ユーザーストアへのパス** - Profile Management の変数をユーザーストアへのパスに組み込むことができます。この例では、パスが解釈されるときにそれぞれ Win7 と x86 に展開される \!CTX_OSNAME\! と \!CTX_OSBITNESS\! を使用しています。AD 属性 #sAMAccountName# もユーザー名を指定するために使用されます。
- **ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する** - このポリシーを無効にしても安全です。デスクトップには Personal vDisk が含まれておらず、ユーザーがログオフすると削除されるためです。したがって、ローカルにキャッシュされたプロファイルを保持する必要はありません。(デスクトップがログオフ時に破棄されない場合は、このポリシーを有効にしてください。)
- **プロファイルストリーミング** - この設定を有効にすると、この展開でのログオン時間が短縮されます。
- **アクティブライトバック** - このポリシーは、この展開のプールされたデスクトップがユーザーに一時的に割り当てられるため、有効になっています。そのため、ユーザーはプロファイルを変更しても、デスクトップセッションを閉じるのを忘れる (または気にしない) 可能性があります。この設定を有効にすると、プロファイル内のローカルファイルの変更がログオフ前にユーザーストアにミラーリングされます。

注: アクティブライトバックポリシーを有効にすると、セッション内で多数のファイル操作 (ファイルの作成、ファイルのコピー、ファイルの削除など) を実行すると、高いシステム I/O アクティビティが発生し、Profile Management がファイルの変更をユーザーストアに同期している間、一時的なパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

- **ローカル管理者のログオンを処理する** - ほとんどのユーザーがローカル管理者である Citrix Virtual Desktops 展開では、この設定を有効にすることをお勧めします。
- **処理されたグループ** - すべてのドメインユーザーのプロファイルは Profile Management によって管理されます。
- **除外リスト - ディレクトリ** (ファイルシステム) および **除外リスト** (レジストリ) - これらの設定は、リストされた一時ファイルまたはキャッシュファイル、およびリストされたレジストリエントリが処理されるのを防ぎます。これらのファイルとエントリは、一般的にユーザープロファイルに保存されます。
- **同期するディレクトリ** および **同期するファイル** - ユーザーのアプリケーションデータがどこに保存されているかを知ることで、これらの設定を定義するのに役立ちました。

重要: Citrix Virtual Desktopsの展開は様々であるため、お客様が決定するProfile Managementポリシー設定は、この例の設定とは異なる可能性があります。設定を計画するには、次のアドバイスに従ってください。 構成の決定。

Citrix/プロファイル管理

プロファイル管理を有効にする

> 有効

処理されたグループ

> MyDomainName\\ドメインユーザー

ユーザー ストアへのパス

> \\\\MyServer.MyDomain\\MyUserStore\\#sAMAccountName#\\\!
> CTX_OSNAME\!_\!CTX_OSBITNESS\!

アクティブ ライトバック

> 有効

ローカル管理者のログオンを処理する

> 有効

Citrix/プロファイル管理/プロファイル処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

> 無効

Citrix/Profile Management/詳細設定

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

> 有効

Citrix/Profile Management/ファイルシステム

除外リスト - ディレクトリ

```
$Recycle.Bin


AppData\\Local\\Microsoft\\Windows\\一時インターネットファイル


AppData\\Local\\Microsoft\\Outlook


AppData\\Local\\Temp


AppData\\LocalLow


AppData\\Roaming\\Microsoft\\Windows\\スタートメニュー


AppData\\Roaming\\Sun\\Java\\Deployment\\cache


AppData\\Roaming\\Sun\\Java\\Deployment\\log


AppData\\Roaming\\Sun\\Java\\Deployment\\tmp
```

Citrix/Profile Management/ファイルシステム/同期

同期するディレクトリ

```
AppData\\Microsoft\\Windows\\スタートメニュー\\プログラム\\ダズルアプリ
```

ミラーリングするフォルダー

```
AppData\\Roaming\\Microsoft\\Windows\\Cookies
```

Citrix/Profile Management/ストリーム配信ユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

有効

プロファイル管理とVDI-in-a-Box

重要:

Citrix VDI-in-a-boxは2018年にサポート終了 (EOL) となりました。VDI-in-a-boxで作成されたデスクトップでプロファイル管理を引き続き使用できますが、技術サポートは提供されなくなりました。

Citrix VDI-in-a-Boxで作成されたデスクトップでプロファイル管理を使用できます。

このバージョンのプロファイル管理をVDI-in-a-Boxで使用するには、プロファイル管理のEULAが適用されます。EULAの条項に従い、VDI-in-a-Box環境でCitrix Virtual Appsとプロファイル管理を併用することもできます。詳しくは、「プロファイル管理とCitrix Virtual Apps」を参照してください。

プロファイル管理と UE-V

Profile Management 5.x と Microsoft User Experience Virtualization (UE-V) 2.0 は、同じ環境で共存できます。UE-V は、複数のプロファイルバージョンが存在する場合（たとえば、バージョン1とバージョン2のプロファイル）に役立ちます。このため、UE-V が存在する場合は、Citrix Profile Management のクロスプラットフォーム設定機能を使用しないでください。UE-V は、より多くのアプリケーション、ユーザーセッション中の同期、およびアプリケーションの XML 構成と生成をサポートするため、その機能よりも優先される場合があります。

Profile Management が UE-V と共存する場合、クロスプラットフォーム設定機能が有効になっているかどうかにかかわらず、次の点に注意してください。

- `AppData\Local\Microsoft\UEV` フォルダーを除外します。UE-V によってキャプチャされたプロファイル設定は、Profile Management によってキャプチャされたプロファイル設定を上書きします。
- UE-V によって制御されるプロファイルを、Profile Management のみによって制御されるプロファイルと共有しないでください。共有すると、「最後の書き込みが優先」されます。つまり、プロファイルを同期する最後のコンポーネント（UE-V または Profile Management）が、どのデータが保存されるかを決定し、データ損失につながる可能性があります。

注： UE-V には Microsoft Desktop Optimization Pack (MDOP) が必要です。

プロファイル管理とCitrix Content Collaboration™

この記事の情報は、Citrix Content Collaborationの展開におけるプロファイル管理の使用に適用されます。その一部は、他のインターネットベースのファイル共有システムにも役立つ場合があります。

Profile Management 4.1.2以降でCitrix Content Collaborationを使用できます。Citrix Content Collaborationはオンデマンドモードでのみサポートされています。

インストール

ShareFile 2.7を使用している場合、互換性の問題を回避するために、Profile Managementをインストールする前にこのバージョンをインストールしてください。このインストール依存関係はShareFile 2.6には存在しません。

除外

Citrix Content Collaborationは、構成データをローカルの`\AppData\Roaming\ShareFile`フォルダーに保存します。Citrixユーザープロファイルを持つユーザーの場合、ユーザー固有のCitrix Content Collaboration構成が保持されるように、このデータはユーザープロファイルとともにローミングする必要があります。この`ShareFile`フォルダーはプロファイルの一部であるため、プロファイル管理の構成は不要です。構成データはデフォルトでローミングされます。

ただし、Citrix Content Collaborationによって管理されるユーザーデータは、プロファイルのルートにある`ShareFile`フォルダー（`%USERPROFILE%\ShareFile`）に含まれています。このデータは、Citrix Content Collaborationサーバーによって管理され、同期されるため、プロファイルとともにローミングしてはなりません。したがって、このフォルダーをプロファイル管理の除外対象

として追加する必要があります。除外設定の手順については、「アイテムの包含と除外」を参照してください。

パーソナル vDisk

Personal vDiskを使用して仮想デスクトップを作成する場合、vDisk上のユーザーデータの場所でCitrix Content Collaborationを構成します。これにより、デスクトップとCitrix Content Collaborationサーバー間でファイル同期が行われるようになります。デフォルトでは、Personal vDiskはデスクトップ上でP:ドライブとしてマップされるため、データは`P:\Users\<user name\>`に配置される可能性があります。この場合、Citrix Content CollaborationのLocalSyncFolderポリシーを使用して場所を設定します。

重要: Profile ManagementとPersonal vDiskのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性のある不要な同期を防ぐため、仮想デスクトップで同期する必要がない限り、大きなファイルを含むフォルダーには**Folder-ID**設定を使用することをお勧めします。これはShareFileの設定です。

プロファイル管理とApp-V

Profile Managementは、Microsoft Application Virtualization 5.x（App-V 5.x）と同じ環境で使用できます。

> **注:**

> Profile Managementは、グローバルに公開されたApp-Vのみをサポートしています。

> Profile Managementの除外機能を使用して、以下の項目を除外します。

- プロファイル管理\\ファイルシステム\\除外リスト\\ディレクトリ:
  - `AppData\Local\Microsoft\AppV`
  - `AppData\Roaming\Microsoft\AppV\Client\Catalog`
- プロファイル管理\\レジストリ\\除外リスト:
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Integration`
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing`

除外設定の手順については、「項目の包含と除外」を参照してください。

App-V**UserLogonRefresh**設定が有効になっている場合は、Profile Managementのプロファイルストリーミングポリシーを無効にしてください。この制限は、**UserLogonRefresh**とプロファイルストリーミングの非互換性によるものです。

App-Vアプリケーションをシーケンスする方法の例については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/application-management/app-v/appv-sequence-a-new-application>`を参照してください。

App-Vが有効なサードパーティのProfile Managementソリューションの構成については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/microsoft-desktop-optimization-pack/appv-v5/performance-guidance-for-application-virtualization-50>`を参照してください。Microsoft Windows 10システムでは、`Software\Classes`を含めないでください。

プロファイル管理とプロビジョニングサービス

この記事には、Citrix Provisioning Servicesで作成された仮想ディスク（vDisk）上でCitrixユーザープロファイルを維持するためのアドバイスが含まれています。このアドバイスに従う前に、(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/plan/upm-plan-decide-4a.html)で説明されているように、vDisk構成がProfile Management構成にどのように影響するかを理解してください。

サポートされているモード

Profile Managementは、標準イメージモードおよびプライベートイメージモードで実行されているvDiskで使用できますが、差分ディスクイメージモードでは使用できません。

マスターターゲットデバイスから不要なローカルキャッシュプロファイルを削除するには

不要なローカルキャッシュプロファイルが保存されないようにするには、マスターターゲットデバイスイメージを取得する前に、標準イメージモードで実行されているvDiskからこれらのプロファイルを削除してください。ただし、現在ログオンしているローカル管理者のプロファイルは削除しないでください。これを実現する良い方法は次のとおりです。この手順中にエラーメッセージが表示される場合があります。

1. コンピューターを右クリックします。
2. プロパティを選択します。
3. ［システムの詳細設定］をクリックします。
4. ［詳細設定］タブで、［ユーザープロファイル］の［設定］をクリックします。
5. 削除する各プロファイルを強調表示し、［削除］をクリックします。

vDiskイメージからログファイルを取得する

このトピックでは、Citrix Provisioning™ Servicesで作成された共有（vDisk）イメージに存在するログファイルの使用に関するガイダンスを提供します。Profile Managementはログオフ時にファイルを保存します。しかし、vDiskイメージを使用する場合、ベースイメージがリセットされる可能性があり、その結果ログファイルが削除されるという事実に留意してください。したがって、ファイルを回復するために何らかの措置を講じる必要があります。講じる措置は、ログファイルがログオン時に削除されるかログオフ時に削除されるかによって異なります。

vDiskイメージの使用はCitrix Virtual Desktops™の展開で一般的であるため、このトピックのガイダンスでは、その製品を例として使用します。

ログオフ時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイル全体またはその一部がネットワーク上のユーザーストアに保存されない場合、ログファイルもそこに保存されません。

Provisioning Servicesのライトキャッシュがprovisioning Servicesを実行しているコンピューターに保存されている場合、この問題は発生しません。そして、ログファイルはユーザーストアに保存されます。

ライトキャッシュがローカルに保存されている場合、この手順ではユーザーと同じデバイスからログオンする必要があるかもしれません。ただし、ライトキャッシュがRAMにローカルに保存されている場合、これも失敗する可能性があります。

ライトキャッシュがProvisioning Servicesを実行しているコンピューター上にない場合、vDiskイメージのコピーを作成する必要があるかもしれません。それを新しい仮想マシンに割り当て、そのコンピューターに保存されるようにイメージ上のライトキャッシュを変更します。

1. Citrix仮想デスクトップで、デスクトップグループを作成し、仮想マシンを1台追加して、vDiskイメージを指すようにします。
2. 仮想マシンへのアクセスを1人のテストユーザーと管理者に付与します。
3. デスクトップグループのアイドルプール数を終日1に変更します（電源管理によるマシンのシャットダウンを防ぐため）。ログオフ動作を「何もしない」に設定します（マシンの再起動とイメージのリセットを防ぐため）。
4. テストユーザーとして仮想デスクトップにログオンし、その後ログオフします。
5. XenCenter®またはVMwareコンソールから管理者としてログオンし、ログファイルを取得します。

デスクトップグループの作成とプロパティの変更に関する詳細については、Citrix Virtual Desktopsのドキュメントを参照してください。

ログオン時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイルがネットワーク上のユーザーストアで最新であるにもかかわらず、ユーザーがログオンしたときに正しくロードされない場合、ログファイルのエントリは失われます。

1. `\\<vmhostname>\C$`にドライブをマップし、ユーザーがセッションからログオフする前にログファイルを特定します。ログファイルは完全ではありませんが（一部のエントリが欠落している可能性があります）、トラブルシューティングしている問題がログオン時に発生している場合、問題の原因を特定するのに十分な情報を提供できます。

Provisioning Servicesのログファイルを再配置するには

標準イメージモードを使用している場合、システムがシャットダウンするとProvisioning Servicesのイベントログファイルは失われます。これを防ぐためにファイルのデフォルトの場所を変更する方法については、Knowledge Centerの記事CTX115601を参照してください。

プロビジョニングされたイメージでProfile Managementを事前構成する

Citrix Provisioning Services、Citrix XenServer、VMware ESXなどのプロビジョニングソフトウェアを使用すると、Profile Managementがプレインストールされたイメージを構築できます。その際、イメージのセットアップ中にレジストリにグループポリシー設定の一部がキャプチャされる可能性があります。たとえば、Provisioning Servicesでプライベートイメージモードの場合に発生します。イメージを展開しても、設定はそのまま残ります。たとえば、Provisioning Servicesで標準イメージモードに戻した場合などです。理想的には、仮想マシンが実行を開始したときの状態と、ユーザーがログオンしたときの要件に適したデフォルトを選択してください。少なくとも、永続的？プロビジョニング済み？専用？共有？で説明されているポリシーに適切なデフォルトが設定されていることを確認してください。

Citrix Profile Management Serviceが開始される前に`gpupdate`が実行されない場合、デフォルトが使用されます。そのため、ほとんどの場合に適切なデフォルトであることを確認するのが最善です。この手順を使用して、これらの設定やイメージに保持したいその他の設定を事前構成します。

注：Provisioning Servicesを使用する場合は、まずProfile Managementの.iniファイルでイメージを事前構成することをお勧めします。テストが成功したことが確認されてから、設定を.admまたは.admxファイルに転送してください。

1. .admまたは.admxファイルを使用する場合は、適切なGPOでそのファイルを使用して目的の設定を変更します。.iniファイルを使用する場合は、この手順を省略します。変更は後の手順で行います。
2. ログレベルにも同じ変更を加えます。
3. 次のいずれかを実行します。
   - イメージをプライベートイメージモード（Citrix Provisioning™ Services）に切り替え、その上でオペレーティングシステムを起動します。
   - オペレーティングシステムを起動します（Citrix XenServer®またはVMware ESX）。
4. 管理者アカウント（設定した可能性のあるテストユーザーアカウントではない）を使用してログオンし、`gpupdate /force`を実行します。この手順により、レジストリが正しく構成されます。
5. .iniファイルを使用する場合は、ファイル内の目的の設定を変更します。
6. Profile Management Serviceを停止します。
7. 新しく作成されるログファイルとの混同を避けるため、古いProfile Managementログファイルと構成ログファイルを削除します。これらは古いイメージの名前を使用するファイル名を持っています。更新されたイメージには新しいファイル（新しいイメージの名前を持つ）があるため、これらは冗長です。
8. 次のいずれかを実行します。
   - イメージを標準イメージモード（Citrix Provisioning Services）に戻します。
   - 更新されたイメージ (Citrix XenServer または VMware ESX) を保存します。
9. イメージ上でオペレーティングシステムを起動します。

Profile Management とセルフサービスプラグイン

デフォルトでは、Profile Management は Windows の **メニュー** フォルダーを除外します。Citrix Self-service Plug-in ユーザーは、購読しているアプリケーションを **メニュー**で確認できません。このデフォルトの動作を調整するには、 ポリシーからフォルダー `%APPDATA%\Microsoft\Windows\Start Menu` を削除します。さらに、構成に GPO を使用する場合は、Profile Management の .ini ファイルを削除することがベストプラクティスです。これらのアクションにより、購読しているアプリケーション（およびユーザーが作成したサブフォルダー）を含む **メニュー** フォルダーが Profile Management によって処理されるようになります。

注： グループポリシーではなく Profile Management の .ini ファイルを使用している場合は、そのファイル内のデフォルトの除外リストからこのエントリを削除してください。

プロファイル管理とOutlook

この記事では、Microsoft Outlookをローミングプロファイルと統合するためのベストプラクティスについて説明します。

ユーザーがOutlookデータをネットワーク共有やローカルではなく、サーバーに保存するようにすることは良い習慣です。

ローミングプロファイルでは、環境変数 `%UserProfile%` で定義された場所（ローカルコンピューター上）にあるファイルとフォルダーは、`%UserProfile%\Local Settings` という1つのフォルダーを除いて、ユーザーとともにローミングします。この例外はOutlookユーザーに影響します。なぜなら、Microsoftの推奨により、デフォルトで一部のOutlookデータ（例えば、`.ost`、`.pst`、および `.pab` ファイル）がこの非ローミングフォルダーに作成されるためです。

重要: この場所にあるファイルは通常サイズが大きく、ローミングプロファイルのパフォーマンスを妨げます。

次のプラクティスは、Outlookを使用するローミングプロファイルのトラブルシューティングを減らし、ユーザーと管理者による適切なメール管理を促進します。

- 可能であれば、`.pst` ファイルの使用を禁止するMicrosoft Office用のADMテンプレートを使用してください。
- ユーザーがより多くのスペースを必要とする場合は、ネットワーク共有ではなく、Microsoft Exchangeサーバーのストレージを増やしてください。
- 個々のユーザーに `.pst` ファイルの例外を許可したり、個人のストレージ容量を増やしたりするのではなく、会社全体でメール保持ポリシー（会社全体のメールストレージサーバーを含むもの）を定義し、適用します。このポリシーは、ユーザーが受信トレイへのメール復元を簡単に要求できるようにすることで、`.pst` ファイルへの依存を抑制する必要もあります。
- `.pst` ファイルを禁止できない場合は、プロファイル管理またはローミングプロファイルを設定しないでください。**Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**機能は、`.pst` ファイル向けには設計されていません。

Windows プロファイルと Password Manager およびシングルサインオンの使用

この記事には、Profile Management に固有の情報は含まれていません。Citrix Single Sign-on がローカルプロファイル、移動プロファイル、強制プロファイル、またはハイブリッドプロファイルで最適に動作するように、特定の Windows オプションを構成する方法について説明します。このトピックは、Citrix Single Sign-on 4.8 または 5.0 に適用されます。

ローカルプロファイル

ローカルプロファイルは、ユーザーがログオンしたローカルサーバーに保存されます。Password Manager とシングルサインオンは、ユーザーレジストリの `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password Manager` ハイブにレジストリ情報を保存します。

`%SystemDrive%\Documents` および `Settings\%username%\NTUSER.DAT`。

ファイルは次の場所にも保存されます。

`%SystemDrive%\Documents and Settings\%username%\Application Data\Citrix\MetaFrame Password Manager`。

Windows 7 では、シングルサインオンは以下を使用します。

`%APPDATA%\Roaming\Citrix\MetaFrame Password Manager`

重要: シングルサインオンが以下のファイルに対してフルコントロールアクセス権を持っていることが重要です。

ファイル名	説明
%username%.mmf	aelist.ini へのポインターを持つユーザーの資格情報ファイル。
entlist.ini	同期ポイントまたは Active Directory でエンタープライズレベルで作成されたアプリケーション定義ファイル。
aelist.ini	ユーザーのローカルアプリケーション定義ファイル (applist.ini) とエンタープライズアプリケーション定義 (entlist.ini) をマージして作成されたアプリケーション定義ファイル。

ローミングプロファイル

ローミングプロファイルはネットワーク共有に保存され、ユーザーがログオンするたびにローカルサーバーのコピーと同期されます。ローミングプロファイルの展開を成功させるための特徴には、SAN (System Area Network) や NAS (Network Area Storage) などの高速ネットワーク接続が含まれます。その他の一般的な展開には、プロファイルが高可用性サーバーに保存されるクラスタリングソリューションがあります。

ローミングプロファイルと強制プロファイルの展開には、次の2つの問題があります。

- 単一のローミングプロファイルは、1つのファイル同期ポイントでのみ使用できます。複数の同期ポイントを使用すると、メモリマップトファイル (MMF) 内のデータが破損する可能性があります。
- ローミングプロファイルが複数の同時セッションで使用される場合、バックエンドのMMFを共有します。すべてのアクティブなセッションは、再試行ロックカウンター、最終使用データカウンター、イベントログエントリなどの共通セッションデータを共有します。

強制プロファイルまたはハイブリッドプロファイル

強制プロファイルは、定義上、ユーザーの読み取り専用プロファイルです。シングルサインオンには、**Application Data** の下のプロファイルフォルダーへの書き込み権限が必要です。強制プロファイルでは、ユーザーが変更を加えることはできますが、ログオフ時にその変更はプロファイルに保存されません。シングルサインオンが強制プロファイルで正しく機能するためには、Application Data フォルダーをリダイレクトする必要があります。

レジストリの変更は、ユーザーがログオンするたびに書き込まれます。資格情報が同期ポイントと同期されますが、変更はプロファイルに保存されません。

Windows 2000以降、Microsoftは**Application Data**フォルダーをリダイレクトするメカニズムを提供しています。ただし、Windows NT4ドメインを使用する場合は、**Application Data**フォルダーの場所を変更できるログオンスクリプトが必要です。これは、`Kix` や `VBScript` などのツールを使用して、**Application Data**フォルダーの書き込み可能な場所を定義することで実現できます。

次の例では、`Kix` を使用してユーザーログオン時に**Application Data**フォルダーをリダイレクトします。

重要: このサンプルスクリプトは情報提供のみを目的としています。ご自身の環境で使用する前に、必ずテストしてください。

```
$LogonServer = "%LOGONSERVER%"

$HKCU = "HKEY_CURRENT_USER"

$ShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Shell
```

```
Folders"

$UserShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User

Shell Folders"

$UserProfFolder =

"$LogonServer\profiles\@userID"

$UserAppData =

"$LogonServer\profiles\@userID\Application Data"

$UserDesktop =

"$LogonServer\profiles\@userID\Desktop"

$UserFavorites =

"$LogonServer\profiles\@userID\Favorites"

$UserPersonal = "X:\My Documents"

$UserRecent =

"$LogonServer\profiles\@userID\Recent"

if (exist("$UserAppData") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserAppData"'

endif

if (exist("$UserDesktop") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserDesktop"'

endif

if (exist("$UserRecent") = 0)
```

```
shell '%ComSpec% /c md "$UserRecent"'

endif

if (exist("$UserFavorites") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserFavorites"'

endif
```

ハイブリッドプロファイルは、強制プロファイルの問題に対するもう1つの解決策です。ユーザーがログオンすると、強制プロファイルがロードされ、カスタムアプリケーションがユーザーに利用可能なアプリケーションに基づいてユーザーレジストリハイブをロードおよびアンロードします。強制プロファイルと同様に、ユーザーはセッション中にレジストリのそれらの部分を変更できます。強制プロファイルとの違いは、ユーザーがログオフするときに変更が保存され、再度ログオンするときに再ロードされることです。

ハイブリッドプロファイルを使用する場合、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFramePassword` レジストリキーはログオンおよびログオフプロセスの一部としてインポートおよびエクスポートする必要があります。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、グループポリシーオブジェクトとActive Directoryを使用して実装されます。グループポリシーを使用して、ユーザープロファイルの一部であるフォルダーの場所を定義します。

リダイレクトできるフォルダーは4つあります。

- マイドキュメント
- アプリケーションデータ
- デスクトップ
- スタートメニュー

グループポリシーを使用して、基本リダイレクトと高度なリダイレクトの2つのリダイレクトモードを構成できます。どちらもシングルサインオンでサポートされています。Windows 2000では、アプリケーションデータを保存する共有を`%username%`変数を使用して参照する必要があります（例：`\\servername\sharename\%username%`）。

フォルダーリダイレクトはユーザーに対してグローバルであり、そのユーザーのすべてのアプリケーションに影響します。**Application Data**フォルダーを使用するすべてのアプリケーションは、これをサポートする必要があります。

フォルダーリダイレクトの詳細については、以下のMicrosoftの記事を参照してください。

方法: フォルダーリダイレクトを使用して安全なリダイレクトフォルダーを動的に作成する

Windowsのフォルダーリダイレクト機能

管理者がリダイレクトされたフォルダーにアクセスできるようにする

ベストプラクティス

- 可能な場合は、Application Dataフォルダーをリダイレクトします。このアプローチにより、ユーザーがログオンするたびにこれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなり、ネットワークパフォーマンスが向上します。
- Password Manager Agent のトラブルシューティングを行う際は、ログオンしているユーザーが Application Data フォルダーに対するフルコントロール権限を持っていることを常に確認してください。

トラブルシューティング

Profile Management 設定の確認

問題のトラブルシューティングの最初のステップとして、現在のProfile Management設定を次のように確認します。

1. Citrix Directorでトラブルシューティングを開始します。このコンソールには、問題の診断と修正に役立つプロファイルのプロパティが表示されます。
2. UPMConfigCheckツールを使用して、稼働中のProfile Management展開を調査し、最適に構成されているかどうかを判断します。

   このツールのインストールと使用に関する詳細については、Knowledge Centerの記事CTX132805を参照してください。
3. Profile Management .iniファイルが使用されている場合は、影響を受けるマシンでその構成を確認します。
4. リストとして入力するProfile Managementポリシー（除外リストや包含リストなど）を無効にするには、ポリシーをに設定します。に設定しないでください。
5. 影響を受けるマシンで`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies`レジストリエントリを確認します。GPタトゥーの問題により古いポリシーがある場合は、それらを削除します。タトゥーとは、ポリシーがGPから削除されてもレジストリに残る場合に発生します。
6. 各ユーザーに適用されているProfile Management設定が含まれているUPMSettings.iniファイルを確認します。このファイルは、ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーに存在します。

Profile Managementログファイルを確認する

ログファイルは、システム動作のトラブルシューティングに役立ちます。Profile Managementの設定を確認した後、Profile Managementのログ記録を有効にし、問題を再現してログファイルを確認します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションについて、Profile Managementのログ記録を有効にする。

2. マシンで問題を再現する。
3. `%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager`フォルダーにあるProfile Managementログファイル（例：#computername#.#domainname#_pm.log）でエラーと警告を確認します。それぞれ「ERROR」または「WARNINGS」という単語を検索して見つけます。

   ログファイルの詳細については、この記事の後半にあるリファレンスを参照してください。
4. ユーザーストアへのパスが正しいことを確認する。
5. Active Directoryからのすべての情報が正しく読み取られたことを確認する。
6. タイムスタンプを確認して、時間がかかりすぎるアクションがないか確認する。

> **ヒント:**
>
> Microsoft Excelを使用してProfile Managementログファイルを確認できます。詳細については、Knowledge Centerの記事CTX200674を参照してください。

Profile Managementのログ記録を有効にする

Profile Managementの展開で問題のトラブルシューティングを行う場合にのみ、すべてのイベントとアクションについてProfile Managementのログ記録を有効にしてください。問題が解決したら、ログ記録を無効にし、ログファイルには機密情報が含まれる可能性があるため削除してください。

このセクションでは、GPOと`UPMPolicyDefaults_all.ini`を使用して、すべてのイベントとアクションのログ記録を有効にする方法について説明します。

Citrix StudioおよびWorkspace Environment Management (WEM) を使用して、この目標を達成することもできます。詳しくは、「Profile Managementを一元的に構成する場所を決定する」を参照してください。

GPO を使用してログ記録を有効にする

GPOを使用してすべてのイベントとアクションのProfile Managementログを有効にするには、次の手順に従います。

GPOを使用してProfile Managementログを有効にし、関連設定を構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開き、グループポリシーオブジェクトを作成します。

2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMXファイル) > Citrixコンポーネント > Profile Management > ログ設定**にアクセスします。
3. 次のようにProfile Managementログを有効にします。
   a. **ログの有効化**をダブルクリックします。
   b. **有効**をクリックします。
   c. **OK**をクリックします。
4. Profile Managementですべてのイベントとアクションをログに記録できるようにします。
   a. **ログ設定**をダブルクリックします。
   b. すべてのイベントとアクションを選択します。説明について詳しくは、「イベントとアクション」を参照してください。
   c. **OK**をクリックします。
5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、次の手順に従います。
   a. 「**ログファイルの最大サイズ**」をダブルクリックします。
   b. 「**有効**」をクリックし、「**最大サイズ（バイト単位）**」フィールドにサイズを入力します。
   c. 「**OK**」をクリックします。

   > **ヒント:**
   >
   > 最大サイズに達すると、Profile Managementは1つのバックアップファイル（例：Logfilename.log.bak）を保持します。

6. マシンで`gpupdate /force`コマンドを実行します。

   これらのポリシーはマシンで有効になります。

ログ設定ポリシーの詳細については、Profile Managementのポリシーの説明とデフォルトを参照してください。

.iniファイルを使用してログを有効にする

`UPMPolicyDefaults_all.ini`を使用してすべてのイベントとアクションに対してProfile Managementのログを有効にするには、次の手順に従います。

1. Profile Managementのインストールフォルダー（デフォルトではC:\Program Files\Citrix\User Profile Manager）で`UPMPolicyDefaults_all.ini`を開きます。
2. **ログ設定**を検索して、設定を見つけます。

```
; Log settings
;
;LoggingEnabled=
;LogLevelWarnings=
;LogLevelInformation=
;LogLevelFileSystemNotification=
;LogLevelFileSystemActions=
;LogLevelRegistryActions=
;LogLevelRegistryDifference=
;LogLevelActiveDirectoryActions=
;LogLevelPolicyUserLogon=
;LogLevelLogon=
;LogLevelLogoff=
;LogLevelUserName=
;MaxLogSize=
;PathToLogFile=
```

3. `LoggingEnabled`に`1`を入力します。
4. `LogLevelWarnings`から`LogLevelUserName`までの各パラメーターに`1`を入力します。これらのパラメーターの詳細については、イベントとアクションを参照してください。
5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、必要に応じて`MaxLogSize`のサイズを入力します。
6. ログファイルのデフォルトフォルダーを変更するには、必要に応じて`PathToLogFile`のパスを入力します。

参照

このセクションでは、次の情報を提供します。

- ログの種類
- イベントとアクション
- Profile Managementログファイルのフィールド

ログの種類

この表には、Profile Managementのトラブルシューティングに利用できるログが一覧表示されています。

通称	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
Profile Management ログファイル	#computername#.#domainname#_pm.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	情報メッセージ、警告、エラーは、Profile Management ログファイルに書き込まれます。ドメイン名はコンピューターのドメインです。コンピューター名を特定できない場合、このログファイルは UserProfileManager.logという名前になります。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインを特定できない場合、ログファイルは #computername#_pm.logという名前になります。
Profile Management 構成ログファイル	#computername#.#domainname#_pm_config.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	構成ログファイルは、ログ記録がオフになっている場合でも、GPOおよび.ini ファイルの設定をキャプチャします。コンピューター名を特定できない場合、UserProfileManager_pm_configという名前になります。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインを特定できない場合、ログファイルは #computername#_p

通称	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
			m_config.logという名前になります。
Windowsイベントログ	Application.evtx	%SystemRoot%\System32\winevt\Logs	Microsoftイベントビューアーで表示するWindowsイベントは、主にエラー報告に使用されます。エラーのみが書き込まれます。

イベントとアクション

この表は、Profile Managementがログに記録できるイベントとアクションを示します。

種類	説明	.INIのパラメーター
一般的な警告	すべての一般的な警告。	LogLevelWarnings
一般的な情報	すべての一般的な情報。	LogLevelInformation
ファイルシステム通知	処理されたファイルまたはフォルダーが変更されるたびに、1つのログエントリが作成されます。	LogLevelFileSystemNotification
ファイルシステムアクション	Profile Managementによって実行されるファイルシステム操作。	LogLevelFileSystemActions
レジストリアクション	Profile Managementによって実行されるレジストリアクション。	LogLevelRegistryActions
ログオフ時のレジストリの差異	セッション中に変更されたHKCUハイブ内のすべてのレジストリキー。重要: この設定は、ログファイルに大量の出力を生成します。	LogLevelRegistryDifference

種類	説明	.INIのパラメーター
Active Directoryアクション	Profile ManagementがActive Directoryを照会するたびに、エントリがログファイルに書き込まれます。	LogLevelActiveDirectoryActions
ポリシー値	Profile Managementサービスが開始されるか、ポリシーの更新が行われると、ポリシー値がログファイルに書き込まれます。	LogLevelPolicyUserLogon
ログオン	ログオン中のアクションの系列がログファイルに書き込まれます。	LogLevelLogon
ログオフ	ログオフ中のアクションの系列がログファイルに書き込まれます。	LogLevelLogoff
パーソナライズされたユーザー情報	該当する場合、ユーザー名とドメイン名はログファイルの専用列に記録されます。	LogLevelUserName

ログファイルフィールド

Profile Managementログファイルの各行には、セミコロンで区切られた複数のフィールドがあります。この表は、ログファイルフィールドの一覧です。

フィールド	説明
日付	ログエントリの日付
時刻	ログエントリの時刻（ミリ秒を含む）
重大度	INFORMATION、WARNING、またはERRORのいずれか
ドメイン	ユーザーのドメイン（該当する場合）
ユーザー名	ユーザーの名前（該当する場合）

フィールド	説明
セッションID	セッションID（該当する場合）
スレッドID	この行を作成したスレッドのID
関数と説明	その時点で実行されているProfile Management関数の名前とログメッセージ

Windowsイベントの確認

Profile Managementによってログに記録されたWindowsイベントは、トラブルシューティングのための診断情報も提供します。Windowsイベントは、`%SystemRoot%\System32\winevt\Logs\`フォルダー内のApplication.evtxファイルに保存されます。

Windowsイベントビューアーを使用してイベントを表示するには、次の手順に従います。

1. Windowsマシンで**イベントビューアー**を起動します。
2. 左ペインで**Windowsログ > アプリケーション**ノードを選択します。

   イベントが右ペインに表示されます。

イベントの一覧

Profile Managementによってログに記録されるイベントは、すべてが連続して番号付けされているわけではなく、このバージョンのProfile Managementですべてが使用されるわけでもありません。ただし、以前のバージョンからアップグレードした場合はログに記録される可能性があります。

イベントID	説明	原因	処置
6	Citrix Profile Managementサービスが開始されました。	Citrix Profile Managementサービスが開始されました。これは、自動開始、手動開始、または再起動の結果である可能性があります。	起動または再起動が計画されていなかった場合は、イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示された是正措置を講じてください。

イベントID	説明	原因	処置
7	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。これは、手動停止の結果であるか、またはシャットダウン処理の一部である可能性があります。	サービス停止が計画されていなかった場合は、イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示された是正措置を講じてください。
8	ユーザーのプロファイルは、Citrix Profile Managementの新しいバージョンによって変更されており、このバージョンでは使用できなくなりました…	このマシンのCitrix Profile Managementサービスは、Profile Managementの新しいバージョンがユーザーストア内のユーザープロファイルを変更したことを検出しました。データの損失を防ぐため、以前のバージョンのProfile Managementは一時プロファイルの使用に戻ります。	このコンピューター（およびユーザーストアを共有し、以前のバージョンのProfile Managementを使用している他のすべてのコンピューター）をアップグレードして、最新バージョンを使用するようにしてください。
9	ログオンフックの検出で問題が発生しました…	Citrix Profile Managementサービスは、ログオン通知の設定中に問題を検出しました。Citrix Profile Managementサービスでは、インストールパスにスペースが含まれていないか、サービスがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポート	Citrix Profile Managementをスペースのないパスに再インストールするか、またはProfile Managementがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポートを有効にしてください。

イベントID	説明	原因	処置
		が有効になっている必要があります。	
10	ユーザーストアへのユーザーパスは…	指定された場所に有効なCitrixユーザープロファイルが見つかりました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
11	spsMain: CreateNamedPipe が失敗しました…	(このイベントは使用されなくなりました。)	なし。
12	StartMonitoringProfile: ログオン中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピュータに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
13	StopMonitoringProfile: ログオフ中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダの監視を停止できませんでした。Windows変更ジャーナル管理で問題が検	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピュータに十分なシステム

イベントID	説明	原因	処置
		出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダを処理しません。ユーザーのファイルとレジストリの変更は同期されません。	リソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
14	CJIncreaseSizeIfNecessary: 変更ジャーナルの作成/サイズ変更に失敗しました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルを作成またはサイズ変更しようとしたときに問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
15	CJInitializeForMonitoring: ジャーナルを照会できません…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピュー

イベントID	説明	原因	処置
		ジャーナルを照会しているときに問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	ターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
16	CJInitializeForMonitoring: 初期MFTスキャンがエラーで終了しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
17	CJInitializeForMonitoring: サービス開始以降のFS変更の処理に失敗しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更	このエラーはProfile Managementの動作を妨げるものではありませんが、念のためエラーを確認してください。Profile Managementによって管理されているす

イベントID	説明	原因	処置
		ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出されました。このエラーは、サービスが変更を監視することを妨げません。Citrix Profile Managementはこのディレクトリを通常どおり処理します。	べてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
18	CJProcessAvailableRecords: 内部エラー…	プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視中に、Citrix Profile Managementサービスで障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが最近の変更を監視できません。Citrix Profile Managementはこのフォルダーの処理を完了しません。重要なデータは手動でバックアップしてください。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できません。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
19	USNChangeMonitor: 変更ジャーナルの初期化に失敗しました…	プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視中に、Citrix Profile	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に

イベントID	説明	原因	処置
		Managementサービスで障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを準備中に問題が検出され、サービスが変更を監視できません。Citrix Profile Managementはこのディレクトリの処理を完了しません。重要なデータは手動でバックアップしてください。	構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できません。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
20	CADUser::Init: DNSドメインとADsPathの決定に失敗しました…	ログオンしているユーザーに関する情報をActive Directoryにクエリ中に問題が発生しました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	コンピューターがドメインコントローラーへの機能的なネットワークパスを持っていることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含む、示された是正措置を講じてください。
21	DNSドメインとADsPathの決定に失敗しました…	この問題は、Microsoft TechNetの記事263693で説明されているように、メモリ割り当ての制限が原因で発生する可能性があります。	この問題の解決策は、Citrix Knowledge Centerの記事CTX124953に記載されています。

イベントID	説明	原因	処置
22	ファイルアクセスが遅かった。ユーザーがユーザー ストアからファイルをフェッチしている間に遅延が発生しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Managementはこの操作に遅延を検出しました。ユーザーは警告メッセージを受け取りました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザー ストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズアンチウイルス製品に関するトラブルシューティングと構成のアドバイスについては、Profile Managementのドキュメントを参照してください。
23	ファイルアクセスが拒否される可能性があります。ユーザーがユーザー ストアからファイルをフェッチしている間に、長い遅延が発生しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Managementはこの操作に非常に大きな遅延を検出したため、アクセスが拒否される可能性があります。ユーザーはエラーメッセージを受け取りました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザー ストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズアンチウイルス製品に関するトラブルシューティングと構成のアドバイスについては、Profile Managementのドキュメントを参照してください。
24	RevertToSelfがエラーコードで失敗し、Profile Managementが	一部のログオンおよびログオフ処理は、偽装を使用して実行されます。RevertToSelf関数は通常、偽装が完了し	セキュリティ侵害が疑われる場合は、組織の手順に従って対処し、Profile

イベントID	説明	原因	処置
	シャットダウンされました。	たときに呼び出されます。この場合、関数が呼び出されませんでした。そのため、セキュリティ上の理由から、Profile Managementソフトウェアはシャットダウンされました。ユーザーはエラーメッセージを受け取りました。	Managementを再起動してください。
25	ユーザーのプロファイルはCitrix Profile Managementによって管理されていますが、ユーザー ストアに到達できません…	このコンピューター上のCitrix Profile Management Serviceは、指定されたユーザー ストアに到達できません。これは通常、ネットワークの問題か、ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないためです。	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であり、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
26	デフォルトのプロファイル場所が無効です。この場所にあるプロファイルは正しく監視できません…	このコンピューター上のプロファイルは、ドライブ文字（例: C:）にマウントされたディスク上にある必要があります。	このコンピューター上のプロファイルをドライブ文字にマウントされたディスクに移動し、Profile Managementを再起動してください。
27	ユーザーのプロファイルフォルダーがデフォルトのプロファイル場所にありません…	レジストリでは、このユーザーのプロファイルの場所とデフォルトプロファイルの場所が一致しません。これは、たとえば、Profile Management Service	このユーザーのプロファイルがデフォルトのフォルダーの場所にあることを確認してください。必要に応じて適切なツールを使用して、ファイルシステム内のプ

イベントID	説明	原因	処置
		を実行しているマシン上の異なるボリューム間でプロファイルが移動された場合に発生する可能性があります。	ロファイルデータがプロファイルのレジストリ設定と一致するようにしてください。
28	ユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしようとしているときにエラーが発生しました。	このCitrixユーザープロファイルを作成するために使用されたデフォルトまたはテンプレートプロファイルのレジストリに権限の問題がある可能性があります。	必要に応じて、SetAclなどのサードパーティユーティリティを使用して、Profile Management ユーザー ストア内のユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしてください。
29	テンプレートプロファイルパスが構成されていますが、プロファイルが見つかりませんでした...	指定されたフォルダーにはNTUSER.DATファイルが含まれていないため、テンプレートプロファイル設定で使用できません。この問題は、NTUSER.DATファイルを含むフォルダーではなく、NTUSER.DATファイルのフルパスが構成されている場合に頻繁に発生します。テンプレートプロファイル設定は、Active Directory属性、システム環境変数、または `%USERNAME%` および `%USERDOMAIN%` 変数の展開をサポートしていません。	テンプレートプロファイルを含むフォルダーへの有効なパスが構成されていることを確認してください。パスにNTUSER.DATが含まれていることを確認してください。このファイルが有効であり、すべてのファイルへの読み取りアクセスを許可するようにフォルダーのアクセス権が正しく設定されていることを確認してください。

イベントID	説明	原因	処置
33	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるローカルプロファイルからユーザーストアにプロファイルを作成しました	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
34	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにある移動プロファイルからユーザーストアにプロファイルを作成しました	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
35	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるテンプレートプロファイルからユーザーストアにプロファイルを作成しました	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています
36	USER の既存のプロファイルフォルダを、このユーザーの新しいCitrix強制プロファイル用に準備できません。可能であれば、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。	Citrix強制プロファイルは、ログオンごとにテンプレートプロファイルのコピーを使用します。既存のプロファイルはすべて削除され、指定されたテンプレートの場所からCitrix強制プロファイルがコピーされます。このプロセスは失敗しました。	既存のプロファイルフォルダは手動で削除してください。ファイルが別のプロセスによってロックされており、削除が失敗する場合は、コンピューターを再起動する必要があるかもしれません。テンプレートフォルダが存在し、ユーザーがその内容を読み取る権限を持っていることを確認してください。

イベントID	説明	原因	処置
37	ユーザーのユーザーストアパスに到達できません。このユーザーのために一時プロファイルが作成され、このユーザーストア内のプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上のCitrix Profile Management Serviceは、指定されたユーザーストアに到達できません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザーストアをホストしているサーバーが利用できないためです。	ユーザーストアをホストしているサーバーが利用可能であり、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
38	ユーザーのプロファイルはCitrix Profile Managementによって管理されていますが、ユーザーストアパスが見つかりません。このユーザーのために一時プロファイルが作成され、このユーザーストア内のプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上のCitrix Profile Management Serviceは、指定されたユーザーストア内のプロファイルを見つけることができません。これは、ネットワークの問題、またはユーザーストアをホストしているサーバーが利用できないためである可能性があります。しかし、ユーザーストア内のプロファイルが削除または移動されたためである可能性もあります。あるいは、ユーザーストアへのパスが変更され、ユーザーストア内の既存のプロファイルを正しく指していないためである可能性もあります。	ユーザーストアをホストしているサーバーが利用可能であることを確認してください。そして、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作しており、ユーザーストアへのパスが既存のプロファイルを指していることを確認してください。ユーザーストア内のプロファイルが削除されている場合は、ローカルマシン上のプロファイルを削除してください。

イベントID	説明	原因	処置
42	ユーザー `<userdomain>\<username>` のポリシー設定を更新しようとしているときにエラーが発生しました。ポリシー設定が正しく適用されていない可能性があります。エラーコード: `<error code>`	Citrix Profile Managementは、Citrixグループポリシー設定の更新に失敗しました。	Citrix Group Policy Client-Side Extension がインストールされ、正常に動作していることを確認します。
3005	`<path1>` からアクセスポイント `<path2>` への仮想ディスクのマウントに失敗しました。	Citrix Profile Management は仮想ディスクをアクセスポイントにマウントできませんでした。この問題は、仮想ディスクにアクセスできない場合、アクセスポイントが空でない場合、または仮想ディスクがすでにマウントされている場合に発生する可能性があります。	マシンを再起動し、問題が解決されたかどうかを確認します。解決しない場合は、CDFトレースを収集し、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。
3008	`<path1>` からアクセスポイント `<path2>` への検索データベースのマウントに失敗しました。	Windows Search サービスは検索データベースをマウントできませんでした。この問題は、検索データベースが破損している場合に発生する可能性があります。	CDFトレースを収集し、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

一般的な問題のトラブルシューティング

この記事では、一般的なProfile Managementの問題をトラブルシューティングする方法について説明します。

ログオンが遅い

ユーザーのログオンが遅い場合は、以下の手順でトラブルシューティングを行ってください。

1. Citrix Directorのパネルでプロファイルの読み込み時間を確認します。予想よりも大幅に長い場合は、ユーザープロファイルの読み込みが原因でログオンが遅くなっています。

   詳細については、ユーザーログオンの問題の診断を参照してください。

2. Citrix Profile Managementログファイルでプロファイル処理時間を確認します。

   `C:\Windows\System32\Log Files\User Profile Manager`にあるProfile Managementログファイルで、`DispatchLogonLogoff`で始まるエントリを見つけます。次の例は、ログオン処理時間が10.22秒であることを示しています。

   `DispatchLogonLogoff: ---------- Finished logon processing successfully in [s]: <10.22>.`.

3. Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

   ログオンの遅延が続く場合は、Citrixテクニカルサポートに連絡してさらにサポートを受けてください。詳細については、Citrixテクニカルサポートへのお問い合わせを参照してください。

プロファイルがストリーミングされていることを確認する

ストリーミングユーザープロファイルを有効にしており、この機能がユーザープロファイルに適用されていることを確認したい場合は、次の手順を実行します。

1. Profile Managementログファイルで次の種類のエントリを確認します。

   ```
   2010-03-16;16:16:35.369;INFORMATION;;;;1140;ReadPolicy: Configuration value read from policy: PSEnabled=<1>
   ```

   機能が有効になっている場合、最後の項目はPSEnabled=\<1\>に設定されている必要があります。

2. Profile Managementログファイルで、ユーザーの次のエントリを確認します。

```
2010-03-16;20:17:30.401;INFORMATION;<domain name>;<user
name>;2;2364;ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile
support enabled.
```

ストリーミングユーザープロファイルが適用されていない場合、項目には「ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile support disabled」と表示されます。

適用されているポリシーを特定する

適用されているProfile Managementポリシーを特定するには、UPMSettings.iniファイルを使用します。このファイルは、ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーに存在します。このファイルを調べることは、ポリシーの結果セット（RSoP）を使用するよりも便利な場合があります。特に、GPOと.iniファイル設定を組み合わせてポリシーを決定している場合はそうです。

除外リストにあるため処理されないプロファイルフォルダーを特定するには、UPMFRSettings.iniファイルを使用します。UPMFRSettings.iniファイルもルートフォルダーに存在します。

破損したプロファイルデータを除外する

ユーザープロファイルが破損しており、問題が特定のファイルまたはフォルダーにあると確信している場合は、同期プロセスから除外します。その方法は、そのファイルまたはフォルダーを除外リストに追加することです。

レジストリエントリへの接続をクリーンアップする

一部のシナリオ（Profile Managementに関連するものだけでなく）では、ユーザーがログオフした後もレジストリプロファイルデータへの接続が保持されます。この保持により、ログオフが遅くなったり、ユーザーセッションが完全に終了しなかったりする可能性があります。MicrosoftのUser Profile Hive Cleanup (`UPHClean`) ツールは、これらのシナリオの解決に役立ちます。

ローカルプロファイルを削除する

Microsoft Delprof.exeとSepago Delprof2は、ユーザープロファイルの削除に役立つツールです。

プロファイルが保存されている場所を特定する

プロファイルの問題を診断するには、ユーザープロファイル内のファイルがどこに保存されているかを特定する必要があります。以下の手順は、プロファイルが保存されている場所をすばやく特定する方法を提供します。

1. イベントビューアーで、左ペインの をクリックします。

2. 右ペインの の下で、目的のCitrix Profile Managementイベントを見つけてダブルクリックします。
3. イベントに関連付けられたユーザーストアへのパスは、 タブにリンクとして表示されます。
4. ファイルを探索したい場合は、リンクをたどってユーザー ストアを参照してください。

サーバーの確認

サーバーがユーザーのログオンとログオフを正しく処理しているかどうかを確認するには、ユーザー ストア内のユーザー プロファイルにある PmCompatibility.ini というファイルをチェックします。このファイルはプロファイルのルート フォルダーにあります。ファイルの最後の項目は、ユーザーが最後にログオフしたサーバーの名前です。たとえば、サーバーが Profile Management 5.0 を実行している場合、項目は次のようになります。

```
[LastUpdateServerName]

5.0=<computer name>
```

ロールバック

Profile Management の以前のバージョンにロールバックするには、ユーザー ストアをホストするファイル サーバーのコマンド ラインから **del /s** を実行します。このコマンドは、各プロファイルから PmCompatibility.ini ファイルを削除します。たとえば、ユーザー ストアへのローカル パスが `D:\UpmProfiles` の場合、次を実行します。

```
del /s D:\UpmProfiles\pmcompatibility.ini
```

コマンドが完了すると、ユーザーは以前のバージョンを実行しているコンピューターにログオンし、ユーザー ストアからプロファイルを受け取ることができます。

ユーザー ストア内の除外フォルダー

除外フォルダーはユーザー ストアに表示されます。これは想定される問題であり、修正措置は不要です。除外リストにあるフォルダーはユーザー ストアに作成されますが、その内容は同期されません。

ログ ファイル内の情報が不足している

デバッグ モードをアクティブにしても、完全なログ記録が自動的に有効になるわけではありません。ログ設定で、ログに記録するイベントのすべてのチェック ボックスが選択されていることを確認してください。

ヒント: リストの最後のチェック ボックスを有効にするには、下にスクロールする必要がある場合があります。

GPO 設定が機能しない

GPO 設定を変更しても、Citrix Profile Management Service を実行しているコンピューターで機能しません。この問題は、GP がすぐに更新されず、展開で指定されたイベントまたは間隔に基づいているために発生します。GP をすぐに更新するには、コンピューターで `gpupdate /force` を実行します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンド プロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る

デフォルトでは、問題が発生した場合、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合などです。あるいは、エラーメッセージを表示してからユーザーをログオフするようにProfile Managementを構成することもできます。このアプローチは、トラブルシューティングに役立ちます。

この機能の構成方法については、「ユーザーのログオフを強制する」を参照してください。

状況によっては、ユーザーがログオンしたときに、キャッシュされたプロファイルの代わりに新しいプロファイルを受け取ることがあります。

ユーザー ストア内のコピーが削除された後にローカル プロファイルが存在する場合、ユーザーは一時プロファイルを受け取ることもあります。この状況は、ユーザー ストアがクリアされても、ログオフ時にローカル プロファイルが削除されない場合に発生する可能性があります。

Profile Managementは、このような部分的なプロファイルの削除をネットワーク、共有、または権限のエラーとして扱い、ユーザーに一時プロファイルを提供します。このため、部分的な削除は推奨されません。この問題を回避するには、影響を受けるコンピューターにログオンし、プロファイルを手動で削除してください。

展開にパーソナルvDiskが含まれている場合、これらのディスクのデフォルト処理が正しく調整されていないと、ユーザーは一時プロファイルを受け取る可能性があります。詳細については、「ユーザープロファイルの移行」を参照してください。

仮想デスクトップセッションが応答しなくなったときにプロファイルデータが失われる

Citrix仮想デスクトップの展開では、リモートデスクトッププロトコル（RDP）セッションから切断すると、仮想デスクトップが応答しなくなったり、再起動したりする可能性があります。この動作は、セッション終了時にプロファイルデータが失われるため、Profile Managementに影響を与えます。この問題は、Citrix Virtual Delivery Agentバージョン3.1.3242以降で修正されています。

ユーザーがログオンできない（イベントID: 1000、ソース: Userenv）

ユーザーはCitrix環境にログオンできず、次のエラーメッセージを受け取ります。「Windowsはローミングプロファイルをロードできませんでした。ローカルプロファイルでログオンしようとしています...ネットワーク管理者に連絡してください。」このエラーは、Windowsアプリケーションイベントログ（イベントID: 1000、ソース: Userenv）に表示されます。

印刷

Citrix virtual desktops™環境では、ユーザーはデフォルトのプリンターを選択できますが、ログオン間でその選択が保持されないことがあります。この問題は、Citrix Provisioning Services Personal vDiskを標準イメージモードで使用するプールされた仮想デスクトップでプリンターを設定するために、Citrix仮想デスクトップのポリシーが使用される場合に観察されています。

この問題はProfile Managementに起因するものではありません。Profile Managementのログファイルには、プリンターのレジストリエントリがログオフ時にコピーされたことが示されていますが（これは予期される動作です）、ユーザーのNTUSER.datにはそのエントリが含まれていません（これは予期されない動作です）。この問題は実際には、Citrix仮想デスクトップが`DefaultPmFlags`レジストリ設定を使用する方法に起因しています。

時々、予期しないプリンターがプロファイルに追加されることがあります。ユーザーがそれらを削除しても、次のログオン時にプリンターが再表示されます。詳細については、Profile Managementサポートフォーラムを参照してください。

複数のプラットフォームでのアプリケーション設定に関する問題

複数のプラットフォーム間でアプリケーション設定が正しくローミングされないという問題が発生する可能性があります。通常、これらの問題は次の原因で発生します。

- あるシステムから別のシステムに適用できない設定。例えば、すべてのシステムに存在するわけではないハードウェア固有の設定など。
- 異なるシステムに異なる方法でインストールされているアプリケーション。例：
  - あるシステムではC:ドライブにインストールされているが、別のシステムではD:ドライブにインストールされているアプリケーション。
  - あるシステムでは `C:\Program Files` にインストールされているが、別のシステムでは `C:\Program Files (x86)` にインストールされているアプリケーション。
  - あるシステムにはインストールされているが、別のシステムにはインストールされていないExcelアドイン。
- 設定情報をプロファイルに保存しないアプリケーション。例えば、ローカルマシンの設定やユーザープロファイルの外部に保存されている情報など。
- レジストリに保存されている言語固有の構成設定。Profile Managementは、バージョン1プロファイルの言語固有のフォルダー名を自動的に翻訳しますが、レジストリ内のものは翻訳しません。

ほとんどの場合、これらの問題を引き起こすシステムの標準化を改善することで、問題を最小限に抑えることができます。しかし、多くの場合、問題はOSまたはそれぞれのアプリケーションの（複数のプラットフォームとの）固有の非互換性に起因します。問題のある設定が重要でない場合は、プロファイルから除外することで問題が解決する可能性があります。

不明なアカウントが所有するプロファイル

まれに、プロファイルが不明なアカウントに属しているように見えることがあります。コンピューターの**システムのプロパティ**ダイアログボックスの**詳細設定**タブで、ユーザープロファイルの**設定**をクリックすると、「アカウント不明」と表示されます。この問題は、イベントログエントリ「*"Profile notification of event Create for component \<application ID\> failed, error code is???"*」とともに発生します。レジストリでは、アプリケーションIDはMicrosoftコンポーネントであるSHACCTプロファイル通知ハンドラーを指しています。

この問題がご使用の環境で発生していることを確認するには、Profile Managementがデータを処理しないユーザーとしてログオンし、これらの症状を確認してください。

これはProfile Managementの問題ではなく、Active Directoryが仮想マシンのスナップショットと適切に連携しない結果である可能性があります。Citrixユーザープロファイルの操作には影響ありません。ユーザーはログオンおよびログオフでき、プロファイルの変更は保持されます。

高度なトラブルシューティングを実行する

現在のProfile Management設定を確認し、Profile Managementログが有用な情報のソースではないと判断した後、このチェックリストを使用してさらにトラブルシューティングを行います。

- 分析しているマシンからResultant Set of Policies (RSoP)レポートを確認し、すべてのGPOが期待どおりに適用されていることを確認します。

  レポートを生成するには、マシンで`gpresult`コマンドを実行します。
- 最新バージョンのProfile Managementがインストールされていることを確認します。詳細については、「Profile Managementのバージョンを確認する」を参照してください。
- 他のユーザーからの解決策については、Profile Managementサポートフォーラムを確認してください。
- 影響を受けるマシンと同じオペレーティングシステムを持つクリーンなマシンで問題を再現してみてください。ソフトウェア製品を1つずつインストールし、各インストール後に問題が再現できるかどうかを確認します。詳細については、「テスト環境にProfile Managementを展開する」を参照してください。

Profile Managementのバージョンを確認する

バージョン情報を確認するには、次の手順に従います。

1. WindowsエクスプローラーでUserProfileManager.exeファイルを右クリックします。
2. **プロパティ > バージョン**をクリックします。
3. 最新バージョンでない場合は、My Accountサイトから最新バージョンをダウンロードします。Citrix®製品を選択し、ダウンロードセクションからProfile Managementをダウンロードします。

> **ヒント:**
>
> アップグレード後、必要に応じて後続の機能を有効にできます。

テスト環境にProfile Managementを展開する

ログファイルが問題のトラブルシューティングに役立たない場合は、次の例で使用されているトラブルシューティングアプローチを試してください。このアプローチは、次の目的で使用できます。

- どの構成設定が読み取られているかを判断します。
- 構成設定がどこから読み取られているかを判断します (複数のADMファイルが存在する場合)。
- ログファイルがプロファイルに加えられた変更を正しく追跡していることを確認します。

展開例

この例での展開は次のとおりです。

- Citrix Virtual Apps™ サーバーは Windows Server 2003 で実行されています。
- ユーザーは、Plug-in for Hosted Apps for Windows を使用して、公開されたリソースに接続しています。
- INIファイルベースの構成ではなく、OUベースのGPOが使用されます。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。レジストリエディターの不適切な使用によって生じた問題が解決できることを保証することはできません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

トラブルシューティングのワークフロー

この例には、1台のサーバーのみで構成される小さなテストOUが含まれています。サーバーのプロファイル設定を編集できます。その後、ログファイルとポリシーの結果セット (RSoP) レポートで設定の変更を追跡します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 実稼働環境から、CitrixユーザープロファイルをホストしているCitrix Virtual Appsサーバーの1つを削除します。次に、そのサーバーを新しいOUに追加します。
2. サーバーからProfile Managementを削除し、再インストールします。再インストールする際は、短いファイル名 (8.3形式のファイル名とも呼ばれます) が次のように有効になっていることを確認してください。
    - 次のレジストリエントリが1 (DWORD値) に設定されている場合は、それを0に設定し、Profile Managementを再インストールします: `HKLM\System\CurrentControlSet\Control\FileSystem\NtfsDisable8Dot3NameCreation`。これにより、短いファイル名のサポートが有効になります。

- エントリが1に設定されていない場合は、各サブフォルダー名が8文字以下の場所にProfile Managementを再インストールします。たとえば、`c:\prof-man`。 それ以降のオペレーティングシステムでは、このレジストリエントリを調整する必要はありません。

3. サーバーにドメイン管理者としてログオンします。
4. ローカルポリシーを調べて、このレベルのADMファイルを削除します。
5. 新しいOUに割り当てられているGPOへのリンクをすべて削除します。
6. サーバーで、レジストリエディターからキーとすべてのサブキーを削除します: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`。
7. Profile Managementの.iniファイルをすべて削除します。
8. **マイコンピュータ \> プロパティ \> 詳細設定**を使用して、テストしたいプロファイル以外のすべてのプロファイルを削除します。表示されるエラーを調査します。
9. Authenticated Usersグループにファイルのフルコントロールを付与します。これにより、ユーザーとしてログオンしたときにProfile Managementのログファイルを確認できます。ログファイルは`C:\Windows\System32\LogFiles\UserProfileManager\<domainname>#<computername>_pm.log`です（ここで、\<domainname\>はコンピューターのドメイン、\<computername\>はその名前です）。ドメインを特定できない場合、ログファイルはUserProfileManager.logになります。
10. 次の設定のみを含むGPOを作成し、新しいOUにリンクします。GPOがAuthenticated Usersグループに割り当てられていることを確認します。これらの設定を有効にして構成します。

    a. Profile Managementを有効にします。
    b. ユーザーストアへのパス。
    c. ログ記録を有効にします。
    d. ログ設定。すべてのイベントとアクションを選択します。
    e. 既存のプロファイルの移行。ローミングプロファイルとローカルプロファイルを選択します。
    f. ローカルプロファイルの競合処理。ローカルプロファイルの名前を変更を選択します。
    g. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除します。
    h. 「*ローカル管理者ログオンの処理*」設定を無効にします。これにより、Profile Managementが誤って構成され、ユーザーログオンが妨げられた場合でも、管理者としてログオンできます。

11. OUを右クリックし、**継承のブロック**を選択して、GPOリンクがOUに適用される方法を制御します。
12. これまでログオンしたことがなく、サーバー上のローカル管理者グループのメンバーではないドメインテストユーザーを作成します。
13. このユーザーにフルデスクトップを公開し、ユーザーがRemote Desktop Usersグループに属していることを確認します。
14. ドメインに複数のドメインコントローラー（DC）がある場合は、サーバーと同じサイト内のすべてのDC間でADレプリケーションを強制します。
15. ドメイン管理者としてサーバーにログオンし、ログファイルを削除し、Citrix Profile Managementサービスを再起動して、`gpupdate /force`を実行します。
16. レジストリを確認し、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`内の値が新しいGPOの値のみであることを確認します。
17. 管理者としてログアウトします。
18. Internet Explorerの設定をいくつか変更し、My Docsフォルダーに空のテストファイルを作成します。
19. Profile Managementログファイルへのショートカットを作成します。それを開き、エントリを調べます。注意が必要な項目を調査します。
20. ドメイン管理者としてログアウトし、再度ログオンします。
21. `gpresult`を実行して、テストユーザーとサーバーのRSoPレポートを生成します。

レポートに期待する内容が含まれていない場合は、注意が必要な項目を調査します。

Citrixテクニカルサポートに問い合わせる

このセクションのトラブルシューティングの助言を確認し、発生した問題がProfile Managementに起因すると考えられる場合は、Citrixテクニカルサポートに問い合わせてください。常に以下のファイルと、可能な限り多くのその他の情報を収集して提供してください。

Profile Managementログファイルを収集する

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションをログに記録するように、マシンでProfile Managementを有効にします。詳しくは、「Profile Managementログの有効化」を参照してください。
2. 影響を受けるマシンで問題を再現します。

3. %SystemRoot%\\System32\\Logfiles\\UserProfileManagerからProfile Managementログファイルとそのバックアップファイルを収集します。

影響を受けるマシンからのログファイルには、少なくとも以下の情報が含まれています。

- サービスの開始（Profile Managementのバージョンとビルド番号を含む）
- サービスによる構成の読み取り
- 影響を受けるユーザーの完全なログオンプロセス
- 問題発生時にユーザーが行ったアクティビティ
- 影響を受けるユーザーの完全なログオフプロセス

Windowsイベントログファイルを収集する

影響を受けるマシンで問題を再現した後、以下の手順に従ってWindowsイベントログファイルを収集します。

1. `%SystemRoot%\System32\winevt\Logs` フォルダーを見つけます。
2. Application.evtxファイルを集めます。

インストールされているソフトウェアの詳細を収集する

影響を受けるマシンにインストールされている以下のソフトウェアの詳細を収集します。

- オペレーティングシステム、言語、およびバージョン。
- Citrix 製品およびバージョン。

.iniファイルを集める

Profile Managementに関連付けられている.iniファイルを集めるには、次の手順に従います。

1. ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーを見つけます。
2. 次の.iniファイルを集めます。
    - UPMSettings.ini
    - UPMFRSettings.ini
    - PmCompatibility.ini

CDFControl を使用して診断トレースログを収集する

CDFControlを使用して診断トレースログを次のように収集します。

1. Knowledge Centerの記事CTX111961からCDFControlツールをダウンロードします。
2. CDFControl実行可能ファイルを実行します。
3. 表示されるウィンドウで、必要に応じて1つ以上のトレースモジュールを選択します。それらの機能の説明の詳細については、次の表を参照してください。
4. **トレースの開始**をクリックします。
5. 問題を再現します。
6. **トレースの停止**をクリックします。
7. トレースログはCDFControl実行可能ファイルと同じフォルダーにあります。

この表は、CDFControlのトラックモジュールの機能を示しています。

トレースモジュール	説明
UPM_DLL_GPCSE	Profile ManagementからCitrix Group Policyクライアント側拡張機能に送信されたユーザーグループポリシー評価要求をトレースします。
UPM_DLL_OUTLOOK_HOOK	OutlookのProfile Managementフックモジュールをトレースします。Outlook検索インデックスローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_Perfmon	Profile Managementに関連付けられたWindowsパフォーマンスモニターカウンターと、Profile Managementによって生成されたエラーをトレースします。
UPM_DLL_SearchSvc_Hook	Windows Search ServiceのProfile Managementフックモジュールをトレースします。Outlook検索インデックスのローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_WfShell	公開アプリケーションのデスクトップ準備完了イベントを報告するProfile Management `Wfshell`プラグインをトレースします。
UPM_Driver	Citrixストリーミングユーザープロファイルドライバーが使用されるたびに、ファイルシステムへの変更をトレースします。

トレースモジュール	説明
UPM_Service	Profile Management Serviceが呼び出されるたびに情報をトレースします。例としては、ログオン時、ログオフ時、セッション中の同期、または定期的なメンテナンスが行われる場合などがあります。
UPM_SessionLaunchEvaluation	Profile Managementの固有のトランザクションIDに関連付けられた起動イベントをトレースします。
UPM_WMI	Profile Management VDA WMIプラグインイベントをトレースします。

その他の情報の収集

可能であれば、次の情報を収集してください。

- `gpresult` コマンドを実行して取得した、影響を受けるマシンとユーザーの結果セットのポリシー (RSoP) レポート。
- アプリケーションイベントログ。
- 利用可能な場合は、**Userenv** デバッグファイル。このツールに関する情報については、Microsoft のドキュメントを参照してください。

> **注：**
>
> Citrix Provisioning Services が展開の一部であり、プロファイルが初期化されているときに問題が発生する場合、データ収集は複雑になる可能性があります。そのようなシナリオでは、.ini ファイルで前述の構成更新を行い（GPO ログ設定を無効にして）、Preconfigure Profile Management on provisioned images の手順に従うことをお勧めします。

用語集

この記事では、Profile Managementソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義を一覧表示します。他のCitrix®ソフトウェアで使用されるプロファイル関連の用語も含まれています。Windowsユーザープロファイルに関連するその他の概念を理解するには、MicrosoftのWebサイトにアクセスしてください。

用語	定義
ベースプラットフォーム	クロスプラットフォーム設定ストアを参照してください。
ベースプロファイル	ベースプロファイルは、ユーザーストア内のプロファイルへのUNCパスによって定義されます。クロスプラットフォーム設定機能が使用されている場合、ベースプロファイルのサブセットからプラットフォーム間で共有できるレジストリ設定とファイルが対象となります。このサブセットはクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされ、そこから移行またはローミングのターゲットとして使用されるプロファイルに追加されます。クロスプラットフォーム設定ストアにはベースプロファイルのサブセットが含まれていますが、これ（およびターゲットプロファイル）は常に完全なプロファイルとして保存されます。そして、必要に応じて、標準のWindowsローミングプロファイルまたはローカルプロファイルとして使用できます。ただし、ストリーミングユーザープロファイル機能が使用されている場合、ベースプロファイルは一時的に不完全になる可能性があることに注意してください。一部のファイルは、ユーザーがログオフするまで保留領域に存在する可能性があります。ローミングシナリオでベースプロファイルを定義する際の考慮事項については、ローミングを参照してください。

用語	定義
キャッシュ	キャッシュと同期という用語は、ユーザーストアからファイルをダウンロードする、またはユーザーストアにファイルをアップロードする行為を指します。フェッチという用語はより具体的で、ストリーミングユーザープロファイル機能が、ログオン後にユーザーが必要とするときにいつでも、ユーザーストアからファイルのサブセットをダウンロードする方法を指します。
Citrix強制プロファイル、Citrixローミングプロファイル、Citrixユーザープロファイル	Citrixユーザープロファイルは、Profile Managementがインストールされ有効になっているときにユーザーが受け取るプロファイルの一般的な用語です。Citrixユーザープロファイルには、Citrixローミングプロファイルと Citrix強制プロファイルの2種類があります。Citrixローミングプロファイルは、ユーザーが日常業務でカスタマイズするファイル、フォルダー、およびレジストリ設定の標準コレクションであり、ログオフ時にユーザーストアに保存され、Profile Managementポリシーによって処理されます。Citrix強制プロファイルは、Profile Managementがそれらを処理する方法においてCitrixローミングプロファイルに似ています。ただし、ログオフ時にユーザーストアに変更は保存されません。ログオン時には、強制プロファイルの新しいコピーがロードされます。Citrixユーザープロファイルは、Microsoftローカルプロファイル、Microsoft ローミングプロファイル、またはMicrosoft強制プロファイルとは異なります。
コンピューター	これらのProfile Managementトピックで使用される一般的な用語「コンピューター」は、Citrix Profile Management Serviceがインストールされているあらゆるマシンを指すことができます。これは、ユーザーデバイス、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™仮想マシンからプロビジョニングされた可能性のあるもの）、または公開アプリケーションをホ

用語	定義
	ストするCitrix仮想アプリサーバーである可能性があります。
クロスプラットフォーム定義ファイル	このファイルは、Profile Management に付属する .xml ファイルで、クロスプラットフォーム設定機能が動作するために必要な情報が含まれています。サポートされているアプリケーションごとに1つのファイルがあります。
クロスプラットフォーム設定ストア	この場所は、ユーザー ストアとは別に、クロスプラットフォーム設定機能が構成されると、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。クロスプラットフォーム設定ストアのシードに使用するプラットフォームのプロファイル データを選択します。それがベースプラットフォームです。
フェッチ	キャッシュを参照してください。
レガシーアプリケーション	レガシーアプリケーションは、設定を非標準の場所に保存するため、適切に動作しないアプリケーションです。これには、一時的なアプリケーションデータをユーザープロファイルに保存し、それによってプロファイルの肥大化を引き起こすシステムが含まれます。
移行	移行とは、プロファイルをあるプラットフォームから別のプラットフォームへ計画的に一方向で移動することです (例: Windows XP から Windows 7 へ)。
プロファイルの肥大化	一時ファイルが削除されない場合、Windows ユーザープロファイルのサイズは増加する可能性があります。これはログオンの遅延を引き起こし、プロファイルの肥大化と呼ばれます。
ローミング	ローミングとは、複数のコンピューターまたはセッションから異なるベースプロファイルを使用することです (例: Windows 2008 R2 を実行しているコンピューター用のベースプロファイルと、Windows 7 用の別のベースプロファイル)。ユーザーは、異なるベースプロ

用語	定義
	ファイルを持つコンピューターまたはセッション間を行き来する際にローミングします。組織単位 (OU) の構成方法によっては、ベースプロファイルをプラットフォーム間で共有できます。たとえば、Windows 2008 R2 と Windows 7 の両方の OU で同じプロファイルを使用できます。この場合、同じベースプロファイルが共有されているため、ユーザーはローミングしません。ベースプロファイルは、同じプロファイルバージョン (バージョン 1 またはバージョン 2 のプロファイル) を持つオペレーティングシステムでのみ共有できます。バージョン 1 とバージョン 2 の両方のプロファイルがアクティブな場合、ユーザーは常にローミングします。
同期	キャッシュを参照してください。
ユーザー ストア	ユーザー ストアは、Citrix ユーザー プロファイルを保存するための中央のネットワーク ロケーションです。クロスプラットフォーム設定ストアも参照してください。
vディスク、パーソナル vディスク	vDisk は、Citrix Provisioning™ Services によってマスター イメージから作成される仮想ディスクです。Personal vDisk は、Citrix 仮想デスクトップがプロファイル、ユーザーがインストールしたアプリケーション、部門別アプリケーション、およびユーザー データを保存するために使用するディスクです。Personal vDisk は、オペレーティング システム、レジストリ、および基本アプリケーションに使用されるディスクとは別個のものです。
バージョン 1 プロファイル、バージョン 2 プロファイル	Microsoft Windows XP および Windows Server 2003 のプロファイルは、バージョン 1 プロファイルとして知られています。Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2 のプロファイルは、バージョン 2 プロファイルとして知られています。バージョン 1 プロファイルとバー

用語	定義
	ジョン 2 プロファイルは異なる名前空間を持ち、その構成のいくつかの側面に影響を与えます。

新しいMicrosoft Teamsのローミングを有効にする

この記事では、Profile Managementを使用して新しいMicrosoft Teams（バージョン2.1以降）のローミングを有効にする方法について説明します。

> **注:**
>
> ファイルベースとコンテナベースの両方のプロファイルソリューションは、新しいMicrosoft Teamsでのローミングをサポートしています。

> 管理者として、Citrix Profile Managementをインストールして構成するには、次の手順に従います。

1. 新しいTeamsをインストールします。

   詳細については、このMicrosoftの記事を参照してください。

2. Profile Management 2203 LTSR CU5をインストールします。

   詳細については、「Profile Managementのインストール」を参照してください。

3. 「**プロファイルコンテナから除外するフォルダー**」ポリシーを構成するには、フォルダーを除外するためのMicrosoftの推奨事項に従ってください。

4. 構成を変更するには、次の表に記載されている手順に従ってください。

異なるOSタイプに実装する場合	ウィンドウズ サーバー	WINDOWS デスクトップ
コンテナベースのソリューション	- `AppData\LocalLow` が「**プロファイルコンテナから除外するフォルダー**」ポリシーで構成されていないことを確認してください。	- `AppData\LocalLow` が「**プロファイルコンテナから除外するフォルダー**」ポリシーで構成されていないことを確認してください。

異なるOSタイプに実装する場合	ウィンドウズ サーバー	WINDOWS デスクトップ
	- **プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**ポリシーが有効になっている場合は、**自動構成を無効にする**ポリシーを**有効**に構成します。	- **プロファイルストリーミング**ポリシーが有効になっている場合は、**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーに `AppData\Local\Packages` を追加します。
	- **プロファイルストリーミング**ポリシーが有効になっている場合は、**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーに `AppData\Local\Packages` を追加します	
ファイルベースのソリューション	**プロファイルストリーミング**ポリシーが有効になっている場合は、**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーに `AppData\Local\Packages` を追加します	**プロファイルストリーミング**ポリシーが有効になっている場合は、**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**ポリシーに `AppData\Local\Packages` を追加します

5. ファイルベースとコンテナベースの両方のプロファイルソリューションで、VDAバージョンが2402より前の場合は、新しいTeamsクライアントを最適化するために、次のレジストリキーを展開することをお勧めします。このレジストリキーがない場合、新しいTeamsクライアントは非最適化モード（サーバー側レンダリング）で動作します。

   - 場所: `HKLM\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\WebSocketService`
   - キー (REG_Multi_SZ): `ProcessWhitelist`
   - 値: `msedgewebview2.exe`

6. スタートメニューに新しいTeamsアイコンが表示されない場合（特にWindows Server 2019または2022およびWindows 10の場合）、次の設定を実行することをお勧めします。

   - **除外リスト - ディレクトリ**ポリシーに次のパスを追加します。

     `AppData\Local\Packages\Microsoft.Windows.StartMenuExperienceHost_cw5n1h2txyewy\TempS`

- **プロファイルコンテナから除外するフォルダ**ポリシーに次のパスを追加します。

  ```
  AppData\Local\Packages\Microsoft.Windows.StartMenuExperienceHost_cw5n1h2txyewy\TempS
  ```

- 次のレジストリキーを**1 (DWORD)**に設定します。

  ```
  HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\StateStore\ResetCache
  ```

__index__

クロスプラットフォーム設定を構成する

重要: この機能に関する以下の重要な情報に注意してください。

- Profile Management のクロスプラットフォーム設定は、サポートされているオペレーティングシステム (OS) とアプリケーションのセットをサポートしています。この機能は、本番環境でのみ構成してください。
- Microsoft Office の設定は、アプリケーションのバージョン間でローミングされません。詳細については、「クロスプラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション」を参照してください。
- この機能は、レジストリおよびアプリケーション設定に適しています。ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト (ブラウザーのお気に入り、デスクトップ、スタートメニューの設定など) には適していません。
- 異なるプロファイルバージョンのシステム間でユーザープロファイルを移行するためにこの機能を使用する場合、すべてのユーザーの移行が完了したら、この機能を無効にしてください。この機能を使用すると、主にログオフ時にパフォーマンスに影響があります。そのため、プロファイルバージョン間のローミングをサポートしない限り、無効にしておくのが最善です。

このトピックでは、クロスプラットフォーム設定を構成するために実行できる手順の例を示します。より詳細なケーススタディについては、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」を参照してください。

ヒント: この機能を本番環境に導入する前に、少数のテストユーザーに限定することをお勧めします。これには、 **クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ**オプションを使用します。この設定が構成されている場合、Profile Management のクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。この設定が無効になっている場合、この機能は、処理対象グループ設定で指定されたすべてのユーザーを処理します。 **クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ**がグループポリシーまたは .ini ファイルで構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

1. すべてのプラットフォームに共通する設定については、共通のグループポリシーオブジェクト (共通 GPO) を作成し、それを Profile Management の .adm または .admx ファイルにリンクし、必要に応じて設定を構成します。この設定は、後でトラブルシューティングを困難にする

可能性のある重複する設定を最小限に抑えるため、ベストプラクティスです。要件に応じて、**ユーザーストアへのパス**を除くすべての Profile Management 設定は複数のプラットフォームで機能します。バージョン 1 とバージョン 2 のプロファイルのユーザーストア構造が異なるため、ユーザーストアへのパスはプラットフォームごとに個別に構成してください。共通 GPO では、この設定を未構成のままにします。

2. 異なるプラットフォーム用に個別の OU を作成します。たとえば、Windows 7 から Windows 8 に移行する場合、これらのオペレーティングシステム用に個別の OU を作成し、各 OU でユーザーストアへのパスを適切に設定します。
3. プラットフォーム間でパーソナライズを機能させたいサポート対象アプリケーションの定義 (.xml) ファイルを見つけます。これらのファイルは、ダウンロードパッケージの CrossPlatform フォルダーにあります。独自のアプリケーション定義ファイルを作成できます。詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。
4. .xml ファイルをネットワーク上の適切な場所にコピーします。
5. グループポリシー管理エディターで共通 GPO を編集します。Profile Management の下にある「クロスプラットフォーム設定」フォルダーを開き、次の設定を構成します。

    - クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ。クロスプラットフォーム設定を体験するユーザーを制限します。この設定はオプションです。この機能をテストしたり、段階的に展開したりする場合に役立ちます。
    - クロスプラットフォーム定義へのパス。ダウンロードパッケージからコピーした定義ファイルのネットワーク上の場所を識別します。このパスは UNC パスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持ち、管理者は書き込みアクセス権を持つ必要があります。この場所は、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) ファイル共有である必要があります。
    - クロスプラットフォーム設定ストアへのパス。これは、複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが配置されるユーザーストアの共通領域です。ユーザーはこの領域への書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。「**ユーザーストアへのパス**」と同じ変数を使用できます。

6. そのプラットフォームのOUで「クロスプラットフォーム設定作成元」が「有効」に設定されていることを確認して、ベースプラットフォームを指定します。この設定により、ベースプラットフォームのプロファイルからクロスプラットフォーム設定ストアにデータが移行されます。他のプラットフォームのOUでは、このポリシーを「無効」または「未構成」に設定します。各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、個別のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアをシードするために、どのプラットフォームのプロファイルデータを使用するかを決定する必要があります。これがベースプラットフォームと呼ばれます。クロ

スプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている場合、または単一プラットフォームプロファイルのキャッシュデータがストア内の定義データよりも新しい場合、この設定を無効にしない限り、Profile Managementは単一プラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。 重要: 複数のOUで「クロスプラットフォーム設定作成元」が有効になっている場合、最初にユーザーがログオンしたプラットフォームがベースプロファイルになります。

7. 「クロスプラットフォーム設定を有効にする」を「有効」に設定します。デフォルトでは、展開を容易にするため、この設定をオンにするまでクロスプラットフォーム設定は無効になっています。
8. グループポリシーの更新を実行します。
9. プロファイルをプラットフォーム間で移行するが、それらのローミングをサポートしない場合、移行が完了したら、「クロスプラットフォーム設定を有効にする」を「**無効**」に設定します。

ここで「クロスプラットフォーム定義へのパス」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

「クロスプラットフォーム設定ストアへのパス」が無効になっている場合、デフォルトパス `Windows\PM_CP` が使用されます。ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、デフォルトパスが使用されます。

ここで「クロスプラットフォーム設定を有効にする」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

例: Windows Server 2008とWindows 7間でのMicrosoft Office設定のローミング

この例では、バージョン2プロファイルを作成する2つのオペレーティングシステム間でユーザーのアプリケーション設定をローミングできるようにするための主要な手順について説明します。Microsoft Office 2010が例のアプリケーションであり、Windows Server 2008上のCitrix XenApp 6.5とWindows 7の間でローミングが行われます。両方のOSは64ビットです。

1. ユーザーは、Citrix Virtual Apps™サーバー上の公開アプリケーションとしてOffice 2010およびInternet Explorer 9にアクセスすることに慣れており、これらのアプリケーションでいくつかの設定を変更します。たとえば、Officeでメール署名を変更したり、Internet Explorerで新しいホームページを選択したりします。

2. 将来的に、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™で作成）が作成されますが、まだユーザーにはリリースされていません。デスクトップはWindows 7を実行し、Office 2010とInternet Explorer 9がプリインストールされています。
3. ユーザーは、新しいデスクトップでも設定が同じであることを期待しています。このトピックの手順に従って、クロスプラットフォーム設定機能を構成します。これには、Windows Server 2008のOUで「クロスプラットフォーム設定作成元」を有効にすることが含まれます。
4. ユーザーが次にアプリケーションの公開バージョン（新しい仮想デスクトップではない）を実行すると、その設定はクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされます。
5. その後、新しいデスクトップがユーザーにリリースされます。ユーザーがログオンしてOfficeおよびInternet Explorerのローカルバージョンを実行すると、以前のWindows Server 2008セッションからの設定が使用されます。ユーザーが変更したメール署名とホームページは、Windows 7マシンで利用できます。
6. ユーザーは仮想デスクトップからInternet Explorerで閲覧し、ホームページを再度変更することにしました。
7. ユーザーはログオフして退社します。自宅では仮想デスクトップにアクセスできませんが、公開されているInternet Explorer 9をリモートで実行できます。彼らは、前のステップでWindows 7で作成した最新のホームページが保持されていることを確認します。

定義ファイルを作成する

定義ファイルは、同期するフォルダー、ファイル、またはレジストリを定義します。独自のアプリケーション定義ファイルを作成できます。

Microsoft UE-Vテンプレートジェネレーターを使用して、UE-Vテンプレートファイルを作成します。

1. MicrosoftのWebサイトから、Windows 10用の**Windows Assessment and Deployment Kit** (Windows ADK) をダウンロードします。
2. Windows ADKをインストールします。**Microsoft User Experience Virtualization (UE-V) Template Generator**を選択します。**Install**をクリックします。インストールが完了したら、**Finish**をクリックしてウィザードを閉じます。
3. **Start**をクリックし、**Microsoft User Experience Virtualization**をクリックし、次に**Microsoft User Experience Virtualization Generator**をクリックします。
4. **Create a settings location template**をクリックします。
5. ウィザードに従って、アプリケーション関連のパラメーターを指定します。**Next**をクリックして続行します。

メモ帳を例にとります。ファイルパスを**`C:\Windows\System32\notepad.exe`**として指定します。

6. 指定したアプリケーションが起動したら、閉じます。
7. プロセスが完了したら、**Next**をクリックして続行します。
8. 左ペインで**Review Locations**を選択します。標準および非標準のレジストリ/ファイルのリストにあるすべてのチェックボックスを選択します。
9. **Create**をクリックして、テンプレートXMLファイルを保存します。

   メモ帳を例にとります。テンプレートXMLファイルを**Notepad.xml**として保存します。

> **注**
>
> 単一のUE-Vテンプレートファイルに複数のアプリケーションが定義されている場合があります。

> UE-Vテンプレートファイルをクロスプラットフォーム定義ファイルに変換するには、次の手順を実行します。

1. 変換ツールをこちらからダウンロードします。
2. コマンドプロンプトから、定義ファイル内のすべてのアプリケーション名を表示するために、コマンド **convert show filename** を実行します。
3. UE-V テンプレートファイルを定義ファイルに変換するには、次のコマンドを実行します。

   convert source destination \[/Index\] \[/V\]

   \[/Index\]: インデックス番号で指定されたアプリケーションのみを変換します。

   既定では、このツールは UE-V テンプレート内のすべてのアプリケーションを変換します。

   \[/V\]: 変換の詳細情報を表示します。

クロスプラットフォーム設定の場合、他のオペレーティングシステムに対して前述の手順を繰り返し、定義ファイルを1つにマージする必要があります。ファイルをマージするには、**OSVersionNumber** 属性を持つ **Platform** 要素を使用できます。Windows 7 では、設定フォルダーは **`AppData\Application\Win7\folder`** にあります。Windows 10 では、**`AppData\Application\Win10\folder`** にあります。

Windows 7 では、作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <Platform>



                <Folder>



                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>



                    <Recurse/>



                </Folder>



            </Platform>
```

```
        </Object>


    </Group>


</GroupDefinitions>
```

Windows 10 では、作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>


<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">


    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">


        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">


            <Platform>


                <Folder>


                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>
```

```
                    <Recurse/>


                </Folder>


            </Platform>


        </Object>


    </Group>


</GroupDefinitions>
```

マージ後、定義ファイルの内容は次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">
```

```
            <!-- Assuming that the folder locates differently when in
different platforms -->

            <Platform OSVersionNumber="6.1"> <!-- Win7 -->

                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>

            <Platform OSVersionNumber="10.0"> <!-- Win10 -->

                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>
```

```
                    <Recurse/>


                </Folder>


            </Platform>


        </Object>


    </Group>


</GroupDefinitions>
```

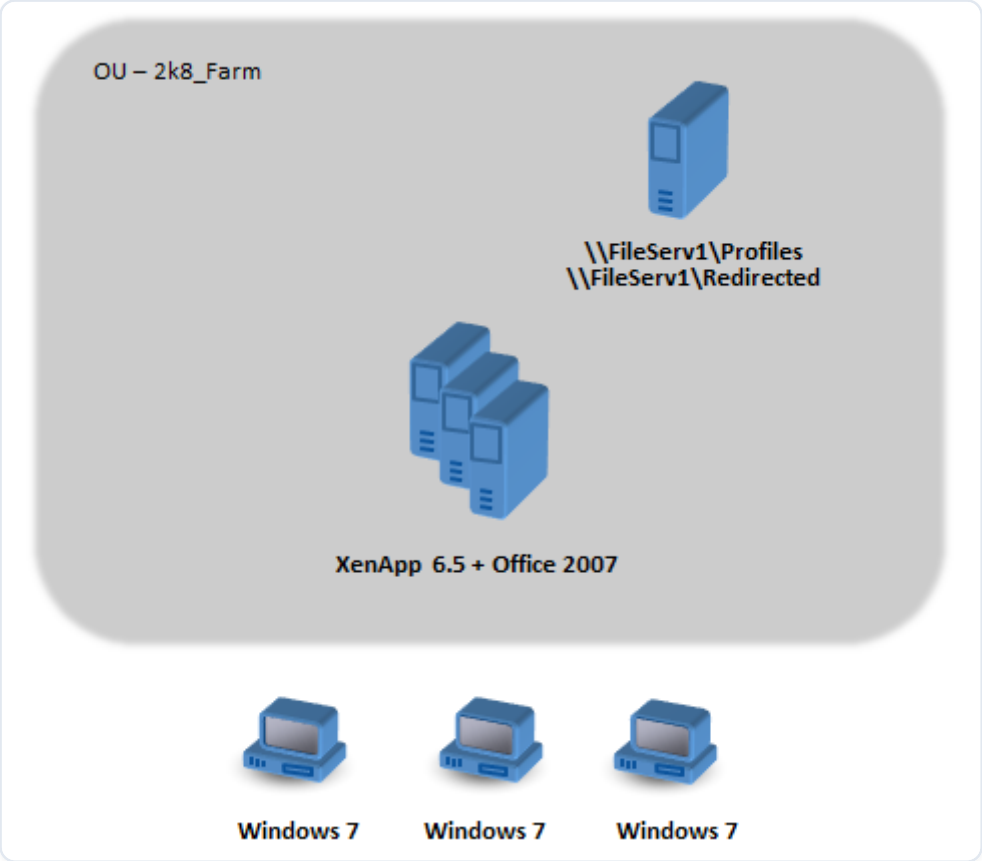
クロスプラットフォーム設定の構成については、クロスプラットフォーム設定の構成を参照してください。

定義ファイルのアーキテクチャについては、アプリケーション定義ファイルの構造を参照してください。

アプリケーションプロファイラーの有効化については、「アプリケーションプロファイラーの有効化」を参照してください。

初期構成

次の図は、このケーススタディにおける環境構成を示しています。



Windows 7 マシンは、Citrix XenApp 6.5 で公開されている Office 2007 を使用するように構成されています。

ドメインには、Windows 2008レベルでActive Directoryを実行しているWindows 2008ドメインコントローラーが含まれています。すべてのマシンは2k8_FarmというOUに属しており、Profile Management 5.0の.admファイルは2k8_Farm_POというGPOに追加されています。以下のポリシーが構成されています。

ポリシー	値
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`
プロファイルストリーミング	有効
アクティブライトバック	有効

システム環境変数`%ProfVer%`を設定するマシンログオンスクリプトが、OU内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%
Windows 2008上のXenApp®サーバー	Win2008
Windows 7デスクトップ	Win7

したがって、たとえば、ユーザーjohn.smithはWindows 7デスクトップ用に`\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win7`に、Citrix仮想アプリサーバー用に`\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win2008`にプロファイルを持っています。デスクトップとサーバー用に個別のプロファイルが維持されています。管理者は、ワークステーションとマルチセッションオペレーティングシステム間でプロファイルがローミングする際に問題が発生することを知っており、慎重に対応しています。

フォルダーリダイレクトは、**ユーザーの構成** \> **ポリシー** \> **Windowsの設定** \> **フォルダーリダイレクト** のグループポリシーを使用して設定されます。

新しいサイトを計画する

ネットワーク管理者は、Windows Server 2012ドメインコントローラーとActive Directory 2012に基づいた新しい環境のために、新しいドメインをセットアップすることを決定しました。最終的には、Citrix Virtual Appsを実行するWindows Server 2012に基づいた新しいCitrix Virtual Appsファームが計画されています。しかし、今のところ、新しいドメインはWindows 7 Citrix Virtual Desktops™サイトのみに使用されます。

このサイトは、XenServer®環境でホストされ、Windows端末からアクセスされる共有のWindows 7ベースイメージに基づいています。Office 2007はベースイメージに含まれています。

両方のドメインのユーザーが新しいドメインを使用すると予想されるため、OldDomainとNewDomainの間で双方向の信頼関係が設定されます。両方のドメインは同じADフォレストに属している必要があります。

以下の図は、新しいCitrix Virtual Desktopsサイトの構成を示しています。

グラフィック(/en-us/profile-management/2203-ltsr/media/upm-cross-platform-settings-case-study-plan-1.png)

プロファイルについて

Windowsユーザープロファイルは、ユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する、フォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定の集合です。これらの設定は、管理構成に応じて、ユーザーがカスタマイズできます。カスタマイズできる設定の例を次に示します。

- 壁紙やスクリーンセーバーなどのデスクトップ設定
- ショートカットとスタートメニューの設定
- Internet Explorerのお気に入りおよびホームページ
- Microsoft Outlookの署名
- プリンタ

一部のユーザー設定とデータは、フォルダーリダイレクトによってリダイレクトできます。ただし、フォルダーリダイレクトが使用されていない場合、これらの設定はユーザープロファイル内に保存されます。

プロファイルの種類

Windowsには、いくつかの種類のプロファイルが含まれています。

プロファイルの種類	保存場所	構成場所	アプリケーション	変更を保存しますか？
ローカル	ローカルデバイス	ローカルデバイス	ローカルデバイスのみ	はい
ローミング	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	はい
強制 (強制ローミング)	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	いいえ
一時的	該当なし	該当なし	ローカルデバイスのみ	いいえ

一時プロファイルは、特定のプロファイルタイプを割り当てられない場合にのみ割り当てられます。強制プロファイルを除き、通常、各ユーザーには個別のプロファイルが存在します。強制プロファイルでは、ユーザーはカスタマイズを保存できません。

リモートデスクトップサービスユーザーの場合、リモートデスクトップサービスセッションとローカルセッションの両方で同じプロファイルがユーザーに割り当てられた場合に発生する可能性のある問題を回避するために、特定のローミングプロファイルまたは強制プロファイルを割り当てることができます。

プロファイルバージョン

Microsoft Windowsユーザープロファイルのバージョンは次のとおりです。

- バージョン 6 – Windows 11、Windows 10 1607 以降、Windows Server 2016、Windows Server 2019、および Windows Server 2022
- バージョン 5 – Windows 10 RTM
- バージョン 4 – Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2
- バージョン 3 - Windows 8 および Windows Server 2012
- バージョン 2 - Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2
- バージョン 1 – Windows Vista および Windows Server 2008 より前のオペレーティングシステム

Microsoft のバージョン 1 プロファイルのフォルダー構造 (または名前空間) は、ほとんど互換性があります。たとえば、Windows XP および Windows Server 2003 のフォルダーはほとんど同じです。同様に、バージョン 2 プロファイルの構造もほとんど互換性があります。

しかし、バージョン 1 とそれ以降のプロファイルでは、名前空間が異なります。このフォルダー構造は、ユーザーおよびアプリケーションデータ用に分離されたユーザー固有のフォルダーを提供するために、後のオペレーティングシステムで変更されました。バージョン 1 プロファイルは、ルートフォルダーである **Documents and Settings** にデータを保存します。バージョン 2 プロファイルは、より直感的な名前のフォルダーである **Users** にデータを保存します。たとえば、Windows Vista の **AppData\Local** のフォルダーの内容は、Windows XP の `Documents and Settings\<username>\Local Settings\Application Data` の内容と同じです。

バージョン 1 とそれ以降のプロファイルの違いの詳細については、Managing Roaming User Data Deployment Guide を参照してください。

インストールとセットアップ

Profile Management のインストールについて

Profile Management の展開は、.msi ファイルと .adm または .admx ファイルのインストールで構成されます。インストールではなくアップグレードについては、「アップグレードと移行」を参照してください。

管理するユーザープロファイルを持つ各コンピューターに Profile Management の .msi ファイルをインストールします。通常、配布ツール、イメージングソリューション、またはストリーミングテクノロジーを使用して、コンピューターに .msi ファイルをインストールします。ダウンロードパッケージに含まれるインストーラーのいずれかを使用して、任意のコンピューターに直接インストールすることもできます。サイレントインストールがサポートされています。

.adm または .admx ファイルをグループポリシー (GP) に追加してインストールします。

.msi ファイルと .adm または .admx ファイルをインストールするだけでは、Profile Management は有効になりません。他のすべてのセットアップタスクを実行した後、別途有効にする必要があります（手順「Profile Management を有効にする」を使用）。

すべてのユーザーデバイスに同じバージョンの Profile Management をインストールし、すべてのドメインコントローラーの各グループポリシーオブジェクトに同じバージョンの .adm または .admx ファイルを追加することをお勧めします。このアプローチにより、異なるユーザープロファイルストア構造（異なるバージョンからのもの）が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぐことができます。

> **注:**
>
> Profile Management 5.x リリースでは、Citrix は Microsoft オペレーティングシステムの更新に従ってプロファイルバージョンを更新する点を除いて、同じユーザープロファイルストア構造を維持しています。

.msi ファイルをインストールするには

この手順では、Profile Management を単一のコンピューターにインストールします。

1. 管理者権限でコンピューターにログオンします。
2. ダウンロードパッケージから適切なインストーラーを見つけて実行します。インストールウィザードが表示されます。
3. ウィザードの画面の指示に従います。
4. コンピューターを再起動します。

コマンドラインから .msi ファイルをインストールするには

> **重要:**
>
> Profile Management の以前のバージョンでは、提供された .ini ファイルのレジストリ除外リストから次のキーが削除されました。

- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Group Policy`

- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies`
- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies`

これらの除外をグループポリシーで使用し、設定する場合 この手順で OVERWRITEINIFILES=yes を設定する場合、3つのキーすべて、またはどれも（サブセットではなく）レジストリ除外リストに追加するようにしてください。（ OVERWRITEINIFILES オプションは、主に .ini ファイルではなくグループポリシーを使用する展開を対象としています。または、このオプションは、構成設定を破棄してデフォルトの .ini ファイルを再インストールできる展開タイプにも対応しています。）このオプションは、キーを含む .ini ファイル全体で行ったすべての変更を上書きします。このオプションを使用せずにインストーラーを実行し、.ini ファイル内のキー設定を手動で削除することをお勧めします。または、このオプションを使用する場合は、説明に従って除外を追加してください。

1. コマンドラインで、次のコマンドを実行します。

   ```
   msiexec /i <path to the MSI file> /quiet [/norestart]
   [INSTALLDIR=<installation directory>]   [OVERWRITEINIFILES=yes]
   [INSTALLPOLICYINIFILES=no]
   ```

   このコマンドは、ユーザーインターフェイスを表示せずにインストールを実行し、その後再起動を実行します。

   UAC が有効な場合は、昇格されたコマンドプロンプトからなど、昇格された権限で msiexec コマンドを実行します。

   /norestart オプションを使用して再起動を抑制できますが、オペレーティングシステムによっては、コンピューターが再起動するまで Profile Management が機能しない場合があります。たとえば、Windows 7 ワークステーションを再起動する必要はありません。

   INSTALLDIR はユーザーが指定できます。

   OVERWRITEINIFILES=yes オプションの詳細については、「Profile Management のアップグレード」を参照してください。

   INSTALLPOLICYINIFILES を no に設定すると、Profile Management の .ini ファイルのインストールが防止されます。以前のバージョンのソフトウェアで .ini ファイルを使用しており、その中に含まれる設定をこのバージョンでも引き続き使用したい場合は、インストール後に各設定を Group Policy Editor の対応する Profile Management ポリシーに手動で転送してください。

UAC が有効な場合は、昇格されたコマンドプロンプトからなど、昇格された権限で msiexec コマンドを実行します。

2. アップグレード中に、一部のファイルが使用中であることを示すダイアログボックスが表示される場合があります。アプリケーションを閉じるか、閉じずに続行するかのオプションが提示されます。アプリケーションを閉じるオプションを選択してください。

.adm または .admx ファイルを追加するには

Group Policy に Profile Management の .adm ファイルの以前のバージョンが存在しない場合は、この手順を使用します。.adm ファイルをアップグレードする場合は、「Profile Management のアップグレード」を参照してください。

本番環境では、Group Policy を使用して Profile Management を構成します。管理するコンピューターを含む各 OU に対して、Group Policy Object (GPO) を作成してリンクし、Profile Management の .adm または .admx ファイルを GPO に追加します。

Citrix® ユーザープロファイルを構成するには、Windows Group Policy Management Console を実行している任意のコンピューターを使用できます。そのコンピューターはドメインコントローラーである必要はありません。ドメインコントローラーは .adm または .admx ファイルを保存するだけです。

注: Active Directory (AD) の個別のテスト展開が利用できない小規模なパイロットプロジェクトや評価の場合、.adm または .admx ファイルの代わりにインストールされている .ini ファイルを使用することもできます。テストが成功した後、.ini ファイルから AD 展開に移行する場合は、.adm または .admx ファイルに、必要なインクルージョンとエクスクルージョンを、文書化されている最小限のデフォルトに加えて追加してください。 デフォルトのインクルージョンとエクスクルージョン。

1. ドメインコントローラーで、次のいずれかを実行します。

   - .adm ファイルをインポートします。このファイルは、ダウンロードパッケージ内の GPO フォルダーにあります。
   - ダウンロードパッケージ内の GPO フォルダーから .admx ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions` フォルダーにコピーし、.adml ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions\<localized` フォルダー\> にコピーします。たとえば、英語のオペレーティングシステムでは、\<localized folder\> は en-US です。手順 5 に進みます。

2. Profile Management を構成するために使用するコンピューターで、Active Directory ユーザーとコンピューターを開きます。

3. Profile Management がインストールされているコンピューターを含む OU を特定します。既存の OU 構造で Profile Management を機能させる方法については、(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/plan/administer.html) を参照してください。
4. グループポリシー管理で、GPO を作成し、各 OU にリンクします。 注: GPO にセキュリティフィルタリングを適用する場合は、認証済みユーザーグループまたはコンピューターグループのいずれかを使用してください。個々のユーザーのみを含むセキュリティグループは使用しないでください。
5. グループポリシーエディターで GPO を編集します。

    a. コンピューターの構成を展開し、GPO の下の管理用テンプレートを右クリックします。
    b. テンプレートの追加/削除をクリックし、追加をクリックします。
    c. 以前にインポートまたはコピーした .adm または .admx ファイルを参照し、開くをクリックします。
    d. 閉じるをクリックします。.adm または .admx ファイルの設定を保存する Citrix フォルダーと Profile Management サブフォルダーが作成されます。

注

Profile Management 5.5 は、ADMX ポリシーノードを Citrix Components の下に配置します。Profile Management 5.5 を構成するには:

- `\[WindowsFolder]\PolicyDefinitions` フォルダー内の既存の .admx ファイルを削除し、ctxprofile5.5.0.admx ファイルと CitrixBase.admx ファイルをそのフォルダーにコピーします。
- `\\[WindowsFolder]\PolicyDefinitions\<localized` フォルダー\> 内の既存の .adml ファイルを削除し、ctxprofile5.5.0.adml ファイルと CitrixBase.adml ファイルをそのフォルダーにコピーします。

Profile Management を削除するには

この手順では、単一のコンピューターから Profile Management を削除します。コンピューターの管理者である必要があります。

1. データ損失を避けるため、すべてのユーザーがログオフしていることを確認してください。

2. プログラムと機能のインストール済みプログラムの一覧から、Profile Management を選択し、をクリックします。
3. をクリックします。
4. コンピューターを再起動します。

サイレントモードで Profile Management を削除することもできます。

ダウンロードに含まれるファイル

このリリースには、以下のファイルが含まれています。

ファイル名	説明
profilemgt_x86.msi	32ビットシステム用インストーラー
profilemgt_x64.msi	64ビットシステム用インストーラー
`GPO\ctxprofile5.1.0.adm`	Group Policy で使用される `.adm` ファイル
`GPO\ctxprofile5.1.0.admx`	Group Policy で使用される `.admx` ファイル
`GPO\ctxprofile5.1.0.adml`	Group Policy で .admx ファイルとともに使用される `.adml` ファイル
welcome.html	ドキュメントリソースのリスト
`CrossPlatform*.xml`	サポートされているアプリケーションの定義ファイル

DLLやその他のファイルに加えて、以下のファイルに注意してください。インストール場所（デフォルトでは `C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager`）にあるインストーラーがこれらのファイルを作成します。

ファイル名	説明
UPMPolicyDefaults_all.ini	Profile Management .iniファイル
UserProfileManager.exe	Profile Managementによって管理されるコンピューター上で機能を実行するWindowsサービス

既知の問題

このリリースには、以下の既知の問題があります。

- Outlook検索インデックスローミング機能を使用しようとすると、VHDXファイルにアクセスする権限がないため失敗する場合があります。この問題は、Profile Managementをバージョン1912 LTSRからバージョン2203 LTSRにアップグレードした後に発生します。
- グループポリシーまたはレジストリを介してOutlook OSTファイルのカスタムパスを構成し、そのカスタムパスにユーザー環境変数が含まれている場合、Microsoft Outlookプロファイルがロードに失敗する可能性があります。
- VDAのインストール後、マシンの再起動を求められます。しかし、マシンの再起動後にProfile Managementサービスが起動しない場合があります。この問題が発生すると、システムイベントログにイベント7000に関する以下のメッセージが表示されます。「The ctxProfile service failed to start due to the following error: The service did not respond to the start or control request in a timely fashion.」回避策として、以下のレジストリキーの値をより大きな数値（例：300,000）に変更してください。
  - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\
  - 名前: ServicesPipeTimeout
  - 種類: REG_DWORD
  - 値: 300000
- スタートメニューの一部が読み込まれない場合があります。この問題を回避するには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。
- 既存のユーザープロファイルに対してフォルダーリダイレクトを有効にすると、サブフォルダーが失われる場合があります。

  この問題は、既存のCitrix Profile Management (CPM) ユーザープロファイルにのみ影響します。**フォルダーリダイレクト** (MicrosoftまたはCPM) がフォルダーに対して新しく有効にされ、同時に**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**も有効になっている場合、サブフォルダーが新しい場所に移行しない可能性があります。

  たとえば、**Documents**の下にサブフォルダー (**FolderA**) が存在し、**Documents**がまだリダイレクトされていない場合、フォルダーリダイレクトを有効にすると、通常、次回のログオン時に**Documents**フォルダーが新しいリダイレクト先に移行されます。しかし、**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**がオンになっている場合、**FolderA**とその内容は移行されず、失われる可能性があります。

  回避策:

a. 既存のユーザープロファイルに対して**フォルダーリダイレクト**を有効にする前に、**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**ポリシーを無効にします。
b. 次回のユーザーログオン後、リダイレクトされたフォルダーが新しい場所に正常に移行されたことを確認してください。
c. 「**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**」ポリシーを再度有効にします。

展開の計画

Profile Managementの展開を計画するには、お使いの環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。自動構成機能は、Citrix仮想デスクトップの展開におけるこの意思決定の一部を簡素化します。任意の展開でこの重要なタスクを実行するためのガイドとして、「構成の決定」(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/plan/configuration.html)を参照してください。

構成を決定し、それをレビューおよびテストした後、標準的な展開は次の要素で構成されます。

1. ユーザーストアの作成
2. Profile Managementのインストール
3. Profile Managementの有効化

.iniファイルを使用したパイロットスタディの計画

以下の情報は、パイロットスタディまたは評価中にProfile Managementの.iniファイルを使用するお客様を支援することを目的としています。

重要: 評価目的で.iniファイル (UPMPolicyDefaults_all.ini) を使用する予定がある場合は、実稼働環境でグループポリシー (GP) の使用に切り替える前に、そのファイルの名前を変更してください。たとえば、ファイルの名前をUPMPolicyDefaults_all_old.iniに変更します。ファイルの名前を変更することで、実稼働設定のみが適用され、評価中に指定した設定が使用されないことを確実にできます。

ファイルの名前が変更されていない場合、Profile Managementは、グループポリシーで構成されていない設定がないかファイルを調べ、見つかった非デフォルト設定を適用します。したがって、不要な設定が導入されるリスクを排除するには、実稼働環境で使用するすべての設定を、.iniファイルではなくグループポリシーを使用して構成してください。

.iniファイルには、.admファイルおよび.admxファイルと同じポリシーが含まれていますが、ポリシーの名前は異なります。GPでの名前に精通しており、.iniファイルを使用したパイロットスタ

ディを計画している場合は、「Profile Managementポリシー」(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/policies/settings.html)の表を使用して名前を比較してください。

.iniファイルの展開の詳細については、「Profile Managementのアップグレード」(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/upgrade-and-migrate/upgrade.html)および「ローカルGPOを使用したProfile Managementのテスト」(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/install-and-set-up/test-with-local-gpo.html)を参照してください。

Profile Managementのベストプラクティス

Windowsユーザープロファイルは、特定のユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する、フォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定の集合です。ユーザーは、管理構成に応じてこれらの設定をカスタマイズできます。

Windows 10および11の互換性

Citrix Profile Managementは、Profile Managementのリリース時点で利用可能なWindows 10および11の最新バージョンをサポートしています。また、Windows 10および11の以前のすべてのバージョンもサポートしています。たとえば、Citrix Profile Managementバージョン1912は、Windows 10の最新バージョンが1909（RS7）であった時期に出荷されました。Profile Management 1912は、Windows 1909（RS7）およびWindows 10の以前のすべてのバージョンをサポートしています。

詳しくは、Knowledge Centerの記事「CTX224843」を参照してください。

> **注:**
>
> Citrixユーザープロファイルが存在するOSをアップグレードしようとすると、失敗する可能性があります。アップグレードを続行するには、ローカルマシンからCitrixユーザープロファイルを削除してください。

Windows 10のスタートメニューのカスタマイズ

部分的なロックダウンカスタマイズレイアウトを使用し、グループポリシーを通じてカスタマイズを展開することをお勧めします。スタートメニューのレイアウトのカスタマイズについて詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/customize/desktop/customize-start-layout>`を参照してください。

スタートメニューのローミング

スタートメニューにピン留めされたアプリケーションは、数回のログオン後に以下のオペレーティングシステムで消えることがあります。

- Windows 10バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2016 Standardおよび`Datacenter`エディション
- Windows Server 2019 Standardおよび`Datacenter`エディション
- Windows 10 エンタープライズ フォー バーチャル デスクトップ

> **注:**
>
> Windows 10とWindows Server 2016/2019の両方に同じポリシーを使用することはできません。VDIおよび共有デスクトッププラットフォームには個別のポリシーを構成するか、Profile Management 2103以降を使用している場合は自動構成を使用してください。

スタートメニューのローミングを自動的に有効にする

Profile Management 2103以降を使用している場合、スタートメニューのローミングは自動的に有効になります。

Profile Management 2106以降を使用している場合は、**Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**の下にある**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にすることをお勧めします。この設定により、フォルダーミラーリング機能のユーザーログオンおよびログオフエクスペリエンスが向上します。詳細については、「フォルダーミラーリングの高速化」(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/manage-transactional-folders.html#accelerate-folder-mirroring)を参照してください。

Windows 10でスタートメニューのローミングを手動で有効にする

Profile Management 2012以前を使用している場合は、次の手順に従います。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**に移動します。
2. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーを**有効**に設定し、次のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加します。
    - `Appdata\Local\Packages`
    - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`

- `!ctx_localappdata!\TileDataLayer` (Windows 10バージョン1607以前にのみ適用可能)

> **注:**
>
> Citrix Profile Management 1912以降では、**デフォルトの除外リスト – ディレクトリ**または**除外リスト – ディレクトリ**に追加されたフォルダーは、**ミラーリングするフォルダー**に追加しても同期されません。`appdata\local\packages`フォルダーを**ミラーリングするフォルダー**に追加する前に、除外リストから削除してください。

3. **同期するファイル**ポリシーを**有効**に設定し、次のファイルを同期するファイルのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

Windows Serverでスタートメニューのローミングを手動で有効にする

Profile Management 2012以前を使用している場合は、次の手順に従います。

1. **Profile Management \> 詳細設定**に移動し、**自動構成を無効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**に移動します。
3. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーを**有効**に設定し、次のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`
4. 「**Exclusion list – directories**」ポリシーを「**Enabled**」に設定し、除外するフォルダーのリストに次のフォルダーを追加します。
   - `Appdata\Local\Packages`
5. 「**Exclusion list – files**」ポリシーを「**Enabled**」に設定し、除外するファイルのリストに次のファイルを追加します。
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

アウトルック と オフィス 365

Microsoft は、一貫性のあるオンラインおよびオフラインの Microsoft Outlook エクスペリエンスを有効にするために、キャッシュされた Exchange モードを推奨しています。キャッシュされた Exchange モードは、Microsoft Outlook クライアントからオンにできます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/exchange/outlook/cached-exchange-mode>`を参照してください。

キャッシュされた Exchange モードを使用すると、ユーザーの Exchange メールボックスのコピーが常にオフライン Outlook データファイル (*.ost) に保存されます。このファイルは大きくなる可能性があります。

Microsoft Outlook データをローカルまたは共有ドライブに保存することは避けることをお勧めします。代わりに、ネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを有効にする機能を使用してください。この機能を使用すると、オフライン Outlook データファイル (*.ost) とユーザー固有の Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlook でメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。この機能の使用方法の詳細については、「」(/ja-jp/profile-management/2203-ltsr/configure/enable-native-outlook-search-experience.html)を参照してください。

1か所からのプロファイル管理の構成

プロファイル管理を構成できる場所は3つあります。プロファイル管理を構成するには、Citrix Studio の HDX ポリシー、または Active Directory の GPO を使用します。Workspace Environment Management を使用してプロファイル管理を構成することもできます。

プロファイル管理を構成するには、3つの場所のうちいずれか1つのみを選択することをお勧めします。

このビデオで詳細を確認する:



トラブルシューティングのベストプラクティス

潜在的な構成エラーを特定するには、常にプロファイル管理構成チェッカーツール (UPMConfigCheck) を使用してください。

プロファイル管理が機能しない場合は、まず構成されているユーザー ストアにアクセスできるかどうかを確認してください。

Cookie の処理

プロファイル管理は、Internet Explorer 10およびInternet Explorer 11の古いCookieの削除をサポートするようになりました。「ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する」ポリシーを使用して古いCookieを削除し、Cookieフォルダーの肥大化を防ぐことができます。さらに、ミラーリングするフォルダーのリストに次のフォルダーを追加します。

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`
- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`
- `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`

Microsoft資格情報ローミングが有効な場合のプロファイルストリーミング

デフォルトでは、構成ファイル内の次のフォルダーはプロファイルストリーミングから除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

プロファイルストリーミングの除外を手動で構成する場合は、前述のフォルダーを「プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ」に追加してください。

プロファイルを効率的に同期する

不十分に同期されたユーザープロファイルは、ログオンの遅延、ユーザー設定の損失、プロファイルの破損につながる可能性があります。また、過剰な管理作業が必要になることもあります。プロファイルを効率的に同期するには、この記事で説明されている推奨事項に従ってください。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトはMicrosoft Windowsの機能であり、プロファイル管理と組み合わせて使用できます。フォルダーリダイレクトは、成功するプロファイルソリューションを提供する上で重要な役割を果たします。

フォルダーリダイレクトを使用するには、関連するユーザーがプロファイル管理が管理するOUに属していることを確認してください。Active DirectoryでGPOを使用してフォルダーリダイレクトを構成することをお勧めします。

たとえば、**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> 従来の管理用テンプレート (ADM) \> Citrix \> Profile Management \> フォルダーリダイレクト**の下にある対応するポリシーを有効にすることで、次のフォルダーをリダイレクトできます。

ドキュメント、**ピクチャ**、**ミュージック**、**ビデオ**、**お気に入り**、**連絡先**、**ダウンロード**、**リンク**、**検索**、および**保存したゲーム**

注:

- フォルダーリダイレクトにより、ユーザーがログオンするたびにそれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなり、ユーザーのログオンを高速化します。
- **AppData (Roaming)** および **スタートメニュー** の**フォルダーリダイレクト**は、アプリケーションやスタートメニューで問題が発生する可能性があるため、有効にしないことを強くお勧めします。
- **デスクトップ**フォルダーが大きすぎる場合はリダイレクトしないでください。そうしないと、ユーザーがログオンしたときにブラックスクリーンが発生する可能性があります。

ファイルとフォルダーの包含と除外

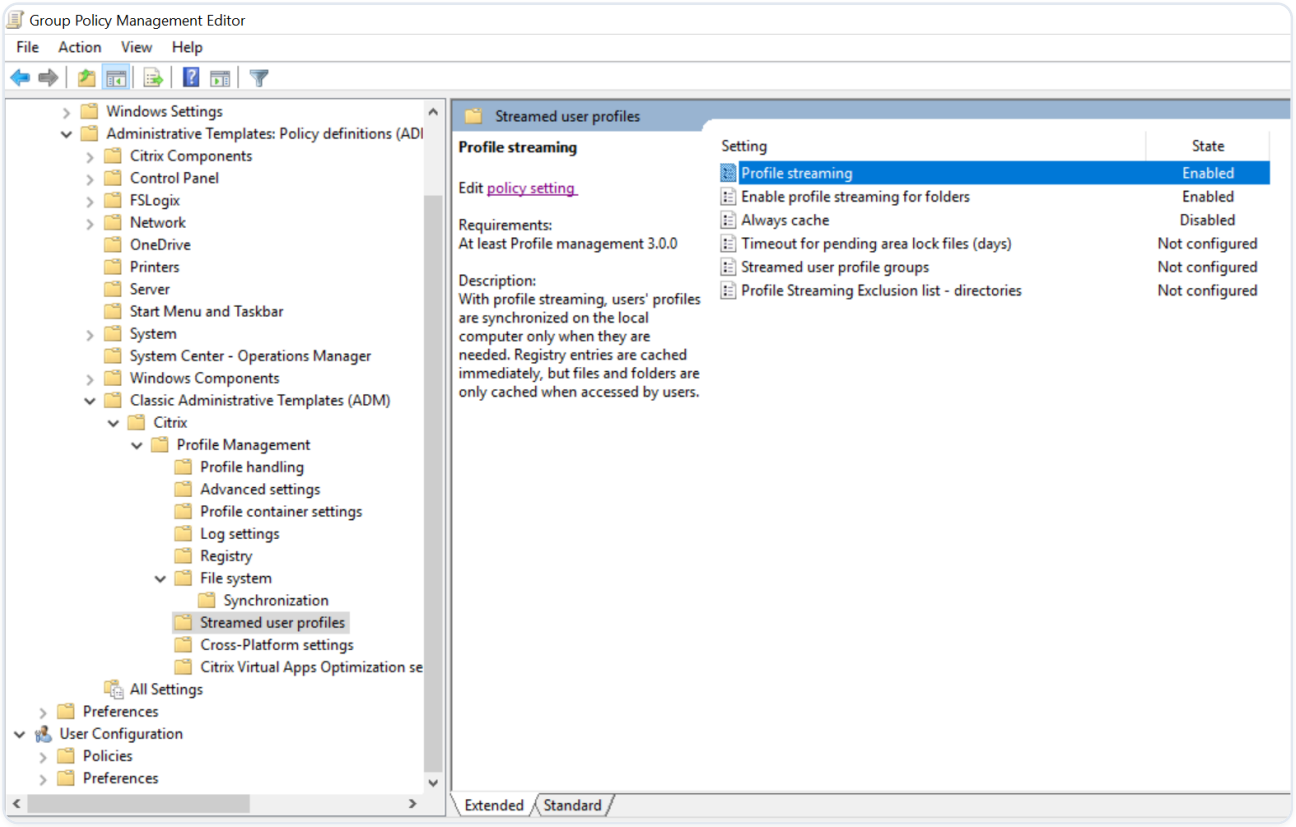
プロファイル管理では、包含リストと除外リストをカスタマイズすることで、同期したくないファイルとフォルダーを指定できます。プロファイルの肥大化を防ぐため、サードパーティアプリケーションのキャッシュファイル（たとえば、Appdata\Local\Google\Chrome\UserData\Default\CacheにあるChromeのキャッシュファイルなど）を除外します。詳細については、「アイテムの包含と除外」を参照してください。

プロファイルストリーミング

プロファイル管理は、ユーザーがログオン後にファイルにアクセスした場合にのみ、ユーザー ストアからローカル コンピューターにプロファイル内のファイルをフェッチします。これにより、ログオンプロセスが高速化され、プロファイルサイズが削減されます。たとえば、ファイルが使用されない場合、ローカルプロファイルフォルダーにコピーされることはありません。また、

Always cache ポリシーを使用して、ストリーミングされるファイルのサイズに下限を設定できます。このサイズ以上のファイルは、ログオン後できるだけ早くローカルにキャッシュされます。

Enable profile streaming for folders と **Profile streaming** の両方のポリシーを有効にすることで、アクセスされないフォルダーをフェッチする必要がなくなります。



アクティブライトバックとレジストリ

この機能は、特に変更されたファイルが多い場合に、プロファイルストリーミング機能と比較してログオフ時間を短縮します。この機能は、変更されたファイルとフォルダー（ただしレジストリエントリは除く）をセッション中に、ログオフ前にユーザー ストアに同期します。

Internet Explorer 10/11 の Cookie サポート

Profile Management 5.0 以降では、Internet Explorer 10 および Internet Explorer 11 を使用する際の Cookie の処理が強化されています。Cookie フォルダーの肥大化を避けるため、Process Internet cookie files on logoff ポリシーを使用して古い Cookie を削除してください。次のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加できます。

- AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies
- AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache
- AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies

詳細については、ログオフ時にインターネット Cookie ファイルを処理するを参照してください。

セキュリティ

このトピックでは、Profile Management を保護するための推奨されるベストプラクティスについて説明します。一般に、Citrix® ユーザープロファイルデータへの不要なアクセスを防ぐために、ユーザー ストアが配置されているサーバーを保護してください。

安全なユーザー ストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Web サイトの「移動ユーザープロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作において高レベルのセキュリティを確保します。また、ユーザー ストアへのアクセスを設定する際には、Citrix ユーザープロファイルを変更または削除するために必要な Administrators グループを含めてください。

アクセス許可

Citrix は、ユーザー ストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアに対して、以下のアクセス許可をテストし、推奨しています。

- 共有アクセス許可: ユーザー ストアのルートフォルダーに対するフルコントロール
- Microsoft が現在推奨する以下の NTFS アクセス許可:

グループまたはユーザー名	アクセス許可	適用先
作成者/所有者	フルコントロール	サブフォルダーとファイルのみ
Profile Management の制御下にあるアカウントのグループ	フォルダーの一覧表示 / データ読み取りおよびフォルダーの作成 / データ追加	このフォルダーのみ
ローカルシステム	フルコントロール	このフォルダー、サブフォルダー、およびファイル

継承が無効になっていない場合、これらの権限により、アカウントはストアにアクセスできます。また、アカウントはユーザープロファイル用のサブフォルダーを作成し、必要な読み取りおよび書き込み操作を実行できます。

この最小限の権限に加えて、サブフォルダーとファイルのみを完全に制御できる管理者グループを作成することで、管理を簡素化することもできます。そうすれば、プロファイルの削除（一般的なトラブルシューティングタスク）がそのグループのメンバーにとって容易になります。

テンプレートプロファイルを使用する場合、ユーザーはそれに対する読み取りアクセス権が必要です。

アクセス制御リスト (ACL)

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合、定義ファイルを保存するフォルダーにACLを次のように設定します。認証済みユーザーには読み取りアクセス権、管理者には読み取り/書き込みアクセス権。

Windowsローミングプロファイルは、ネットワーク上のプロファイルデータを含むフォルダーから管理者権限を自動的に削除します。Profile Managementは、ユーザーストア内のフォルダーからこれらの権限を自動的に削除しません。組織のセキュリティポリシーによっては、手動で削除できます。

注：アプリケーションがユーザープロファイル内のファイルのACLを変更しても、Profile Managementはそれらの変更をユーザーストアにレプリケートしません。これはWindowsローミングプロファイルの動作と一致しています。

プロファイルストリーミングとエンタープライズウイルス対策製品

Citrix Profile Managementのストリーミングユーザープロファイル機能は、高度なNTFS機能を使用して、ユーザープロファイルから欠落しているファイルの存在をシミュレートします。この点で、この機能は階層型ストレージマネージャー (HSM) と呼ばれる製品群に似ています。HSMは通常、磁気テープや書き換え可能な光ストレージなどの低速大容量ストレージデバイスに、あまり使用されないファイルをアーカイブするために使用されます。そのようなファイルが必要な場合、HSMドライバーは最初のファイル要求を傍受し、要求を行っているプロセスを一時停止し、アーカイブストレージからファイルをフェッチします。そして、ファイル要求の続行を許可します。この類似性を考慮すると、ストリーミングユーザープロファイルドライバーであるupmjit.sysは、実際にはHSMドライバーとして定義されています。

このような環境では、ウイルス対策製品がHSMドライバーを認識するように構成する必要があり、ストリーミングユーザープロファイルドライバーも例外ではありません。最も高度な脅威から防御するためには、ウイルス対策製品はデバイスドライバーレベルで一部の機能を実行する必要があります。そして、HSMドライバーと同様に、ファイル要求を傍受し、元のプロセスを一時停止し、ファイルをスキャンし、再開するという方法で動作します。

ウイルス対策プログラムを誤って構成し、ストリーミングユーザープロファイルドライバーのようなHSMを中断させ、ユーザーストアからのファイルの取得を妨げ、ログオンがハングアップする原因となることは比較的容易です。

幸いなことに、エンタープライズ向けウイルス対策製品は、HSMなどの高度なストレージ製品の可能性を念頭に置いて作成されています。そして、HSMがその作業を完了するまでスキャンを遅らせるように構成できます。家庭用ウイルス対策製品はこの点ではそれほど高度ではありませ

ん。そのため、家庭用およびSOHO（小規模オフィス/ホームオフィス）のウイルス対策製品は、ストリーミングされたユーザープロファイルではサポートされていません。

ストリーミングされたユーザープロファイルで使用するためにウイルス対策製品を構成するには、次の製品機能のいずれかを探してください。機能名はあくまで目安です。

- **信頼済みプロセスリスト**。ウイルス対策製品にHSMを識別させ、HSMがファイル取得プロセスを完了できるようにします。ウイルス対策製品は、信頼されていないプロセスによってファイルが最初にアクセスされたときにファイルをスキャンします。
- **開く操作またはステータスチェック操作ではスキャンしない**。データがアクセスされたとき（たとえば、ファイルが実行または作成されたとき）にのみファイルをスキャンするようにウイルス対策製品を構成します。その他の種類のファイルアクセス（たとえば、ファイルが開かれたときやそのステータスがチェックされたとき）は、ウイルス対策製品によって無視されます。HSMは通常、ファイルを開く操作やファイルステータスチェック操作に応答してアクティブになるため、これらの操作でのウイルススキャンを無効にすると、潜在的な競合が解消されます。

Citrixは、主要なエンタープライズ向けウイルス対策製品のバージョンでストリーミングされたユーザープロファイルをテストし、Profile Managementとの互換性を確認しています。これらのバージョンには以下が含まれます。

- マカフィー ウイルススキャン エンタープライズ 8.7
- シマンテック エンドポイント プロテクション 11.0
- トレンドマイクロ オフィススキャン 10

これらの製品の以前のバージョンはテストされていません。

他のベンダーのエンタープライズ向けウイルス対策製品を使用している場合は、それがHSM対応であることを確認してください。スキャンを実行する前にHSM操作を完了できるように構成できます。

一部のウイルス対策製品では、管理者が読み取り時にスキャンするか、書き込み時にスキャンするかを選択できます。この選択は、パフォーマンスとセキュリティのバランスを取るものです。ストリーミングされたユーザープロファイル機能は、この選択の影響を受けません。

ストリーミングおよびウイルス対策展開におけるProfile Managementのトラブルシューティング

ログオンがハングしたり、時間がかかったりするなどの問題が発生した場合、Profile Managementとエンタープライズ向けウイルス対策製品との間に誤った構成がある可能性があります。次の手順をこの順序で試してください。

1. Profile Managementの最新バージョンを使用していることを確認してください。問題はすでに発見され、修正されている可能性があります。
2. Profile Managementサービス（UserProfileManager.exe）を、エンタープライズ向けウイルス対策製品の信頼済みプロセスリストに追加します。
3. open、create、restore、status checkなどのHSM操作ではウイルスチェックを無効にします。読み取りまたは書き込み操作でのみウイルスチェックを実行します。
4. その他の高度なウイルスチェック機能を無効にします。たとえば、ウイルス対策製品は、実際のファイルの種類を特定するために、ファイルの最初の数ブロックをクイックスキャンする場合があります。これらのチェックは、ファイルの内容を宣言されたファイルの種類と照合しますが、HSM操作を妨げる可能性があります。
5. Windowsの検索インデックス作成サービスを無効にします。少なくとも、プロファイルがローカルドライブに保存されているフォルダーについては無効にしてください。このサービスは不要なHSM取得を引き起こし、ストリーミングされたユーザープロファイルとエンタープライズウイルス対策製品との間で競合を引き起こすことが確認されています。

これらの手順のいずれも機能しない場合は、ストリーミングされたユーザープロファイルを無効にします（**プロファイルストリーミング**設定を無効にすることで）。それで機能する場合は、機能を再度有効にし、エンタープライズウイルス対策製品を無効にします。それでも機能する場合は、機能しないケースのProfile Management診断情報を収集し、Citrixテクニカルサポートに連絡してください。彼らはエンタープライズウイルス対策製品の正確なバージョンを知る必要があります。

Profile Managementの使用を継続するには、エンタープライズウイルス対策を再度有効にし、ストリーミングされたユーザープロファイルを無効にすることを忘れないでください。この構成では、Profile Managementの他の機能は引き続き機能します。プロファイルのストリーミングのみが無効になります。

システム要件

ソフトウェア要件

Profile Managementを実行するシステムは、以下のいずれかのオペレーティングシステムに基づいている必要があります。

- **デスクトップ** - Microsoft Windows 11、Windows 10、Windows 8.1、およびWindows 7 Service Pack 1。

  Citrix virtual desktops™ 環境では、Windows ストアアプリケーション（UWPアプリとも呼ばれます）がサポートされています。

- **サーバー** - Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2012、および Windows Server 2008 R2 Service Pack 1 の Standard および Datacenter エディションが対象です。

拡張保護モード（EPM）では、Microsoft Internet Explorer 10以降のCookieはWindows 7以降ではサポートされていません。EPMが有効な場合、Profile ManagementはCookieを処理または操作しません。

すべてのユーザーは、プロファイルが集中管理されるネットワークフォルダーであるユーザー ストアにアクセスできる必要があります。または、必要に応じて、プロファイルをユーザーのホームドライブに保存することもできます。詳細については、「Profile Managementのアーキテクチャ」を参照してください。

Profile ManagementがCitrix Studioに統合されているXenDesktop 7を使用する場合を除き、構成にはActive Directory（AD）グループポリシーオブジェクト（GPO）が必要です。Windows Server 2008およびWindows Server 2012ネイティブモードのADフォレスト機能レベルおよびドメイン機能レベルがサポートされています。詳細については、「Profile Managementでのドメインおよびフォレストのサポート」を参照してください。または、構成設定にローカルの.iniファイルを使用することもできますが、一般的に.iniファイルはテスト目的でのみ使用されます。.iniファイルの設定は、GPOで構成されていない設定、つまり「未構成」状態のままになっているグループポリシー設定に適用されます。

Profile Managementで使用しているCitrix製品またはコンポーネントで短いファイル名（8.3形式のファイル名とも呼ばれます）が必須である場合、Profile Managementの展開で短いファイル名のサポートを無効にしないでください。無効にすると、ユーザー ストアとの間でファイルをコピーする際に問題が発生する可能性があります。

Profile Management Serviceを実行しているコンピューターでは、プロファイルをドライブ文字でマウントされた単一のディスクに保存します。ユーザープロファイルを保存するために使用される

フォルダーにディスクがマウントされている場合（一般的な例は`C:\Users`）、サービスからマスクされ、処理されない可能性があります。

Citrix®製品の互換性

Profile Managementは、以下のCitrix製品で使用できます。

- シトリックス バーチャルデスクトップ
- シトリックス バーチャルアプリ™
- シトリックス バーチャルアプリおよびデスクトップ™
- Citrix DaaS™ (旧 Citrix バーチャルアプリおよびデスクトップ サービス)

Profile ManagementとCitrix Virtual Apps and Desktopsの互換性マトリックスについては、「Citrix Profile Managementの追加ライフサイクル情報」を参照してください。

このCurrent Release (CR)をLong Term Service (LTSR)環境で使用する方法やその他のFAQについては、Knowledge Centerの記事を参照してください。

ダウンロード

Profile Managementをダウンロードするには

1. Citrixダウンロードページに移動します。
2. My Account にログオンします。お客様のアカウントは、展開した Citrix 製品のライセンス資格に関連付けられている必要があります。アカウントがライセンス資格に関連付けられていない場合は、Citrix カスタマーサービスにお問い合わせください。
3. Find Downloads で、製品を選択し、ダウンロードの種類として Components を選択します。
4. Profile Management の最新バージョンをダウンロードします。

診断機能

Citrix Diagnostic Facility を使用してトレースログをキャプチャする前に、監視するプロファイルを持つデバイス、仮想デスクトップ、または Citrix サーバーで使用されている Citrix 製品またはコンポーネントでそれが利用可能であることを確認してください。

クロスプラットフォーム設定

このリリースでクロスプラットフォーム設定機能を使用するには、Profile Management Service を実行しているすべてのコンピューターに Microsoft Core XML Services (MSXML) 6.0 Service Pack

1 以降をインストールします。このコンポーネントは Microsoft .NET Framework 3.5 の一部であり、定義ファイルを処理するために必要です。

この機能は、サポートされているオペレーティングシステムとアプリケーションのセットでのみ使用してください。詳しくは、「クロスプラットフォーム設定でサポートされているオペレーティングシステムとアプリケーション」を参照してください。

既存のプロファイルを Citrix ユーザープロファイルに移行する

次のプロファイルタイプから Citrix ユーザープロファイルへの移行がサポートされています。

- Windows ローミングプロファイル
- 次のいずれかのオペレーティングシステムに基づくローカルプロファイル:
  - ウィンドウズ 11
  - ウィンドウズ 10
  - ウィンドウズ 8
  - ウィンドウズ 7
  - ウィンドウズ ビスタ
  - ウィンドウズ XP
  - ウィンドウズ サーバー 2022
  - Windows サーバー 2019
  - Windows サーバー 2016
  - ウィンドウズ サーバー 2012 R2
  - Windows サーバー 2012
  - Windows サーバー 2008 R2
  - ウィンドウズ サーバー 2008
  - ウィンドウズ サーバー 2003
- User Profile Manager 2.0 で作成された Citrix ユーザープロファイル

以下のプロファイルタイプから Citrix ユーザープロファイルへの移行はサポートされていません。

- Microsoft 強制プロファイル。 ヒント: Profile Management のテンプレートプロファイル機能を使用して、Microsoft 強制プロファイルを Citrix 強制プロファイルとして構成できます。Citrix 強制プロファイルはすべてのログオンに使用され、ユーザーの変更が保存されないこと

を除けば、通常の Citrix ユーザープロファイルとまったく同じように機能します。詳しくは、テンプレートまたは強制プロファイルの指定を参照してください。

- Citrix 強制プロファイル。
- User Profile Manager のテクニカルプレビューリリースまたはベータリリースで作成された Citrix ユーザープロファイル。
- サードパーティプロファイル (sepagoPROFILE を含む)。

32ビットの Citrix ユーザープロファイルから 64ビットのプロファイルにアップグレードすることはできません。

トラブルシューティング

このセクションでは、Profile Management のトラブルシューティング方法について説明します。

一般的なトラブルシューティングのワークフローは次のとおりです。

1. Profile Management の設定を確認する。
2. Profile Management のログファイルを確認する。
3. Profile Management によってログに記録されたWindowsイベントを確認する。
4. 一般的な問題をトラブルシューティングする。
5. 高度なトラブルシューティングを実行する。
6. 上記の手順を試しても問題を解決できない場合は、できるだけ多くの診断情報を収集し、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

アップグレードと移行

このセクションでは、Profile Managementソフトウェアをアップグレードする手順と、既存のWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行するための情報について説明します。たとえば、これらの手順を使用すると、バージョン3.xからバージョン5.xに簡単にアップグレードできます。

アップグレードする前に、アップグレード元およびアップグレード先のリリースで利用可能なProfile Managementの機能と設定を理解してください。この情報を確認するには、「Profile Managementポリシー」を参照してください。 .iniファイルからグループポリシーへのアップグレードを容易にするため、このトピックでは、.iniファイルの設定を.admファイルおよび.admxファイルの設定にマッピングしています。

アップグレード中にProfile Managementを構成しないでください（グループポリシーまたは.iniファイルのいずれでも）。まず展開をアップグレードし、次に必要に応じて設定を構成することで、これら2つのタスクを分離します。理想的には、「構成の決定」の質問に答えることで構成します。

ヒント：Profile Management 2.1.1以降の展開は、最新バージョンにアップグレードすることでホットフィックスできます。アップグレード後、必要に応じて新しい機能を有効にできます。

混在展開

異なるバージョンのProfile Managementが共存する展開の場合は、次の操作を行います。

- 混在展開が存在する時間を最小限に抑えます。
- 最新バージョンの.admまたは.admxファイルを、すべてのドメインコントローラー上の各グループポリシーオブジェクトに追加します。すべての新機能が無効になっていることを確認し、新しいポリシーが伝播する時間を確保します。
- ポリシーを有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンのProfile Managementにアップグレードします。

バージョン5.xと3.2を含む混在展開はサポートされています。ただし、このような展開は、以前のバージョンから新しいバージョンへの移行中に存在する一時的な状態として扱ってください。

重要：バージョン5.xとバージョン2.1.1以前のバージョン（Citrix Technical Previewまたはベータリリースを含む）が混在する展開はサポートされていません。ただし、アップグレードできず、これらのバージョンが展開で共存する必要がある場合は、このトピックの残りの部分が役立つ場合があります。

Profile Management 2.1.1以前が関係する混在展開

このトピックの残りの部分には、Profile Management 2.1.1以前とProfile Management 3.xまたは5.xの共存に関する情報が含まれています。あるバージョンから別のバージョンへの移行方法について説明しています。このトピックでは、バージョン2とバージョン5という用語は、これらのバージョンの略語として使用されています。

各バージョンを別々のOUに分離し、各バージョンを実行しているコンピューター用に別々のユーザーストアを維持します。または、単一のユーザーストアが両方のバージョンを実行しているコンピューターにサービスを提供する場合、すべてのコンピューターがバージョン5にアップグレードされるまで、すべてのバージョン5設定が無効になっていることを確認してください。「混在」ユーザーストアでバージョン4設定を有効にした後でも、ユーザーはバージョン2を実行しているコンピューターにログオンできます。ただし、一時的なWindowsユーザープロファイル（ネットワーク、Citrix®ユーザープロファイルではない）を受け取り、そのプロファイルに対して行った変

更は保存されません。混在展開は一時的なものと見なし、アップグレードを完了する前にその存在時間を最小限に抑える必要があります。

個別のOUとユーザー ストアを使用すると不便な場合があります。これらの制約を回避するには、次の2つの戦略のいずれかを使用できます。Profile Managementの適切なバージョンで、処理済みグループ設定を使用して各グループを構成します。戦略2は戦略1よりも手間がかかります。前者の場合、バージョン5の処理済みユーザーグループを更新し続けることになります。また、2組のアプリケーションとデスクトップを維持します（ただし、Citrix Virtual Apps™からアプリケーション定義をエクスポートすることで自動化できます）。利点は、移行に時間をかけることができる点です。

注: 以下の戦略の代替として、Windows Server 2008 Active Directoryでは、WMIフィルタリングを使用してGPOをOU内のコンピューターのサブセットに適用し、どのバージョンのProfile Managementがインストールされているかを判断できます。これにより、適用されるポリシーをバージョンに合わせて自動的に調整できます。

戦略1：一度限りの移行

このシナリオでは、ある程度のダウンタイムが許容されることを前提としています。すべてのコンピューターが同時に移行されます。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. すべてのバージョン5設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの**無効**に依存しないでください。
3. すべてのコンピューターをバージョン2からバージョン5にアップグレードし始めます。これは通常のメンテナンスおよび更新スケジュールに合わせて実施してください。1つの例外を除き、バージョン5のいずれかの設定を有効にするまでは、バージョン5はバージョン2として動作します。その例外は次のとおりです。これはまれですが、このアップグレード手順が長期間にわたって段階的に行われる場合に発生する可能性が高くなります。ユーザーが複数のサーバーからCitrixユーザープロファイルにアクセスすると、複数のバージョン4セッションが作成されます。たとえば、最初にワークステーションを使用してあるサーバー上の仮想デスクトップにアクセスし、次にラップトップを使用して別のサーバー上の公開アプリケーションにアクセスする場合です。Profile Managementは、2番目のラップトップセッションに保留領域を使用する必要があります。この時点で、OU全体がバージョン5の展開として扱われます（ただし、バージョン5の機能は何も構成されていません）。そして、PmCompatibility.iniがこの変更を反映するように更新されます。

4. オプションで、バージョン5の処理済みユーザーグループに小規模なパイロットグループのメンバーのみを含めるように設定します。ADグループポリシーの変更がネットワーク全体に伝播するのを待ちます（たとえば、週末にかけて）。この変更が行われている間、他のユーザーのアクセスを妨げる必要はありません。パイロットグループのプロファイルをバックアップします。その後、パイロットグループにProfile Managementをテストさせます。
5. パイロットグループの結果に満足したら、他のユーザーのプロファイルをバックアップしていることを確認します。
6. 次のスケジュールされたメンテナンス期間を使用して、残りのユーザーをバージョン5の処理済みユーザーグループに追加します。ADグループポリシーの変更が伝播するのに十分な時間を確保し、残りのユーザーがログオンできるようにします。

戦略2：段階的な移行

このシナリオでは、すべてのマシンまたはユーザーを一度に新しいバージョンに移行できないことを前提としているため、ユーザーのサブセットを選択してバッチで移行します。複数のデータセンターや地理的に分散したユーザーがいる展開に適しています。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. すべてのVersion 5設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの「無効」に依存しないでください。
3. 少数のコンピューター（最初のバッチ）をVersion 5にアップグレードします。または、新しいコンピューターにVersion 5をインストールします。デフォルトでは、Version 5で処理されるユーザーグループには空のグループが含まれているため、どのユーザーもVersion 5ユーザーとして処理されません。フェーズ移行でコンピューターをアップグレードする場合にも適用される可能性がある、戦略1で説明されている例外に注意してください。
4. Version 5コンピューターから新しいアプリケーション（Citrix Virtual Appsを使用）または仮想デスクトップ（Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktops™を使用）を公開します。これらのアプリケーションとデスクトップは、名前を除いて、以前にVersion 2コンピューターから公開されたものと同一です。これらの名前は、Version 5ユーザーが使用するためのものであることを示します。
5. このバッチで選択されたユーザーは、アプリケーションまたはデスクトップにログオンします（たとえば、Web Interfaceを使用）。彼らは新しいアプリケーションを選択します。（ユーザー名またはグループメンバーシップに基づいて、Web Interfaceを使用してこの手順を強制し

ます）。その結果、彼らのセッションはVersion 4コンピューターで実行されますが、Version 2設定で処理されます。

6. すべてのユーザープロファイルをバックアップしたことを確認してください。
7. ユーザーをVersion 2処理済みユーザーグループからVersion 4グループに移動します。ADグループポリシーの変更がVersion 5コンピューターに伝播するのを待ちます。次回ログオンするとき、ユーザーのセッションはVersion 5設定で処理されます。
8. 前述のとおり、次のバッチのコンピューターをアップグレードし、次のバッチのユーザーを移行します。

ユーザープロファイルを移行する

この記事では、Citrix®ユーザープロファイルをWindowsローミングプロファイルに変換する方法について説明します。また、Profile Managementで処理できるように、CitrixユーザープロファイルをPersonal vDisk (Citrix virtual desktops™の機能) から削除する方法についても説明します。

移行戦略の詳細については、「アップグレードと移行」を参照してください。

ローミングプロファイルに移行するには

CitrixユーザープロファイルをWindowsローミングプロファイルにいつでも移行できます。プロファイルデータを、ローミングプロファイルが保存されているネットワークの場所に移動します。移行後、Profile Managementはユーザーログオンやアプリケーション設定の処理に関与しません。

1. すべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. ソフトウェアによって管理されているすべてのコンピューターからProfile Managementサービスを削除します。
3. ユーザーストアで、`\UPM_Profile`の内容をローミングプロファイルの場所に移動します。クロスプラットフォーム設定ストアの内容を移動する必要はありません。
4. さらに、Version 1プロファイルの場合のみ、`\UPM_Profile`のすべてのサブフォルダーから_upm_varサフィックスを削除します。 注：スクリプトを使用すると、この手順が簡素化される場合があります。

Personal vDiskから移行するには

If you use the Personal vDisk feature in Citrix virtual desktops, by default user profiles are stored on the Personal vDisk's P: drive not the virtual desktop's C: drive. If instead you want Citrix Profile Management (not the Personal vDisk) to process the profiles, you adjust this default when installing the Virtual Delivery Agent by modifying the Registry on the master image used for a new

catalog. In this scenario, because the catalog is new, no users have logged on, so no profiles are stored on the P: drive.

Important: An alternative scenario occurs if you enable Profile Management on machines in existing catalogs with Personal vDisks. Because the catalog is already in use, logons have taken place and profiles are present on the P: drive. The profiles remain there after you modify the Registry. Therefore adjust the default differently.

Issues that indicate the presence of profiles on P: drives while Profile Management is enabled include users having to reset their wallpaper, having to reconfigure their applications, or receiving temporary profiles.

この代替シナリオでデフォルトを調整するには、以下の手順に従ってください。

1. プロファイルを移行する仮想マシンのメンテナンスダウンタイムをスケジュールします。
2. スタートアップスクリプトを作成します（または既存のスクリプトを編集します）。Microsoft製のWindows XP用プロファイル削除ツールであるDelprof.exe、またはSepago製のそれ以降のオペレーティングシステム用の同様のツールであるDelprof2.exeを実行するコマンドを含めます。実行コマンドの後にシャットダウンコマンドを続けます。

   ```
   `\<share` name>\delprof.exe /q /i

   shutdown /s /t 0
   ```

   DelprofはMicrosoftのWebサイトからダウンロードできます。このツールに関する情報については、`<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5405>`を参照してください。
3. マスターイメージで、以下のレジストリ設定を1から0に変更します。

   注意： レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決できることを保証できません。レジストリエディターはご自身の責任において使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

   `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\personal vDisk\Config\EnableUserProfileRedirection`
4. マスターイメージのインベントリを更新します。

5. 予定されたダウンタイム中に、マスターイメージを仮想マシンに配布します。それらが再起動することを確認します。その時点で、スクリプトが実行され、P:ドライブからプロファイルを削除し、マシンをシャットダウンします。
6. すべてのマシンがシャットダウンされたら、スタートアップスクリプト（または既存のスクリプトに追加した行）を削除します。
7. すべてのマシンを起動するか、ユーザーがログオンできるようにします。この時点から、プロファイルは仮想デスクトップのC:ドライブに保存されます。

注： プロファイルを逆方向に移行して、Personal vDisk（Profile Managementではない）によって管理されるようにするには、これらの手順に従ってください。ただし、EnableUserProfileRedirectionのレジストリ設定を0から1に変更してください。この変更により、プロファイルがPersonal vDiskのP:ドライブにロードされます。

新機能

累積更新プログラム 7 (CU7) は、Profile Management 2203 LTSR の最新リリースです。CU6 には、Profile Management の 2203 LTSR CU6 リリースと比較して、4 つ以上の修正が含まれています。

Profile Managementのドキュメント履歴

次の表に、Profile Management 2203のドキュメントに対する重要な変更点を示します。これらの更新に関する通知を受け取るには、RSSフィードを購読してください。

日付	変更	説明
04 Jun 2024	Profile Management 2203 LTSR累積更新プログラム5のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
16 Nov 2023	Profile Management 2203 LTSR累積更新プログラム4のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
01 Jun 2023	Profile Management 2203 LTSR累積更新プログラム3のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
08 Dec 2022	Profile Management 2203 LTSR累積更新プログラム2のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
03 Aug 2022	Profile Management 2203 LTSR累積更新プログラム1のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
23 Mar 2022	Profile Management 2203 LTSRの初期リリース	Profile Management 2203 LTSRの初期リリース。詳しくは、「新機能」を参照してください。